



# ZISTOIRS PÉI

an kréol réyoné ek in tradiksion an zaponé  
par Jun'ichi Oda

## レユニオンの民話

小田淳一 編訳

Linstiti la Rosers la Lang ek la Kiltir Lazi ansamb Lafrik,  
Liniversité nasyonan ban Zétid Zétranzé Tokyo

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

# ZISTOIRS PÉI

an kréol réyoné ek in tradiksion an zaponé par

Jun'ichi Oda

レユニオンの民話

小田淳一 編訳

Linstiti la Rosers la Lang ek la Kiltir Lazi ansamb Lafrik,

Liniversité nasyonal ban Zétid Zétranzé Tokyo

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

*ZISTOIRS PÉI*

an kréol réyoné ek in tradiksion an zaponé par Jun'ichi Oda

© Jun'ichi ODA 2020

ISBN 978-4-86337-325-9

This publication is offered under the Creative Commons  
Attribution 4.0 International Licence.



<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>

Research Institute for Languages and Cultures of Asia and  
Africa, Tokyo University of Foreign Studies  
3-11-1 Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534, JAPAN

## はじめに

本書はインド洋西域のレユニオン島（フランス共和国海外県）において専門的な語り手から採話した民話二十五編を、レユニオン・クレオール語のテキストと、それを翻訳した日本語テキストによる対訳形式で集録したものである。採話に伴う現地調査と本書の刊行には JSPS 科研費 16H05671, テキストの校閲には JSPS 科研費 19KT0025 の助成を受けた。また本書は、JSPS 科研費 23251010 の助成で東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所から刊行した一連のインド洋西域島嶼世界の民話集シリーズ（7点<sup>1</sup>）の恐らく最後の巻となる。

レユニオン島は2010年にユネスコの世界遺産に登録された頃から日本でも徐々に知られるようになったが、我が国では未だにインド洋上の孤島というイメージが強いようである<sup>2</sup>。様々な

---

<sup>1</sup> 小田淳一（編訳）『セーシェルの民話Ⅰ』（2014）、『セーシェルの民話Ⅱ』（2015）；花渕馨也・小田淳一・Salim Hatubou・Abdou Bacar Saïd（編訳）『コモロ諸島の民話Ⅰ ンガジジャ島方言民話』（2015）、『コモロ諸島の民話Ⅱ ムワリ島方言民話』（2015）；深澤秀夫・ラザフィアリヴニ ミシエル（編訳）『マダガスカルの民話Ⅰ』（2015）、飯田卓・西本希呼・ラザフィアルヴニ ミシエル・深澤秀夫（編訳）『マダガスカルの民話Ⅱ ヴェズ・タンドゥルイ・マシクル・ベツイミサラカ・ツイミヘティ』（2016）；町田和彦・小田淳一・杉本星子・ギルジャーナンドシング ビーセーサル（アルヴィンド）（編訳）『モーリシャスのボージプリー語民話』（2016）。

<sup>2</sup> レユニオンを扱った最近のヴァラエティー番組でも殊更「秘境」であることを意図的に強調するためであろうが、放送倫理を無視したような「演出」が随所に見受けられた。

点で興味深い島であるが本書では余り多くの紙面をその紹介に割くことが出来ないため、2017 年 11 月にレユニオン島から語り手二人を日本に招いて開催したワークショップ<sup>3</sup>の配付資料に掲載した「レユニオンの概観」を以下に転載する<sup>4</sup>。

【インド洋の西、マダガスカルの東に位置するフランス共和国の海外県】【人口約 85 万人（2016）】【特産物は砂糖、ラム酒、精油、コーヒー、ヴァニラ】【面積は神奈川県や佐賀県並み】【富士山級の山塊が二つありひとつは活火山。このため地形が起伏に富み、「微気候」（狭い地域で複数の気候が見られる現象）が発生する】【降雨量の世界記録：9 時間（1,087mm）、12 時間（1,340mm）、24 時間（1,870mm）】【島の最南端はヨーロッパ連

---

<sup>3</sup> 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所情報資源利用研究センター（IRC）設立 20 周年記念国際ワークショップ「話芸の競演：インド洋レユニオン島の民話 VS 古典落語」（2017 年 11 月 21 日：吉祥寺「まめ蔵」）。このワークショップは、当時レユニオン・アイデンティティ擁護協会（UDIR）の重鎮であったダニエル・オノレ氏が企画していた、レユニオンで現地の民話の語り手と日本の落語家が競演するという魅力的なイベントの日本におけるブレイベントとして、レユニオンから Isabelle Metzger-Cillon 氏と Jean-Pierre Acapandic 氏、また日本側からは古今亭文菊師匠を招いて実施された。しかし、メインイベントとなるはずだったレユニオンでの競演は、県庁が護岸工事に必要な予算額の計算を間違え、そのしわ寄せが文化事業にまで波及して予算がつかなかったこと、そして 2018 年 8 月にオノレ氏が逝去したことで実現されなかった。

<sup>4</sup> 更に詳細な島の歴史等については拙稿を参照されたい：「混成の小宇宙－レユニオン島－」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『通信』99 号，pp. 1-10, 2000.

[http://coe.aa.tufs.ac.jp/kikanjinrui/pdf/newsletter099\\_001\\_oda.pdf](http://coe.aa.tufs.ac.jp/kikanjinrui/pdf/newsletter099_001_oda.pdf)

合域の最南端でもある】【時々熱帯性サイクロンに襲われる】  
【1640 年、無人島をフランスが領有宣言してルイ王朝の家名「ブルボン」と名付ける】【海賊船やインド洋を航行する船の補給地として使われた後、本格的に植民地化され、始めはコーヒー、後にサトウキビを栽培】【島の海岸線にある町の名前は殆どが聖人名：迷信深い海賊を避けるためと言われている】【マダガスカルを始め、アフリカ、インド、中国などから多くの移民（奴隷、契約労働者、商人など）が流入したことによる人種的・文化的混淆】【1793 年（大革命時代）にマルセイユとパリの国民軍が合併（レユニオン）したことを讃えてレユニオン島と改名される（諸説あり）】【島名の変遷：ブルボン（1640）、レユニオン（1793）、ボナパルト（1806）、ブルボン（1814）、レユニオン（1848）】【1848 年、奴隷制廃止】【1946 年、「県」に昇格】【2002 年 1 月 1 日、ユーロ通貨の初の現金使用（時差がフランス本土+3 のため；島都サン＝ドゥニの市長が屋台でライチを買う）】【2010 年、「レユニオン島の尖峰群、圏谷群および絶壁群」が世界遺産に登録される】【失業率（2013）は平均 29%、25 歳では約 60%】【かつては島の収入の半分近くが移転所得（生活保護と失業保険）】【壊滅したコーヒー種「ブルボン・ポワンテュ」を日本企業とフランスの研究機関が共同で復活させる。生産量の 8 割が日本に輸出され、100g の価格は現地では 30～40 ユーロで日本における販売価格は 100g が約 10,000 円】

本書に集録した民話の原語であるレユニオン・クレオール語は、フランス語の基本的な文法構造及び語彙を基盤とするクレオール語のひとつで、フランス北西部（ノルマンディーやブルターニュ）の方言に由来すると言われており、特に Loire-Atlantique 方

言を基層として挙げる研究者もいる。それは当該地方から多くの移民がやって来たこと（フランス人入植者の出身地は概ねパリとボルドーを結ぶ線よりも西側の地方であったとされている）、そして移民船の主な出港地であったナント（Nantes）もその地方に含まれることに因る。語彙における他言語の影響としては、アフリカ諸語の影響は少なく、マダガスカル語やインドーポルトガル・クレオール語、タミール語などの影響が見られる。2014年にレユニオン地域圏の公用語として認定されたが地域による変種が存在し、そのために公的な正書法は存在しない。

レユニオンにおける民話実践の特徴は、語り手の祖先の出自がアフリカ、ヨーロッパ、アジアなど多様であるため、語られる内容の地域性が多岐に亘っていることに加え、日々の農作業の後に「語りの夕べ」が時折開かれるという習慣がかつてあったことである。それらの実践はラジオやテレビの普及で廃れたものの、1980年代に当時のミッテラン大統領が文化政策のひとつとして提唱した「起源への回帰」によって再び見直され、現在ではレユニオン・アイデンティティ擁護協会（UDIR）や民話・伝承の推進団体「Kozé Conté（話す、語る）」が中心となって「民話の会」が島の各地で盛んに行われており、その一方で語り手養成の研修も頻繁に実施されている<sup>5</sup>。

レユニオン民話の主な登場人物は、トリックスターの《チジャン》（Ti Jean<sup>「小さなジャン」</sup>）、《カル婆》（Grand-mère Kalle）、《大悪魔》（Grand Diable）であるが、レユニオンから多くの人々が移住したセーシェルやモーリシャスの民話にもチジャンが登場する物

---

<sup>5</sup> この研修の修了証が専門的な語り手である証であるが、殆どの語り手は別に本業を持っており、また音楽家を兼ねている場合が多い。

語が数多く残されている。語られている内容は他地域の民話と同様、様々な事物の起源、魔法民話、教訓譚などであるが、特に動植物を扱った物語にはレユニオンならではの生物多様性が顕現している。尚、本書では日本語訳の中で民俗語彙や固有名詞には出来るだけ割注を付けると共に（敢えて重複して付けたものもある）、読者が民話世界のイメージを想起しやすいようにカテゴリーに近いと思われる物語をまとめて配列した。

インド洋の民話の口演には、語り手と聴衆の間のインタラクションとして声を掛け合う「応答」がある。最もよく使われるのは語り手が「クリケ *kriké*」と叫び、これに対して聴き手が「クラケ *kraké*」と応えるものである<sup>6</sup>。この応答は通常は口演の最初と最後に行われるが、語りのシークエンスの切れ目（場面転換等）の提示や、さらには聴衆の注意を引きつける時に用いるなど幾つかの機能があり、用いられる語が即興的な場合もある。

本書に集録した民話はすべて、語り手の口演を録音した音源を現地協力者によってレユニオン・クレオル語のテキストに書き起こし、さらに特定の民俗語彙や言い回しなどを確認するために同じく現地協力者にフランス語訳を依頼し、双方のテキストをもとに日本語に訳出したものである。ところが、日本語訳を開始する前に音源とクレオル語テキスト、またそのフランス語訳を照合したところ、書き起こしたテキストにかなりの遺漏があり、そのフランス語訳に至っては訳者による独自の解釈、つまり削除や加筆などが多く見られ、殆ど「翻案」に近いものであることが判明した。この如何にもレユニオン風の仕事のお

---

<sup>6</sup> *kriké* は「かちっ」という擬音語に由来していると言われる。西インド諸島ではクリック／クラック *krik-krak* となり語末の母音が消失する。



かげで、音源を最初から新たに聴き直すこととなったが、時間的な制約からそれらの齟齬を完全に修復するには至っていないことをご了解頂きたい。

それぞれの民話の翻刻・翻訳・刊行については、採話の際に各語り手から口頭で許諾を得たが、あとになって著作権を主張した語り手のものは本書に集録していない。さらに、ある語り手による「成人向け」のチジャンの物語は、中世フランスの艶笑譚「ファブリオー」の中で最も卑猥な物語にも匹敵するような、地口や比喻を駆使した見事なものであったが、内容が余りにも猥褻なため、熟慮の結果割愛することにした。

レユニオン民話の特徴づけている最も顕著なものはそのクレオール性である。レユニオンを初めて訪れた際、ブルデューの最後の弟子のひとりだった現地の社会学者から「レユニオンは無人島から始まった『混淆 *mélange*』の壮大な実験室である」と言われたが、リシュリユー<sup>「十七世紀の政治家・根拠地」</sup>の思いつきで始まったとされるその混ぜこぜ状態を約四百年後の現在、多民族共生社会や混成文化のモデルとする向きもあるが、そのような還元主義的視座はクレオール性が持つ様々な意味でのダイナミズムとは程遠い。民族や文化の混ぜこぜ状態が連綿と続く過程が生み出してきた社会基盤が現在でもサトウキビ・モノカルチャーであるというのは一種の歴史的な皮肉かも知れないが、筆者にとってクレオール性の理解とは何よりもまず、果てしなく広がるサトウキビ畑の緑と、そこから作り出される砂糖とラム酒の芳香という圧倒的な知覚体験から始まる。2015年のノーベル文学賞を受賞したベラルーシの作家スヴェトラナ・アレクシェーヴィッチの作品を「クレオール文学」と評した英米文学者がいたが、頭で考え

るクレオールは恐らく無味無臭でモノトーンなのだろう。

最後に、2018年8月に亡くなったダニエル・オノレ氏について記す。彼は広東省からの中国移民の二世で（母親はマダガスカル女性）、地元の高校で長年教鞭を執った後、レユニオン・クレオール語による民話や格言などに関する多くの著作を出版し、当該言語を広く世に知らしめた功績によりレユニオン島では多大なる尊敬の念を集めていた。中国の山奥に隠棲する仙人といった風貌の彼と初体面の時から気が合ったのは、レユニオンでは同じ *sinwa* 【原義はクレオール語の「中国人」で、あるがアジア系住民全般を指す】 の「顔つき」をしていることであろうが、彼と会話をしている時の、老師の聲咳に接するような感覚は今でも忘れ難い思い出である。

本書の表紙は同僚である東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・広報企画担当の石黒美美代研究員によるものである。多忙な中、多くの時間を割いて制作して頂いたことに感謝申し上げる。また、表紙用の幾つかの画像候補から石黒氏が選んだのは、語り手の Jean-Pierre Acapandié 氏がかつて住んでいたレユニオン島南部 Entre-Deux の家であり、本書に収められた民話の多くはそこで行われた「民話の会」の際に収録されたことから、この上なく本書に相応しい表紙となった。

本書の刊行に際しては次に挙げる方々の協力を得た。厚く御礼申し上げる次第である：税所萌葉、深澤秀夫、Yu-Sion Live, Lahcen Daaif, M.-A. Gence, A. Cheynet, Quentin Hagen と彼の母 Maryse、伯母／叔母の Stéphanie と Nicole。また、既刊の民話集について貴重なコメントを寄せてくれた柳沢の多くの友人たち、そして筆者がレユニオン島への召命を受けた La Rhumerie の Djikine, Nicole, Ibrahim にも謝意を表したい。

## Tab dé matiyér 目次

1. Ti Zan èk la Sitrouy (Daniel HONORÉ) チジャンとカボチャ (ダニエル・オノレ)	2
2. Ti Zan èk le Diab la fès an or (Suzelle CUVELIER) チジャンと金の尻を持つ悪魔 (シュゼル・キュヴリエ)	20
3. Sililine (Jean-Bernard IFANOHIZA) シリリス (ジャン＝ベルナル・イファノイザ)	40
4. Kala èk Ti Kala, son ti zanfàn (Patricia CHAMAND) カラと孫娘のチカラ (パトリシア・シャマン)	64
5. Gran Diab la fès an or (Isabelle METZGER-CILLON) 金の尻を持つ悪魔 (イザベル・メツゲル＝シヨン)	70
6. Ti Zan èk Sitrouy (Isabelle METZGER-CILLON) チジャンとカボチャ (イザベル・メツゲル＝シヨン)	96
7. Lafrik èk bob (Luco SAUTRON) アフリカとボーブル (リュコ・ソートロン)	118
8. Maloya (Jean-Pierre ACAPANDIÉ) マロヤ (ジャン＝ピエール・アカパンディエ)	124
9. La Tèr, le Solèy èk la Line (Patricia CHAMAND) 地球と太陽と月 (パトリシア・シャマン)	144
10. Le promyé manteri (Isabelle METZGER-CILLON) この世で最初の嘘 (イザベル・メツゲル＝シヨン)	148
11. Bounounou (Daniel BERGEAULT et Josette SAVIGNY) ブヌヌ (ダニエル・ベルジョー & ジョゼット・サヴィニー)	178
12. Une fermière et ses animaux (Daniel BERGEAULT et Josette SAVIGNY) 農婦と動物たち (ダニエル・ベルジョー & ジョゼット・サヴィニー)	198

13. Ti Zan èk sotrèl blé (Luco SAUTRON) チジャンと青いバツタ (リュコ・ソートロン)	206
14. Le kalou mazik (Patricia CHAMAND) 魔法のすりこ木 (パトリ シア・シャマン)	224
15. Le marmay la fê in rèv (Xavier RIVIERE) 夢を見た子供 (グザビ エ・リヴィエール)	232
16. Fatou (Isabelle METZGER-CILLON) ファトゥ (イザベル・メツ ゲル＝シヨン)	250
17. Nasrédine le tayèr (Patricia CHAMAND) 仕立て屋のナスレディ ン (パトリシア・シャマン)	282
18. Le garçon de Nasrédine (Patricia CHAMAND) ナスレディンの息 子 (パトリシア・シャマン)	284
19. Tonine (Suzelle CUELLIER) トニヌ (シュゼール・キュヴリエ)	290
20. Lé pa konpliké (Jean-Pierre ACAPANDIÉ) 人生込み入ってやし ない (ジャン＝ピエール・アカバンディエ)	300
21. Zan Zak èk Mikri (Beurty DUBAR) ジャン＝ジャックとミクリ (ブルティー・デュバル)	330
22. Ti Frèd èk ti lapin (Bruno BANO) チフレッドと子ウサギ (ブリ ュノ・パノ)	364
23. Ti mwano (Céline BARRET) 小さなスズメ (セリーヌ・バレ)	394
24. Mèrl èk tang (Luco SAUTRON) ツグミとタング (リュコ・ソー トロン)	400
25. Ti Gouya (Teddy IAFFARE) チグヤ (テディ・イアフアール)	414

本書に集録したクレオール語テキストは、発話者の出身地域によって発音方式が異なるために正書法は統一されておらず、また音源の録音状況等に起因する欠落部分がある。

Dans la mesure où la langue créole accuse des variations suivant les lieux d'origine des conteurs, l'orthographe s'en ressent à travers quelques incohérences, ainsi que la transcription souffrant d'une certaine défaillance par rapport à l'enregistrement audio des contes.

Pou la mémwar Daniel HONORÉ

ダニエル・オノレの思い出に

レユニオンの民話

## 1. Ti Zan èk la Sitrouy

Daniel HONORÉ

Kriké !

Kraké !

Marmay zot i rapèl, zot i rapèl kan Gran Diab lété ankor vivan. Rapèl a zot. Rapèl a zot, lavé inn ti bonom té i kour zistéman devan déryèr li pou tyé a li, eské zot i rapèl ki sa lété ? Lété Ti Zan !

Ti Zan, in zour, lav'ni a bou mèl Gran Diab dann inn ti kaz an fèr, la sèm pétrol partou é pi sa la krak in zalimèt. Zot i rapèl kosa la éspasé ? E bin, la tèt Gran Diab la pété é Grand Diab lé mor. Bin alor, dépi sa, kosa k'la éspasé ? Zot i pé imaziné inn ti pé kosa larivé ? Bin ma di a zot.

Figir a zot ké la ousa la tèt Gran diab la pété, nana inn ti pié, inn ti pié sitrouy la pousé. Mé sa té i donn zoli zoli fèy. Lavé bann ti kèr té i kour partou par laba tousa. E alor, tout' bann madam lé zalantour, bin zot té vé fé brèd sitrouy lo swar pou zot mari. Hum, mé, non non non.

Nana in vié madam la passé é pi la di a zot : « Fo pa kas lo kèr sitrouy-la paské si zot i kas sa, nana malèr pou arivé pou toulmoun. »

## 1. チジャンとカボチャ

ダニエル・オノレ

クリケ！

クラケ！

みんな覚えているかな、《大悪魔》がまだ生きていた頃のことを。覚えているかな。覚えているかな、ひとりの少年がいて《大悪魔》の前や後ろで立ち回って彼を殺そうとしていたのを。それが誰だったか覚えているかな？ チジャンだ！

チジャンはある日、《大悪魔》を鉄の家に閉じ込めて、周りに石油を撒いてからマッチを擦った。それでどうなったか覚えているかな？ そう、《大悪魔》の頭は破裂して《大悪魔》は死んでしまった。そのあと何が起こったか。何が起こったのか？ みんなちょっと想像できるかな？ それじゃ、みんなに話してあげよう。

《大悪魔》の頭が破裂した場所に一本の草、カボチャの草が生えてきたんだ。その草にはきれいなきれいな葉がついていた。あちらこちら、小さな芽が葉に広がっていた。それで近所のおかみさんたちはみんな、ブレット<sup>レニオンに広く分布するナス科の植物</sup>とカボチャを調理して旦那のために夕食を作ろうとしていた。いや、だめだめだめ。

ひとりの老婆がそこに通りかかって、みんなに言った：「そのカボチャの芽を摘んじゃいけないよ。もし摘んだらみんなの上に不幸が降りかかるから」。



E alor, toulmoun la préfèr artourn zot kaz, é pi la lésé. Mé figir a zot, déryèr lo do se fanm-la, figuir a zot, nana inn ti flèr la sorti. Mé pa sinkant flèr ! In sèl ti flèr, mé pa ninport kèl ti flèr ! Sé inn ti flèr mal ke la sorti.

E alor, é alor, kan domoun té i pas, té i vwa ti flèr mal-la, tout domoun lavé pèr paské tout la kompri ké se ti flèr mal la lété pa normal. E wi, té pa normal, paské la pa tardé, le ti flèr mal la donn in sitrouy ! E wi, normalman, in flèr mal li tousèl, li giny pa fé ti, mé là, lété pa normal. Donk, li la fé inn ti sitrouy é la komans grosi toutswit. La grosi, la grosi, la grosi. Kan domoun té i pas konmsa, té i ogard mèm pa paské zot lavé pèr. Toutswit domoun té i kour zot kaz.

Alor, le vié fanm la artourné é pi èl la di toulmoun, tout lo vilaz : « Fé atansyon ma la di a zot. I kas pa lo kèr sitrouy-la. Mé i fo pa kas sitrouy-la non pli paské gran malèr i sar arivé ! » Bin alor, toulmoun lavé si tèlman té pèr, ké toulmoun la rèss dann zot kaz, la pi sorti.

Anfin, kan mi di toulmoun, la pa vré, la pa vré, paské nana inn ti marmay li lavé touzour son kyriosité. Se ti marmay la, zot i rapèl koman nou apèl a li ankò ? Wé, sé sa ! Ti Zan ! Ti Zan lété touzour kyrié. Kan la di i fo pa kas sa la, bin li di : « Ékout, la pwin pèrsonn i agard a mwin. Papa, moman, tout' lé dann palé laba. Mi koné kosa i fo fé. »

それでみんなは家に帰ることにして、老婆をそこに残した。すると、老婆の背中後ろで小さな花がひとつ咲いた。五十個も咲くんじゃない！ たったひとつの花なんだけど、ただの花じゃない！ 咲いたのは小さな雄花だった。

そういう訳で、人々はそこを通り過ぎる時にその小さな雄花を目にしたが、みんながみんな怖がっていた。というのも、その小さな雄花が普通じゃないことをみんな分かっていたからだ。そう、普通じゃない、というのもあつという間に、この小さな雄花にカボチャが生った！ そう、普通なら雄花だけでは実は生らないから普通じゃなかった。そして、生った小さなカボチャはすぐに大きくなり始めた。大きく、大きく、大きくなった。人々はそこを通る時、怖がってそれを見ないようにしていた。みんなはすぐに走って家に戻るのだった。

そのうち例の老婆が戻って来て村人のみんなに言った：「みんな注意するように言うけど、そのカボチャの芽を取ってはだめだ。それにカボチャの実を取ってはだめだ。とんでもない不幸が降りかかるから」。それでみんなは恐怖の余り、家に閉じこもったまま出てこなかった。

ところが、私は「みんな」と言ったけれどそうじゃない、そうじゃなかった。いつも好奇心旺盛なひとりの少年がいたからだ。さてみんなはこの少年の名前を覚えているかな？ そう、その通り！ チジャンだ！ チジャンはいつだって好奇心旺盛だった。それを摘んではいけない、と言われた時、彼はこう思った：『ほら、誰も僕を見てやしない。パパもママもみんな向こうのお屋敷にいるし。僕はやることは分かっている』。

Li la pran son ti kouto dan son pos, li la byin aguiz sa, é pi li la agard a drwat, a gos, déryèr, dovan. Konm lavé pwin pèsonn, li la rantré, é pi sa li la koupé lo sitrouy. Ah ! Mé tèl li koup sitrouy-la, li la santi konm frison i pas su son kor. Alor, alor, li ogard lo sitrouy. E li lavé linprésyon ké le sitrouy té ogard a li. Lo sitrouy, tan plis' té i ogard a li, tan plis le sitrouy té grosi, té i grosi, té i grosi ! É a se moman la, li la antandi in vwa la di : « Ou la kas a mwin, ou va port a mwin ! »

Kan Ti Zan la antandi sa, ou koné, kap kap la mont si li : « Mon dié sényèr, koman mi sar fé ? Déza lo sitrouy té fé au mwin karant', sinkant' kilo atèr. Koman mi sar port sa ? »

Ti Zan la kouri. Mé déryèr li, li la antandi lo sitrouy té i kour osi : « Goudoung goudoung goudoung goudoung. » E pi, li té antann lo vwa té i di : « Ou la kas a mwin, Ou va port a mwin, Ou la kas a mwin. Ou va port a mwin. »

Ti Zan té koné pi kosa fé. Li té kour par si, li té kour par laba. Li la rant dann son kaz. Kan li la rant dann son kaz, li la rant dan son sanm, li la fèrm la port. Mé li la antandi touzour : « Goudoung goudoung goudoung goudoung. »

Lété lo sitrouy. Lo sitrouy la pran lélan lwinn, lwinn, lwinn laba é larivé, la bat' kont la port : « Bam ! »

La port la tramblé é Ti Zan la tramb plis ankor : « Mon dié sényèr, koman mi sar fé, koman mi sar fé ? »

彼はポケットのナイフを取り出してよく研ぎ、それから前後左右を見た。誰もいないので、彼は戻ってカボチャを切り取った。ああ！ カボチャを切り取ったその途端、彼は身体に震えが走るのを感じた。そこで彼はカボチャを眺めた。するとカボチャが自分を睨んでいるような感じがした。カボチャは彼を睨めば睨むほど、大きく大きく、大きくなっていった！ そしてその時、彼はこういう声を聞いた：「俺を切り取ったな、俺を運べ！」。

チジャンはそれを聞くと、勿論のこと、恐怖が湧き起こった：「ああ神様、どうしたらいいだろう？ もうカボチャは少なくとも四、五十キロぐらいになっている。どうやってそれを運べというんだ？」。

チジャンは逃げ始めた。しかし後ろからカボチャも走ってくるのが聞こえた：「グドゥン、グドゥン、グドゥン、グドゥン」。おまけに彼には声も聞こえた：「俺を切り取ったな、俺を運べ、俺を切り取ったな、俺を運べ」。

チジャンはどうしたらいいか分からなかった。彼はあちらへ走り、こちらへ走った。彼は自分の家に入った。彼は家に入ると自分の部屋に入りドアを閉じた。それでも彼には相変わらず聞こえた：「グドゥン、グドゥン、グドゥン、グドゥン」。

カボチャが来た。カボチャは遠く遠く遥か向こうから突進してきてドアにぶち当たった：「バン！」。ドアが揺れ、チジャンはそれよりもっと身震いした：「ああ神様、どうしたらいいんだろう、どうすりゃいいんだ？」。

E li la antandi lo sitrouy pran lélan ankòr pli lwin ankòr laba. Mé lo sitrouy i arvyin : « Goudoung goudoung goudoung, Bam ! » E la, son papa la pri a li : « Ti Zan, Ti Zan sov vit' mounwar. Pass par la fénèt', li ginyra pa kour déryèr a ou ! » E la, Ti Zan la sot par la fénèt', la kouri. Mé déryèr li, déryèr li, té antann touzour : « Ou la kas a mwin, ou va port a mwin, ou la kas a mwin, ou va port a mwin. » E lo sitrouy té kontinyé kour déryèr, kour déryèr li, kour déryèr li.

Ti Zan, ou koné, la lang té i sort, té pandiy ziska son vant konmsa. Li té koné pi kosa fé. Erèzman, érèzman, tèl li la fé in kontour konmsa, li la vi in torti atèr, in zoli torti. Li la kour vitman koté lo torti, la di : « Torti siou plé, torti agard, sitrouy vé kraz a mwin. Torti sov a mwin siou plé. »

Lo torti la tir son tèt déor, la trouv li té i fé pityé. Alor lo torti la di : « Ti Zan mon zanfan, falé pa kass sitrouy-la. La ou wa la. Mé trakas pa. Ma sov a ou mwin, paské sitrouy-la, sa mon manzé sa. Mi manz sitrouy mwin. Rant dosou mon kok ! » E Ti Zan la rant dosou la kok. Mé sitrouy larivé, touzour : « Boudoung boudoung boudoung boudoung. »

I ogard partou, i rod Ti Zan, i trouv pi. Mé sitrouy lé intélizan, sitrouy i di : « Hum, ou ésèy tromp a mwin. Ou la rant sou la kok-la. Atann, mi vyin pou ou. »

彼は、カボチャがもっと遠くから突進してくるのを聞いた。カボチャが来た：「グドゥン、グドゥン、グドゥン、グドゥン、バン!」。そこへ彼のパパがやって来て言った：「チジャン、チジャン、早く逃げろ。窓からだ。奴はお前を追いかけて来ないだろう!」。そこでチジャンは窓から飛び出て走った。ところが、後ろから後ろから、相変わらず聞こえてきた：「俺を切り取ったな、俺を運べ、俺を切り取ったな、俺を運べ」。カボチャは彼の後を追いかけて、追いかけて、追いかけて続けた。

チジャンはというと、舌がだらりと出てこんな感じでお腹まで垂れ下がっていた。彼はどうしていいか分からなかった。幸いにも、幸いにも、こんな風に逃げている途中で、彼は地面にカメがいるのを見つけた、きれいなカメだ。彼は急いでカメに近づいて言った：「カメさん、お願いだ。カメさん見て、カボチャが僕を押しつぶそうとしてる。カメさん、お願いだから助けて」。

カメは頭を出して、彼を見て可哀想に思った。そこでカメは言った：「チジャン坊、あのカボチャは取ってはいけなかったんだ。これでわかったろう。でも心配しなくていい。お前を助けてやろう、だってカボチャならわしは食べるからね。わしはカボチャを食べるんだ。甲羅の下に入りなさい!」。チジャンは甲羅の下に入った。ところが、カボチャは相変わらずやって来た：「ブドゥン、ブドゥン、ブドゥン、ブドゥン」。

彼は辺りを見回してチジャンを探したが見つからなかった。ところがカボチャは頭がよかったので言った：「ふむ、お前は俺をだまそうとしているな。お前はあの甲羅の下に入っているな。待ってろ、行くからな」。

E la pran son lélan lwin, lwin, lwin, laba mèm, é pi larivé : « Boudoung boudoung boudoung, Bam ! » Lo torti té i koné pi, i di : « Mon dié sényèr, si i arfé in kou, i kas mon kok, koman mi sar fé ? »

E wi, pandan se tan-la, sitrouy la arparti pran lélan lwin, lwin, lwin, mèm, é li la arvni : « Boudoung boudoung boudoung, Bam ! » Ah non, torti té i gyny pi. Torti i di èk Ti Zan : « Ti Zan mon zanfan, èskiz a mwin, mé si li arkony a mwin in dènyé kou konmsa, tout mon kok i sar kasé, mi sar mor. Ti Zan, sap a ou siou plé ! » E Ti Zan té oblizé arkomans kourir. Ti Zan la kouri, la kouri, kouri, té i koné pi. Réspiré li té gyny pi tèlman li té fatigé lo pov ti marmay.

Erèzman, tèl li la fé in viraz, li la vi in soval, in zoli soval, marmay. Alor, li la parti domann soval :

« Soval, soval, mi gyny pi viv, néna in sitrouy. Sitrouy i vé kraz a mwin. Sov a mwin siou plé soval.

- Mounwar, wi, i falé pa kas sitrouy-la osi. Bon, wi, ou fé pityé. Ma sov a ou, ma sov a ou. Trakas pa. Sa sitrouy, sa mon manzé. Ma manz a li, apré la ou poura rant out kaz. »

Ti Zan i di a li mèrsi. « E bin, mont su mon do. » Ti Zan sèd grimpé su le do soval. Mé sitrouy la pa oubli a li.

そして遠く遠く遠くから勢いをつけ、やって来た：「ブドゥン、ブドゥン、ブドゥン、バン!」。カメはどうしていいか分からず言った：「ああ神様、あいつがもう一回やったらわしの甲羅が割れてしまう、どうすればいい?」。

そうこうしている間にも、カボチャは遠く遠く遠くから勢いをつけてまたやって来た：「ブドゥン、ブドゥン、ブドゥン、バン!」。ああだめ、カメはもうどうにもできない。カメはチジャンに言った：「チジャン坊、許してくれ。カボチャがさっきみたいにぶつかったら、わしの甲羅が全部割れてわしは死んでしまう。チジャン、逃げてくれ、お願いだ!」。そこでチジャンはまた逃げるしかなかった。チジャンは走って走って走りまくり、どうすればいいか分からなかった。息もできないほど疲れ切った哀れな少年だった。

幸いにも村に入ってすぐに、彼は一頭の馬を見つけた。きれいな馬だよ。そこで彼は馬に頼みに行った：

「馬さん、馬さん、僕はもうお仕舞いだ。カボチャがいるんだよ。カボチャが僕を押しつぶそうとしているんだ。お願いだから助けて、馬さん。

ー お若いの、わかった。あのカボチャは取ってはいけなかったのだ。宜しい、お前が可哀想だ。お前を助けよう、助けてあげる。心配しなくていい。カボチャは私のご飯だ。私があいつを食べるから、その後でお前は家に帰れるだろう」。

チジャンは礼を言った。「背中に乗りなさい」。チジャンは馬の背中によじ登った。ところがカボチャはチジャンのことを忘れていなかった。



Sitrouy la rokomans kouri, la arivé, la arivé : « Boudoung boudoung boudoung. » I ogard partou, i vwa Ti Zan anlèr soval laba : « Ah, ou lé anlèr. Atann, mi vyin pou ou. » Li sé pran son lélán laba, é li larivé :

« Bam ! » An plin dan lo pat aryèr lo soval. Soval a zenou konmsa, i koné pi kosa fé, i di : « Eh ! Ti Zan, si li rofé in dézièm kou konmsa-la, li va kas mon zamb. Hin ! Vo myé sap a ou, sap a ou Ti Zan ! »

E lo pov Ti Zan té pé pa rès là. Li lé oblizé ardésann a tèr. Li lé oblizé arkourir, kourir, arkomans kourir. Ou koné, transpirasyon sèlman lavé asé pou biny domoun dédan si tèlman li té transpir, li té transpir, li té transpir.

Mé laba, sitrouy la arkomans pran son lélán. É pi li arvyin, li arvyin, li rod mèm, li rod mèm. E wi, sé paské tou sinpleman Ti Zan, zist apré in viraz, ki sa li trouv dapré zot marmay ? E bin figir a zot, li trouv in léléfan ! Zot la dezà vi léléfan, hin ? In léléfan, sé in bel zafèr sa. Koman in sitrouy. Kosa li sar fé ?

E la, Ti Zan i di : « Eléfan, léléfan, sitrouy i vé kraz a mwin, sov a mwin siou plé. » Léléfan i agard a li, i di :

« Sitrouy i vé kraz a ou ? Mé ou lavé mal fé kas sitrouy-la. Falé pa.

- Wi. Mi regrèt. Mi regrèt. Mi domann pardon. Mé sov a mwin siouplé ! »

カボチャはまた走り始め、やって来た：「ブドゥン、ブドゥン、ブドゥン」。カボチャは辺りを見回してチジャンが馬の上にいるのを見つけた：「おや、お前は上の方にいるな。待ってろ、今行くからな」。カボチャは勢いをつけてやって来た：「バン!」。馬の前足に直にぶつかった。馬はひざから崩れ落ちてどうすればいいか分からず言った：「おい！チジャン、カボチャがもう一回こんな風にやったら私の脚を折るだろう。さあ！お前は逃げた方がいいようだ。逃げろ、チジャン!」。

哀れなチジャンはそこに留まることができなかった。彼は地面に降りるしかなかった。彼はまた走るしかなく、走って、走り出した。勿論、彼はとっても汗をかいて、そこで人が泳げるぐらい汗をかき、汗をかいていた。

さて、カボチャはまた飛んでいった。それから戻って、戻って、彼を探しに探した。そう、ごく普通にチジャンは村に入ったのだが、そこで一体誰を見つけたと思う？ いいかい、彼はゾウを見つけたんだ！みんなゾウは見たことがあるだろう？ゾウはとっても素敵な奴だ。カボチャはどうするか。一体どうするだろう？

そこでチジャンは言った：「ゾウさん、ゾウさん、カボチャが僕を押しつぶそうとしているんだ。お願いだから助けて」。ゾウは彼を見て答えた：

「カボチャがお前を押しつぶそうとしているって。でもお前がそのカボチャを取ってしまったのはまずかった。やっちゃいけないことだった。

ー はい、後悔してます。後悔してます。ごめんなさい。でもお願いだから助けて!」。

Alor léléfan i ogard a li, i vwa li fé si tèlman pitié : « Bin lé bon. Ma sov a ou ! Ekout, mont, asiz a ou si mon zorèy. Kan li va arivé, ma fout in kou d'pié. Li va pèt an flèr konmsa, mé la fini é ou s'ra sové. »

Ti Zan lé byin kontan. Ti Zan sèd grimpé anlèr. Ou koné konm bann léléfan i fé, i lèw in pié konmsa, alor ou mèt in pié là dési, apré ou trap son zorèy an lèr. Ti Zan, byin kontan, anlèr, i di : « Ah, se kou-si, mwin lé sové. »

Li la oublyé, li la oublyé ké sitrouy la parti pran son lélan laba lot koté Sin Dni laba, lwin, lwin, lwin. E pi, li la arivé : « Boudoung boudoung boudoung. »

E kan li ariv, li vwa Ti Zan asiz si zorèy léléfan. La pran son lélan ankòr pli lwin ankòr. Larivé avèk la fors. Li la arivé konmsa, la bat' dann la pat léléfan. Ou koné, léléfan la tomb atèr ! Ah, kan léléfan la tomb atèr, la di : « Ti Zan, la i giny pi. Sap a ou mounwar, sap a ou. Sinon sa, mwin lé mor, mwin lé mor, mwin lé mor. »

E Ti Zan, sé kouri a nouvo. La li di : « Bon akout, sé pa léléfan i sar mor, lé sir, sitrouy i sar tyé mwin. »

ゾウは彼を見て、本当に可哀想に思ったので言った：「宜しい。お前を助けよう！ いいかい、私の上に登って耳の上に座るんだ。あいつが来たら、足で一発お見舞いしてやる。そうしたら奴は木っ端みじんになって一巻の終わりでお前は助かるだろう」。

チジャンはとても喜んだ。チジャンは上に登った。どういう風にやるのかというと、ゾウが脚を一本こんな風に上げたら自分の足をその上に置いて、それから上にあるゾウの耳を掴むんだ。チジャンは高いところですっかり満足していた：「ああ、これでやっと助かる」。

彼は忘れていた。忘れていたのは、カボチャがサン＝ドゥニ<sup>〔島の北部にある島郡〕</sup>の方まで、遠く遠く、ずっと遠くまで勢いをつけに行ったということだった。それからカボチャがやって来た：「ブドン、ブドン、ブドン」。

そしてカボチャは着いた時に、チジャンがゾウの耳の上に座っているのを見た。そこでカボチャはさらにもっと遠くまで行って勢いをつけた。全力でやって来た。こんな風にやって来て、ゾウの脚にぶち当たった。ゾウはとうとう地面に倒れてしまった！ ああ、ゾウは地面に倒れた時に言った：「チジャン、もうだめだ。すぐに逃げてくれ。逃げてくれ。そうしないと私は死んじゃう、死んじゃう、死んじゃう」。

これで、チジャンはまたしても走り始めた。彼はこう思った：『いいか、ゾウが死ぬかどうかなんて分からないけど、確かなのはカボチャが僕を殺そうとしていることだ』。

E pi, a fors tan kourir, tan kourir, li fé in viraz. E dapré zot, ki sa li vwa ?  
Li vwa in vié fanm, in vié fanm sové blan byin amayé si la tèt é tousa. Li  
rokoné lo vié fanm ke lavé di a li : « Fo pa kas sa. »

Alor, li sar vwar lo vié fanm, li di : « Madam, pardonn a mwin siou plé.  
Ma la pa ékout a ou. La, zordi, sitrouy i sar tyé mwin. »

Lo vié madam i di a li :  
« Ou vwa mon zanfan, sèk gramoun i di la, sa sé la parol la vérité. Fo pa  
ou fé lo kontrè. Mé la, kosa ou sar fé ?

- Mwin lé résigné, mi sar mor. Kosa ou sa va fèr, lès a mwin mor. »

Lo vié fanm i rogard a li, i di : « Mon zanfan, non, mi lès a pa ou mor.  
Ou vwa tèr laba, néna in lak la. Zist à koté la, ou vwa nana in pié fig lé a  
tèr-la. Ma la koupé. La pi la tèt, la pi ryin la dési. Bin, vwala kosa ou sar  
fé. Tir out' somiz. » Ti Zan i tir son somiz.

« Mèt somiz la anlèr konm si vréman sa sé somiz lé dési in moun. »

Ti Zan i mèt lo somiz.

« Astèr, tir out kilot. Tir out kilot.

- Dovan in madam mi sar tir mon kilot ?

- Rogard pa lo madam. Alé tir out kilot. Dépès a ou ! »

それから、全力でさんざん走って走って、村に入った。  
さて、彼は誰に遇ったと思う？ 彼はひとりの老婆、ごち  
ゃごちゃにもつれた白髪のお婆に遇った。彼はその老婆を  
知っていた。というのも彼女が彼に「それを取ってはいけ  
ないよ」と言ったからだ。

チジャンは彼女のところに行こうと言った：「お婆あさ  
ん、どうか僕を許して下さい。あなたの言うことを聞きま  
せんでした。それで今日、カボチャが僕を殺そうとしてい  
ます」。

老婆は彼に言った：

「いいかい坊や、年寄りが言うことは真実の言葉なんだよ。  
それと反対のことはしてはだめだ。ところでお前はどうか  
するつもりだい？

— もうあきらめてます。僕は死んじゃうでしょう。どう  
にもできません。死なせて下さい」。

老婆は彼を見て言った：「いや坊や、私はお前を死なせは  
しないよ。あっちの方に湖がある。そのすぐそばの地面に  
バナナの幹が一本落ちている。私が切っておいたんだ。幹  
の上の方にも下の方にも何もない。さあ、お前のやること  
はだ。まずシャツを脱ぐんだ」。チジャンはシャツを脱いだ。  
「シャツをバナナの幹の上に着せるんだ。誰かが着ている  
シャツのように見える」。チジャンはバナナの幹にシャツを  
着せた。

「こんどはズボンを脱ぐんだよ。ズボンを脱げ。

— 女の人の前でズボンを脱げって？

— 女の人を見ないで。そら、ズボンを脱ぐんだ。早く！」。

Ti Zan i tir son kilot.

« Pran out kilot, anfil a li dési. » Ti Zan i pran lo kilot, i anfil lo kilot dési pié fig.

« Astèr pran pié fig-la, tir tout out fors, anvoy a li dann milyé lo lak laba. » Ti Zan i pran tout son fors, i réspir, pran lo gro pié fig é li anvoy lwin lot koté.

Apré, lo vié fanm, i di a li : « Astèr vyin a ou koté mwin-la, hin, rant dosou mon zip. » Li lèv son zip, é Ti Zan i sar kasyèt dosou. Inn ninstan apré : « Boudoung boudoung boudoung boudoung. » Sitrouy i ariv.

Sitrouy i rogard partou, i vwa in vié fanm : « Ma la pa bézwin in vié fanm mwin. » I rod partou, i trouv pi. E pi, li rogard dann fon laba, zist o milyé le lak laba. Li vwa na in somiz i flot, néna in kilot i flot laba : « Ah bon, ou èsèy. Atann mi vyin pou ou. » La pran son lélan konmsa é pi la parti : « Vlam ! »

Mé sitrouy té i koné pa nazé. Kan sitrouy la tonm dan l'lak, sitrouy la koulé, é sitrouy... E sitrouy lé noyé.

E sé dépi se zour-la ke Ti Zan la kompri : « Kan in vié gramoun i di a ou fé kèk soz ou byin fé pa kèk soz, i fo respèkté la parol bann vié gramoun. »

Kriké !

Kraké !

チジャンはズボンを脱いだ。

「ズボンを取って、それを下に穿かせるんだ」。チジャンはズボンを取って、バナナの幹の下に穿かせた。

「そうしたら、その幹を掴んで湖の真ん中に力いっぱい投げろんだ」。チジャンは全力を出して、息を吸ってから太いバナナの幹をつかみ、それを向こう側の遠くまで投げた。

それから老婆が彼に言った：「今度は私の近くに来るんだ。そう、私のスカートの中に入るんだ」。彼女はスカートをたくし上げ、チジャンはその下に隠れた。そのすぐ後に：「ブドゥン、ブドゥン、ブドゥン、ブドゥン」。カボチャがやって来た。

カボチャは辺りを見回して老婆を見つけた：「婆さんには用はない」。カボチャはあちこち探したが何も見つからなかった。それから向こうの方、湖のちょうど真ん中まで目を凝らした。彼はシャツが浮いていて、そこにズボンも浮いているのを見つけた：「よし、そうきたか。待ってろ、お前のところに行くぞ」。カボチャはまた勢いをつけて飛び込んだ：「ドボン！」。

ところが、カボチャは泳げなかった。カボチャが湖に落ちた時、カボチャは沈んで、カボチャは... カボチャは溺れてしまった。

この日を境にチジャンはわかった：『お年寄りがお前に何かをしなさいとか、してはいけない、と言う時は、お年寄りの言うことを尊重しなくてはいけない』。

クリケ！

クラケ！



## 2. Ti Zan èk le Diab la fès an or

Suzelle CUVELIER

Lété in fwa, misyé lé fwa la manz son fwa èk in grin d'sèl.

Lavé in madam ke lavé inn fiy èk in garson. Sa fiy lété joli konm tou. In joli ti mamzèl, lo ti sovè byin bouklé, lo ti po koulèr sapotiy, in ti rin guèp. Mé èl lavé osi inn ti garson. Son ti garson té i apèl Ti Zan. Ti Zan lavé in problèm. Ti Zan lété malad. Ti Zan lavé la gal. Lo momon la tou éséyé pou swiny son marmay. La pran tout' lé tizann té i égsis, na ryin afèr. Li té gyni pa gérir son garson.

E pi, lo fiy, èl lété orgéyèz, trè orgéyèz. Èl i di touzour : « Mwin si in zour mi maryé, mi maryé èk un boug néna la fès an or ! » Toultan li té répèt sa.

In zour, li té antrinn dir sa, lété dan lèr midi. Lèr d'midi ou koné, si zèr d'matin, si zèr dswar, minwi, sé dé zèr i fo fé atansyon. Kan èl la di sa, lavé lo Diab ki pas par la. Lo Diab la antandi : « Ah, se zoli ti mandzèl i vé maryé èk in moun néna la fès en or. Hum, lé bon ! »

## 2. チジャンと金の尻を持つ悪魔

シュゼル・キュヴリエ

ある時、<sup>フ</sup><sup>ォ</sup><sup>ワ</sup>さんが自分の<sup>フ</sup><sup>ォ</sup><sup>ワ</sup>肝をひと粒の塩と一緒に食べた。

昔々、女の人がいて娘と息子がいた。彼女の娘はみんなのようにきれいだった。きれいな小さいお嬢ちゃん、髪の毛をしっかりと巻き、サポジラ<sup>[熱帯に分布する常緑樹 Manilkara zapota]</sup>の実のような肌の色をして、身体つきはスズメバチみたいだった。彼女には息子もいた。男の子の方はチジャンという名前だった。チジャンは問題を抱えていた。チジャンは病気だった。チジャンは疥癬病みだった。ママは子供を治すためにできる限りのことをした。彼女はあらゆる薬湯を試したがだめだった。彼女は息子を治せなかった。

そして娘の方は傲慢だった。とても傲慢だった。彼女はいつもこう言っていた：「私がいつか結婚する時は、お尻が金でできている男の人と結婚するわ！」。彼女はいつもこう繰り返していた。

ある日、彼女がそれを言っていた時、それは正午だった。ご存じのように正午とか朝の六時、夕方の六時、そして真夜中というのは気をつけなくてはいけない時間帯だ。彼女がそう言った時、《悪魔》がそこを通りがかった。《悪魔》は彼女の言葉を聞いて言った：「おやおや、この可愛いお嬢ちゃんは金の尻を持った誰かと結婚したいとさ。ふむ、これはいいぞ！」。

Eh bin, li lé parti dan léo vwar in kamarad ke lété forzron. Li la di son kamarad : « Fé a mwin in zoli plak cuiv, i briy byin, pou mèt sou mon déryèr. » Lo bonom la préparé. Kan lété bon, la di lo Diab mont. Lo Diab lé monté. Li la anroul byin sa ké, li la pozé lo plak cuiv dési, é pi li la abiy a li, li la désann.

Li la atann dé trwa zour. Li survèy touzour le ti mandzèl de lwin. In zour midi li té ariv. La kaz bana lété lwin dann fon la kour. Lavé in gran lalé po ariv ziskan o. Li komans dann gran baro laba, li kri : « La pwin pèrson, la pwin pèrson ? » La pwin pèrson. Pèrson i antan pa. Sété lèr toulmoun té antrinn d'manzé, lèr midi.

Mé le ti fiy, son zorèy la pwinté, lo syin la aboyé. La désann la parti vwar :

« Misyé rant, rant a ou.

- Bin vwala. Ma la antandu dir..., Bonzour Madam, Misyé. Bonzour mandzèl. Bin madam, ma la antandi dir ké out fiy i vé maryé avèk in boug néna la fès an or. Bin, mi vyin prézant a mwin. »

La fiy : « Ou na la fès an or ? Bin mi vé vwar. » Lo momon i di :

« Mé anfin, ma fiy ! Ou lé malél'vé ! Sa i fé pa !

- Wi, mi vé vwar. Misyé mèt a ou dann lalé an plin solèy. »

そこで彼は鍛冶屋の仲間に会いに高地に行った。彼は仲間に言った：「私にきれいな銅板を作ってくれ。ぴかぴか光るヤツで、私の尻にはめるんだ」。鍛冶屋はそれをあつらえた。仕上がった時、《悪魔》に取りに登って来るよう言った。《悪魔》が登って来た。彼は尻尾をしっかりと巻き、その上から銅板をはめ、それからまた服を身につけて、降りて行った。

彼は数日の間待った。彼は小さなお嬢ちゃんの様子を遠くからずっとうかがっていた。そしてある日の正午にやって来た。母屋は前庭の奥にあった。上の方に登る大きな通路があった。彼は大きな玄関に入って声をかけた：「誰かいませんか、誰かいませんか？」。誰も出て来なかった。誰も聞いていなかった。その時間はちょうどみんなが食事をしている時間、正午だった。

しかし娘は耳が鋭くて、犬が吠えているのを聞きつけた。彼女は降りて見に行った：

「どうぞ、お入り下さい、どうぞ。

— はい、ごめん下さい。私が聞いたことには... こんにちは、奥さん、ご主人。こんにちはお嬢さん。あの、奥さん、私はあなたの娘さんが金でできた尻を持っている男性との結婚を望んでいるとお聞きしました。それでまかり越しました」。

娘が言った：「あなた金のお尻を持ってらっしゃるの？ 私見てみたいわ」。ママが言った：

「これこれ、あんた！ はしたない！ それはだめです！

— 私見たいの。そこの日の当たる通路までお願いします」。

Eféktivman, li lé parti en plin dann milyé solèy, li la désann sèk i fo. Li la mont son déryèr. Sa té i briy o solèy. La fiy kontan i di : « Sa mèm mèm mwin té i vé. Mi vé maryé èk lu. Mi maryé ! »

Lo momon i di : « Bon, i fo atann inn ti pé. I fo fianc é tousa. »

Mé malgré tou, le maryaz la fé asé rapidman. Mé kan la maryé, néna Ti Zan té i vé swiv. La di a li : « Non non, ou vyin pa, ou na plin la gal. Kosa ou vyin fé èk mwin la ! Non, mi vé pa ! »

Mé malgré tou, Ti Zan la gyny aranz a li. Kan le cortèz la parti : « Zot i koné pa zot, vié boug na la fès an or. Zot i koné sé le Diab ? » E i sava.

Li la kasyèt kèk par dann tout lé zafèr. É arivé laba, li la trouv inn ti kwin. Li lavé labitud vèy a li dann inn ti kwin.

Lo swar, li rann a li kont, li té antrinn louk si lo boug. Paské lavé kèksoz ké li lavé pa trouv tro normal. Akoz lo swar lo boug lé zamé la. Lo swar lo boug li sava. E la, li la vu lo boug dan la kour, antrinn dansé èk in bon pé lo diab. Li di : « Lé gra lé pa gra, lès pou domin, Lé gra lé pa gra, lès pou domin, Lé gra lé pa gra, lès pou domin. » E zot i dans' otour din fé.

そこで彼は、太陽の光が降り注ぐところに出て、下に降り行ってすべきことをした。彼女に尻を見せたのだ。そこは太陽に照らされて光り輝いていた。娘は喜んで言った：「これこそ私の望んでいたものよ。私あの人と結婚したいわ。結婚するの！」。

ママが言った：「いいこと、少し待たなくてはだめ。婚約やら色々なこともあるし」。

それでも結婚式はかなり早く執り行われた。ところが新婦は式に参列したいと言うチジャンに言った：「だめだめ、あんたは来ちゃだめ。あんた湿疹だらけでしょ。あんたが私と一緒に来るなんて！　だめ、来ないで！」。

しかしチジャンには考えがあった。婚礼の行列が出発した時、彼は言った：「みんな知っているのか知らないのか、金の尻を持った年寄り。みんなあいつが《悪魔》だと知っているのか？」。彼は出発した。

彼は色んなものに隠れた。そして着いてから彼はちょっとした隅っこを見つけた。彼は小さな隅っこから見張ることができた。

夜になると彼は家に入って注意を払い男を見張った。というのも、男には何かしら普通ではないところがあったからだ。実際、夜になると男はいつもいなかった。夜になると男は外出していた。そして彼は男が庭で悪魔の一団の中にいるのを見た。男はこう言っていた：「彼女は肥えたか肥えてないか、明日まで放つとこう。彼女は肥えたか肥えてないか、明日まで放つとこう。彼女は肥えたか肥えてないか、明日まで放つとこう」。みんな火の周りで踊っていた。

Kan li la vi sa, le landmin matin, Ti Zan i sar vwar sa sèr. Té i apèl Zann sa sèr. I di :

« Zann, Zann, mi di a ou inn nafèr. Mé ékout a mwin byin, pa bészwin ou kri. Out mari, mèm si li na la fès an or, ou la maryé èk lo Diab !

- Hin, ou lé zalou, ha ! Byin sir, li na la fès an or. I fatig a ou sa, hin ! Ma di mon mari.

- Ou di pa li ryin. Ma mont a ou kèksoz domin swar. Si vréman ou trouv ke mwin la manti, ou va di a li. »

Vèr inn èr, lo Diab la parti. Ti Zan i di èk sa sèr : « Ma amar in bout fisèl nwar avèk out gro pous. Mwin mi s'ra sou le li. Dor a ou. Kas pa la tèt. Kan Diab va rivé, kan mi tir si la kord, out pous va santi a li pasé. Bouz pa. Ou fé konm si de ryin nété. Mèm si ou la pèr, rouv pa out zidé. »

Se swar-la, lo Diab té finn di : « Lé gra la pa gras, lès pou domin. » Le Diab la rant dann son sanm. Li tir son linz. Ti Zan sé tiré si la kord, lo fanm la rouv son zidé. Efèktivman, son mari lété Gran Diab ! Li bouz pa mèm si li lavé la pétos. Li rèd dann li.

Landmin matin, Ti Zan i sava war son bofrèr i di avèk son bofrèr konmsa : « Hin, mi annwi a mwin. Ou vé pa alé sèrs un pé vav pou mwin ? » Le vav sé, tou sinpleman, le lyann ki sèrv pou fé panyé.

それを見たチジャンは翌朝、姉に会いに行った。彼は姉のジャンヌを呼んだ。彼は言った：

「ジャンヌ，ジャンヌ，ちょっと話することがある。しっかり聞いて、叫ばないでくれよ。君の旦那は金のお尻を持っているんだけど、君は《悪魔》と結婚してしまったんだ！

－ ははあ、あんた妬んでいるのね！　そうよ、あの人は金のお尻を持っているわ。それにあんたうんざりしているんでしょ！　あの人に言うからね。

－ あいつには何も言っちゃいけない。明日の夜、君にあるものを見せるから。もしそれでも僕が嘘をついていると思ったらあいつに言えばいい」。

一時頃に《悪魔》は外出した。チジャンは姉に言った：「君の足の親指に黒い糸を結び付ける。僕はベッドの下に隠れる。君は寝ているんだ。心配しなくいい。《悪魔》が来たら糸を引っ張るから、それであいつが来たことが分かる。動いたらだめだよ。何でもないふりをするんだ。怖くても目を開けないように」。

その晩も《悪魔》は言った：「彼女は肥えたか肥えてないか、明日まで放っとこう」。《悪魔》は部屋に入った。彼は服を脱いだ。チジャンは糸を引っ張り、妻は目を開けた。本当に彼の夫は《大悪魔》だった！　彼女は恐ろしかったが身動きしなかった。彼女はベッドの中でじっとしていた。

翌朝、チジャンは義兄に会いに行き、義兄にこう言った：「ちょっとお願いがあります。ヴァヴを少し探して来てくれないませんか？」。ヴァヴというのはごく普通の、籠を編むのに使う蔓のことだ。



« Bon, ma alé cherché pou fé plézir a ou bofrèr ! »

Mé se ke Ti Zan té i koné pa, sé ké le Diab té antrinn angrès a li po manzé. Lo bofrèr la parti, é pi la ramin in kantité le vav, par roulo la donn Ti Zan. Ti Zan la komans travayé. É li la fé in joli panyé. Li té finn fé son joli panyé, li di avèk lo Diab : « Ou la vu koman ma la travayé la, mon panyé lé joli ? Ou vé éséyé ? Rant ! »

Vwala le Ti Zan ki fini son panyé é ki di son bofrèr :

« Bofrèr ou vé pa rant in pé dann mon panyé pou prann lèr ? An o laba i fé bon, hin ?

- Poukwa pa ? »

Pi, li rant dann lo panyé. La, Ti Zan i komans santé :

♪ Monté monté mon ti panyé, Ou sava la kaz momon, Monté monté mon ti panyé... ♪

O fir mézur li chant, lo panyé i mont, i mont.

♪ Monté monté mon ti panyé, Ou sava la kaz momon... ♪

La, li finn ariv an o laba. Lo bofrèr i di : « Ah, Ti Zan lé gayar anlèr la !

I réspir le bon èr. Ah, la la la ! Fé mont ankò in pé pli o ? »

É Ti Zan i rocomans a santé. É le panyé i mont, i mont. In moman doné, Ti Zan i di : « Hin, bofrèr i fo ou désann inn ti kou. Ma sèr va gout inn ti pé le panyé.

- Bin wi. »

「よし、探しに行ってあげるよ、義弟の君が喜ぶならね」。

チジャンは知らなかったが、《悪魔》は彼の姉を食べるために太らせていた。義兄は出かけて、ヴァヴをたくさん集め、ころがしながらチジャンに渡した。チジャンは仕事に取りかかった。そして彼はきれいな籠を作った。彼はきれいな籠を作り終わると《悪魔》に言った：「見て下さい。出来ましたよ、僕の籠、きれいでしょ？ 試してみます？ 中に入って！」。

さてチジャンは籠を作り終えて義兄に言った：

「兄さん、ちょっと僕の籠に入って上の方に行かないかい？ 高いところはいい天気だよ？」

— いいとも」。

彼は籠の中に入った。そこでチジャンは歌い始めた：

♪ 登れ、登れ、僕の小さな籠、お前はママの家に行く、  
登れ、登れ、僕の籠... ♪

彼が歌うにつれて籠も登って登っていった。

♪ 登れ、登れ、僕の小さな籠、お前はママの家に行く... ♪

籠は高地に着いた。義兄が言った：「ああ、チジャン、高いところはいいもんだな。空気が新鮮だ。いやはや！ もう少し高く登らせてくれないかい？」。

するとチジャンがまた歌い始めた。そして籠は登って登っていった。しばらくしてチジャンが言った：

「ねえ兄さん、そろそろ降りなきゃ。今度は姉さんが籠を試す番だ。」

— 分かった」。

Li desant. É le panyé i redésann. Li di ansanm son bofrèr : « Sèlman ou wa bofrèr, dan le panyé, ma sèr lé inn ti pé pli sansib ke nou lé zom. Ma mèt inn ti kousin. Ma mèt kèksoz dédan pou kèl i asiz byin, èl lé alé. Lé fanm ou konpran, hin ! »

Li la mèt dé kousin dédan. Mé se ke le Diab la pa vi, sé ke li la glisé dann le panyé, in zèf, in bros a lavé, in bros koko, avèk in galé. Li la glis tousa dann le panyé. Pi la sèr la monté, é li la santé. Li di èk lo Diab : « Hin, vo myé mi mont èk la sèr pou kondwir, paské èl nora pèr. Mi mont avèk èl. »

Zot dé la mont dédan. Byin sir, le bi sété partir.

♪ Monté monté mon ti panyé, Ou sava la kaz momon, Monté monté mon ti panyé... ♪

O fir é a mézur i sava, i sava. A in moman doné, le Diab i di : « Hé, ou sa ou sava èk mon fanm ? Désann a ou ! »

Le panyé i kontinu, Ti Zan i sant, sant. Kan le Diab la vi sa, li la kour dann sa kaz, paské fir mézur li sant, lo panyé la finn filé èk lo van, la parti. Li la kouri parti prann sé bot de sèt lyé, é la li arkomans a kourir. Li kour, li kour, li kour...

La sèr i di : « Ti Zan, Ti Zan, ma la pèr li arvyin. Ti Zan, rogard, on diré la finn arivé. Ti Zan ! » Ti Zan i di : « Mé non, atann a ou. »

彼らは降りて行った。籠が下って行った。彼は義兄に言った：「ほら、兄さんも知ってる通り、籠の中では姉さんは僕ら男より少し敏感なんだ。籠の中にクッションを入れるよ。中に何か入れて座りやすくしたら楽だし。女ってこんなもんでしょ！」。

彼はクッションを二つ中に入れた。彼は《悪魔》が見ていないすきに籠の中に、卵と洗濯ブラシ、それはココヤシのブラシだったが、それと小石を滑り込ませた。彼はその全部を籠の中に滑り込ませた。それから姉が乗り込み、彼は歌った。彼は《悪魔》に言った：「あのね、僕は姉さんと一緒に乗って引いた方がいいと思う。彼女が怖がらないようにね。僕も彼女と一緒に乗るよ」。

二人は籠に入った。勿論、目的は逃げるためだ。

♪ 登れ、登れ、僕の小さな籠、お前はママの家に行く、登れ、登れ、僕の小さな籠... ♪

籠はどんどん登って登っていく。すると《悪魔》が言った：「おいおい、俺の女房を連れてどこに行くんだ？ 降りて来いよ！」。

籠は登り続けた。チジャンは歌い続けた。《悪魔》はそれを見ると家に走り帰った。彼が歌えば歌うほど籠は風と共に速く進んでいったからだった。《悪魔》は走り帰って、「七里のブーツ<sup>それを履くと一歩で七里歩ける魔法のブーツ</sup>」を履いてまた走り出した。彼は走って、走って、走って...

姉が言った：「チジャン、チジャン、私怖い、彼が来るわ。チジャン、見て。もうすぐ来ちゃうわ。チジャン！」。チジャンが言った：「いいや、待ってて」。

É li la zété la bros koko. La bros koko dann fon la fé inn foré, inn foré, in foré ! Lo Diab la rant la d'dan, a kou d'ké... Vap vap vap vap..., a kou d'ké ! An atandan, Ti Zan la finn ariv lwin. Zot i ariv lwin laba, zot i ariv apré la foré. Le Diab larivé ! La sèr i tranm. Ti Zan i di : « Atann a ou. »

E li zèt le zèf. E le zèf byin sir, i transform an rivyèr. Kan le Diab la vi sa, li té an kolèr. Son ké i bat dovan, déryèr. Li la rant dann lo la. Li bwar a drwat, li zèt a gos, li bwar a drwat, li zèt a gos. É li la bwar, li la zété, é li la bwar li la zété, é li la bwar li la zété, ziska se ke lé byin sèk. E li la pi travèrsé. Mé kan li la travèrs sa, li la kouri, li la kouri.

Ti Zan finn ariv lwin. In moman doné : « Ti Zan, Ti Zan, mi di a ou, lo Diab finn arivé. Ma la pèr, ma la pèr, Ti Zan... » É li tranm. « La sèr, fé in pé konfians. » E la li zété le galé.

Kan li la zèt le galé, sa la fé inn montany. La monté, monté, monté vèr le syèl. Se ki fé ke bana a i le tan de partir é arivé sé le momon. Le Diab pandan se tan la, li la kas sa a kou d'ké, a kou d'pat, a kou d'tèt. Li la démonté lo montany.

Wwala donk nout' Ti Zan èk la sèr i ariv sé zot momon. Lo momon i di a zot :

« Kosa zot i fé la ?

彼はココヤシのブラシを投げた。ココヤシのブラシは地面に落ちると、森に、何と森になった！ 《悪魔》はその中に入り、尻尾を… ヴアッパ、ヴァッパ、ヴァッパ、ヴァッパと、尻尾の一撃を食らわした。その間にチジャンは引き離れた。彼らはそこから遠く、森から離れた場所に着いた。《悪魔》がやって来た！ 姉は震えた。チジャンが言った：「ちょっと待って」。

そして彼は卵を投げた。すると卵は勿論、川になった。《悪魔》はそれを見ると怒り狂った。彼は前や後ろを尻尾で打った。彼は水の中に入った。彼は右で水を飲んで左に吐き出し、右で水を飲んで左に吐き出した。彼は飲んで吐き出し、飲んで吐き出し、飲んで吐き出し、とうとう川は乾上がってしまった。そして彼は川を渡った。彼は川を渡ってから走って走った。

チジャンは遠くに行っていた。すると：「チジャン、チジャン、言ったでしょ、《悪魔》がやって来るわ。私怖い、怖い、チジャン…」。そして彼女は震えた。「姉さん、少しは信じてくれよ」。そして彼は石を投げた。

彼が石を投げると、それは山になった。山はどんどん高く高く高くなって空まで届いた。それで彼らには逃げてママの家に着く時間が出来た。その間、《悪魔》の方は尻尾や脚や頭の一撃で山を破壊した。彼は山を粉々にした。

ということで、チジャンと姉は彼らのママの家に着いた。ママが彼らに言った：

「あんたたち一体どうしたの？

- Momon, mi di a ou toutswit, vwala kosa la éspasé. Out fiy té vé maryé èk in boug ké na la fès an or. E bin, lo boug èk la fès an or, sé lo Diab. E la, nou la sové. Nou la sové, mé li lé déryè. La di li vyin, nou la gyni fé la mazi. La montany la anpès a li pasé, mé nou koné pa pandan konbyin tan. I fo ou kasyèt a nou. »

Momon i di : « Mwin ma aranz a li. Fil a zot dann la kaz laba. Kan lo Diab va arivé, ma okipé. »

E pi lo Diab i ariv ésouflé èk sé bot. Lété danzin éta, mi rakont pa zot !  
Transpirasyon, lé zié té sort' :

« Euh, bèlmèr, bèlmèr, bonzour. Ou la pa vi mon fanm ?

- Out fanm ? Ou vyin maryé, in boug i koné pa ou sa son fanm i lé ?

- Bin si, la ni isi ?

- Bin non, pétèt zot lé ankò an somin. Ropoz a ou inn ti pé. Mi donn a ou in kafé. Hin, alé dann ti boukan laba, repoz in pé le tan ké marmay i ariv. »

Li la rantré dann son boukan. La bèlmèr la aminn in ti kafé pou lu. Li té tèlman fatigé, li la andormi. Bèlmèr fermé lo port a klé, mèl lésans partou otour, brilé lo kaz. Lo Diab mor ! Mé in diab i mor pa konmsa malérèzman. Li rené de sé sann. E wi.

ー ママ、何があったか今から話すよ。あなたの娘が金の尻を持った男との結婚を望んでいたでしょう。ところが、その金の尻を持った男というのは《悪魔》なんだ。だから僕らは逃げて来た。僕らは逃げてきたけどあいつが追いかけてきている。あいつが来た時に僕らは魔法を使ったんだ。山があいつが通るのを邪魔しているけど、どれだけ持つかわからない。ママが僕らをかくまってくれないと」。

ママは言った：「私があいつを何とかするわ。家まで急ぎなさい。《悪魔》が来たら私が相手をするわ」。

そして悪魔がブーツを履いて息も絶え絶えでやって来た。何とも言えないひどい様子！ 汗まみれで目の玉が飛び出ているほど：

「うう、お母さん、お母さん、こんにちは。私の妻を見かけませんでしたか？

ー あんたの奥さん？ 結婚したばかりなのにお嫁さんの居場所を知らないですって？

ー ああ、いえいえ、彼女はここにいるでしょう？

ー ああ、いないわよ。まだ道の途中ででしょう。ひと休みしなさい。コーヒーを淹れましょう。そうね、その離れに行きなさい。少し休んでいる間に子供たちは来ますよ」。

彼は離れに入った。義母は彼にコーヒーを持ってきた。彼はとても疲れていて眠り込んだ。義母はドアの鍵をかけてからガソリンを辺りに撒いて、離れを燃やした。《悪魔》は死んだ！ ところが厄介なことに悪魔はこんな風には死にはしない。灰から甦るのだから。本当に。



Le Ti Zan èk sa sèr zot i viv trankil zot dé la. Na in zour, na in pié sitrouy i pous a lanplasman ou sa le Diab la été brilé. Le papa èk lo momon la rogard sa, i di : « Marmay, zot i vwa sa, tous pa sa, sitrouy la, manz pa li ! »

In zour, lo papa lété pa la, lété parti bitasyon, lo momon, dawar lé parti an vil, bana i di : « Té nou la fin la. Gard sitrouy-la koman lé zoli, zoli sitrouy kap. Alon manzé. »

Zot sé prann lo sitrouy, koupé. La fé in konfitir, la mèt la vaniy la d'dan, byin aranzé. Marmay la byin manzé. Mé kan zot la byin manzé, mi rakont pa ou... bana la giny in mal o vant, in mal o vant, in mal o vant. Lo momon kan larivé, i ogard :

- Zot dé lé malad ? Zot la manz sitrouy !

- Wi momon.

- Bin la, mi koné pa kosa mi fé pou zot. »

Paské fir à mézir i giy mal o vant, i asiz, i fé kaka. Kan zot i komans fé kaka, dann vant i di : « Kaka pa la, kaka la ba ! Kaka pa la, kaka la ba ! »

Zot i ariv lot koté, i asiz. I fé mal. Dé ki fors in pé : « Hin, hin, Kaka pa la, kaka la ba ! Kaka pa la, kaka la ba ! » Mon Dié Sényèr, lé dé marmay... !

チジャンと姉はふたりとも何ごともなく暮らした。ある日、《悪魔》が焼かれた場所にカボチャの木が生えた。パパとママがそれを見て言った：「子供たち、みんなこれを見なさい。そのカボチャは触ってはだめだし、そのカボチャは食べるのもだめ！」。

ある日、パパはおらず、と呼ばれに行っており、ママは多分町に出かけていたので子供たちが言った：「お腹空いたよね。このカボチャ見て、とてもきれいだ。カップ<sup>「カボチャの種類で「カ」</sup>【<sup>ップ」は「罍」の意</sup>】のきれいなカボチャ。食べちゃおうよ」。

彼らはカボチャを採って、切った。彼らはジャムを作り、ヴァニラを入れて上手に出来た。子供たちはたくさん食べた。ところが彼らがたくさん食べてから、ちょっと言いにくいけれど... 二人ともお腹が痛くて痛くて痛くなった。ママがやって来てそれを見た：

- あんたたち具合が悪いの？ カボチャを食べたのね！
- うん、ママ。
- まったくもう、お前たちをどうしたらいいか分からないわ」。

お腹の痛みがますますひどくなったので彼らは座り込んでうんちをした。彼らがうんちをし始めると、お腹の中で声がした：「そこで糞するな、あっちで糞しろ！　そこで糞するな、あっちで糞しろ！」。

彼らは別の場所にいて座り込んだ。お腹が痛かった。今度は少し強めだった：「おいおい、そこで糞するな、あっちで糞しろ！　そこで糞するな、あっちで糞しろ！」。ああ神様、二人の子供は一体...！

Mi koné anfin koman la tèrminé. Mé touzour étil ke lo momon larivé  
la di : « La, ma la parti vwar le kiré. In sèl zafèr pou zot, zot i bwar in pé  
lo bènité. »

La bwar lo bènité. Le mirak la di avwar lié pwiské zot la pi i mal o vant.  
E lo Diab, si zamé nana, sé pa lé myinn paské lé myinn lé byin mor. Dé  
fé la brilé !

どういふことになつたのか私は知つてゐる。最後はいつもながらママの出番で、彼女がやつて来て言つた：「いいこと、神父さんに会いに行つてきたわ。かういふ時お前たちには、聖水を少し飲むんだと」。

彼らは聖水を飲んだ。奇跡が起つた、と言ふのも、腹痛が治つたのだ。もし《悪魔》がいるとしても、それは私のお話の《悪魔》じゃない。だって死んでしまつてゐるからね。二回も焼かれてゐるし！

### 3. Sililine

Jean-Bernard IFANOHIZA

Dé fwa la gourmandiz i di a ou lo zié lé pli gro k'lé vant. Kan momon i koz ansanm ou, la pa la pèn ou sa war papa. Avan so zistwar, lès a mwin di zot tout.

Kriké !

Kraké !

Si zistwar lé mantèr, la pa mwin lotèr, alé domann gramoun.

Danantan mo granmèr té i mèr ankor sapo, té sar saroy dolo. Kan té ariv lo swar, kan bak lété plin, té rakont a nou zistwar désou pié zamblon.

Kriké !

Kraké !

Granmèr la di in zour : « Marmay, sèk lé pli vié i donn bon consèy. A zot lé zèn, zot lé parèy ti plant, i aroz mé i fo vèyé si i pous drwat. »

Kriké !

Kraké !

Lavé in momon, lavé inn ti fiy. In zoli ti fiy, mé té zoli, té zoli. Lé dé té abit dann ti kaz an tol. Mi di byin, lé pa in gran kaz, inn ti kaz.

### 3. シリリス

ジャン＝ベルナール・イファノイザ

食い意地については、目は腹よりも大きいとよく言われる[目で見て沢山食べられると思って]【実際に腹には入らないという意味】。ママが文句を言ってもパパを呼びに行くには及ばない[両親は大抵は同じ意]【見であるという意味】。この話を始める前にみんなに言っておきたい。

クリケ！

クラケ！

もし物語が嘘っぱちでも私のせいじゃない。昔の人にわけを聞いてくれ。

その昔、祖母はまだ帽子を被って水を運んでいた。夜になって水桶が一杯になるとフトモモ【インド原産の常緑樹 Syzygium cumini】の樹の下で私たちに物語を語ってくれたものだ。

クリケ！

クラケ！

ある日祖母はこう言った：「いいかい、一番の年寄りが真つ当な忠告をしてくれる。お前たち若者は小さな苗のようなものだ。水をやって、まっすぐ育つように世話をしてやらなければならない」。

クリケ！

クラケ！

昔々、ママがいて小さな娘がいた。可愛い娘で、本当に本当に可愛かった。二人はトタン造りの小さな家に住んでいた。言っておくが大きな家じゃなくて小さな家だ。

E le ti fiy lété tèlman zoli, é pi son ti non. Ah, aïe aïe aïe, son ti non ! Sa lavé inn ti non, té apèl Sililine. E Sililine, momon, momon, momon... Hé ! Tou lé matin, Sililine té i lèw, té i pas balyé dovan la port, balyé nik koko.

Kriké !

Kraké !

I pas, i nétoy. Mé Sililine, li lé konm bann tout ti marmay, èl i ème zwé, li ème osi... Avan mi kontinié, Médam, Mésié, Mésié, Médam, li té i ème manz in frwi. Zot i vé konèt kosa i lé lo frwi ? Bin, mang. Pa mang vèr, mang mir. Pa mang mir, mang vèr. Pa mang... Mé Sililine i manz lé dé Médam zé Mésié.

Kriké !

Kraké !

A la sèt li té i ème. In gran matin, piské zot i ékout a mwin, piské zot i ogard a mwin, in gran matin, li té antrinn pas balyé dann la kour, bin li lèw son tèt. Paské dé lot koté la ravinn laba, lavé inn pié mang. In zoli pié mang mi di a ou, sarzé. Hin, ma mont a zot la grosèr lo mang. Lé pa bann mang i vand zordi si lé marsé koméla. Alala mang ! Mang té bèl konmsa. Mé so pié mang-la la, lété pa ninport kisa té sa kas mang laba.

娘はとても可愛くて、それに名前も。ああ、いやはや彼女の名前！ それは可愛い名前でシリリヌだった。そしてシリリヌ、ママ、ママ、ママ... ほら！ 毎朝シリリヌは起きると、戸口の前を箒で掃除した。ココヤシの葉で作った箒で。

クリケ！

クラケ！

彼女は箒で掃いてきれいにした。しかしシリリヌは他のすべての子供と同じで遊ぶのが好きで、それに... さて話を続ける前に、淑女紳士、紳士淑女のみなさん、彼女はある果物を食べるのが好きだった。みんなはそれが何の果物か知りたい？ そう、マンゴ。青いマンゴじゃなくて熟れたマンゴ。熟れたマンゴじゃなくて青いマンゴ。どっちかのマンゴでなくて... とにかくシリリヌはどっちも食べたんだ、淑女並びに紳士諸君。

クリケ！

クラケ！

彼女はそれが好きだった。ある朝早く、というのもみんな私の話を聴いているし、こっちを見ているから続けるが、ある朝早く彼女は庭を掃いているところで、ふと顔を上げた。何故ならそちらの方には谷があり、そこにマンゴの樹があったからだ。たわわに実が生った立派なマンゴの樹だ。そう、みんなに大きなマンゴを見せてあげよう。市場で今どき売ってるようなマンゴなんてもんじゃない。おいおい、マンゴだ！ これぐらい大きなマンゴだ。ところがそのマンゴの樹だけど、誰でもマンゴを採っていい訳じゃない。



A ou marmay, alé pa kas mang laba. Bin lo momon Sililine, té i di :  
« Sililine, la pa bészwin ou rogar pié mang-la. Ou wa pié mang laba, i fo  
pa ou sa kas mang dési. Ou la konpri a mwin ? » Mé Sililine i pas balyé,  
li lèv la tèt, li rogard son momon, li di : « Non, momon ».

In zour, lo momon i di : « Sililine, ma la giny in travay. Mi sava travay  
po lav linz Mésié Zosèf. Mé a ou ma fiy, ou rèss la. Ou mètt do ri o fé, ou  
mètt kari boukané-la o fé. Kan momon i arvyin, i fo mi trouv a ou a  
tèr-la dann la kwizinn. » Mé Sililine i lèv sa tèt, i rogard son momon, i  
di : « Wi, momon ».

Alor lo momon i pran son ti balo, son morso savon, son bros, i sava.  
Zot i krwa pa mwin, mé Sililine la i rogard son momon alé, wa, an mèm  
tan li fé lo zès, li donn kou d'pié pou fé avans son momon pli vit. E kan  
son momon la kas tournan, Sililine par déryèr, ah bin la, Sililine i sot  
anlèr, lé kontan, i kri : « Wé, la fèt larivé, li sa ginyé ! » Sé rantré dan la  
kwizinn. Hin, po di a zot, la kwizinn lété séparé dé la kaz.

Kriké !

Kraké !

Li rant dann la kwizinn, li trap pilon, kalou, désèl, piman. Li pil, li kraz,  
li fé sa vitman. Li trap inn ti bol, li trap inn ti kouto, é la Sililine avèk  
tousa, li désann la ravinn. Li koné lé intèrdi. Mé li désann la ravinn, li  
kour, li sar travèss laba. Li ariv laba dosou pié mang-la.

おい、子供たち、その樹のマンゴは採りに行っちゃだめだ。勿論、シリリヌのママは言った：「シリリヌ、あのマンゴの樹を見なくてもいいよ。あそこのマンゴの樹だけど、上のマンゴは採ってはだめ。わかったかい？」。掃除をしていたシリリヌは顔を上げてママを見て言った：「採らないわよ、ママ」。

ある日ママが言った：「シリリヌ、私は仕事に行くからね。ジョゼフさんの洗濯物を洗いにね。あんたは留守番をして。お米を炊いてブカネ<sup>桶製のべ</sup><sub>コン</sub>のカレーを作っておいて。ママが戻ったら台所にちゃんといたくなくてはだめよ」。シリリヌは頭を上げてママを見て言った：「わかったわ、ママ」。

ママは小さな袋と石鹼、ブラシを持って出て行った。みんなは信じないと思うが、シリリヌはママが行くのを見ると同時にある仕草をした。ママがもっと早く進めるようにと空の足蹴りを食らわしたんだ。そして曲がり角でママの姿が見えなくなるとシリリヌは後ろに回り、おやおや、嬉しくて小躍りして叫んだ：「わーい、パーティーだ、やった！」。彼女は台所に入った。そう、言うておくが、台所は母屋から離れているんだ。

クリケ！

クラケ！

彼女は台所に入って、すり鉢とすりこ木、塩、唐辛子を取り出した。彼女は手早くそれらを砕いて擦った。彼女は小さなボウルと小さなナイフを取り、シリリヌはそれら全部を持って谷に降りて行った。彼女は禁じられているのは分かっていた。それでも彼女は谷に降りて走り、そこを抜けた。彼女はそのマンゴの樹の下に着いた。

Sililine i mont anlèr lo pié mang. Mé dann son koko d'tèt, li koné pié mang kisa i lé. Li swazi in brans lé byin kosto i support son pwa. Li asiz, li instal a li byin si brans-la. La, li kas gro mang-la. Mang lé gro konmsa, zoli mang. Tous, vyin tousé ! Tous lo mang ! Ah mang !

Li plis sa, li trans, é la li tramp dann désèl, piman. Oté, li manz, li manz, li koup, li manz. Mé piman-la lé for sa. I pwak la bous ! Mé Sililine i las pa. Lé tèlman bon, dolo si la bous, i bav, i dégourinn konmsa. I rouv la bouz koma. Ah... ah..., mé li manz mèm. E lèr i pas, lèr i pas.

Toudinkou, avan li kas lo dézièm mang, mi di byin, li antann in brans kraké. Li antan i fé : « Hin, zordi mi vyin. On diré na in moun dési mon pié mang. » E la, Sililine i wa kisa i ariv. Granmèrkal ! Mi vwa zot tout la pèr la.

Kriké !

Kraké !

Pa bézwin zot la pèr, mwin léla pou èd a zot. Granmèrkal i ariv. Sa lé vièy ! Sa na o mwin sinzan zan, mi di a ou. Sa i mars lo do lé kourbé, sovè i trin a tèr. Son bann po-la lé tèlman vié, lé parèy bèrzinn griyé sou la brèz do fé. Ou ri ? Zot i ri Médam zé Mésié ?

Kriké !

Kraké !

シリリヌはマンゴの樹の上に登った。しかし彼女は頭の中では、そのマンゴの樹が誰のものであるかを知っていた。彼女は自分の体重を支えられそうな枝を選んだ。彼女はその枝に座って身を落ち着けた。そして大きなマンゴを採った。マンゴはこれぐらい大きかった。立派なマンゴだ。みんな触りに来いよ。みんな、マンゴだ！ ああマンゴ！

彼女はその皮をむき、切って薄切りにしてから塩と唐辛子に漬けた。さあ、彼女は食べて食べて、切って食べた。唐辛子は辛かった。口が焼けそう！ しかしシリリヌはやめなかった。とっても美味しくて、口中に唾が湧き、よだれが流れ、こんな風にぐちゃぐちゃだった。彼女は口を大きく開けた。ああ... ああ... それでも彼女は食べ続けた。時間はどんどん過ぎていった。

突然、彼女が二つ目のマンゴを採る前に、いいかい、彼女は枝が折れる音を聞いた。彼女は声を聞いた：「おや、今日やって来たら、私のマンゴの樹の上に誰がいるようだね」。さてそこで、シリリヌは誰が来たのかを見た。《カル婆》だ！ みんな怖がってるね。

クリケ！

クラケ！

みんな怖がることはない、私が助けてあげるから。《カル婆》がやって来た。彼女は年寄りだ！ 少なく見積もっても百歳だよ。彼女は背を曲げて、髪を地面に垂らして歩いて来た。皮膚はあちこちに皺がよっていて、炭火で焼いたナスだった。笑えるだろ？ 紳士淑女諸君、笑うかい？

クリケ！

クラケ！

Parèy brinzèl mi di a ou, griyé. Mé li mars, li lèw la tèt, é kisa li wa anlèr dési brans mang-la. Sililine ! Granmèkal lé an kolèr, mé an mèm tan, Granmèkal lé kontan paské néna lontan li vé souk Sililine. La i di : « Ah hin..., ou la pa ékout out momon. Désann toutswit ! »

Mé Sililine la pèr, i di :

« Granmèkal mi désann pa. Paské apré ou sa souk a mwin, ou sa manz a mwin.

- Byin sir. Ta la pa ékout ton momon ? Ou va pèy a mwin zordi. Désann ! »

Sililine i vé pa désann. Ou koné, Granmèkal-la sa lé vièy, mé li té kapab mars vitman, li té kapab kour déryè ou. Bin alor li lavé son baton, li té kapab lans son baton. Sé ké Granmèkal la fé. La trap son baton, la anvoy anlèr pou fé désann Sililine. Mé Sililine anlèr-la pié mang, la éskiv lo baton. Kan la éskiv lo baton, la pèrd lékilib, é kan la pèrd lékilib, Sililine la tonm dann fon, la pa tonm laba, ni laba, la tonm zis dovan lo pié Granmèkal.

Granmèkal san pèrd la kart, la trap sovè Sililine-la. Ou koné son zoli ti sovè, sa té zoli son ti sovè-la, son zoli ti sovè koulèr zépi mayi, hin, sa lé doré, la trap sa, la sézi, la tourné, la, la trap son gran sak, son goni.

Ah, ma la pèr, mi tramb déza mi rakont a zot sa, mi tramb. Ma la pèr !

ナスのようだという訳さ、それも焼いたやつだ。彼女は歩いて来て顔を上げ、誰がマンゴの枝の上にいるのかを見た。シリリヌだ！ 《カル婆》は怒っていたが、同時に《カル婆》は喜んでくれた。というのも、彼女は長い間シリリヌを捕まえようとしていたからだ。彼女は言った：「ははあー、お前はママの言うことを聞かなかった訳だ。すぐ降りてきな」。

シリリヌは怖かったが言った：

「《カル婆》さん、私降りない。だって私を捕まえたらその後で食べちゃうでしょう。

ー 勿論さ。お前はママの言うことを聞かなかっただろう？ 今日私にその償いをするのだよ。降りてきな」。

シリリヌは降りようとしなかった。ご存じの通りこの《カル婆》は年寄りではあるけど速く歩くことができて、みんなを追いかけることすらできる。彼女はその時杖を持っていたので、その杖を投げることができた。《カル婆》がやったのはそれだった。彼女は杖を掴んで上に投げ、シリリヌを落とそうとした。しかし、マンゴの樹の上でシリリヌは杖をかわした。彼女は杖をかわした時にバランスを失い、バランスを失った時、シリリヌは地面に落ちたのだが、こともあろうに《カル婆》のちょうど足元に落ちてしまった。

《カル婆》はあっと言う間にシリリヌの髪を掴んだ。みんな知っている彼女の美しい髪、その美しい髪、黄金色に輝くトウモロコシの穂の色をした美しい髪を掴んで彼女を引き回し、大きな袋のゴニ〔黄麻で編んだ袋〕を取った。

ああ、怖くて震えてくるよ、みんなに話していると震えてくる。怖いよ！

La trap son sak, la mèt Sililine dédan, la anfonsé, la anfonsé, Médam  
Mésié, la anfonsé, la pous koudpié, la di : « Ma la trap a twé zordi ! »  
La fèrm son goni, son sac. I pran somin po alé son kaz. Granmèrkal lé  
kontan. Ha ha ! Dann son somin li sant :

♪ A swar mi sava manzé, A swar mi sava manzé ♪

Sililine i bouz. Granmèrkal i di : « Arèt bouzé, don ! »

♪ A swar mi sava manzé, A swar mi sava manzé... ♪

La ariv son kaz. Son kaz lété vié konm Granmèrkal. La kaz té gri konm  
son sové. La rant dan la kaz, la dépoz Sililine dann kwin. Apré la parti  
trap son gro marmit, in marmit ! Marmit Granmèrkal lé bèl konmsa,  
néna trwa pat. Hin Hin ! E kan i mèt do bwa désou, i flanm. La mèt sa,  
la préparé. La mèt dolo d'dan, la alim do fé. Sililine i bouz dann goni, i  
bouz. Sililine i kri. « Fèrm ton bous ! »

Dolo i bouiy dann marmit-la. Médam zé Mésié, fo pa i kwi a li. I fo pa i  
kwi a li, té ! Fé pitié, wi ! Mé Granmèrkal lé pa la avèk sa. Mé li sar  
rogard dann son tant. Toultan i mèt zépis la d'dan. Granmèrkal i gard in  
kou dan son tant, lo tant la pwin zépis, lé vid.

Mé Granmèrkal i réflési. Sa i réflési byin sa. Kan i ariv po manzé la. Li  
valé vwar son kamarad. Son kamarad lé pa ninport kisa. Grandiab.

彼女は袋を取ってその中にシリリヌを入れて、押し込んで押し込んで、紳士淑女の諸君、足で押し込んで言った：「やっとお前を捕まえた」。彼女はゴニ、つまり袋の口をしばった。彼女は家路についた。《カル婆》は喜んだ。は、は！ 彼女は歩きながら歌った：

♪ 今夜はごちそうだ、今夜はごちそうだ ♪

シリリヌが身動きした。《カル婆》は言った：「動くんじゃないって！」。

♪ 今夜はごちそうだ、今夜はごちそうだ... ♪

彼女は家に着いた。彼女の家は《カル婆》みたいに古かった。家は彼女の髪のように灰色だった。彼女は家に入ってシリリヌを隅に置いた。それから大きな鍋を取りに行った、鍋だ！ 《カル婆》の鍋はこんなにでかくて脚が三つ付いている。そうそう！ 薪をその下に置いて火にかけらんだ。彼女は鍋を置いて準備をした。彼女は水の中に入れて火を点けた。シリリヌはゴニの中で動き回った。シリリヌはわめいた。「黙りな！」。

鍋の中の水が沸いた。紳士淑女の諸君、彼女を煮るなんてだめだ。彼女を煮てはいけない！ むごすぎる、そうだ！ でもそんなことは《カル婆》には何でもない。彼女はタント<sup>〔タコノキ科の巨木ヴァコア  
Pandanus utilis の葉で編んだ籠〕</sup>の中を見に行ったら、彼女はいつもその中にスパイスを置いていた。《カル婆》はタントの中を覗いたが、タントにはスパイスはなかった。すっからかんだった。

そこで《カル婆》は考えた。彼女はそれについてしっかり考えた。食べることについてはね。彼女には、仲間のところに行くのがいいと思えた。彼女の仲間というのは誰だろう、《大悪魔》だ。



Grandiab té abit lwin, lwin, lwin. Granmèkal i di li arvyin. Li fèrm son port, mé dann somin, li sa rozwind son kamarad, li sant :

♪ A swar mi sava manzé, A swar mi sava manzé... ♪

Li ariv laba, la kaz Grandiab. La kaz Grandiab, lété in grot. Grandiab té i dor dann in trou galé. Lété si in ros lété plat, té i dor konmsa, lo vant té bèl konmsa. Lo do lé kourbé, i mars konmsa, Granmèkal i kri :

« Grandiab, Grandiab ! »

Vyin pa déranz a li dann son somèy. Mèm si ou lé zoli, vyin pa !

« Grandiab, Grandiab ! »

Grandiab la révéyé an kolèr, i di :

« Kosa la déranz a mwin la ? Kisa i lé la ?

- A mwin, Granmèkal.

- Granmèkal ! »

Grandiab i lèv :

« Kosa ou vé ?

- Bin, lès a mwin rantré. Na diskité. »

La lé dé i rant. Granmèkal i rakont a li tout zistwar koman li la atrap Sililine. Grandiab lé malin, i réflési osi son tour, li di :

« Ou la ni poukwé ?

- Bin, mwin la bézwin zépis pou mèt dann marmit po manz Sililine, ou konpran ?

- Hum. Si mi donn a ou zépis-la, fo partaz ti fiy la ansanm mwin. »

《大悪魔》は遠く遠く遠いところに住んでいた。《カル婆》は戻って来ると言った。彼女はドアを閉めて出発し、仲間のところに向かい、歌った：

♪ 今夜はごちそうだ、今夜はごちそうだ ♪

彼女は着いた、《大悪魔》の家に。《大悪魔》の家は洞窟だった。《大悪魔》は岩穴の中で寝ていた。それは平たい石の上で、彼は太鼓腹をこんな感じに出して寝ていた。《カル婆》は背中を丸めてこんな風に歩いて呼んだ：「《大悪魔》、《大悪魔》！」。

ところが、彼が寝ている時に邪魔をしてはいけない。たとえ君が美人であってもだめだ！「《大悪魔》、《大悪魔》！」。

《大悪魔》は怒りながら目を覚まして言った：

「どうして俺の邪魔をする？ そこにいるのは誰だ？

ー 私だよ、《カル婆》だ。

ー 《カル婆》！」。

大悪魔は起き上がった：

「何の用だ？

ー あの子、入らせてもらおうよ。話がある」。

彼女は家に入った。《カル婆》は彼に、どうやってシリリヌを捕まえたかその一部始終を話した。《大悪魔》は抜け目がないので彼も考えてから言った：

「それで、何なんだ？

ー いやさ、シリリヌを食べるのに鍋に入れるスパイスが入り用なんだ、わかるだろ？

ー ふむ、じゃあスパイスをやるから娘っ子は俺と山分けた」。

Mé lé dé lété dakor. Mi espèr zot lé pa dakor, zot tout lé la i rogard a mwin la. Mèm si zot lé dakor, pou ké listwar i avans. An mèm tan, lèr i pas. Granmèkal kélèr i lé ? Kélèr i di ? Granmèkal kélèr i lé ?

Lété midi ! Kisa i rant ? Lo momon dé Sililine. Lo momon i sort travay, i rant. Li ariv, li kri : « Sililine vyin donn momon in koudmin. Sililine vyin donn momon in koudmin ».

La pwin Sililine. Lo momon i dépoz son panyé a tèr, i kour partou. La pwin d'Sililine : « Mon dié Mari Zosèf ! » Lo momon la konpri toutswit : « Sililine la parti kas mang. Mang i apartiyn kisa ? Granmèkal ! »

Alor lo momon vit la atrap pétrol, la atrap do fé. Kosa ou vé li fé, son zanfan lé laba, somanké la finn mor. Fo fé vit, fo fé vit. Vit, vit, vit, la pwin lo tan la. Kouri, lo momon i kour, i kour avan ousa..., laba pié mang.

I sa rogardé pié mang. Fèy lé kasé tousa-la. Santié..., momon la kouri. Mé kan i ariv la kaz Granmèkal, kosa li vwa. La fimé i dépas par la kaz. Lo momon i avans dousman, i avans dousman. Lavé lo trou. Sa lavé lo trou.

Lo momon i louk par in trou. La louké, li vwa gro marmit, é li vwa lo goni i bouz. Li antann Sililine i kri. Gard partou, na pwin pèson.

二人はそれで手を打った。みんなはそれに反対だと思いたい。みんなそこで私をじっと見ているからね。勿論、話を先に進めるために賛成だって構わない。それに時間も過ぎていつてる。《カル婆》、今何時だ？ 何時だい？ 《カル婆》、何時だい？

正午になっていた！ 誰が戻って来た？ シリリヌのママだ。ママが仕事から戻って来た。彼女は着いて呼んだ：「シリリヌ，ママを手伝いに来ておくれ。シリリヌ，ママを手伝いに来ておくれ」。

シリリヌはいなかった。ママは籠を地面に置いてあちらこちら走った。シリリヌはいなかった：『神様，マリア様，ヨゼフ様！』。ママはすぐに分かった：『シリリヌはマンゴを採りに行ったんだ。誰のマンゴを？ 《カル婆》！』。

ママは急いで石油を取り，マッチを持った。みんなだててそうするだろう，子供があそこにいるからだ，ひょっとしたらもう死んでいる。早くしないと，早くしないと。早く，早く，早く，時間がない。走った，ママは走りに走った，どこまでかと言うと... マンゴの樹まで。

彼女はマンゴの樹を見た。葉っぱが落ちて辺りに散らばっている。小道... ママはそこを走った。彼女が《カル婆》の家に着いた時に何を見たか。家からもれている煙だ。ママはゆっくりゆっくりと進んだ。破れ穴があった。穴がひとつ開いていた。

ママはその穴から覗きこんだ。彼女が覗くと大鍋が見え，ゴニが動いているのが見えた。彼女にシリリヌが叫んでいるのが聞こえた。彼女が辺りを見ると誰もいなかった。

La défons la port, la rantré. E kan la rantré, la rouv lo goni toutswit. E  
la, Sililine, lété ankor vivan ! Sililine té ankor vivan ! La sov son fiy, mésié  
médam la sosyété !

Kriké !

Kraké !

Mé atansyon ! Lo momon té sa kapot a li : « Ti ékout pa ! Ton tèt lé  
dir ! » La bès la tèt dovan son momon. Sèlman, na in problèm, lo goni  
lé vid. Marmit dolo i bouiy. La di : « Fo rampli goni-la ». Mé déor, lavé in  
pié banann, rèzman pié banann-la té la. La sorti, bin wi. Lo momon la  
koup lo tron, la romèt dann lo goni, la fermé.

Kan zot la sot déor, lo momon èk Sililine la sort déor pou prann santié  
pou rant zot kaz. Tro tar, laba i ariv, Grandiab avèk Granmèrkal. Bana la  
parti kasyèt déryèr gro galé. Mé Grandiab, Granmèrkal i ariv, lé dé i  
sant :

♪ A swar nou sava manzé, A swar nou sava manzé,

A swar nou sava manzé, A swar nou sava manzé,

A swar nou sava manzé, A swar nou sava manzé... ♪

Bana lé kontan wayo, ha ! Momon ek Sililine i wa bana. Bana i pas,  
frison lé dési zot : « Hum, bouz pa, fé pa désord, lès pasé, lès pasé ».

彼女はドアを突き破って中に入った。中に入ると彼女はすぐにゴニを開けた。するとシリリヌはまだ生きていた！シリリヌはまだ生きていた！ 彼女は娘を助けた、紳士淑女の諸君！

クリケ！

クラケ！

ところがである！ ママは平手打ちを食らわせて言った：「お前はいうことを聞かなかったのね！ お前は何て頑固なの！」。彼女はママの前で頭を縮こませた。しかしながらまだ問題があった。ゴニが空っぽだ。鍋の水は煮えたぎっている。彼女は言った：「そのゴニに何か詰めないと」。

家の外にバナナの樹が一本あった、幸いにもこのバナナの樹がある。彼女は外に出た、勿論。ママは幹を切ってそれをゴニの中に入れて口を閉じた。

彼らは外に出て、ママとシリリヌは外に出て家路についた。遅すぎた、そこに《カル婆》と《大悪魔》がやって来た。彼らは大きな石の後ろに隠れた。《大悪魔》と《カル婆》はやって来て、二人で歌っていた：

♪ 今夜はごちそうだ、今夜はごちそうだ

今夜はごちそうだ、今夜はごちそうだ

今夜はごちそうだ、今夜はごちそうだ... ♪

二人とも喜んでいたよ、はっ！ ママとシリリヌは二人を見た。二人が通り過ぎ、震えが彼女らを襲った：「いいかい、動くんじゃないよ、取り乱すんじゃないよ。やり過ぎすんだ、やり過ぎすんだ」。

Granmèrkal lé kontan i frot dann son main, i di : « Grandiab, rant, ma mont a ou ousa ma la mèt Sililine. » Lé dé i rant dann la kaz. Ah, ah, Granmèrkal i mont Grandiab ousa i lé lo goni. Hum, marmit lé la ! Mé, Granmèrkal i di : « Mé ou koné, avan nou manz a li la, alon dans inn ti kou nout dé ou. Alon, fèt sa. »

Alor, lé dé i dans inn ti morso po fèt sa Grandiab avèk Granmèrkal.

♪ La rozé tombé, La rozé tombé wayo, La rozé tombé waya, Tonm dési mon tèt. La kaz momon la, ma la manz kari volay, La kaz sinwa la, ma la manz le rin sounouk ♪

Bana lé antrinn dansé.

Kriké !

Kraké !

Lo momon la ariv dousman, la vèrs pétrol otour la kaz Granmèrkal. Toutswit la alim do fé. Do fé i pran vit. La kaz i pran do fé, flam do fé lav'ni. Lé dé lé antrinn dansé.

Grandiab la vi, flam do fé par ti trou la fénèt-la, li di : « Granmèrkal arèt dansé, nou na do fé. » Granmèrkal i vwa pa klèr. Granmèrkal i dans. Bin la fimé i antour a zot, lé flam tousa la gonflé, la antour a zot. Té i giny pi kourir, té i giny pi kouri, la brilé. La bril lé dé, la brilé, la brilé, la brilé... La brilé, té rès la sann, la sann, la sann, la sann. I pé pa dir lé mantèr, sé mwin ki koné listwar.

《カル婆》は喜んで揉み手をして言った：「《大悪魔》，入りな。どこにシリリヌをいれたか見せてやろう」。二人は家に入った。おやおや，《カル婆》は《大悪魔》にゴニがどこにあるか見せた。ふむ、鍋はそっちだ！　そこで《カル婆》は言った：「さて、あいつを食べる前に二人で少し踊ろうじゃないか。さぁお祝いだ」。

そこで二人はちょっとした曲で踊った。《カル婆》と《大悪魔》でお祝いをするために：

♪ 露が落ちた，露が落ちた，露が落ちた，頭の上に落ちた。ママの家で鳥のカレーを食った，中国人の家でバラクータの切り身を食った ♪

二人は踊っていた。

クリケ！

クラケ！

ママがそっとやって来て，《カル婆》の家の周りに石油を撒いた。彼女はすぐさま火を点けた。火はあっという間に広がった。家は火に包まれ、炎がなめた。二人は踊っている最中だった。

《大悪魔》が窓の穴から炎を見て言った：「《カル婆》，踊るのをやめろ。火事だ」。《カル婆》にははっきりと見えない。《カル婆》は踊っている。煙が二人の周りに充満し、炎は勢いを増して彼らを取り囲んだ。もう逃げられない、逃げることができず焼けてしまった。二人とも焼けて、焼けて、焼けて、焼けてしまった... 焼けて灰が残った、灰、灰、灰。嘘だろう、なんて言えないよ、この話を知っているのは私なんだからね。



Bana, lo momon avèk Sililine la lèvé, la rogardé, la byin rogardé. La di :  
« Sililine ma fiy, alon rant nout kaz toutswit. » Bana la ropran santié pou  
rant zot kaz. Mé, déryèr zot do, ousa Grandiab, Granmèkal lé brilé i  
rès la sann, zot i antan in kri. Zot i rotourn, é la kosa zot i vwa ousa  
Grandiab, Granmèkal lé brilé.

Zot i vwa in zafèr, in gran zafèr. Mi domann si a lèr mi rakont a ou sa, si  
mi dwa di dovan zot tout' kosa i lé. Sa sé vré, si mi di la vérité, mi pé  
disparèt toudinkou dovan zot. A mwin ké ou vé konèt la vérité ? Konm  
ma la antandi in paké d'wi...

Kan bana la tourn lo do, la byin vi kosa lété la. E sa zafèr lété la, lété  
grav. La pa bézwin alé lékol pou konèt sa. La pa bézwin èt vié pou konèt  
sa. Paské kan bana la tourn lo do, Médam Mésié la Sosyété, bana, mi  
di pa ou ninport kisa, mi lé antrinn parl a ou Sililine avèk son momon. E  
kan bana la vi kosa la ou Grandiab, Granmèkal brilé, lété grav, vréman  
grav ! La pa bézwin alé lékol pou inn zafèr parèy...

La sé ké mwin la vi, lété grav. Ziska ozordi mi port sa dann mon kèr,  
dann mon tèt. Mi rakont sa mon bann zanfan, mèm néna domoun i  
sort lwinn i vyin ékout le zistwar. E bin, sa sé konm lo piman toutalèr-la,  
la fin lé touzour for.

ママとシリリヌは立ち上がってその様子を見た。しっかりと見た。ママが言った：「シリリヌ、さあ家にすぐ帰りましょう」。彼女たちは家路についた。ところが、彼女たちの背後で、《大悪魔》と《カル婆》が焼けて灰しか残っていない場所で彼女たちは叫び声を聞いた。彼女たちは戻った。《大悪魔》と《カル婆》が焼けるのを見た家まで。

彼女たちはそこであるものを見た。とんでもないものを。今それをみんなに語るかどうか、みんなの前でそれが何だったのかをあらいざらい言うべきかどうか。そりゃそうだ。実を言うとみんなの前からすぐに消えることもできるんだ。みんな私から本当のことを知りたいかい？ 知りたいという声が多いようだから...

彼女たちが振り向いた時、それがあるのを見た。そいつはあるもの、やばいものだった。それを知るのに学校に行く必要はない。それを知るのに歳を取る必要もない。というのも、彼女たちが振り向いた時、紳士淑女の諸君、私はみんなに、他でもないシリリヌとそのママのことを今話しているのだけれど。彼女たちが、《大悪魔》と《カル婆》が焼けた場所で見えたものというのは、やばいもの、とんでもないものだった！ そういうものを知るのに学校に行く必要もないし...

そこで私が見たものはやばかった。私は今までずっと心の中、頭の中にそれをしまっている。私は子供たちにも物語るし、この話を聴きに遠くから来る人たちさえいる。そう、それはそこにある唐辛子のようなもので、結末はいつも辛いものなんだ。

Sété pa Grandiab... Mi vwa dé trwa i di Grandiab, Granmèkal. Non, non. La, kan bana la vi sa, la kouri, la kour vit, la rant zot kaz. E dépi so zour-la, la lanplasman la, Gran Brilé, mintnan i apèl a li Gran Brilé paské la sann la fé déga lao. Eh bin, in pié sitrouy ou vwa, sa i fléri sa normalman, in pié sitrouy lété antrinn d'pousé.

Dépi se zour-la, na in gramoun, li té i koup kann, souvan li té i mont somin volkan. Mé dési son somin, in zour li vwa in sitrouy, la zis si landrwa la mèm. E sitrouy-la komans kour déryèr li. Zot i vé konèt la swit dé listwar ? Inn ot zour pétèt !

Zistwar mantèr, pa mwin lotèr. Kan in gramoun, avan kozé, i roul son lang sèt fwa dann son bous. E a ou marmay, li di a ou konmsa, bann vré zarboutan, si ou vé pous drwat, aranz a ou déza par bon kalité dolo !

Kriké !

Kraké !

それは《大悪魔》ではなかった...《大悪魔》や《カル婆》だったという人も数人はいる。いやいや。彼女たちはそれを見て、一目散に家に逃げ帰った。それ以来、《グラン・ブリュレ<sup>【大焼け跡の意】</sup>》と呼ばれているその場所、《グラン・ブリュレ》と現在呼ばれているのはかつて灰がその高地に大災害をもたらしたからだが、そう、そこにカボチャの草が普通に咲いて、カボチャが芽を出していたのだ。

その頃、サトウキビを刈る年寄りの農夫が、火山<sup>【島の南東部ある火山活動中のピト</sup>ン・ドゥ・ラ・フルネーズ、標高 2,631m<sup>】</sup>に向かう道を時々登っていた。そしてある日、彼は道の途中でカボチャをひとつ見つけた。ちょうどその場所だ。そしてそのカボチャは彼を追いかけ始める。この話の続きを知りたいかい？ それは多分、次回だね！

物語が嘘でも私のせいじゃない。昔の人がそれを語った時、彼はその時自分の舌で、自分の口で話したのだ。だからみんなにはこんな風に話しているけれど、みんなが真っ当な柱をまっすぐに立ててほしければ、きれいな水で工夫するという訳さ！<sup>【真っ当な人間にするなら、植物と同じで「いい水」を与えるという意味】</sup>

クリケ！

クラケ！

注：セーシェルにこの物語の類話があり、娘の名前はシリリヌではなく「シシリヌ」、彼女の好物はマンゴではなく「レモン」、また、その樹の持ち主は《カル婆》ではなく「狼」である。

#### 4. Kala èk Ti Kala, son ti zanfan

Patricia CHAMAND

Kala lété ésklav dann la plantasyon. El lavé dé don, èl té géri d'moun. El té fé tizann pou domoun ké té i vé tizann. In zour, la fiy de Kala, i fwi la plantasyon. Donk, èl i rotrov a èl tousèl avèk son ti zanfan, Ti Kala.

Lo zanfan lo mèt i tonm malad gravman. Le mèt i apèl Kala pou domann a èl géri lo zanfan. Lo zanfan lé byin malad, i bouz pi, le ti zanfan tann, i trap la min konmsa, la min i tomb. Kala i trap lo zanfan konmsa, i sèr le ti marmay kont èl, i sant. I sant inn zoli sanson, i ogard le ti zanfan. El i sant lontan, lontan, lontan. Le mèt i koné pa konbyin d'tan la santé. Kan èl la fini la sanson-la, ti marmay i lèv la tèt. E la, le mèt lé kontan retrouv son marmay, i domann a èl kosa èl i vé. El na in sèl zafèr èl i vé, èt lib é avèk son ti zanfan. Donk li akord a èl la libèrté. El i aminn son Ti Kala avèk èl, é i sa abit Granbwa laba, pré le basin.

Ti Kala, li abit èk son granmèr. Mé li vé fèr konm tout' bann marmay, li vé alé lékol. Li sava lékol, mé bana i ème pa li paské li vé ténir la min dan la kour, li vé zoué avèk tout' bann marmay. Bana i di a li : « Ah, ah ! Mi koz pa èk ou. Out granmèr i fé pèr. Out granmèr sé inn sorsyèr. Out granmèr i abiy mal. »

#### 4. カラと孫娘のチカラ<sup>「小さなカラ」 「ラ」の意</sup>

パトリシア・シャマン

カラは農園の奴隷だった。彼女には才能があつて人々を癒していた。彼女は薬を求める人々のために薬を作っていたのだ。ある日、カラの娘が農園から逃げた。だから彼女は孫のチカラと二人きりになってしまった。

農園主の子供が重い病気にかかった。雇い主はカラを呼び、子供を治してくれるよう頼んだ。子供はとても具合が悪く、動くこともできず、それにまだ小さく、手を取っても落ちてしまうような具合だった。カラは子供をこんな風に抱え上げ、抱きしめて小さな子供に語りかけ、歌った。彼女はとてもきれいな歌を歌い、子供を見つめた。彼女はずっとずっと長い間歌い続けた。雇い主はカラがどれぐらいの時間歌っていたのか知らなかった。彼女がその歌を終えた時、子供は頭を上げた。雇い主は子供を見て喜び、彼女に望みのものは何かと尋ねた。彼女が望むことはただひとつで、それは孫と一緒に自由になることだった。そこで彼は彼女の解放を承諾した。そして彼女はチカラを連れて、内湾に近いグラン・ボワ<sup>島の南部</sup>に住んだ。

チカラは祖母と一緒に暮らした。彼女は他の子供と同じように学校に行きたがった。彼女は学校に通ったが、校庭で手をつなぎたくても、みんなと遊びたくても、子供たちは彼女のことを好きにならなかった。みんな彼女に言った：「ああ、お前とは話さないよ。お前のばあちゃんは怖いもん。お前のばあちゃんは魔女だよ。お前のばあちゃんは服もひどいし」。

Toultan, li lé rézété konmsa dan la kour lékol. Dan la kour lékol, pèrson i vé pa zoué ansanm li. Le swar kan li rant, son granmèr i domann a li : « Bin, kwa la fé lékol zordi ? » Li di pa ryin, son kèr lé gro : « Ah, non, ryin, ryin. »

Du kou, li ranfèrm a li osi. Se ki fé kin zour, Kala i desid swiv son ti zanfan i sava lékol. E èl i vwa kwé i s'pas lékol. El i vwa ke pèrson i vé pa zoué avèk lo zanfan. El i vwa le marmay i rès tousèl dan la kour. El i konpran ke èl lé rézété.

Le swar, pou rékonfort a èl inn ti pé, èl i vyin atann a li a la sorti de lékol. Mé le ti marmay la ankòr plis ont' ké son granmèr lé la. Li pas drwat. Li kour, li kour, li kour, li kour. Kala i kour déryèr li. Mé èl i vé pa koz avèk èl. Li tomb dann Basin 18, èl i noy. La granmèr i kour déryèr, i giny pa sov son zanfan, èl i rès la.

El i rès la pandan dé somèn, dé somèn. I bouz pi, tèlman èl na in gro sagrin. El i bouz pi, èl i manz pi, èl i koz pi, èl i lav pi sa tèt, èl i koup pi lé zong, èl i fé pi ryin. El i rès an stati.

Domoun i di : « Ma la di a zot, sé inn sorsyèr vréman. Gard a èl, èl lé gardyin basin ! » Sesi sela, la koz ankòr plis.

彼女は学校の校庭でいつもこのように仲間はずれになっていた。学校の校庭では誰も彼女と一緒に遊ぼうとはしなかった。夕方になって彼女が帰ると、祖母が彼女に尋ねた：「ねえ、今日は学校で何をしたんだい？」。彼女は何も言わなかったが、心の中は真っ暗だった：『もういや、何もかも』。

その結果、彼女は自分の中に引きこもるようになった。それである日のこと、カラは孫娘の後をつけようと思い立ち、学校に行った。そして彼女は学校で起きていることを見た。彼女は誰も子供と遊ぼうとしないのを見た。彼女は子供がたったひとりで校庭にいるのを見た。彼女はチカラが除け者にされていることがわかった。

夕方になり、彼女は子供を少し力づけようと学校の出口で待つことにした。しかし子供は祖母がそこにいることでますます恥ずかしく思った。彼女はまっすぐ通り過ぎた。彼女は走って走って走って走った。カラも彼女の後を走って追いかけた。しかし彼女は祖母と話そうとしなかった。

彼女は《十八番池》〔島南部の主要都市サン＝ピエール近くにある小さな内湾。昔の名前は「牡蠣池」だったが、「牡蠣」des huîtres が似た音の「十八」dix huit に変化したと言われている〕に身を投げて溺れ死んだ。祖母は走って追いかけたが子供を救うことはできず、そこに立ちすくんだ。

彼女はそこに何週間も何週間も留まった。彼女は動かず、それほど彼女の悲しみは大きかった。彼女はそこから動かず、何も食わず、何もしゃべらず、顔を洗うこともせず、爪も切らず、何もしなかった。彼女はまるで彫像のようにじっとしていた。

人々は言った：「みんなが言っていたが、彼女は本当に魔女だ。彼女を見てみるよ、池の番人だ！」などなど、様々なことを言った。



Kan èl la désid levé, èl la di kèl i sa kasyèt. El i sort pi di tou la zourné.  
El i sort ryink la nwit paské èl vi vwar bann domoun méstan ke la tyé  
son ti marmay. Dépi se zour-la dan le vilaz, bana la rakonté ke  
Granmèkal lé méstant, la rakont tout' sort zafèr si èl.

Kriké !

Kraké !

彼女がそこから立ち去ることを決めた時、彼女は家に引きこもることにした。彼女は日中はまったく外に出なかった。彼女は夜だけ外に出た。彼女の子供を殺した悪人たちを見つけようとしたのだ。この日から村では、みんなが彼女のことを《邪悪なカル婆》と呼び、ありとあらゆることを彼女に結びつけるようになった。

クリケ！

クラケ！

## 5. Gran Diab la fès an or

Isabelle METZGER-CILLON

Inn promié zistwar ke mi ème. Le promié zistwar ké mwin la rakonté an tan ke kontèz, é mi ème se zistwar-la. Mé, tanzantan, mi ème aranz a li inn ti pé. Mi sipoz ké zot tout a tèr-la, i koné zistwar : « Gran diab la fès an or » ? Zot i koné ? Ki koné, ki koné pa ? Zot i koné pa ? Zordi mi aminn mon varyété.

Alor figir a zot ké dann mon zistwar néna inn ti fiy, inn zoli ti fiy marmay ! Ti fiy-la lé tèlman zoli, gayar. Mi di a zot, pli joli, joli, le pli joli zafèr zot la vi dann zot vi, bin sé ryin a koté d'li.

Figir a zot ke se ti fiy-la tèlman li lé zoli, mèm solèy, marmay, lé zalou, i vyin zwé lo kasyèt dan son sové, la briz i vyin karès a li. E zot i koné, plik lé zoli, pli ki fé la pyont. Sa i sava avèk, lé dé la.

Ti fiy-la i sar an vil, son rob trwa volan i bat karé an vil. Sa po ou, sa po mwin... sa po ou, sa po mwin... La, i mars dann somin. Do zèf i kraz pa, tansyon a ou ! E pi, imazinn a zot, tout bann zèn jan i vwa sa pasé la, la bav i koul, lo zié i roul, la gorz i sèk, i di : « Té, zoli ti morso ! »

## 5. 金の尻を持つ悪魔

イザベル・メツゲル＝シヨン

これは私が一番好きな物語だ。私が語り手として語った最初の物語で、この話が大好きだ。でも時々少しアレンジするのが好きなんだ。ここにいるみんなはこの『金の尻を持つ《大悪魔》』の物語を知っていると思うのだけど？ みんな知ってる？ 知ってる、知らない？ みんな知らない？ 今日は私のバージョンでやることにする。

ということで、私の物語にはひとりの娘が登場する、きれいな娘だよ！ この娘は本当にとてもきれいなんだ。みんなに言うけど、とてもとてもきれいで、みんなが今まで見たどんな美しいものと比べものにならないほどきれいだった。

この娘は余りにきれいなので、太陽でさえも嫉妬して彼女の髪の中でかくれんぼをしにやって来るし、風は彼女をくすぐりに来るほどだった。ところが、みんなも知ってるように、きれいであればあるほどますますうぬぼれる。その二つはセットになっているんだ。

この娘は町に出かけるが、服には三つの裾飾りがついていて、町を散歩する。しゃなりしゃなりと腰を振ってだ... 彼女は道を歩く。卵を壊さないようご注意！<sup>それほどゆっくり歩いている様子</sup> そこで想像してみてほしいのだが、多くの若者たちが彼女が通りかかるのを見て、涎を垂らし、目をきょろきょろさせ、生唾を飲み込んで言う：「よう彼女、すごい美人さんだね！」。

Ti fiy la i gard, i di : « Ah ! Ou la byin vi out figir-la ? Ou la byin vi out figir ? Ou la byin vi a mwin ? Ah, non ! Hé, savat i mars pa koté soulyé. Dégaz a ou ! » E li té konmsa, té pyontèz. An plis ke sa, zot i koné, li té koz konmsa avèk domoun.

I fé ké a in moman doné, tout bann garson, la di : « Té, mi sa mont in gob pou li. Domin kan li d'sann, pèrson i fé pa in kont avèk li. Nou bouss nout zié, nou bouss nout zorèy, nou gard pa li. »

Granmatin, ti fiy-la i d'sann, son rob ankò pli zoli, la razout dé trwa volan ankò. Dizon, in gato Noël, Zour d'lan, la kominyon, piès monté ! La, li pass, sa po ou, sa po mwin, sa po ou, sa po mwin. Pèrson i antann pa kou d'siflèt', i gard'pa li, ryin. « Bin, té, mi konpran pa ! Momon, Momon ! »

Momon i ariv, i di :

« Kosa i fé kri a ou konmsa ?

- Momon, mi lé mal abiyé zordi ? Mwin lé vilin ?

- Mé non Zanèt, ou lé zoli konm touzour.

- Mi konpran pa. Ma la d'sann granmatin. Inn kou d'siflèt, inn kou d'zié, inn ran dé trwa, ma la pa ginyé !

- Ma fiy, ma la touzour di a ou, arèt fé in pé osi. Mé sèlman, gard out laz, lèr i pas, lo tan i pass. Si ou la pa trouv in zézèr po maryé vitman, ou trouv'ra pi. Ou va fini tousèl.

娘は彼を見て言った：「ねえ！ あんた自分のその顔をよく見たの？ 自分の顔をよく見た？ あんた私をよく見た？ ああ、だめ！ あのね、ぼろスリッパは靴の横を歩かないの。あっち行って！」。彼女はこんな風に思い上がっていた。そればかりか、みんな分かるように、人と話す時もこんな感じだった。

そのうち、若者たちは言った：「おい、彼女をからかってやろうぜ。明日、彼女が降りて来たら誰も相手にしない。目を閉じて、耳をふさいで、彼女を無視だ」。

朝早く娘は町に降りて行った。彼女の服はより一層きれいで、裾飾りをもう二つ三つ足していた。言うならばクリスマスとか新年とか初聖体の時のお菓子みたいなもので、デコレーションケーキ！ 彼女はしゃなりしゃなりと歩いていた。誰も口笛も吹かないし、見もしないし、何もしない。「えっ、訳分かんない！ ママ、ママ！」。

ママがやって来て言った：

「何をそんなに叫んでるの？」

— ママ、今日の服装いけてない？ 私ブス？

— いいえジャネット、お前はいつものようにきれいだよ。

— 私、訳が分からない。朝早く町に降りて行ったの。いつもなら口笛を吹かれたり、じろじろ見られたり、何人か並ぶのに何もなかったの！

— あのね、お前にいつも言ってるけど、そういうのはちょっとやめなさい。お前の歳を考えなさい、時間は過ぎて時は経っていくんだから。いい人を見つけて早く結婚しないと、もう見つからないわよ。お前はひとりぼっちで終わることになるわよ。

- Té lé vré sèlman ! »

Li arsa bat in karé an vil. Li ardsan, arazout ankor dé trwa volan èk son rob. Pèsonn dann somin, pèson pou fé in kont èk li. Li arvyin son kaz, défé marmay, défalké :

« Momon, momon. Mi vé maryé momon ! Lès a mwin momon ! Rod in bonom pou mwin.

- Ma rodé ma fiy. Lé pa in problèm sa. »

Ti fiy-la la réflési in kou, la di : « Té, la, li sa rod in bonom konm papa po mwin ! Hin hin ! Rosor briké, troud'né karté, gro fon pétar, non mèrsi, mi vé pa. Momon, lès ma rod mwin mèm. »

Mé sèlman li vé rodé, mé li vé pa maryé sanm ninport a ki. Pli zoli, pli pyontèz, i fo a li lo méyèr bonom ki fo. Alor, li la mèt a li dann la tèt, tan kafèr : « Mi vé maryé avèk in bonom. Poukwa pa, avèk « In fès an or ». Konmsa mwin mi koné, mi mank'ra pa d'ryin ! »

Lo momon la di :

« Oté, ti fiy-la la tèt la bloké. Lé pa posib ! Ou sa ou vé mi sa rod « In fès an or » ? I éksist pa. Dann film, dann télé, dann zimaz, èksist zafèr konmsa !

- Ah bin mounwar, alé. Ou la di ou va rodé. Rod, momon, rod ! »

— それ本当だわ！」。

彼女は町にぶらつきに行った。彼女は降りて行き、服に裾飾りをさらに幾つか足した。通りでは誰も彼女に見向きもしなかった。彼女は家に戻った。打ちのめされ、落ち込んで：

「ママ、ママ、私結婚したいわ、ママ！ そうさせて、ママ！ 私にいい人を探して。

— 探してあげるから。問題ないわ」。

その娘はちょっと考えてから言った：「え、彼女は私にパパみたいな男の人を探したりして！ だめだめ！ 髪が縮れて鼻がずんぐりでお尻が大きいなんてだめ、お断りだわ。ママ、放っておいて、自分で探すわ」。

ところが彼女が探すにしても、誰とでも結婚したい訳ではない。美しければ美しいほど傲慢なので、彼女には最高の男が必要なのだ。そこで彼女はまた頭の中で色々言い始めた：「私はいいい人と結婚するわ。《金のお尻》を持っている人なんかいいわよね。そうしたら足りないものはないはずよ！」。

ママが言った：

「はあ、お前頭がどうかしたのかい？ そんなこと無理でしょう！ どこで《金のお尻》を見つけようとするんだい？ そんなのいやしない。映画とかテレビとか漫画だったらいざ知らず、そんなのいないわよ！」

— ああ、何とかしてよ、ねえ。見つけてくれると言ったでしょ。探して、ママ、探して！」。



I mèt lanons dann zournal, téléfonn Fridom, i pran randévous avèk Mme Aude, tousa-la, tout la klik. La i armont ali tout kalité foto. Li vé pa, li vé pa. Pli gran prins zarab i ariv, na soval, bann gro, gro soval gro, gro zépol.

« Vwala soval, zoli soval. Hé, soval sèt pat ! Ou la pankor vi sa ?

- Ouh, lo bann soval lé gayar, mé lo boug lé pa tro sa. Momon, di a li alé ! »

Prins zapon i ariv, sort zapon laba. La aminn zévantay èk ti napron brodé. Lété zoli marmay, lété zoli. Mé ti fiy-la : « Té lo napron lé gayar, mé lo boug pa tro sa, hin. On diré li vwa pa mwin, non ? Li vwa pa mwin. Li lé antrinn rogard a mwin. Momon, fout a mwin sa laba. »

Lo momon la di :

« Té bin la tousa d'zézèr néna otour dou, na pwin inn dé dann out tèt ? Mwin noré byin inn, mé... Mi koné kisa i lé. Mi koné avèk kisa mi sa fé maryé a ou. Avèk garson Ti Léon.

- Kèl garson Ti Léon ? Sèk i san graton. Ah non, momon, rod inn ot zafèr.

- Bin la, mi vwa pa tro. Ma la trouvé ! Garson Zan Robèr. Ou koné, garson Zan Robèr. Zot dé té i sava katésis avèk.

彼女は新聞に公告を出し、《フリー・ドム》〔Radio Free Dom 1981 年に設立されたラジオ局「自由海外」に電話をし、オード夫人〔Aude Palant-Vergoz 法律家でレユニオン消費者協会の創設者。メディア上の法律相談を通して広い人脈がある〕

とも面会し、ありとあらゆる親類を頼った。彼女は娘に写真を山ほど見せた。これはだめ、これもだめ。中には、アラブの立派な王子がやって来て、彼は大きな大きな、肩の大きな馬に乗っていた。

「ほらこの馬、素敵な馬だわ。ねえ、七本脚の馬！　こんな見たことある？

— そうね、この馬は素敵だけど男の方はいまひとつだわ。ママ、彼にお引き取り願って」。

日本の皇族が着いた。日本からやって来たのだ。彼は扇と縁取りした敷物を持ってきた。それはとてもきれいだった。しかし娘は言った：「敷物は素敵だけど本人はそうでもないわね。彼は私に会わないんでしょ？　私に会わない。でも私をじろじろ見てるわ。ママ、彼に帰ってもらって」。

ママは言った：

「あのね、お前の周りに集まったこの男衆の中で気に入った人は誰もいないの？　ひとりいるでしょう、でも... 誰だか知ってるわ。お前と結婚させる人。チレオンの息子。

— チレオンのどの息子？　グラトン〔豚や鳥の脂肪組織をそれらの油脂に漬けたコンフィ〕の臭いがする人？　ああだめ、ママ、他のを探して。

— そうね、思いつかないわ。分かった！　ジャン・ロベールの息子。あんた知っているでしょう、ジャン・ロベールの息子。二人で一緒に公教要理〔堅信や聖体などの秘跡を授けた信徒の子弟に対して行われる教育〕に行ってたじゃない。

- Momon, garson Zan Robèr, na in bèl vant konmsa, sa na lo vèr la d'dan !

- Ma fiy, bin la, mi koné pi kosa i fo di a ou la.

- Alé, momon, rod ! »

E pi, an atandan, zézèr i ariv mèm. Tout kalité péi i ariv an grap sosis, an poundiak, i ariv dovan baro. Tout i ariv, lo momon lé oblizé domandé :

« Out fès lé an or ?

- Non, mon fès lé pa an or.

- Bin, fil a ou.

- A ou, fès... an or ?

- A ou, out sovè lé zoli vréman, mé i sifi pa... Na pwin, bin glis a ou. »

E pi, pa tro lwin, dann in kwin, dann karo fatak, dosou pié d'bwa, na inn i atann. Dépi lo débi, li vèy mèm la. Li san lodèr. Gran Diab té la. Gran Diab té la. Grand Diab la di : « Ah, sa mèm mwin té pou atann in lokasyon. Sa mèm mi vé. »

Gran Diab la rant son kaz, la kasyèt son figir déryèr in zoli mask. La aranz son sovè, mèl in sapo po kasyèt son dé zorèy, trap son ké, zot i koné lo diab na la ké, hin. La anroul tèr-la konmsa, mèl son triko pardési, é pi, pènn in pé son fès. E lé parti.

ー ママ、ジャン・ロベールの息子ってあの太鼓腹の人ね。

中に虫でもいるんじゃないの！

ー お前ねえ、もう誰を勧めていいか分からないわ。

ー お願いママ、探して！」。

そうこうしている間にも、男たちはやって来た。世界の四方から数珠つなぎで大勢が戸口にやって来た。みんなが着くとママは尋ねざるを得なかった：

「あなたのお尻は金でできていますか？

ー いいえ、私のお尻は金ではありません。

ー ではお引き取り下さい。

ー あなた、お尻は... 金ですか？

ー あなた、髪が本当に素敵ね。でもそれだけでは十分ではなくて... ない、それではお引き取りを」。

そして、そこから遠くない隅に生えていた樹の下にある茂みでひとりの人物が待っていた。彼は最初から見ていた。彼は匂いを嗅ぎつけた。それは《大悪魔》だった。まさしく《大悪魔》だった。《大悪魔》は言った：「ああ、この機会を待っていた。まさにおあつらえ向きだ」。

《大悪魔》は家に戻り、きれいな仮面の下に顔を隠した。彼は髪を整え、帽子を被って二つの耳を隠し、尻尾を掴んだ。みんなは悪魔に尻尾があるのを知ってるよね。彼はその尻尾をこんな風に巻いて、その上からニットのシャツを着て、それから尻を少々塗った。そして彼は出発した。

Li ariv laba marmay. Oté ! Kan lo momon la gard sa, la di : « Oté, si ou navé diz an d'mwin, mwin té maryé èk ou ! » Lo Grand diab la agard a li in kou : « Kèl diz an ? Mwin kanrant o mwin, wi. »

Lo momon i d'mann : « Eské ou na in fès an or ? » Grand diab i di :  
« Bin wi, madam.

- Armont a mwin. Armont a mwin. Na lontan po atann sa.

- Madam, bin, sa lé insolan sa. Mi pé pa tir mon kilot dovan ou.

- Bin wi, mé si ou néna, i fo ou armont. Nou vé vwar nou. Nou vé vwar out fès. Tir out kilot.

- Madam, lès Zanèt gardé. Ryink li. A ou, ou gard pa. Ou va giny sézisman. »

Grand Diab tir son kilot, i armont son fès. Efèktivman, in koté d'fès. La pa i lo tan pènn lé dé, hin ! La fès an or ! Kontan ! Maryaz !

Ou koné, la mizik an kwiv. La tyé koson, kanar, poul, tousèt lavé pou tyé, la tyé zwa. La fèt sèt zour ! Ou koné, kan kréol i fé la fèt, i zoué pa èk sa. Sèt zour, paské lo tan lo mémé i sort anlèr laba, èl i ariv. Lo tan lo tonton i koné si finn mor si pankor... I sar d'mann nouvèl tousa la. Sé poukwa, pou sèt i koné pa, la fèt i dir sèt zour isi, paské i fo atann tout la klik arivé.

彼はやって来た。さあ！ ママは彼を見ると言った：「おやまあ、あなたが十歳ほど若ければ私とあなたと結婚したいわ！」。《大悪魔》は彼女をちょっと見た：「十歳ですって？ 少なくとも四十歳若ければ、でしょう」。

ママは尋ねた：「あなた、金のお尻をお持ち？」。《大悪魔》が言った：

「勿論ですとも、奥さん。

－ 私に見せて下さい。見せて下さい。ずっとこれを待っていたのよ！

－ 奥さん、あの、それはお下品ですよ。あなたの前でズボンを脱ぐ訳にはいきません。

－ いいえ、もしあなたがお持ちなら見せなければいけません。私たちは見たいのです。あなたのお尻を見たいのです。ズボンを下ろして。

－ 奥さん、ジャネットにだけ見せます。彼女ひとりに。あなたは見てはダメですよ。気を失いますよ」。

《大悪魔》はズボンを下ろしてお尻を見せた。実際には尻の片方だけだったけど。彼には両方を塗る時間がなかったんだね。金の尻だ！ 大喜び！ 結婚式だ！

みんな知っての通り、金管楽器の楽隊。ブタ、カモ、鳥などあらゆるものが屠られ、ガチョウも屠られた。祝宴は一週間続いた！ 知っての通り、クレオルの人々がお祝いをする時はそんなにはやらない。一週間というのは高地のおばあちゃんが出てきてたどり着くためだ。それに、まだ生きているかどうか分からないおじさんとか... そういう報せを知るためだ。だから知らない人のために言っておくと、祝宴がここでは一週間続くのは、親戚全員が着くのを待つためなんだ。

Grand diab : « Astèr kafrinn, pa tou sa, néna sèt zour nou lé la. I fo rant in pé, na manzé kabri po alé rodé, koson po nétoy park. »

Zot i mont, i rant zot kaz. Zanèt kontan. I ariv laba, gran kaz, na plin domestik po sèrv a li, gran rob plin d'volan. A wi, la donn a zot lo konsiny : « I fo zot na gran rob plin volan. »

E pi i ariv lo swar kan mèm, Zanèt i di : « Té, Ha ! Mwin lé fatigé. A swar-la, lès a mwin dormi. Domin na war. » Gran Diab i di :

« La finn maryé. Si na po fé, i fé wi.

- Zist po a swar... Ma la dansé, mon dwa d'pié po pété, mon talon osi.

Domin, domin. Na war sa.

- Bon, na war domain. Domin, wa giny lo doub ! »

Dann la nwit, Zanèt i rèv, li antan... Li antan in paké d'vwa i di a li konmsa : « Alor Lé gra lé pa gra ? Finn gra, ponkor gra ? Lé ponkor. I mank inn ti myèt, zist, i mank inn ti myèt ! » Dézièm zour i ariv, Zanèt i antan lo mèm zafèr : « Mi rèv, mé akoz mi fé toultan lo mèm rèv ? »

E pi in swar, li di li va rouv son zié inn ti mièt. Li rouv son zié marmay ! Promyé zafèr li vwa. Dé bèl pat' konmsa. Dé bèl sabo.

《大悪魔》が言った：「愛しいカフリン<sup>[アフリカ系女性を呼ぶ時の愛称で、あるが、それ以外の場合もある]</sup>」

すべて終わって一週間もここにいたよ。少し家に戻ってヤギに餌があるかどうか見たり、豚の囲いを掃除しないと」。

彼らは登って家に帰った。ジャネットは嬉しかった。彼女がそこに着くと、それは大きな家で、彼女の世話をするために多くの小間使いがいて、彼女たちは裾飾りがたくさんついたゆったりした服を着ていた。そう、彼女は彼女たちに指令を与えていたのだった。『裾飾りがたくさんついたゆったりした服を着用のこと』。

そして夜になり、ジャネットが言った：「あのね、はぁ！私疲れちゃった。今夜は休ませて。明日また会いましょう」。

《大悪魔》は言った：

「結婚したばかりだよ。やるべきことをしなくては、さあ。

ー 今夜はだめ... 私踊り過ぎて足の指の具合が悪いし、踵も同じ。明日ね、明日。また会いましょう。

ー 分かった。それじゃ明日。でも明日は倍にしてもらおうよ！」。

夜中にジャネットは夢を見て、彼女は聞いた... 彼女はたくさん声がこう言っているのを聞いた：「それで彼女は肥えたか、肥えてないか？ 彼女は太ったか、まだ太ってないか？ ちょっと足らない、ちょうどあとちょっと！」。二日目になって、彼女は同じものをまた聞いた：「私夢を見たのね、でもどうしていつも同じ夢なんだろう？」。

そしてある晩、彼女は薄目を開けて見ることにした。彼女が目を開けると何と！ 彼女はこんなものを見るのは初めてだった。二本のこんなに太い脚。二つの大きな蹄。



Li gard, li di : « Bin, kwèk sé ? » Li rouv son zié ankòr plis. Li vwa ke le dé bèl sabo, sété Gran Diab ! Sété son bonom, lavé finn tir son linz, mé la figir lé byin ankòr-la.

Zanèt i fèrm son zié, son kèr i bat'. I désann dan son pié, i armont dan son do. I mont, i désann, i mont, i désann... « Mon Dié Sényèr, Sin Espédi, Sin Antwèn de Padou... La tout bann sin la sorti ! Fo mi giny sapé, fo mi giny sapé. »

Mi koné pa konman sa's fé, dan mon zistwar, bin... Li lavé in téléfonn portab. Li la anvoy in SMS po son frèr : [ Té Dada, Dada i fo out d'sann vitman la. La i fo out d'sann paské la mwinn lé pri dann inn kol zak. ] Li rakont lo zistwar, SMS i giny pa mèt tro d'mo sa, ou ékri an gro.

Lo frèr : « Hum, a fors fé lo lintéresan, la parti maryé avèk in blan. Té giny pa maryé avèk in nwar konm son ras. Bin, démèrd a li. » SMS i ariv mèm : [ dégaz, dégaz, dégaz... ] Le frèr i ariv, i di :

« Té, ma la vi yèr swar, mon bonom na dé bèl pat, dé bèl sabo konmsa.

- Dé sabo ? Atann a ou, a swar ma gardé. »

彼女はそれを見て思った：『え、何これ？』。彼女はもう少し目を開いた。彼女が見た二つの大きな蹄、それは《大悪魔》だった。それは彼女の夫で、服は脱ぎ捨てていたが、顔はまったくそのままだった。

ジャネットは目を閉じ、彼女の心臓は激しく打った。それは足まで下り、背中まで上った。それは上っては下り、上っては下り...：『神様、聖エクスペディ様<sup>〔聖エクスベティトゥス。アルメニア出身のローマ百人隊長でキリスト教に改宗し、そのため 303 年殉教。1930 年代から生活苦に喘ぐレユニオンの人々の守護聖人として崇敬の対象となっている。祝日は 4 月 19 日〕</sup>、パドゥワの聖アントワヌ様<sup>〔パドヴァの聖アントニオ（教会博士）。13 世紀ポルトガルのフランシスコ会修道士。神学に通じ教皇グレゴリウス九世の補佐を務める。36 歳でイタリアのパドヴァで没。花嫁の守護聖人。祝日は 6 月 13 日〕</sup>... すべての聖人が来られますように！ 逃げないと、逃げないと』。

お祈りが利いたかどうか私は知らないけど、私の話の中では、そう... 彼女は携帯電話を持っていた。彼女は兄にショートメールを送った：【ねえダダ<sup>〔兄のこと〕</sup>、ダダ、急いでここに降りて来てちょうだい。降りてこなくちゃ、私厄介なことになってるの】。彼女は事の次第を書いたが、ショートメールではたくさん文字を送れないので大量に書いた。

兄は思った：『ふん、あいつは勿体ぶってとうとう白人なんかと結婚しやがった。自分と同じ黒人とは結婚しなかった。まあ自分で何とかしてくれよ』。ショートメールがどんどんやって来た：【早く、早く、早く... 】。兄が着くと彼女は言った：

「あのね、昨日の夜に私見たの、私の夫に二本の太い脚と二つのこんなに大きな蹄があるの。

ー 二つの蹄だって？ ちょっと待った、今夜そいつを見てみよう」。

Pèrson i koné pa si le frèr lé la. Li kasyèt dosou le li, é li atann. I ariv lo swar, bana i ékout. Li antan : « Alor, lé gra lé pa gra ? Finn gra, ponkor gra ? »

O mèm moman, Zanèt la pèt in lasasin. Li arouv son zié, li la krié, li la vi lo Gran Diab avèk in tralé ti diab otour. Bana finn ariv avèk kouto, foursèt, finn mèt servièt tout. E Kan lo ti fiy la krié, zot la giny sézisman, toul pé la sapé, la kouri.

Lo frèr i di a li konmsa :

« Bin ma fiy, ou na rézon. Alon, alon !

— Ousa nou sa va ?

— Hin, ma la vi déryèr laba, néna in gran vann. Asiz a ou dédan, mi ariv.

— Té, bin la, bèzeman i ariv, ou anvoy a mwin asiz dan lo vann. La pa di a ou fé sèrvs malbar. La di a ou alon kouri.

— Asiz a ou dan lo vann, bouz pa ! »

Zanèt i rant dan lo vann. Lo frèr i ariv par déryèr é pi la li sant :

♪ Vané monté, vané monté. Monté, monté, monté, monté.

Vané monté, vané monté. Monté, monté, monté, monté ♪

Pli li sant, pli le ko vann... I mont' vréman. I mont', i mont', i mont',  
i mont'... Bana i giny sapé finalman. Gran Diab kan li lèv, li gard, li di :  
« Oté, mon manzé po kouri. Bin non, mi pé pa lès a li konmsa ! »

兄がそこにいたことは誰も知らなかった。彼はベッドの下に隠れて待った。夜になった。彼らは耳を澄ました。声が聞こえてきた：「それで彼女は肥えたか、肥えてないか？彼女はもう肥えたか、まだ肥えてないか？」。

その時ジャネットはついにこらえきれなくなった。彼女は目を見開いてわめき出し、そこに見たのは、小悪魔の群れに囲まれた《大悪魔》だった。みんなナイフとフォークを持ち、みんなナプキンを付けていた。娘がわめいた時、彼らは慌てふためき、みんな逃げて走り出した。

兄がこう言った：

「お前の言った通りだ。行こう、行こう！

— 私たちどこへ行くの？

— いいか、その裏に大きなヴァン<sup>[竹などの繊維で編んだボード。鞍類を運ぶのに用いる]</sup>があるのを見た。その中で座っている。すぐ行くから。

— あのね、こんな大変な時に私をヴァンの中に座らせるって。マルバールの儀式<sup>[マラバール（タミールからのインド系移民の子孫）が行うカーリー神などを祀る儀式]</sup>をやってる場合じゃないでしょ。逃げましょう。

— ヴァンの中に座って動くな！」。

ジャネットはヴァンの中に入った。兄が後ろに来て歌った：

♪ ヴァンよ登れ、ヴァンよ登れ。登れ、登れ、登れ、登れ  
ヴァンよ登れ、ヴァンよ登れ。登れ、登れ、登れ、登れ ♪

彼が歌うにつれてヴァンは... 本当に登っていった。登って、登って、登って、登って... 彼らは逃げおおせた。《大悪魔》はそれに気がついて言った：「おい、俺の飯が逃げてしまった。だめだ、そのままにはしておかないぞ！」。

Lo Gran Diab i komans kour déryèr. Bana, dan lo vann, i mont' mèm.

♪ Vané monté, vané monté. Monté, monté, monté, monté.

Vané monté, vané monté. Monté, monté, monté, monté ♪

« Hé, gard, i ariv, i sa kapay la vann. I sa kapay la vann.

- Bouz pa ou ! Mwin na sèk i fo dan mon pos. »

Le frèr la trap in vyé zèf, in vyé zèf gaté, in vyé zèf... Marmay, trap lo zèf, zèt dann fon. Kan lo zèf la pété la, in karo, inn rivyèr d'zèf la komans monté, monté, otour d'Grand Diab. Gran Diab i ésay po sort la d'dan, sa i kol, sa i kol, i giny pa sapé. La di : « Té, mi sar pa lès a zot. Ma trouv in manyèr... sof koman. »

Le sèl moyin li la trouvé po débaras a li... Kosa li la fé dapré zot ? Li la bwar tout. La bwar tout' lo zèf. A li déryèr, la parti. Li kour, li kour mèm... Zanèt i di : « Gard. Li vyin mèm, sort' a zot marmay. »

♪ Vané monté, vané monté. Monté, monté, monté, monté. Vané monté, sort' pli vit'. Vané monté, vané monté. Monté, monté, monté, monté ♪

« I ariv, sort' pli vit' ! »

♪ Vané monté, vané monté. Monté, monté, monté, monté

Monté, monté, monté, monté. Monté, monté, monté, monté ♪

La giny sapé ! La giny sapé ! Li lariv la kaz lo momon. Momon i agard son ti fiy, i di :

《大悪魔》は追いかけて始めた。みんなはヴァンに入って登り続ける。

♪ ヴァンよ登れ、ヴァンよ登れ。登れ、登れ、登れ、登れ  
ヴァンよ登れ、ヴァンよ登れ。登れ、登れ、登れ、登れ ♪  
「ねえ見て、彼がやって来るわ。ヴァンに追いつくわ。ヴァンに追いつくわ。

ー じっとしてろ！ ポケットにいいものがある」。

兄は古くなった卵を取り出した。古くて腐った卵、古い卵... 何と卵を掴んで地面に放り投げた。卵がつぶれた時、草っぱらに卵の川が《大悪魔》の周りに湧き上がった。《大悪魔》はそこから出ようとしたが、べとべとにくっついて出られなかった。彼は言った：「くそ、このままにはさせないぞ。いい方法があった... 何とか」。

彼が何とかするために見つけた唯一の方法というのは... みんな何だと思う？ 彼は全部飲んだ。彼は卵を全部飲んでしまった。そして彼らを追っていった。彼は走って走って... ジャネットが言った：「見て。あいつが来るわ、みんな逃げなきゃ...」。

♪ ヴァンよ登れ、ヴァンよ登れ。登れ、登れ、登れ、登れ。  
ヴァンよ登れ、もっと速く逃げろ。ヴァンよ登れ、ヴァンよ登れ。登れ、登れ、登れ、登れ ♪

「あいつが来るわ、もっと速く逃げて！」。

♪ ヴァンよ登れ、ヴァンよ登れ。登れ、登れ、登れ、登れ  
登れ、登れ、登れ、登れ。登れ、登れ、登れ、登れ ♪

彼らは逃げた！ 彼らは逃げおこせた！ 彼らはママの家に着いた。ママは娘を見て言った：

« Kosa ou fé la ou ? Di pa mwin zot la finn maryé, zot finn batay ?

- Non, momon ! »

I rakont kosa larivé. Momon la di :

« Ah bon, Gran Diab, ou lé sir ?

- Mi di a ou momon, li lé la, i ariv, i ariv !

- Kasyèt a zot. Bouz pa. Rant sou largamas. Bouz pa, respir pa marmay ! Mèt koton dann zot trou d'né, mèt la pins si zot zorèy, la pwin lèr i dwa sort dann zot kor pou pa li rotrov a zot. »

Gran Diab i ariv konm si dé ryin nété : « Kwa la fé bèlmèr, pwin inn ti kafé po bwar par la ? » Lo bèlmèr i ogard a li, i di :

« Ah, sé zèr isi la pi kafé. Mé, vwa konm si ou lé fatigé. Ou sort fé spor ?

- Non, ma la pa fé spor, mé mwin lé fatigé vréman. Mwin la so !

- Bin, alé dor inn ti pé. Dor inn ti pé dann ti boukan laba. Talèr ma fé lèv a ou. »

Lo tan li la rant dann lo boukan, Zanèt èk lo frèr trap lésans, trap zalimèt, brilé lo boukan, fout do fé d'dan. Kan lo boukan la brilé, nou la antandi in dézord marmay : « Ahhhhhhhhhhh ! »

Volkan la giny sézisman ! Volkan la pété lot koté Sin filip. Té finn étinn.

La arlévé !

「お前、ここで何をしてるの？ 結婚したばかりなのに喧嘩したとか？

－ 違うの、ママ」。

彼女は何かあったのかを話した。ママが言った：

「おやまあ、《大悪魔》だって、確かなの？

－ 言った通りよママ。あいつそこにいるわ、やって来るわ、やって来るわ！

－ みんな隠れなさい。動かないで。そこの干し場の下に入りなさい。動かないで、息をしないで子供たち！ 鼻に綿を詰めて、耳に栓をして、身体からちょっとでも息がもれてあいつに見つからないようにね」。

《大悪魔》は何もなかったようにやって来た：「お義母さん、お元気ですか、そこでコーヒーを一杯頂けますか？」。

義母は彼を見て言った：

「ああ、この時間じゃコーヒーを切らしてしまっただけ。それにしてもお疲れの様子ね。スポーツの帰りとか？

－ いえ、私はスポーツはやりません。でも実のところ、かなり疲れています。暑い！

－ そうなの、少し寝たらいいか？ そこの小屋で少し寝なさい。後で起こしに行きますね」。

彼が小屋に入るや否や、ジャネットと兄は周りにガソリンを持ってきて、マッチを持ってきて、小屋に火を点け、炎は中まで広がった。小屋が燃えている間、大きな叫び声が聞こえたんだ：「あああああああ！」。

火山ですら衝撃を受けた！ 火山はサン・フィリップ【島の南東部】の近くで噴火した。それまで休火山だった。それが目を覚ましたのだ！



Apré sa nou la antandi domoun té i sant, domoun té i ri. Nou la santi in gayar lodèr, in lodèr mèm Bondié té pankor invanté. In gayar lodèr. Kosa té i lé dapré zot bann domoun té i sant, té i ri ? Kosa té i lé lo gayar lodèr nou la santi ? Eské zot i koné kosa té i lé ? Médam zé mésié la sosyété, zot i koné zot i koné pa ? Zot i koné pa ? Bin a koz ? Bin wi, dapré zot, sété kwé ?

Gran Diab finn mor. Mé nou koné pa kosa i lé, hin ! Nou antan i sant, nou antan i ri, i bat la min, é pi nou san in gayar lodèr. Sa sété tout bann zam ké Gran Diab lavé manzé. Lo bann zam té libéré, la parti, té lib, la parti.

Apré sa, la lang i rakont. Zistwar i di, la pa mwin ! Tansyon zot i di :  
« Té, Iza i rakont zistwar. » La pa mwin di tou. La Lang i rakont... Ké sak fwa volkan i pèt konm an se moman-la.

Hin, dé trwa la anvi d'gardé, tir foto, mèt si fèsbouk, partaz èk kamarad... Fé atansyon marmay, fé atansyon ! Zistwar la lang i di, ka sak fwa volkan i pèt, sé paské Gran Diab i arvyin. Sé paské Gran Diab lé an kolèr !

Kan zot i mont volkan, zot va vwar, zot i koné so légliz la ousa la koul otour, rant la d'dan. Na in gran liv la dédan. Ou byin, si zot i trouv pa lo liv, adrès lo prêt. Lo prêt va di a zot. Domann lo prêt si na inn moun i sa maryé va ? Lo prêt va di a zot.

その後、人々が歌い、笑うのが聞こえた。素晴らしい香りがした。神様でさえまだ創造していない香り。素晴らしい芳香。ところで、歌ったり笑ったりした人たちとは一体誰なのだろうか？ それにかぐわしいこの素晴らしい芳香とは？ みんなはそれらが何だったのか知っている？ 紳士淑女のみなさん、知っている、知らない？ 知らない？ でも、どうして？ そう、それは一体何だったのか？

《大悪魔》はちゃんと死んだ。でも、それが何だったかはみんな知らないでしょう！ 歌ってるのを聞き、笑って拍手しているのを聞き、それにみんなが嗅いだ素晴らしい香り。それは《大悪魔》が貪り食べたすべての人たちの魂だった。彼らは解放され旅立ち、自由になって旅立った。

とにかくそのように語られている。この物語がそう言うのであって私じゃない！ だからこんな風には言わないで：「ああ、イザ<sup>語り手イザ</sup><sub>ベルの愛称</sub>がこの話を語ったんだよ」。それは絶対私なんかじゃない。このお話がそう語っている... 今みたいに火山が噴火するたびに起こっていることを。

それからね、それを見に行って写真を撮ってフェイスブックに上げて友だちとシェアしたいという人がいるけど... 注意した方がいいよ、注意して！ 噂では、火山が噴火するのは、《大悪魔》が戻ってくるからだと言われている。彼が怒っているからだ！

火山に登ったら見られる、というか、もう知っているだろうけど、溶岩に囲まれた教会があるから入ってみて。その中に一冊の大きな書物がある。もしその書物が見つからなければ神父さんに訊ねてごらん。神父さんが話してくれる。そうしたら結婚式があるかと聞いてみて。神父さんが答えてくれる。

E la bous i di, i rakont. Ka sak fwa ké volkan i pèt, sé paské na inn ti mamzèl i sava maryé. É ké zisteman, Gran Diab, bin li, li atann, li atann, pou li vwar kisa i lé lo ti fiy po li kapay lo ti fiy.

Kan zot i mont si la rout volkan, zot va vwar na ankor dé trwa trou. Na dé fwa la fimé i sort. Na dé trwa dann touf fatak na d'zafèr. Nou koné pa tro kosa i lé Gran Diab, lèspré Gran Diab touzour la !

Mwin mi konsèy a zot. Mi donn domoun in konsèy, apré zot i fé sèk zot i vé. Kan zot i mont volkan, mars touzour a lanvèr. Bin wi, zot i mars an aryèr, konmsa si li vyin, zot i vwa li, zot i giny lo tan kouri ! E mi sar donn a zot inn astis osi po kour pli vit ké vit. Zot i mèt zot kilot si zot tèt, é la mi pé asir a zot ké zot i giny lèlan !

Kriké !

Kraké !

噂話ではこういうこと：『火山が噴火する時はいつでも、結婚しようとしているお嬢さんがいる。そして、まさに《大悪魔》が彼女を待って待って、その娘が誰なのかを知って彼女をさらう』。

みんなが火山への登山道を通る時、あちこちに穴があるのを目にする。幾つかの穴から噴気が出ている。それらの穴の幾つかはギニアキビ<sup>「イエメン原産のイネ科多年生植物 Panicum maximum」</sup>の茂みの中にあって何かがいる。よくは分からないが、そこに《大悪魔》か《大悪魔》の霊がいつもいる！

みんなに忠告しておこう。それはみんながそうしたければの話だけど。火山に登る時は、いつも逆を向いて歩くということ。そう、こんな風に後ろ向きに歩くということ。そうすれば、もし彼がやって来ても見えるし、逃げる時間はある！ それからもっと速く逃げるのに役立つやり方も教えておこう。それはズボンを頭に被ること。そうすれば速く走れることを保証するから！

クリケ！

クラケ！

## 6. Ti Zan èk sitrouy

Isabelle METZGER-CILLON

Kriké !

Kraké !

Astèr nou sa ékout in zistwar Ti Zan, zistwar Ti Zan èk sitrouy, sitrouy kap, sitrouy lo diab.

Pour sak i koné pa Ti Zan, an dé ti mo, mwin va èsplik a zot ki sa li lé. Alor, se Ti Zan la la pwin tro la sans. Pov marmay ! Sa lé éné ansanm in kilo la gratèl si li. Dépi son dwa d'pié ziska son brin d'sové. La gratèl, la gratèl, la gratèl... E lé pa ryink sa. Ti Zan osi son pastan préféré, sé la malis, la malis. Ryink la malis dann son koko. Nou té i apèl a li osi « Sof Galé ». « Sof Galé », paské tout' la zourné, Ti Zan té ki asiz si in galé, li té fé pa ryin. Li té ki vèy domoun monté désann, désann monté.

Gran matin, Ti Zan la désidé ké li sa bat in karé la pès. Bat karé la pès, mé pa ninport ou. Dépi dé trwa zour, li la fini répèr in zoli basin, in bèl, bèl basin, d'lo biyn blé ousa pwason... i fé à pé pré vin mèt. Tansyon a zot ! Si zistwar lé mantèr, la pa mwin lotèr. Sé la lang i rakont, la di pwason i fé vin mèt.

Ti Zan la ropèr se gran basin la, la di : « Zordi la pès pou mwin ! »

## 6. チジャンとカボチャ

イザベル・メツゲル＝シヨン

クリケ！

クラケ！

今から聴いてもらうのはチジャンの物語のひとつ、チジャンとカボチャの話、カップ〔一般にはカボチャの種類であるが、ここではレユニオン島南部のサン＝ピエールにある悪魔岬を暗示している〕のカボチャ、悪魔カボチャ。

チジャンを知らない人のために、彼がどういう人間なのかちょっと説明しよう。このチジャンには余り運がない。可哀想な子！ 生まれながらの疥癬持ちだった。足の指先から髪の毛の先っぽまでかゆくて、かゆくて、かゆくて... それだけじゃない。チジャンの気晴らし、それはいたずら。彼の頭の中にはいたずら以外ない。それから私たちは彼を「温石屋」と呼んでいる。「温石屋」、というのもチジャンは日がな一日、石の上に座って何もしない。人々が上ったり下りたり、下りたり上ったりする〔レユニオン島は周囲の海岸部を除いて殆どが山地であるため〕のを眺めているだけ。

朝早く、チジャンは釣りに行くことに決めた。釣りに行くと言ってもどこでもいい訳ではない。数日前からきれいな池に目をつけていた。大きな大きな池、水は青々としていて、どの魚も... 大体二十メートルはある。ちょっと待った！ お話が嘘でも私のせいじゃない。このお話がそう言っているんだから、魚は二十メートルだと。

チジャンはこの大きな池に目をつけて言った：「今日は僕の漁場だ！」。

I désot barikad, li rant dan la kour. E avan i ariv ousa na le basin d'lo, in gayar lodèr i vyin trap son trou d'né, i vyin didig son trou d'né. Ti Zan i vir a drwat, i vir a gaus. E la, li vwa in tralé marmay, in tralé flèr tout' koulèr, tout' lodèr i vyin ravaz son santiman. Ti Zan i ral ral lodèr bann flèr la !

E pi dousman, dousman, ti lamp ti lamp, li avans ziska lo basin : « Ah ah ! » Li poz son ti sapo, li tir son savat goni, Ti Zan la swazi in zoli galé po li asiz dési. Trap son ti golèt, zèt dann lo.

Oté inn tiork, pwin d'pwason ki sort. Ti Zan i di : « Lé pa posib. Kalkil pa mi sar rant la kaz konmsa san ryin. Pwason i komann pa mwin li. Si koson i komann pa la kord. Kalkil pa pwason i sa komann Ti Zan. Avan mi sort la i fo mi trouve in pwason. »

Trap son golèt, zèt dann lo, touzour pwin d'pwason : « Ah ! » Ti Zan lé nèr i komans mont dési li èstèr. Son bébèt i komans lévé. La di :

« Mounwar, kit tabouèt, mi artourn la kaz, domin matin mi arvyin. »

Fénwar i komans rantré, i fo byin li rant son kaz. Mé se swar la, Ti Zan la viré, tourné, viré, tourné dan le li, giny pa somèy. Sa i trakasé a li mèm : « Koman in gran basin d'lo konmsa, in pwason la pwin d'dan oté ! Lé pa posib ! » Alors, li giny pa atann ziska domin. Dann milyé la nwit mèm, Ti Zan i trap son golèt, i trap son fanal, i trap son kaba, é li lé parti dirèksyon le gran basin d'lo.

彼は囲いを飛び越えて中に入った。水を湛えた池に着く前から、えも言えぬ匂いが彼の鼻をとらえ、彼の鼻の穴をくすぐる。チジャンは右を見て、左を見た。するとそこで彼が見たのはたくさんの、ありとあらゆる色をしたたくさんの花で、そのありとあらゆる香りが彼の感覚に押し寄せる。チジャンはそれらの花のいい香りの虜になった！

そして、そろりそろり、ゆっくりゆっくり彼は池まで進んだ：「ああ！」。小さな帽子を置き、麻袋で作ったサンダルを脱ぎ、チジャンはきれいな石を選んでその上に腰掛けた。小さな釣り竿をつかみ、水の中に糸を投げこんだ。

あれ、全然だめ、魚は一匹も出てこない。チジャンは思った：『そんなはずない。手ぶらで帰る訳にはいかない。魚が僕を仕切るんじゃない。豚が縄を仕切るんじゃないのと同じだ。魚にチジャンを仕切られる訳にはいかない。帰る前に魚を見つけなくては』。

竿を掴んで水の中に放ったが相変わらず魚は一尾もない：「あーあ」。チジャンはいらいらが募ってきた。腹の虫がおさまらなかった。彼は言った：「わかった、もうやめてうちに帰る。明日の朝また来るぞ」。

日も暮れてきたので彼は家に帰らなければならなかった。しかしその夜、チジャンは寝床の中でもぞもぞ動き、あっちへごろり、こっちへごろり、眠れなかった。気になって仕方がなかった：『あんなに大きな池なのに一匹も魚がいなんて！そんなことはあり得ない！』。ということで彼は翌日まで待てなかった。真夜中にチジャンは竿を取りランプを提げ、籠を持って大きな池に向かった。



Solman, kan li désot le barikad, kan li finn pas lo baro, konm si inn nafèr. Hin hin, na inn nafèr lé pa konm gran matin. Alor Ti Zan, i trous trous son trou d'né : « Oté, talèr la kan mwin lav'ni, lavé gayar gayar lodèr flèr té i vyin digdig mon trou d'né. Ou sa la pasé ban flèr la ? »

Pi d'flèr. A la plas Ti Zan i lèw son fanal pou gard in pé kosa néna otour d'li. Li vwa konm in èspès pié d'bwa lavé pousé pandan la nwit. Pié d'bwa-la lavé gro gro fèy dési. Lo gro gro fèy té ki pous partou, partou, partou.

Ti Zan i gard, i gard. E pli li gard, é plik lo bann fèy i pous. Alor Ti Zan i fèrm son zié, la di : « Lé pa posib, mwin lé antrinn d'révé ! » Li arouv son zié. Plik li gard lo bann fèy, plik lo bann fèy i arpous. Bann fèy i pous si tan vit, marmay, le fèy la finn ariv si lo basin, antrinn touf lo bann pwason.

« Aaaaah ! » Ti Zan la di : « Non, lé pa posib. Lé pa posib. Dépi gran matin, mwin la po ésèy trap pwason, é la le zèspès pié d'bwa la i rod touf lo bann pwason la ? Hin, atann a twé ! »

Ti Zan i trap son kouto k'té dan son pos. Koupé, « fiak, fiak, fiak ». Koupé tout lo bann fèy. Mé marmay ! Li noré zamé di fèr sa. Plik li koup lo bann fè, sé plik i arpous.

ところが、彼が柵を飛び越えて入り口に着かないうちに何か変だった。おやおや、何かが今朝早くとは違っていた。そこでチジャンは鼻をひくひくとうごめかした：『あれ、さっき来た時は素敵な素敵な花の匂いが僕の鼻をくすぐっていたのに。あの花はどこにいったんだ？』。

花はまったくなかった。そこでチジャンはランプを掲げて、自分の周りに何があるのかを見ようとした。すると、何かの樹が夜の間に生えていたのを彼は見つけた。その樹の上の方には大きな葉が茂っていた。大きな大きな葉があちらこちら、至る所に茂っていた。

チジャンはそれを眺めた、じっと眺めた。すると、彼は眺めれば眺めるほど、葉がますます生えてきた。チジャンは目を閉じて言った：「そんなはずはない。僕は夢を見ているんだ！」。彼は目を開けた。彼がたくさんの葉を眺めれば眺めるほど、葉はまた生えてきた。葉はますます速く生えてきて、とうとう池の上まで張り出して、しかも魚の大群をぶらさげていた。

「ああああー！」チジャンは言った：「うそだろ、そんなはずはない。朝早くから僕は魚を釣ろうとしたのに、今度は何かの樹が魚をたくさん見つけたって？ あれっ、ちょっと待てよ」。

チジャンはポケットにあったナイフを取り出した。彼は切った：「シャキッ、シャキッ、シャキッ」。彼は葉の茂みを切った。ところが何てことだ！ そんなことするんじゃない。彼が葉を切れば切るほどさらに生えてくるのだった。

Kan li koup inn, na dé i pous. Kan li koup dé, na kat i pous. Kan li koup kat... Ha ha ! Si zot i giny konté, mi lès a zot deviné kan li koup kat, konbyin la pousé.

Alors in moman doné, Ti Zan i di : « Oté, i fo mi arèt koupé. Plik mi koup, plik i pous. Kosa ki lé so lèspès pié d'bwa la ? Sa bébèt, sa lo diab, sa zavan, sa Granmèkal ? Kosa ki lé sa ? Bon, piské mi giny pa koupé, ma fout dofé dédan, ma brilé ! »

Trap son fanal, fout lé fé dann bann fèy. Oté ! Oté Ti Zan arèt, arèt, mounwar, arèt ! Rogard in pé kosa ou la pou fé. Plik li bril, plik bann fèy i arpous. Alor la, lo bann fèy la arpous ankò dé fwa plis, dé fwa plis. Kan i bril dé, na ankò kat i arpous. Alor initil di a zot, kap kap la mont si li. Sévé la komans dobout si son koko mi di a zot ké son dan té i zoué lakordéon marmay !

Ti Zan la di : « Bon, kalmé, kalmé, kalmé. Ma asiz in pé, ma obsèrvé, ma vwar koman i pous se bann fèy la. » E pi Ti Zan i asiz. Trouv son galé, asiz, obsèrv, gardé koman bann fèy la i pous.

Oté, zot i di pa, la li lé po obsèrvé, li po rogardé èk dé zé, li vwa na inn èspès ti boul. Inn ti boul oranz i komans pousé dési lo bann fèy. Ti Zan la di : « Oté, lé bon, bann flèr la i rovyn, lo bann fèy i sa pousé, va tyé tout' lo bann mové zèrb. »

Li avans li avans lo ti boul i grosi. Li trous trous son trou d'né pou gardé kèl kalité lodèr i san se flèr la. Eské sé inn lodèr li lavé santi se matin ?

彼が一枚切れれば二枚生えてきた。彼が二枚切れれば四枚生えてくる。彼が四枚切れれば... ははっ！ みんな計算できるなら言ってくれるかな、四枚切ったら何枚生えてくるかを。

そのうちチジャンは言った：「おっと、切るのをやめないと。切れれば切るほど生えてくる。この樹は一体何なのだ？ 化け物か、悪魔か、怨霊か、《カル婆》か？ 一体何だ？ よし、切ってもだめなら火をぶちこんで燃やしてしまえ！」。

彼はランプを取って葉に火をつけた。だめ！ だめ、チジャン、やめてやめて、おい、やめろ！ そんなことしたらどうなるか。葉は燃えれば燃えるほど生えてきた。葉は燃えたら倍々になって生えた。二枚燃えたら四枚生えてきた。当然、恐怖が彼を襲った。髪の毛は頭の上におっ立ち、齒はまるでアコーディオンを弾いているようだった。

チジャンは言った：「よし、落ち着け、落ち着け、落ち着け。ちょっと座って見ようじゃないか。この葉っぱどもがどうやって生えてくるのかを」。そしてチジャンは腰を下ろした。石を見つけて座り、葉っぱがどうやって生えてくるのかを観察した。

さて、みんなに言ってなかったが、彼がそこで観察するために両の目でしっかり見ていると、小さな球のようなものを見つけた。その小さなオレンジ色の球は葉っぱの上に生え始めていた。チジャンは言った：「よしよし、花が戻ってきたから葉っぱも生えるし、そいつらが悪い草を全部始末するだろう」。

彼が少しずつ近づくと、その球はだんだん大きくなった。彼は鼻をふくらませ、ふくらませ、その花の匂いがどんな香りか確かめようとした。それってその朝に嗅いだ匂いだろうか？

Li ronif. Okin lodèr i sort dan le p'ti boul. Ti Zan la di : « Kèl kalité flèr la pwin lodèr ? Ma frot frot in p'ti pé. Si mi frot, sirman lodèr va lèvé. »

E Ti Zan i frot, frot le ti boul. E plik li frot, é plik inn zoli ti vwa i sort dan le p'ti boul. I di a li : « Ti Zan, karès a mwin ankor in pé. »

Alors kan Ti Zan i antan se zoli ti vwa la, li di : « Oté marmay, hé, zot i antan zoli ti vwa la ? Somanké na in zoli prinsès la d'dan. Si mi karès a li, karès a li, pétèt li va voulwar marié ansanm mwin. » Ah la la Ti Zan lé parti, frot froté le ti boul. E plik li frot, é pli le ti vwa dou konm domyèl i réponn a li : « Ti Zan, karès a mwin ankor in pé oté ! » E li frot, é li karès, li karès. E pli li karès, pli le p'ti boul i grosi. Mé la pwin ryink le p'ti boul la grosi marmay.

Kriké !

Kraké !

Kraké !

Sasé !

Koton mayi i koul, ti galé floté !

Pa ryink le p'ti boul la grosi. Le zoli ti vwa dou konm domyèl, sa osi la grosi. Alor ou antan pi : « Ti Zan karès a mwin ankor in pé oté ! » Mé ou antan : « Ti Zan karès a mwin ankor in pé mi di a ou ! » Oté, oté marmay, oté, Ti Zan la trap son dé savat, la mèt dann son bra, Ti Zan la rod po sapé, po kouri, po rasé.

彼は匂いを嗅いだ。その小さな球からは何の香りもしてこなかった。チジャンは思った：『匂いのない花ってどういう種類なんだ？ ちょっとこすってみようか。こすったら多分匂いがするだろう』。

そこでチジャンはその小さな球をこすってみた。すると、彼がこするたびに小さな声が小さな球の中からした。その声は彼にこう言った：「チジャン、私をなでて、もう少し」。

チジャンはこの小さな可愛い声を聞いた時に思った：『あれ何だ、この小さな可愛い声は？ 多分、この中に可愛い王女様がいるんだ。僕がこすってこすったら、僕と結婚したがるに違いない』。おやおや、チジャンはまた小さな球をこすり始めた。彼がこするたびに、蜜のように甘い小さな声が応えた：「チジャン、もう少し私をなでて、ねえ！」。彼はそれをさすり、こすり、なでた。そして彼がこすればこするほど小さな球は大きくなった。球は大きくなる一方だった。

クリケ！

クラケ！

クラケ！

追っ払え！

綿が沈んで、石が浮く！

小さな球は大きくなるだけじゃない。蜜のように甘い小さな声も大きくなる。また聞こえてくる：「チジャン、私をもっとなでて、ねえ！」。みんなにも聞こえる：「チジャン、私をもっとなでて、お前に言ってるんだ！」。さあ、なんてこった。チジャンはサンダルを掴んで腕に抱え、チジャンは逃げようとして飛び出し、走った。

La di : « Kwé i lé sa ? Talèr la ou lavé inn zoli ti vwa. Astèr, out ti vwa la fini gro. Ou lé in bébèt ! Mwin la pèr a ou. Mi karès pi a ou mwin. Ma la pèr a ou ! »

E Ti Zan i mèt dovan, i kour. Plik li kour, plik le ti boul i grosi, i kour i kour, i kour, i roul, i déboul, i sa boul déryèr li. Le zoli ti boul la finn ariv in gro gro gro sitrouy. Dé bèl kanèt, in gran bous i kour déryèr li mèm : « Ti Zan karès a mwin ankòr in pé mi di a ou ! » Ti Zan i di : « Mwin la pèr. O sékour ! O sékour ! Mwin la pèr. »

Rèzman si son somin, Ti Zan i krwaz konpèr torti antrinn manz zèrb : « Konpèr torti, o s'kour ! Sov a mwin ! Néna in sitrouy i vé manz a mwin ! » Torti i rogard a li, i di :

« Mé Ti Zan, in gran bonom konm ou la pèr in ti sitrouy ?

- Non, non, non, lé pa inn ti sitrouy, sé in bèl bèl sitrouy. Gard a ou, i ariv, i roul, i déboul, i saboul ! I roul, i déboul, i saboul ! »

E la, torti i vwa le bèl bèl sitrouy, i di : « E mounwar, sort a ou la, alé rod inn ot plas po ou kasyèt, ma la pèr, ma la pèr ! » Torti la donn a li inn kou d'pié dan son déryèr. Ti Zan la roulé, la déboulé, la saboulé. Lariv a tèr ba.

彼は言った：「何だこりゃ？　可愛い小さな声がしてたのに。それが今じゃ小さな声がでかくなって。なんて化け物だ！　怖いよー。なでてる場合じゃない。怖いよー！」。

チジャンは前に向かって走り出した。彼が走れば走るほど、球はますます大きくなった。彼は走って走って走って、あっちに転がり、こっちに転がり、球は彼を追いかけて来た。きれいな小さい球は大きな大きな大きなカボチャになった。二つのばかでかい眼玉と大きな口が彼のあとを追ってくる：「チジャン、私をもっとなでて、お前に言ってるんだ！」。チジャンは言った：「怖いよー。助けて！　助けて！　怖いよー」。

幸いにもチジャンは道で草を食べていたカメじいさんとすれ違った：「カメじいさん、助けて！　僕を助けて下さい！　カボチャがいて僕を食べようとしてるんです！」。カメはチジャンを眺めて言った：

「いやさ、チジャン、あんたのようなちゃんとした男が小さなカボチャが怖いって？

ー　ちがう、ちがう、ちがう、小さなカボチャじゃなくて、大きな大きなカボチャだ。ほら見てよ、やってくる、あっちに転がり、こっちに転がり、飛んで来る！　あっちに転がり、こっちに転がり、飛んで来る！」。

そこでカメはその大きな大きなカボチャを見て言った：「おい坊主、ここから離れて他に隠れる所を当たってくれ。わしは怖い。わしは怖い」。カメはチジャンのお尻に足蹴りを食らわせた。チジャンはあっちに転がり、こっちに転がり飛んで行った。ようやく地面にはいつくばった。



Mé li antan touzour, sitrouy la i ariv : « Ti Zan karès a mwin ankor in pé mi di a ou ! Ti Zan ! » E Ti Zan i kour : « O s'kour ! O sékour ! Mwin la pèr ! Mwin la pèr, o sékour ! »

Rèzman si son somin, Ti Zan i krwaz konpèr kabri. Konpèr kabri antrinn manz zèrb. Ma la mont a zot koman i zèrb talèr la...

« Kabri, kabri, siouplé, sov a mwin, sov a mwin. Mwin la pèr ! Na in sitrouy i vé manz a mwin. Kabri !

- Béééééééé ! In gran bonom konm ou la pèr inn ti sitrouy ?

- Non, non, non, lé pa inn ti sitrouy mi di a ou kabri. Sé in bèl sitrouy, ogard, i ariv, i ariv ! »

E i antan sitrouy la, i roul, i déboul i saboul, i roul, i déboul i saboul :

« Ti Zan karès a mwin ankor in pé mi di a ou ! »

E Ti Zan la pèr, la di : « Protèz a mwin kabri, protèz a mwin ! » Kabri la di : « Non, mwin la pèr, gro sitrouy konmsa, sé in sitrouy lo diab ! Alé rod inn ot plas po ou kasyèt. »

E kabri la donn Ti Zan in kou d'pié dann son déryèr. Ti Zan la roulé, la déboulé, la saboulé, é lariv atèr la. E pi li kour, li kour, li lé fatigé kourir, mé li kour, li kour, mé sitrouy i ariv mèm déryèr li, déryèr li i ariv mèm.

しかし相変わらずカボチャがやって来る：「チジャン、私をなでて、もうちょっと！ お前に言ってるんだ！ チジャン！」。チジャンは走った。「助けて！ 助けて！ 怖いよー！ 怖いよー！ 助けて！」。

幸いにも、チジャンは道でヤギじいさんとすれ違った。ヤギじいさんは草を食べているところだった。どういう感じで草を食べていたか見せてあげよう...

「ヤギさん、ヤギさん、お願いだ、助けて、助けて。怖いよー！ カボチャがいて僕を食べようとしているんだ。ヤギさん！

ー べええええええええ、あんたのようなちゃんとした男が小さなカボチャが怖いって？

ー ちがう、ちがう、ちがう、小さなカボチャじゃなくて、ヤギさん、あんたに言うけど。でかいカボチャ、ほら見て、やって来る、やって来るよ！」。

カボチャはあっちに転がり、こっちに転がり、飛んで来て、あっちに転がり、こっちに転がり：「チジャン、私をもっとなでて、お前に言ってるんだ！」。

チジャンは怖くなって言った：「僕をかくまって、ヤギさん、僕をかくまって！」。ヤギはチジャンに言った：「いや、わしは怖い。こんなでかいカボチャ、こりゃ悪魔のカボチャだ！ 隠れるなら他の場所を当たってくれ」。

そしてヤギはチジャンのお尻に足蹴りを食らわせた。チジャンはあっちに転がり、こっちに転がり、飛んで行き、ようやく地面にはいつくばった。それから彼は走って走って、走り疲れたが、それでも走りに走った。しかしカボチャもあとについてきて、殆ど追いつかんばかりだった。

E o moman ou sitrouy i sar rod po manz Ti Zan, Ti Zan i krwaz konpèr bèf moka. Konpèr bèf moka po manz zèrb. « Kabri, koson, bèf, hum... Bèf, bèf siouplé, kasyèt a mwin, sitrouy i vé manz a mwin, kasyèt a mwin ! » Bèf i rogar a li, i di :

« Meueueuh ! In gran bonom konm ou la pèr inn ti sitrouy ? Meueueuh !

- Non, non, non, Bèf, lé pa inn ti sitrouy, rogard, i ariv, in bèl sitrouy ! »

Bèf i vwa lo bèl bèl sitrouy, i roul, i déboul, i saboul. Bèf Moka malgré li lé bèl bèl konmsa, lo bèf lavé pèr lo sitrouy : « Non, rod inn plas pou ou kasyèt. Meueueuh, Mwin la pèr ! »

E bèf la donn a li in kou d'pié dan son déryèr. Trwazyèm fwa Ti Zan i roul, i déboul, i saboul, ziska tan ké li tomb atèr la koté mwin. Li ariv tèr la koté mwin, mi di Ti Zan :

« Kosa lariv a ou ?

- Hé, na in sitrouy i vé manz a mwin, mwin la pèr, protèz a mwin, kasyèt a mwin siouplé !

- Ti Zan ou na la malis dann out koko. Kosa ou la parti fé ankò ? Kisa ou la parti ravazé ?

- Non, ma la parti zist pès pwason. Nèna in sitrouy la kour déryèr mwin, mi di a ou. Protèz a mwin ! »

カボチャがチジャンを見つけて食べようとしたその時、チジャンはモカ牛じいさんとすれ違った。牛じいさんは草を食べているところだった。「ヤギ、ブタ、牛、えっと、牛だ、牛さん、お願いだ、僕をかくまってくれ。カボチャが僕を食べようとしている、かくまってくれ!」。牛は彼を見て言った：

「ムー——! あんたのような一人前の男が小さなカボチャを怖がるって? ムー——!

— ちがう、ちがう、ちがう、牛さん、小さなカボチャじゃなくて、見てよ、やってくる、ばかでかいカボチャ!」。

牛はその大きな大きなカボチャを見た。そいつはあっちに転がり、こっちに転がり、飛んで来た。モカ牛は、自分もばかでかい牛なんだけど、牛はそのカボチャが怖かった：「いんや、隠れるなら他の場所にしてくれ。ムー——、わしは怖い!」。

牛はチジャンの尻に足蹴りを食らわせた。これで三度目、チジャンはあっちに転がり、こっちに転がり、飛んで行って、私のいるところまで落ちてきた。私のところまで来たので私はチジャンに言った：

「あんた何があったの?

— あのね、カボチャがいて僕を食べようとしている。怖いよー、僕を守ってくれ、かくまってくれ、お願いだ!

— チジャン、お前は頭の中で悪さをたくらんでいたのかい? 何かまたやらかしたのかい? 何かまずいことでもやったの?

— いや、僕はただ魚を釣りに行っただけ。なのに、あのカボチャが僕を追っかけてくるんだ。お願いだから僕を守って!」。

Alor mi di a li : « Ekout, bouz pa, bouz pa ! Mi rovyin. » Mwin la parti la kaz, mwin la ramas badinn mon mémé. Mon mémé néna in badinn. Ma la trap lo badinn, ma la tap trwa fwa atèr : « Inn, dé, trwa. » Kan mwin la tap lo badinn trwa fwa atèr, la tèr la tramlé. Le Sitrouy la roulé, la déboulé, la saboulé, la fini dann milyé la mèr.

Mwin la artap trwa fwa dann la mèr avèk badinn mémé : « Inn, dé, trwa. » La finn trap trwa fwa avèk badinn mémé, la mèr la tramlé, dolo la monté. Rékin la sort dann'lo. Bana la sot dési lo sitrouy, inn par inn, la komans manz a li bout par bout. Ti Zan kasyèt atèr la koté mwin, li ri, li ri kontan d'li :

« Manz a li mèm ! Manz a li mèm !

- Ti Zan, fèrm out bous, fèrm out bous, sirtou, fé pa désord ! »

Pi d'sitrouy. Rékin la manz le sitrouy, bout par bout.

« Rant out kaz astèr. Tansyon, mi vèy a ou, hin. Sirtou arèt fé la malis, arèt ravaz domoun, arèt rant dan la kour domoun !

- Lé bon, mi ravaz pi mi di a ou. Alé a ou touzour, mi vyin la. »

Mi tourn mon do, mi sava, po mwin lé sir ké li sa rant son kaz, li sar pi ravazé li la. Mé marmay, oubli pa sèt ma la di a zot o débi mon zistwar :

« Ti Zan na la malis dann koko. » Li té i pé par ès tèr la san ryin fèr.

そこで私は言った：「いいこと、動かずに、動いちゃだめ！戻ってくるから」。私は家に行って、ばあちゃんのステッキを拾い上げた。ばあちゃんがそのステッキを持っていた。私はそのステッキを握んで地面を三回叩いた：「一回、二回、三回」。私がステッキで地面を三回叩くと大地が揺れた。カボチャはあっちに転がり、こっちに転がり、飛んで行き、最後には海の真ん中に落ちた。

私はばあちゃんのステッキで今度は海を三回叩いた：「一回、二回、三回」。ばあちゃんのステッキで三回叩くと、海が揺れ、高波が起きた。サメの一群が海から飛び跳ねた。そしてサメは一斉にカボチャに飛びかかり、一匹ずつパクパクと食べ始めた。私の横にしゃがんで隠れていたチジャンは笑って笑って喜んで言った：

「食べちゃえ！ 食べちゃえ！

ー チジャン、その口を閉じなさい、口を閉じて、くれぐれも面倒を起こさないように！」。

カボチャはもういない。サメがカボチャをパクパクと食べてしまった。

「もう家に帰りなさい。ちゃんと見てるからね。特に悪さはしないこと、人様に迷惑をかけないこと、人様の庭に入らないこと！

ー わかったよ、もう迷惑はかけないと約束する。もう行っていいよ、僕は帰るから」。

私は振り向いて戻り、彼が家に帰ってもう悪さはしないと思っていた。ところがどっこい、このお話の最初に私が言ったことを忘れないように：『チジャンの頭の中には、いたずらしかない』。彼は何もしないでじっとしていることなんかできやしない。

Ti Zan la parti rotourn dan lo basin. Li ariv dan le basin laba, plin d'pwason. Ti Zan sé trap le pli gro pwason. Konbyin nou la di talèr la. Vin mèt o mwin, lo pwason ! Ti Zan i aminn lo pwason son kaz, i nétoy, i fé kwi, manz. Li rand a li kont ké le pwason lavé in drol koulèr sèlman. Kan li finn manzé, li gard in kou. Li di : « Oté, pwason-la lé bizar, lé oranz, lé oranz, oranz, oranz. Promié fwa mi vwa in pwason oranz konmsa. »

Trap lo pwason, manzé, zèt lo zarèt. Li ésèy dormi. Sèlman son mémwar i travay mèm : « Oté, mwin la oubli gardé si lo pié d'bwa. » Zot i rapèl le pié d'bwa, sèt lé o débi not zistwar, sèt té i pous, té i pous partou. « Ma la oubli gardé si mintnan ké le sitrouy lé finn mor, si lo pié d'bwa lé ankòr la. »

Ti Zan i rotourn dormi. Dann milyé la nwit, li rotourn dan la kour laba ou sa li té sar pès pwason. E la, pié d'bwa lé ankòr la mèm. « Té, mé koman sa s'fé ? Le sitrouy mor, lo diab finn mor, akòz lo pié d'bwa i pous ankòr ? »

E pi Ti Zan i rotourn son kaz. Li rod inn solisyon po tyé lo pié d'bwa. Li trouv pa. E la, li mars dési le zarèt pwason. E li vwa le bann zarèt kan i kas, kan i fann an morso konmsa, i disparèt. Ti Zan i di : « Atann, ma ésèy inn nafèr. » Ramas lo bann zarèt pwason té rès, kraz kraz an morso. Sèm dési tout' lo bann pié d'bwa ké lété antrinn touf lo basin laba. E krwa a mwin marmay.

チジャンは池に戻った。彼が池に着くと魚が溢れかえっていた。チジャンは一番大きな魚を捕まえた。どのくらい大きいかはもう言ったでしょう。少なくとも二十メートルの魚！ チジャンはその魚を家に持ち帰り、洗って調理して食べた。彼が気づいたのは、その魚がどうも奇妙な色をしていたことだった。彼は食べ終わってちょっと眺めた。彼は言った：「何かこの魚は変だな、オレンジ色、オレンジ色、オレンジ色、オレンジ色。こんなオレンジ色の魚を見たのは初めてだ」。

彼は魚をつかまえ、食べて、骨を捨てた。彼は寝ようとした。しかし頭の中がざわついていた：「そうだ。あの樹がまだあるかどうか見るのを忘れていた」。みんなはあの樹のことを覚えているはず。お話の最初にあった、あちこち生えたやつ。「カボチャはもう死んだけど、あの樹がまだあるかどうか見るのを忘れていた」。

チジャンはまた眠りに戻った。真夜中になると、彼は釣りをした場所に戻った。すると樹はまだあった。「一体どういうことだろう？ カボチャは死んだ。あの悪魔は死んだ。それなのにこの樹はなぜまだ生えているんだ？」。

それからチジャンは家に戻った。彼はどうやって樹を始末するか方法を考えた。でも見つからなかった。そこで彼は魚の骨の上を歩いてみた。すると魚の骨が粉々に砕けて消えてなくなるのを見た。チジャンは言った：「ちょっと待てよ、あることをやってみよう」。彼は魚の骨を集めて、砕き、粉々にした。そして池に張り出していた樹の上にまんべんなく振りかけた。すると、みんな私を信じて。



Kriké !

Kraké !

Kan le bann zarèt pwason la tous lo bann fèy, ben, tout' bann pié d'bwa lé mor.

La lang i di, zistwar i rakont, la pa mwin hin. Tansyon zot i di mi rakont zistwar mantèr. La lang i di, zistwar i rakont, ké le sitrouy, sitrouy sèt nou manz, sèt la mèm, sitrouy la Rényon mèm. Le zour ou sar as'té sitrouy la, kan ou sa marsé forin ou byin ou sar bazar, frot a li in pé. Si ou la vi le sitrouy la koz ansanm ou, manz pa sa, as'té pa li sirtou. Mé par kont, si ou la frot lo sitrouy, ou la karès a li, ou la vi ké li la pa di a ou ryin, sa mèm mèm lo bon sitrouy ké ou pé manzé.

Kriké !

Kraké !

クリケ！

クラケ！

魚の骨が葉っぱに触れると、樹全体が死んでしまった。

これはお話がそう言って、物語がそう語っているのであって、私じゃない。だから私が嘘を語っているんじゃない。このお話が言うには、物語が語っているのは、このカボチャがみんなが食べているカボチャ、レユニオンのカボチャと同じものだということ。ある日あなたが市場や八百屋でそういうカボチャを買ったら、ちょっとなでてみてはいかが。もしあなたに話しかけるカボチャを見つけたら、そのカボチャを食べてはだめ、買ってもだめ。でも、なでてでもこすっても、うんともすんとも言わなければ、それは食べてもいいカボチャ。

クリケ！

クラケ！

## 7. Lafrik èk bob

Luco SAUTRON

Kriké !

Kraké !

Lavé in fwa pou innot fwa, mésié lo fwa la manz, kosa ? Son fwa !  
Avèk kosa ? Avèk in grin d'sèl. Mésié lo fwa la manz son fwa avèk inn  
grin d'sèl. Inn grin d'sèl, paské dan la vi la, i fo konèt dosé. Fo pa la pwin  
an mwin, fo pa la pa an tro, donk, inn grin d'sèl.

Lavé in fwa dann in péi, lwin laba. In péi, in péi nou koné. Na sèrtin i  
apèl sa Momon tout' nasyon. Dann péi Lafrik laba, lavé in vilaz. É dann  
vilaz-la, lavé in sasèr. Li té sasèr, li té pèr d'famiy. Li té pa ryin ké sasèr. Li  
té égalman in boug byin gabié. Paské sasèr-la, son nafèr lété alé dann  
la foré. É li té sava toultan èk son lark, son bann flès. Li té aminn avèk li  
inn kalbas. Son lark, son flès lété rar flès-la té i trouv pa la po in gazèl,  
sinon sa kèmm inn ti zibié, li té fini par trapé é raminn o vilaz. Si li té trouv  
pa zibié, dann son kalbas-la, li té i mètt zèf kay, li té i mètt do myèl, é la  
ankor, li té aminn bann plézir la savann, bann plézir la foré dann vilaz.  
Mé, sat lété byin gayar sèt li té i raport, mé sèt li té i ème lo plis, sé ke  
kan li té i rovyin dann vilaz, li té vyin rakonté kosa li lavé vi dann la  
savann, kosa li lavé vi dann la foré, kosa li lavé antandi dann lot vilaz,  
dann lot tribi a koté.

## 7. アフリカとポーブル

リュコ・ソートロン

クリケ！

クラケ！

昔々、ある時<sup>フォワ</sup>フォワさんが食べた、何を？ 自分の肝<sup>フォワ</sup>を！ 何をつけて？ ひと粒の塩。フォワさんは自分の肝<sup>フォワ</sup>をひと粒の塩をつけて食べた。ひと粒の塩、というのもこの世では分量が肝心。少な過ぎるのはだめ、多すぎてもだめ、だからひと粒の塩。

昔々、ひとつの国があり、ここから遠かった。その国は我々が知っている国だ。ある者はそれを、すべての国の《母》と呼んでいる。そのアフリカの国にひとつの村があった。そしてその村にひとりの狩人がいた。彼は狩人であり、家族の父でもあった。彼は狩りをするだけではなかった。彼はとても頭のいい人間だった。その狩人の仕事は森へ行くことだった。彼はいつも弓と多くの矢を携えていった。彼はヒョウタンも持っていった。彼が矢でガゼルや小さな獲物を仕留め損なうことは減多になく、彼はそれらを捕えたら村に持ち帰った。もし獲物が見つからなかった時でも、彼はヒョウタンの中にウズラの卵を入れ、ハチミツを入れるなど、サヴァンナのお楽しみ、森のお楽しみを村に持ち帰った。彼が持ち帰るそれらはとても喜ばれたが、彼がさらに好んだのは、サヴァンナや森で見たこと、他の村や隣の部族で聞いたことを村に戻って語り聞かせることだった。

Kan lo swar tout' domoun lété rasamblé otour lo fé, li té la, li té fyèr,  
tanto anvoy inn dévinèt :

« Kosa in soz ? Mon tonton i fé in pon. Li tousèl lé kapab marz dsou.  
Kosa i lé ?

- In zarnyé ! »

Sinon, sa, li té kapab rakonté koman avèk son zié, li la vi in gazèl sap  
dann pat in léopar, donn ali digaz dann la kours. E la, kan tout domoun  
té atantiv, li té rakont kosa lo vilaz la rakonté, nouvèl lot' bann lot' koté  
par laba. Li lété fyèr kan li té vwa bana té akout a li.

Konmsa, in kou, li la pran son lark, son bann flès, son kalbas, é li la  
monté dann la foré, li la travèrs la savann. E li la tourné, li la gardé, li la  
viré, li la déviré. Inntiork, inn tras zibié li la pa vi. Li la monté, li la d'sann,  
ryin mèm. Mèm pa inn mous konm i di. Mèm pa in morso d'ri sovaz  
po li rampli son kalbas. Pardési, li la pa krwaz pèrsonn. É sa, la trakas a  
li paské dabitud, mèm si li trouv pa ryin, mé kan li ariv, li aport touzour  
in nouvèl. Bin, mèm si i rampli pa lo vant, i fé plézir lo zorèy. La, mèm  
pa inn moun li la krwazé. Li la fini par trouv inn ti pié d'bwa, in pié  
zakasia. Li la asiz dosou, é la, li la rogard son bann zoutiy dann son min,  
son lark, son flès. Kosa li sar fé ? Li la mèt a li a tapé si la kord son lark, é  
li la konm antandi inn son li té zamé antandi. Li di konmsa. Li va èsèy  
rapros lé dé byin ansanm, se kalbas èk son lark, li va vwar. Li la trouvé  
kosa li sava rakont o vilaz.

夕暮れになるとみんなが火の周りに集まり、そこにいる彼は機嫌がよく、時々謎々を出した：

「《これ何だ？》 おじさんが橋を作ってた。ただひとりその下を歩けるのは何だ？

ー クモだ！」。

その他にもまた、彼は自分の目を見た、ガゼルがヒョウの脚を逃れ、走ってふり払う様子を語ることができた。そしてみんなが熱心な時には、彼は近くの村がどうだったとか、他の村のニュースなどを語った。みんながそれに聞き入ると彼は嬉しかった。

こうしたある日、彼は弓矢とヒョウタンを持って森に上り、サヴァンナを横切った。彼はあちらこちら巡り、見渡し、探しに探した。何も見つからず、獲物の跡すらなかった。彼は上ったり下ったりしたが、やはり何もなかった。ハエの一匹もいなかった。ヒョウタンに入れる一握りの野生の米もなかった。それどころか誰とも行き遇わなかった。それで彼は心配になってきた。というのも、普通なら何も見つからなくても戻った時にニュースのひとつぐらいは持ち帰ったからだ。それはお腹の足しにならなくても、耳を喜ばせる。ところがその時は誰にも遇わなかった。彼は結局小さなアカシアの樹を見つけた。その下に座って、そこで自分が使っている弓と矢を手にとって眺めた。これで何かできるだろうか？ 彼が弓の弦を叩いてみると、今まで聞いたことのない音がした。こんな感じの。彼はヒョウタンと弓の二つをぴったり近づけてみた。こんな風に。彼はこれで村での話のネタを見つけた訳だ。

Li la antandi in son li la zamé antandi. Byin sir, li la pa raminn zibié, mé li la raminn in nafèr pou zot : « Ma la antandi inn nafèr ké zot la pankor antann. »

Kan toulmoun té byin rasamblé otour lo fé, li la fé ékout a zot. On diré, on diré lo kalbas i koz. E la, lo bann pli zèn té i konpran pa tro, é lo ban pli vié la di konmsa : « Sa na pa ninport kèl son. Sa la pa ninport kèl son. Sa la vwa nout bann zansèt ! E konmsa, a sak fwa, dann la tribi, kan té anvi pran in désizyon, kan té i vé prann in désizyon, té i pran lo lark ki koz, lo lark mizikal po konèt kèl désizyon bann zansèt i mèl dann nout tèt. Si lavé pwwin in kalbas, té i fouy in gran trou dan la tèr, té i mèl in lark pard'si é ti fé koz la tèr. »

Konmsa, bann domoun péi-la, la parti an voyaz. Pa voyaz organizé, pa voyaz dé lwazir, pa voyaz dafèr. Non, voyaz forsé. Zot la parti an lèsclav dann in bon pé péi. E partou ousa zot la parti, se lark-la la swiv a zot. O Brézil, i apèl sa bérinbao, é sa i ritm la kapuera. A Madagaskar i apèl a li jeju lava. A Moris, i apèl a li bonm, Sésèl osi. A La Rényon i apèl a li bob. Isi, i mélanz avèk roulèr, kayanm, i fé sonn maloya.

Kriké !

Kraké !

彼は今まで聞いたことのない音を聞いた。勿論、彼は獲物を持ち帰りはしなかったが、村人に何かを持って帰れる訳だ：「僕が聞いたのは、彼らが一度も聞いたことがないものだ」。

みんなが火の周りに集まった時に彼は聞かせた。それはまるで、ヒョウタンが語っているようだった。若者たちは余り分からなかったが、年寄りたちはこう言った：「この音だ。この音だ。これこそまさに我々の祖先たちの声だ！　こうやっていつも部族の中で何かを決める時に、語る弓を用いたものだ。祖先たちが我々の頭の中にどういうことを決めたのかを伝えるための音の弓だ。ヒョウタンがなければ、地面に大きな穴を掘り、その上に弓を置いて地面に語らせたのだ」。

そうしてこの国の人々は旅に出かけた。それは団体旅行や、気晴らしのため、仕事のための旅ではない。いや、強いられた旅だった。彼らは奴隷として多くの国々に出かけたのだ。そして彼らがどこに行こうと、この弓が一緒についていった。ブラジルではビリンバウと呼ばれ、カポエイラ<sup>[格闘術]</sup>にリズムをつける。マダガスカルではジェジョ・ラヴァ<sup>[またはジェジュ・ラヴァ]</sup>と呼ばれる。モーリシャスではボン、セーシェルでも同じだ。そしてレユニオンではボーブルと呼ばれる。ここでは、ルーレ<sup>[馬乗りになって両手で叩く大太鼓]</sup>とカヤンプ<sup>[木材、種、サトウキビの茎で作った体鳴打楽器]</sup>と共にマロヤ<sup>[レユニオンの代表的な音楽ジャンルで2009年に無形文化遺産（ユネスコ）]</sup>を奏でる。

クリケ！

クラケ！



## 8. Maloya

Jean-Pierre ACAPANDIÉ

Kriké !

Kraké !

lé krik !

lé krak !

lé mistigri !

lé mistigrak !

Zistwar mi sar rakont a zot la, la éspas isi mèm la Rényon. Danntan-la, lavé in sato isi. Eské zot i koné ? Eské zot la antandi ké lavé in sato isi la Rényon ? Pètèt ké zot lé pa okouran. Pètèt ké zot lété pa ankò né osi.

Kriké !

Kraké !

E wi, danntan-la lavé in sato, é dann sato-la konm partou dann bann sato, lavé in rwa, in rènn avèk in prinsès.

Kriké !

Kraké !

E lo rwa-la lavé in gran sato, mézami ! Mé dann se sato-la, lavé plin mèb konm dann tout bann sato, lavé plin tablo, lavé tousa la. Mé, dann son kour, la pousyèr lété partou. Lavé pwin in flèr té planté dann la kour sato-la.

## 8. マロヤ

ジャン＝ピエール・アカパンディエ

クリケ！

クラケ！

イエクリ！

イエクラ！

イエミツイグリ！

イエミツイグラ！

今からみんなに話すこの物語の舞台はここレユニオンだ。その頃ここに城があった。みんな知ってたかい？　ここレユニオンに城があったなんて聞いたことあるかい？　多分知らないだろう？　まだみんなは生まれてなかったんじゃないかな。

クリケ！

クラケ！

そう、とにかくその頃は城があって、他の多くの城のように、王様がいてお妃とお姫さまが住んでいた。

クリケ！

クラケ！

そして大きな城にその王様は住んでいたんだ！　その城の中には他の城のようにたくさん家具があり、たくさんの絵とかそういうものがあった。ところが庭の中は至る所に埃だらけ。その城の庭には花などまったく植えられてなかった。

Kriké !

Kraké !

In zour, lo rwa-la li la maziné, li la di : « Té, la pa posib pou in rwa konm mwin-la, dann mon kour na plin la pousyèr konmsa baya. Non, mi pé pa kontinié konmsa. I fo mi sar rod a mwin in zardinié, konmsa li va plant' pou mwin tout kalité flèr. E mi vé tout flèr nana isi la Rényon. I fo pa i plant a mwin lo mèm ! I fo tout lé diféran, paské sèk mi vé, sé ké dann mon kour, tout bann flèr la nora bann lodèr diféran, é nora tout koulèr mélanzé. Sava kontant mon kèr. »

Kriké !

Kraké !

Lo tan la pasé, dolo la koulé.

In zour, lo rwa li la antandi ké lavé in zardinié li lété gabié. Tousèt li té mèr dann son min, li té mèr dann la tèr, té i pous.

Kriké !

Kraké !

Alor, li la fé vénir lo zardinié-la po travay po li. Zardinié-la lèr li la arivé, li la vi la kour lo rwa koman lété an pousyèr, li la di : « Mon rwa, kas pa la tèt. Dann inn an out zardin s'ra fléri partou, é ou mèm ou va vwar ou va di a mwin si ou s'ra kontan, é si ou lé pa kontan, bin, ou pé mèr a mwin déor. »

Kriké !

Kraké !

クリケ！

クラケ！

ある日、その王様は思った：『ふう、わしのような王にとって、庭が埃まみれというのはありえない。このままにはしておけない。庭師を探さねば、そしてそいつにあらゆる種類の花をわしのために植えさせよう。ここレユニオンにあるすべての花がいい。同じ花だけ植えてはいかん！ 全部違うものでないといかん。わしが望むのは自分の庭に違う香りのあらゆる種類の花、あらゆる色が混ざった花があることだ。さぞかし心が浮き立つことだろう』。

クリケ！

クラケ！

時は過ぎ、水は流れた。

ある日、王様はとても腕のいい庭師がいるという噂を聞いた。彼が手にしたものすべては、土に植えれば芽が出るという噂だった。

クリケ！

クラケ！

そこで、王様は仕事をさせるためにその庭師を来させた。その庭師はやって来て、王様の埃まみれの庭を見て言った：「王様、心配はご無用です。一年後にはあなたの庭は花で一杯になるでしょう。それをご覧になってお気に召されたかどうかを私に言って下さい。もしお気に召さなかったら、その時は私をお払い箱にして下さい」。

クリケ！

クラケ！

Lo tan la pasé, dolo la koulé.

Tou lé zour, lo zardinié té travay dann zardin lo rwa. Inn an la pasé. Lèr zot té rogard dann sato lo rwa, dann son kour, eh bin, flèr lavé pous partou mézami. Flèr..., hin hin ! Alor, son zardinié, tou lé zour té travay ladan. Bann flèr-la tèlman lété zoli, sa lavé atir bann papiyon, mé osi bann zwazo. Mé lavé pa ryink papiyon ansanm zwazo mézami, bann flèr-la la atir bann mous a myèl. Mous a myèl lav'ni an poundiak dann la kour sato lo rwa-la. E lo matin, lèr tout domoun té i lèw, zot lété présé lévé gran matin, mézami, pou zot réspir parfin bann flèr té i sort dann la kour lo rwa.

Kriké !

Kraké !

Lo tan la pasé, dolo la koulé.

In zour, lo zardinié lété antrinn graté dann la kour zardin lo rw-la, kan, toudinkou li antan bann mous a myèl : « Zzzzz... zzzz... zzzz... » « Ah, kosasa ? »

Oté, dann sato lo rwa, a koté, pa tro lwin, lavé in vié rangar. Zot i koné kosa i lé in rangar ? Alor, lèr li ariv a koté, li antann : « Zzzzzzzzzzz... » Li rouv la port rangar-la. Dann lo rangar, li vwa lavé trwa gro bak. Sa lété plin ansanm domyèl. Domyèl mézami ! Domyèl-la lété zonn konm lor ! Domyèl-la sa té i san bon, baya ! Alor, toutswit, lo zardinié la kouri po alé kri lo rwa : « Mon rwa, mon rwa, hin, gran rwa ! » Mé lo rwa té dor ankòr. « Mon rwa, mon rwa ! » Alor lo rwa la di : « Kisa pou kri konmsa dann gran matin ? »

時は過ぎ、水は流れた。

毎日庭師は王様の庭で仕事をした。一年経った。その頃には王様の城、王様の庭に、そう、あちらこちらに花が生えているのが見られた。花... ほらほら！　そして庭師は庭の中で毎日働いていた。たくさん花はとてもきれいで、多くの蝶々、それに多くの鳥を引き寄せた。蝶々や鳥だけではなく、それらの花はミツバチも引き寄せた。ミツバチは群れを成して王様の城の庭に押し寄せた。そして朝になると、多くの人たちが早起きして、王様の庭で多くの花が放っている香りを嗅ぎにやって来た。

クリケ！

クラケ！

時は過ぎ、水は流れた。

ある日、庭師が王様の庭で地面を耕していると、たくさんミツバチの羽音が聞こえた：「ズズズズ... ズズズズ... ズズズ...」。「おや、あれは何だ？」。

ほら、王様の城の脇には少し離れたところに古い納屋があった。みんな納屋というのは知っているだろう？　そこで庭師がそこに行ってみると、彼に聞こえてきた：「ズズズズズズズ...」。彼は納屋のドアを開けた。納屋の中には大きな桶が三つあった。それらはハチミツで一杯だった。ハチミツだ！　金色のハチミツだ！　そのハチミツは素敵な香りだった！　そこで庭師はすぐに走って行き、王様を呼んだ：「王様、王様、おーい、大王様！」。しかし、王様はまだ眠っていた。「王様、王様！」。王様が言った：「朝早くからそんな風と呼んでは誰だ？」。

Li la rouv son fénèt, li di :

« Kosa la ariv a ou gran matin po kri konmsa-la ?

- Mon rwa, vyin, mwin na inn zafèr po mont a ou mon rwa !

- Gran matin konmsa-la, mon figir pankor lavé, ou fé lèw a mwin fé sort a mwin dann mon li konmsa !

- Mon rwa, vyin, vyin vitman mon rwa !

- Si ou la fé désann a mwin pou ryin-la mounwar, ou va konprann a mwin ! »

Alor, lo rwa li la d'sann anba. Kan zot lariv koté lo rangar, li antan :

« Zzzzz... » Lo rwa i di :

« Bin, kosa i lé sa ?

- Mon rwa, mon rwa, vyin vwar sa mon rwa ! »

Alor, lèr li rouv lo rangar. Lo rwa i vwa lé trwa bak lété ranpli ansanm domyèl. Li di :

« Oté, bin, bann mous a myèl la fé domyèl anndan-la ?

- Wi, mon rwa ! Mon rwa, hin, atann ma gouté ma vwar. »

Li trap in bwa, li mèl dann in bak : « Hum... hum... Ha... ha... Hum. »

Lo rwa i gard a li, i di :

« Koman i lé ?

- Hum... hum... hum...

- Koman i lé lo myèl la ?

- Humm... Humm...

- Koman i lé ? Lé dou, lé salé, lé amèr, koman i lé ? Mi koz èk ou la ?

- Humm... Humm... »

王様は窓を開けて言った：

「朝早くにそんな風に叫ぶとは一体何事だ？

－ 王様、いらして下さい。あなたにお見せしたいものがあります、王様！

－ こんな朝早くにか、わしはまだ顔も洗っておらんのに、お前がわしを起こしてベッドから引っ張りだすとは！

－ 王様、来て下さい！すぐに来て下さい、王様！

－ お前がわしを下に降りさせて何もなかったら、承知せんからな！」。

王様は降りて来た。二人で納屋に着いた時に聞こえてきた：「ズズズズズ...」。王様は言った：

「おい、これは何だ？

－ 王様、王様、これを見に来て下さい、王様！」。

そこで庭師がドアを開けた。王様はハチミツで一杯の三つの桶を見つけた。彼は言った：

「何と、ミツバチたちはこの中でハチミツを作ったのか？

－ そうです、王様！ 王様、しばしお待ちを、私が味見をしてみます」。

彼は枝を掴んで桶の中に突っ込んで舐めた：「ふむ... ふむ... はあ... はあ... ふむ」。王様は彼を見て言った：

「どうだ？

－ ふむ... ふむ... ふむ...

－ で、そのハチミツはどうなんだ？

－ ふむ... ふむ...

－ どうなんだ？ 甘いのか、しょっぱいのか、苦いのか、どうなんだ？ お前に言っているんだ！

－ ふむ... ふむ...」。



In moman doné, lo rwa té énèrvé. Li la aras lo bwa dan son min, li la di :

« Donn isi ma gout in kou ! Ah, Hum... Oté baya, in myèl konmsa ma la zamé trouvé ! Oté, domyèl konmsa la pwin dann péi-la !

- Ah, mon rwa, ou na rézon, in myèl konmsa i trouv pa dann péi-la. Mon rwa èk domyèl-la... hé, hé, nou pé giny larzan an poundiak èk sa mon rwa ! Avèk domyèl-la, nou pé ni ris mon rwa ! »

Lo rwa i gard a li, i réflési in kou, i di : « Hum, ou lé pa kouyon. Lé bon vréman lidé la. »

Alor, lo swar, lo rwa èk son zardinié, zot la prépar in ta ti bokal domyèl. E landmin matin, li la donn sa son zardinié avèk dé gard po sirvéyé, po bana alé vann sa dann lo vilaz.

Kriké !

Kraké !

Lé dé la parti avèk zot panyé. Zot la aminn èk zot in tanbour, paské danntan-la té falé sone lanons konmsa : « Oyé, oyé, oyé, néna domyèl pou nou vand, na domyèl lo rwa, vyin gardé ! »

Tout' domoun, mézami, ké lété dann lo vilaz, bana lav'ni gété po vwar. Sèt té po songne marmay, la dépoz a tèr. Sèt té po graté, la lès lo pyos la mèm. Sèt té po tri dori, la lès la vann la mèm, poul mèm la manz tout'.

Kriké !

Kraké !

そのうちに王様はじれったくなってきた。彼は枝を自分の手に掴んで言った：

「わしにちょっと味見させてくれ！ ああ、ふむ... おお何と、こんなハチミツは味わったことがない！ 国中を探してもこんなハチミツはない！

ー ああ、王様、その通りです、こんなハチミツはこの辺りでは見たことはありません。王様、このハチミツで... うん、これで大金を稼げますよ！ このハチミツで金持ちになれますよ、王様！」。

王様は彼を見て、少し考えてから言った：「ふむ、お前は馬鹿ではないな。そいつはとてもいい思いつきだ」。

そこでその夜、王様と庭師は小さなハチミツの壺を用意した。そして次の日の朝、王様は庭師に見張り用の二人の衛兵を付けて、それを売りに村に行かせた。

クリケ！

クラケ！

彼らは籠を持って出発した。彼らは太鼓も持っていった、というのも、その頃は太鼓でこんな風に触れ回っていたからだ：「謹聴！ 謹聴！ 謹聴！ ハチミツはいらんかね、王様のハチミツだ、ご覧あれ！」。

村にいた連中が何とみんな押し寄せて見に来た。子供の面倒を見ていた者はそれを地面に放り出した。畑を耕していた者は鍬を置いた。稲をこいていた者は風のままに放つたらかして、雌鳥が全部食べてしまった。

クリケ！

クラケ！

E zot la parti vwar. Mé konm zot i koné, dann in vilaz na tout kalité domoun. Néna sèt lé ris é sèk osi, lé pov, lé tout. Alor, tout lani, zot lani vwar. Alor bana la trap lo ti bokal, inn ti bokal konmsa mézami. Zot la di :

« Sa domyèl konmsa, zot la zamé gouté. Domyèl konmsa zot i trouv pa dann péi-la. Sa domyèl lo rwa mézami !

- Bin, konbyin ou vann sa ?

- Sinkant fran lo bokal.

- Sinkant fran inn ti bokal konmsa ? Ah, lé tro sèr ! »

Alor, innot moun pov la rov'ni :

« Konbyin ou di ? Sinkant fran ?

- Sinkant fran.

- Ah, lé tro sèr ! »

Mé, parmi bana, lavé bann ris : « Konbyin ou di ? Sinkant fran ? Donn a mwin trwa bokal ! » Lot la arivé : « Donn a mwin sink ! Donn a mwin sis ! » Inn nèstan mézami, lo panyé lé té vid.

Kriké !

Kraké !

Zardinié èk lo gard i armont sato lo rwa laba, zot lété kontan.

Lo tan la pasé, dolo la koulé.

Lo tan la pasé, dolo la koulé, lo rwa tou lé zour li té asiz dann son gran fotèy konmsa. E a koté li lavé son bann panyé ansanm son bokal domyèl. Tou lé zour lavé lo bann mèm moun ris té i vyin asté son myèl. Toultan lo bann mèm moun té i di : « Mon rwa, out myèl-la lé gayar mon rwa ! Ah, myèl konmsa, la zamé trouvé dann péi-la ! »

そして村人みんなが見に来た。しかしご存じのように村には色んな人がいる。金持ちもいれば貧乏人もいる。その時はみんな見にやって来た。そして庭師が小さな壺を掴んだが、このぐらいの小さな壺だ。それからみんなに言った：「これがハチミツだ、みんな今まで味わったことがないものだ。この辺りでは手に入らないハチミツだ。王様のハチミツだ！

－ それで、幾らで売るんだい？

－ ひと壺五十フラン。

－ そんな小さな壺が五十フランだって？ ああ、高すぎる！」。

その時、もうひとり貧乏人がやって来た：

「あんた幾らだと言った？ 五十フラン？

－ 五十フランだ。

－ ああ、高すぎる！」。

ところが大勢の中に金持ちがいた：「幾らだと言った？ 五十フラン？ ジャ三つくれ！」。他の者もやって来た：「五つくれ！ 六つにしてくれ！」。あっという間に、籠は空になった。

クリケ！

クラケ！

庭師と衛兵は王様の城に戻り、彼はとても喜んだ。時は過ぎ、水は流れた。

時は過ぎ、水は流れ、王様は毎日、大きな肘掛け椅子にこういう風に座っていた。その横にはハチミツの壺が入った籠がたくさんあった。毎日たくさんの金持ちがハチミツを買いに来た。そして彼らはいつも王様に言うのだった：「王様、あなたのハチミツは素晴らしい、王様！ ああ、こんなハチミツはこの辺りでは見たことがありません！」。

A in moman doné, lo rwa té fini komans fatigé. Toultan, mèm tèt i vyin vwar li po di a li sa. Li di : « Hin, mwin lé fatigé. Mi voudré ké tout domoun lé dann péi-la, ki swa ris, ki swa pov, ké zot i gout mon myèl, é ké zot i vant mon myèl. Ké zot i di : « Mon rwa, in myèl koma, ah..., mi trouv pa. Out myèl lé pli bon ké tout sèt néna dann la rézon-la. » Mé koman mi sar fé ? Ah, pa posib ! » Alor, li komans réflési.

Kriké !

Kraké !

« Hé, baba ! Ha, ha, ha, ha, mwin, mwin lé in zéni. Ma la trouv in lidé, in lidé pa posib ! »

Alor, li kri son gard avèk son zardinié : « Gard, zardinié, vyin a zot va. Hé, hé... Ah, mounwar, mwin néna kèksoz. Alé vwar tout domoun, sèt la pa giny gout mon myèl. Di a zot si zot i vé gout mon myèl, i fo ké zot i kré in mizik i fé bouz mon kor, i fé bat mon kèr, i fé viv mon lèspri. E la, ma donn a zot in gro kalbas domyèl, é zot va giny partaz ant zot tout. »

Kriké !

Kraké !

Lo zardinié ansanm lo gard la désann dann tout vilaz : « Oyé, oyé, oyé, oyé ! Mwin na in mésaz lo rwa pou zot ! »

- In mésaz lo rwa ? »

Tout' domoun lav'ni.

そうこうするうちに王様は飽きてきた。いつも同じ顔ぶれが彼に会いにやって来てそう言うからだ。彼は言った：「はあ、わしは疲れた。わしはこの国のすべての民に、金持ちであろうと貧乏人であろうと、みんなにわしのハチミツを味わってもらい、わしのハチミツをほめてほしいのだ。彼らがこんな風に言ってくれば：『王様、このハチミツは、ああ... 見たことはありません。あなたのハチミツはこの地方のどこのものよりも素晴らしいです』。でもどうやったらそうなるだろう？ ああ、どうしようもない！」。そこで彼は考え始めた。

クリケ！

クラケ！

「そう、これだ！ はははは、我ながら天才だ。いい考えが見つかった、すごい考えだ」。王様は衛兵と庭師を呼んだ：「衛兵、庭師、二人で来い。いいか... ちょっと思いついたことがある。わしのハチミツをまだ味わっていない連中のところに行け。彼らに、ハチミツを味わいたい者は、わしの身体を動かし、心を打ち、精神を震わせる音楽を創れ、と伝えるのだ。それから、その者には大きなヒョウタン一杯のハチミツを与えるので、皆と分けあえばよい、と」。

クリケ！

クラケ！

庭師と衛兵は村まで下りて行った：

「謹聴、謹聴、謹聴、謹聴！ 皆への勅令を持ってきた！

ー 勅令だって？」。

みんながやって来た。

« Lo rwa la di konmsa, si zot i vé gout son myèl, sèt la pa giny gouté, bin, i fo ké zot kré in mizik i fé viv son kor, i fé bat son kèr, é i fé viv son lès-pri. E la li va donn a zot in gro kalbas domyèl ké zot va giny partaz ant zot. »

Kriké !

Kraké !

« Zot lé dakor pa dakor ? Ah bin si zot lé dakor, randévou dann trwa zour dovan sato lo rwa. »

Kriké !

Kraké !

Alor, zot la parti.

Lo tan la pasé, dolo la koulé.

Trwa zour apré, dovan sato lo rwa, domoun té i buiy an gaspi, plin domoun. E la, sèt a ki, lavé prépar zot dans, zot mizik pou fé bouz lo kor lo rwa. Toudinkou, lavé lo rwa ansanm la rèn té asiz dann son fotèy. E pi la mizik la komansé. Lavé dé koup larivé é zot la dans in zouklov :

♪ Oté mon doudou, Oté mon lémé, Vyin vyin la, vyin, vyin la dan mé bra, Oté mon doudou, oté mon lémé... ♪

Lo rwa la di : « Oh, oh, non, non, kosa pou fé la ? Kèl kalité dans sa. La pa sa i fé bat mon kèr ! Alé, alé, alé, sort dovan mwin ! »

Bana la parti. Lo rwa i arsis, é pi li artann. Lavé in group bann zèn marmay larivé, é zot la désid dans in rap. Lo rwa la lèw in kou, la di :

« Hé la, pa sa la mizik i fé bouz mon kor, hin ! Sort, sort la dovan mwin ! Alé, alé, alé. »

「王様はこう言われた。王様のハチミツを味わいたい者で、まだ味わっていない者は音楽を創れ。王様の身体を動かし、心を打ち、精神を震わせるような音楽を。それを果たした者には、大きなヒョウタン一杯のハチミツを与えるので、皆と分けあえばよい」。

クリケ！

クラケ！

「みんな承知か不承知か？　そうか、みんな承知ということなら、三日後に王宮の前まで来るように」。

クリケ！

クラケ！

そして彼らは戻った。

時は過ぎ、水は流れた。

三日後、王様の城の前は人々が集まって黒山のひとだかりだった。ある者は、王様の身体を動かすための踊りや音楽を準備してやって来た。そのうち、王様はお妃と共に現れて肘掛け椅子に座った。そして音楽が始まった。二人組がやって来てズーク・ラヴ<sup>【西インド諸島のメロウなダンス】</sup>を踊った：

♪ ねえ僕の彼女、ねえ僕の恋人、おいで、おいで、ここに、おいで、おいで僕の腕に、ねえ僕の彼女、ねえ僕の恋人... ♪

王様は言った：「ああ、だめだ、だめだ、何だそれは？　何てひどい踊りだ。そんなものがわしの心を打つ訳がない！　下がれ、下がれ、下がれ、わしの前から消えろ！」。

踊り手たちは去った。王様は座り直して待った。すると若者たちのグループが登場してラップを披露した。王様は急に立ち上がって言った：「何だこれは、わしの身体を動かすような音楽ではないぞ！　わしの前から失せろ、失せろ！　下がれ、下がれ、下がれ」。



Tout domoun lété la, zot lété trakasé. Koman zot i sar fé ? Kan toudinkou, lavé trwa gramoun larivé, mézami, trwa gramoun. Inn lavé in roulèr, lot lavé in kayamb, inn lavé in bob. Lèr zot larivé, bann gramoun-la la pran la plas. Lo rwa i asiz dann son fotèy. Kan lé trwa gramoun zot la komans santé :

♪ Sin Bénwa Bolyé, solèy i lèw a la mèr, po li kousé la montany, la mont o milyé dé piton ! Al Marlé, a ou mèm dié mon papa, Mardévirin lès son gran sab po fé sort a mwin digneman, Manzé ma zamé manzé bann moman, ouwa fé manz a mwin, Manzé ma zamé manzé bann papa, ouwa fé manz a mwin ♪

Alor, dousman, dousman, lo rwa, son pié la komans bouzé, dousman, dousman, son kor la komans kadansé. Apré sa, lo rwa la lèvé po li dansé. Kan bana la vi lo rwa la komans dansé, la mizik la akséléré.

♪ Kan mwin latandi lo rwa dan lé bwa, La rènn larivé, Kan mwin latandi lo rwa dan lé bwa, La rènn larivé ♪

Alor, tout' domoun la lèvé po dansé èk lo rwa.

♪ Kan mwin latandi lo rwa dan lé bwa, La rènn larivé, Kan mwin latandi lo rwa dan lé bwa, La rènn larivé. Dégaz a nou moman, dégaz a nou, Kalico larivé, Dégaz a nou moman, dégaz a nou, Kalico larivé, Dégaz a nou moman, dégaz a nou, Kalico larivé, A tèr, a tèr, a tèr... ♪

Lo rwa la dansé konmsa mézami. Lo rwa la roulé, roulé, apré sa li la tomb asiz dann son gran fotèy. Transpirasyon té i koul konmsa dési son fron.

そこにいた人々はみんな心配になった。一体どうなるの  
だろう？ その時突然、三人の老人たちが現れた。みんな、  
三人の爺さんだよ。ひとりハルーレ<sup>[馬乗りになって  
両手で叩く太鼓]</sup>を、別のひとり  
はカヤンプ<sup>[木材、種、サトウキビの  
茎で作った体鳴打楽器]</sup>、もうひとりハポブル<sup>[弓にヒョウタ  
ンを共鳴器と  
してつけて糸  
を叩く弦楽器]</sup>を携えていた。彼らは着くと位置を整えた。王様は  
肘掛椅子に座った。三人の老人たちが歌い始めた：

♪ きれいな町サン＝ブノワ<sup>[島東部の  
町]</sup>、太陽は海上に昇り、山  
に沈む、尖峰の間に昇って！ 花輪をあなたに、わが父の  
神、マスライ・ヴェーラン<sup>[タミルの  
神]</sup>よ、あなたの大刀を抜き放  
ち、私を水から出して下さい、ママたちが食べたものを私  
は食べたことがない、私に食べさせてくれ、パパたちが食  
べたものを私は食べたことがない、私に食べさせてくれ ♪

すると、ゆっくりゆっくりと王様の脚が動き始め、ゆっ  
くりゆっくりと身体がリズムを取り始めた。その後、王様  
は立ち上がって踊り始めた。王様が踊り始めたのをみんな  
が見た時、音楽は調子が速くなった。

♪ 森で王様を待っているとお妃が来られた、森で王様を  
待っているとお妃が来られた ♪

するとみんな立ち上がって王様と一緒に踊り始めた。

♪ 森で王様を待っているとお妃が来られた、森で王様を  
待っているとお妃が来られた。ママ、急ごう、王旗が来る、  
ママ、急ごう、王旗が来る、ここに、ここに、ここに... ♪

王様はこんな風に踊った。王様は回って回って、そして  
大きな肘掛椅子に倒れこんだ。王様の額は汗だくだった。

Ah, li té kontan, li la di : « Mézami, sa, sa la mizik i fé bouz mon kor !  
Sa la mizik i fé viv mon lèspré ! Sa la mizik i fé bat mon kèr. Koman i apèl  
sa ? »

Bann gramoun la di : « Sa Maloya ! »

Bin mézami, lo rwa la di : « Lé vré, nou néna tout kalité mizik, tout  
kalité dans, mé sa, i fo pa nou oubli sa. Sa Maloya-la, sa mèm lé gayar,  
sa mèm nou va fé sa nout kiltir, la mizik nout kiltir isi la Rényon. »

Kriké !

Kraké !

Dopis se tan-la, Maloya lé ronomé isi la Rényon. E i di a nou : « Maloya  
la pa nou la fé, gramoun lontan la fé sa. I fo pa nou oubli sa ! »

ああ、彼は喜んで言った：「みんな、これだ、この音楽こそわしの身体を動かす音楽だ！ この音楽はわしの精神を震わせる。この音楽はわしの心を打つ。これは何という音楽なのだ？」。

老人たちは答えた：「これはマロヤといいます！」。

みんな、そこで王様は言った：「誠に、我々には良き音楽、良き踊りがある。これを我々は忘れてはいけない。この素晴らしきマロヤ、これを我らの文化としよう。ここレユニオンの我らの文化たる音楽に」。

クリケ！

クラケ！

この時以来、ここレユニオンでマロヤは知られるようになった。そしてこう言われている：「マロヤは我々が作ったのではない。祖先たちがマロヤを作ったのだ。マロヤを忘れてはいけない！」。

## 9. La Tèr, le Solèy èk La Line

Patricia CHAMAND

Na lontan, lontan mèm... Sété kan la Tèr èk le Solèy lété ansanm, zot té kamarad. E zot té travay dan le mèm san. Zot té travay la tèr, zot té plant mayi. Tout la zourné zot lété ansanm. Parèy sousout èk la mori. Tou sèk zot té i fé, zot té i fé avèk. Té i plant, té i aroz, té i rékolt, té apropp tout.

In zour, dan zot san zisteman, zot la trouv dé gro ze. Zoli ze, gro mèm. Zot lavé zamé vu ban ze konmsa. Se ki fé ke zot la fé zot zourné travay. Apré zot la rant zot kaz. Sakèn la aminn son ze son kaz.

E la, pandan in moman, lé dé la pi trouvé. Le Solèy té vyin travay, la Tèr té i vyin pa. La Tèr té sava travay, té vwa pa Solèy. Lontan apré zot la rottrouvé. Zot i vyin travay, zot i fé zot zafèr. A in moman, le Solèy la demandé :

« Oté, bin, kosa ou la fé avèk out' ze ou la Tèr ? Kwa lé dév'ni ?

- Oté, ma la prépar sa, ma la manz sa. Sa té bon. Ma la lis mon dwa.

Bin, la pi astèr.

- Kosa ? Ou la fé sa. Oté la Tèr, ou la fé sa. Koman ou la réisi a fèr in nafèr koma. »

## 9. 地球と太陽と月

パトリシア・シャマン

昔々、大昔... その頃、地球と太陽は一緒にいて彼らは友達だった。彼らは同じ畑で働いた。彼らは大地を耕し、トウモロコシを植えた。彼らは一日中一緒に、お尻とシャツのようだった<sup>切っても切れない関係</sup>。何をする時も彼らは一緒にやった。彼らは種をまき、水をやり、刈り取り、掃除をした。

ある日、彼らはちょうどその畑で二つの大きな卵を見つけた。きれいな卵でしかも大きかった。彼らは今までそんなに大きな卵を見たことがなかった。彼らはその日の仕事を終えた。それから彼らは家に帰った。それぞれが卵をひとつずつ持ち帰った。

しばらくの間、彼らは顔を合わせなかった。太陽が仕事をしに来た時に、地球は来なかった。地球が仕事をしに来た時、太陽には会わなかった。かなり経ってから、彼らは再会した。彼らは仕事に来て、やることをやった。そのうち太陽が尋ねた：

「よお、君は卵をどうしたんだい、地球くん？ 卵はどうなった？

— うん、料理を作って食べたよ。おいしかった。指までしゃぶったぐらいだ。てことで、もうない。

— え？ 何てことをしたんだ。おいおい地球くん、何てことを。よくもそんなことができたもんだ」。

La Tèr i komans fasé, i di :

« Kwé ? Kwé ou la fé ou ?

- A mwin, ma la antour a li, ma la résouf a li, ma la dig dig a li. In zour, lo ze la ouvèr, la donn a mwin in zoli madam. La pa tousa, tou lé zour, mon madam i donn a mwin in zanfan. »

Bin la, la Tèr, lo gro kèr la mont dési. Sé pa la ont, sé pa la zalousi, li la désid fas avèk Solèy. Se ki fé ke li la pran son atelaz, é li la parti lwin, lwin, lwin.

Dépwi se zour-la, la Tèr èk Solèy, lé séparé. Lé dé lé sakèn son koté. Erèzman, tou konm le Solèy la pa pri rankinn, tou lé swar, tou lé swar, li anvoy si la Tèr son Madam la Line èk tout' son bann zanfan Zétwal po éklèr le fénwar nana dési la Tèr.

Kriké !

Kraké !

地球は気を悪くし始めて言った：

「何だって？ 君はどうしたんだい？

ー 僕はだね、包んで、温めて、撫でていた。ある日、卵が割れてきれいな女の人が出てきた。そればかりじゃない、私の妻は毎日子供を生んでくれるんだ」。

それで地球は悲しくなってきた。それは恥ずかしさでも妬みでもないにせよ、彼は太陽と絶交することにした。そこで彼は地図を持って遠く遠く、はるか遠くに旅立った。

その日を境に地球と太陽は離れた。彼らは二人とも自分たちの側に留まった。幸いなことに、太陽は根に持つ方ではなかったので、毎晩毎晩、地球の上の闇を照らすために、彼の妻である月と、多くの子供たち、つまり星々を地球に送っている。

クリケ！

クラケ！



## 10. Le promyé manteri

Isabelle METZGER-CILLON

Angany Angany,

Arina Arina !

Angany Angany,

Arina Arina !

Mi sar rakont a zot in zistwar ké lé le promyé manteri ké linivèr la invanté, paské la byin komansé in zour, hin. Alor, figir a zot, a lépok ou la éspas mon zistwar, navé pwin ryin marmay, kan mi di a zot ké navé pwin ryin, ryin ryin. Si mi di a ou ké navé pwin ryin, ou krwa a mwin ? Bin, lé mantèr !

Non, navé zist dé zafèr, navé o mwin la Tèr èk lo Syèl. La Tèr è lo Syèl zot lavé tout' lèspas pou zot. Imazinn a ou té gran ! Di kou toultan, lé dé té kolé. Lé dé té abit ansanm zist a koté inn é lot konmsa. Pi lé dé té pas zot tan po zoué, po digdigé, po takiné.

In zour, a fors po takiné, po digdigé... kwa la fé dapré zot ? Lariv piouké ! Té oblizé. Piouk piouké, é in matin, lo Syèl i lèw, rod son kamarad la tèr po zoué, pwin kamarad la Tèr.

## 10. この世で最初の嘘

イザベル・メツゲル＝シヨン

アングニ、アングニ！

アリナ、アリナ！

アングニ、アングニ！

アリナ、アリナ！

「マダガスカル語で昔話を語る時の常套句。深澤秀夫氏によると通常は Angano angano, arira arira 「アングス アングス、アリラ アリラ」であるが、ここでの相違は方言差による。双方の語ともに「話」や「物語」を意味し、またマダガスカル語の「語り」  
では話の最後に置かれる」

私がこれから語るのは、この世界で最初につかれた嘘というお話。だってある日始まったに決まっているんだからね。さて、想像してみて。この物語が起こった頃は何もなかった。もう一度言うけど、何にも何にも何にもなし。私が何もなかったと言うんだから私を信じるよね。ところが、それは嘘！

実は二つのものがあつた。少なくとも《大地》と《空》はあつた。《大地》と《空》はすべての空間を独り占めしていた。それがどんなに広がったか想像してみて！ だから二人はいつもくっついていてた。二人はあっちでもこっちでもいつも寄り添っていた。そして二人は多くの時間を、遊び、くすぐり合い、からかい合って過ごした。

ある日、いつもより強くからかい合い、くすぐり合った...するとその後どうなる？ 口づけになる！ それはなるべくしてそうなった。彼らは口づけを何度も交わし、ある朝、《空》は目を覚まして、遊ぶために相方の《大地》を探したが見つからなかった。

Li di : « Kosa fanm la i fé, don ! Touzour bann fanm mèm. A mwin dépi granmatin ma la fini lévé, èl i dor mèm. Té la Tèr ousa ou lé ? » E la, li antan in ti vwa i souplinn :

« Ah..., ah..., mon vant i fé mal !

- Out vant i fé mal ? Bin kosa ou la manzé yèr swar, don ?

- Bin, ma la manz mèm soz ké ou, mi konpran pa. Hé, agard, mon vant i bouz, néna inn nafèr dédan. Kosa i lé, ma la pèr, kosa i lé ? »

Lo vant i bouz, i gonf, é néna inn ti baba i sort dann lo vant la Tèr ! In zoli ti baba. La Tèr ansanm lo Syèl i gard ti baba, i di : « Té, nout dé ou la fé sa ? Lé Zoli ! Hé, alon fé la fèt, alon fé la fèt po anons son larivé. » I poz lo ti baba a tèr, lé dé parti, i dans. I digdig, i takinn, la oubli ti baba la a tèr.

Angany Angany !

Arina Arina !

Ti baba-la i grandi, i atann touzour : « A zot néna lo non, a mwin, mwin la pwin. Zot la pa oubli a mwin la. Hé, mwin lé atèr-la ! » La Tèr èk lo Syèl i di : « Té lé vré, ne sérès, a li in non, té ! Le ti baba fini grandi. Bin la swazi out non ou mèm èstèr. »

彼は言った：「女ってこうなんだから！　いつも女はこうだ。僕は夜明けに起きるのに、彼女はまだ寝ている。《大地》、君はどこにいるんだい？」。そこで、彼は小さなうめき声を聞いた：

「ああ... ああ... お腹が痛い！

— お腹が痛たって？　昨日の夜、君は一体何を食べたんだい？

— えっと、あなたと同じものよ。訳が分からない。ねえ見て、お腹が動いている。中に何かいるみたい。何だろう、怖いわ、何だろう？」。

お腹は動いて、膨らんで《大地》のお腹から赤ちゃんが出てきた！　可愛い赤ちゃんだった。《大地》と《空》は赤ちゃんを見て言った：「ねえ、私たち二人が作ったの？　何て可愛いのかしら。さあ、お祝いをしましょう。お祝いをして生まれてきたことを報せましょう」。彼らは赤ちゃんを地面に置いて、二人で出かけ、踊った。彼らはくすぐり合い、からかい合って、地面に置いてきた赤ちゃんのことを忘れた。

アングニ、アングニ！

アリナ、アリナ！

その赤ん坊は大きくなり、ずっと待っていた：「みんな名前があるのに、私にはない。みんな私のこと忘れているんだわ。あのね、私はここにいるんだよ！」。《大地》と《空》は言った：「ああ、そうだった。名前を考えてやらなくては。赤ちゃんも大きくなったし。それじゃ、自分でいいと思う名前を選びなさい」。

Alor, ti baba i réflési, i di :

« Bon, mi vé apèl a min la Pli, mi pé ?

- Ah bin, si ou vé, apèl a ou la Pli konm ou vé. Alon fé la fèt nout trwa, hin, po batiz a ou ? »

Lo Syèl, la Tèr, la Pli, la dansé. Dansé, dansé, la takiné, la digdigé. La piouk, piouk.

Landmin matin lo Syèl i ariv, la Pli la fini préparé tout, fini mèt son zoli rob trwa volan, i di :

« Bon, momon ousa i lé ?

- Hum, out moman ankòr innòt parès ankòr. Mwin lé sir li dor ankòr.

Alé vwar a li, fé lèw a li va ! »

Li antann inn ti vwa i anplinye siouplé :

« Ah..., ah... i fé mal !

- Ankòr ?

- Bin wi, gard i gonf, i gonf, i gonf mèm !

- Nana ankòr inn ti baba i sa sort dédan ? »

Le ti baba i ariv, dézyèm ti baba. Kontantman dési lé trwa ! La di : « Té, mèt a li tèr-la pa tro lwin. Se kou-si oubli pa donn a li lo non. Mé an atandan, alon dans in pé. Alon amizé, alon takiné, alon digdigé. Piouk, piouk pi sèlman, arèt in pé. » Bana lé parti, é la oubli a li.

Ti baba-la i plèr, i plèr, i plèr, pèrsonn i antann pa. Bana dann zot kontantman, zot gayardiz, i antann par ryin.

そこで赤ん坊は考えてから、言った：

「そうね、《雨》がいいわ。それでいい？

— それじゃ、お前がそれでいいなら《雨》という名前にしよう。さあ、三人でお祝いだ、お前の命名に！」。

《空》と《大地》と《雨》は躍った。彼らは踊って踊って、からかい合い、くすぐり合った。口づけを交わした。

翌日、《空》が起きると《雨》はもう裾飾りが三つあるきれいな服を着て待っていて言った：

「それでママはどこにいるの？

— ふん、お前の母さんは相変わらず怠け者だ。まだ寝ているに違いない。彼女のところに行って起こしなさい！」。

その時、小さなうめき声が聞こえた：

「ああ... ああ... 痛い！

— またかい？

— そうなの、見て、膨らんで、膨らんで、膨らんでるわ！

— また赤ちゃんが中から出てくるのかい？」。

赤ちゃんが生まれた、二人目の赤ちゃんだった。三人はとても喜んだ！

彼らは言った：「さあ、近くの地面に置こう。今度は名前を付けるのを忘れないようにしよう。でもそれまでの間、ちょっと踊ろう。遊んで、からかい合って、くすぐり合おう。口づけを交わしてから終わりにしよう」。みんなは出かけて、そして赤ん坊のことを忘れた。

赤ん坊は泣いて、泣いて、泣いていたが誰も聞いていなかった。みんな踊って楽しむのに夢中で、何も聞いていなかった。

Ti baba i grandi, i grandi, i grandi, i grandi mèm. Lé nèr i komans mont dési, la kolèr i komans mont dési. Tan li la pwin lo non, li giny pa alé dansé, li giny pa alé takiné, digdigé. La li atann, atann. La ramas in galé. La, li pil la kolèr dési, li pil, li pil, li pil, li pil mèm, é pli li pil, pli ké lé nèr i mont dési li. In moman doné, a fors pil tro for, la tramlé partou.

Ah, lo Syèl i koz ansanm la Tèr, i di : « Té, kafrine, ou koné, nou la oubli marmay-la. Mwin mi sar pa gard sa. Oté, gard koman lé an pétar. Trou d'né lé karté ! Ah, non non, ma pa fé zanfan gro trou d'né konmsa mwin. A ou koz èk li, mi sar pa, sa lé angrinn sa, mwin mi sar pa. » La Tèr i di : « Bin, vyin èk mwin. Ma la pèr mwin. Vyin nout dé ou ! »

Lo Syèl i ariv promié, la karès inn ti pé, la souf inn ti pé lo van dann son sovè. La di a li : « Vyin, vyin a ou mon zanfan. Larg pilon-la. Vyin, alon dansé, alon takiné, alon digdigé, lé gayar fé la fèt ! » Ponkor giny lo non, i pil mèm. Li atann i donn a li lo non. I donn pa, i donn pa.

« Hé, koz in kou èk out sèr. » La Pli i ariv, i larg dé ti gout dolo dési li pou fé fann in pé son kolèr. Ryin ! Lo Syèl, lot koté laba, zot i koné bonom pli kapon ké fanm, a li rès déryèr laba, a li i vyin pa, la di : « Kwa la fé, lé bon ? »

赤ん坊は大きく大きく大きくなった。苛立ちがこみ上げ、怒りがこみ上げてきた。名前がないから踊りにも行けず、からかい合いにも、くすり合いにも行けなかった。彼女は待って、待って待ち続けた。彼女は石を掴んだ。怒りの余り彼女はそれを碎き、碎き、碎きつぶし、碎けば碎くほど苛立ちが募って来た。そのうちに、彼女は全力で強く碎き、その辺り全体が揺れた。

ああ、《空》が《大地》に言った：「なあ、お前、我々はあの子のことを忘れていたよ。僕はあの子を見にいくのをやめておくよ。彼女がどれだけ騒いでいるか見ろよ。鼻の穴を広げて！ ああ、いやいや、こんなに大きな鼻の穴の子を作った覚えはないよ。君が彼女に話してくれ、僕は行かない。あんなに怒っているんだ、僕は行かない」。《大地》が言った：「あのね、私と一緒に来てちょうだい。一人だと怖いわ。二人で行くのよ！」。

《空》が最初に行って、優しく触れ、風を彼女の髪に少し吹き込んだ。彼は言った：「おいで、いい子だからこっちにおいで。そのすり鉢を離しなさい。おいで、踊りに、からかい合いに、くすり合いに行こう。パーティーは楽しいよ！」。未だに名前がないその子は、まだ碎いていた。彼女は自分に名前が付けられるのを待っていたのだ。付けられなかった、付けられることはなかった。

「ねえちょっと、お前の妹に話しに行きなさい」。《雨》がやって来て子供の上に雨を二滴垂らして怒りを少し鎮めようとした。何にもならなかった！ 《空》は反対側にいて、みんな知ってるように、男は女より臆病なので後ろに留まって来ずに言った：「どうすればいいんだ？」。



A in moman doné, la Tèr i sar koz èk lo Syèl, i di : « Té, mwin na in lidé. Ou koné kosa mi fé, a mwin mi pas dosou son pié, mi digdig son pié. A ou la, pas anlèr son tèt ou, bous son dé zié, li s'ra oblizé larg pilon-la, li va vni ! »

La Tèr la pas sous lo pié lo ti fiy, lo Syèl la pas anlèr la bous lé dé zié. Ti fiy-la pilé ankòr pli for, lé nèr dési li. A fors pilé, pilé, pilé, la kolèr dési li, in kou d'pilon la donn dann la tèt lo Syèl. Lo papa la di :

« Té, i fé mal sa !

- I fé mal ? Atann ma donn a ou ankòr ! »

E li pil, li pil, é pli li pil, pli li donn kou d'pwin, kou d'pwin dann la tèt lo papa. Lo papa fatigé giny lo kou, la di : « Eh, mounwar, mwin mi sié èk sa mwin ! »

Li la monté, monté, monté, monté, ziskatan li la arivé la ousa zot i vwa li zordi. Li la fini ariv anlèr laba, bana dann fon, la di : « Hé, hé, bin d'sann a ou don. Ou vyin pi don ? »

Lo Syèl la agard in kou, la di : « Totos, bin lé tro lwin èstèr ! Hé, ma la mont tro lwin, ma la pèr ! Mon kèr i savir, mon tèt i tourn. Té vyin trap a mwin, la Tèr vyin trap a mwin ! » La Tèr la di : « Ou vwa pa mwin lé lour. Koman ou vé mi fé pou mont anlèr laba ? A ou désann. »

そこで《大地》が《空》に話しにやって来た：「あのね、いい考えがあるわ。どうするかというと、私があの子の足の下に行って足をくすぐるわ。あなたは頭の上に行って両目をふさぐの。そうしたらあの子はいやでもすり鉢を離してやって来るわ！」。

《大地》が女の子の足に下に行き、《空》が上に行って両目をふさいだ。その小さな娘はまた一層強く砕き、苛立ちが湧き起こってきた。強く砕いて砕いて砕いて、怒りが湧き起こり、すり鉢の一撃が《空》の頭に当たった。パパは言った：

「あっ、これは痛い！」

ー 痛い？　じゃあもつとしてあげるから！」。

そして彼女は砕いて砕いて砕いて砕いて砕いてから、げんこつで、パパの頭にげんこつを食らわせた。パパは疲れ果てて言った：「もういい、僕はここから離れる！」。

彼は上に昇って昇って昇って、今みんなが見ているところまで達した。彼は天上に着いたが、下界にいるみんなが言った：「ちょっとちょっと、降りてきて。もう戻らないの？」。

《空》はそれを見て言った：「叩かれて、こんな遠いところにいるんだ！　ああ、余りに高く昇ってしまった、怖い！　心は動転しているし、頭はくらくらしている。なあ、迎えに来てくれないか、《大地》、迎えに来てくれ！」。《大地》が言った：「あんた、私が重いこと分らないの？　私にそんな高いところまで昇ってほしいなんてどういうこと？　あんたが降りてきなさい」。

Lo Syèl i ésèy désann. I mèt in pié, in dwa d'pié, i armont toutswit, lé tro lwin ! Li la mont tro o èstèr. La Tèr i rotrov a li dann fon laba. Lo Syèl la di : « Mi giny pa. Pa zordi, pétèt inn ot zour, mi rès lao mwin. »

Angany Angany !

Arina Arina !

La Tèr la rès anba, lo Syèl la rès lao. Mé la Tèr li lé tousèl èstèr. Ek kisa li sa dansé, li sa takiné ? Li giny fé èk la Pli. Mé li sa pa piouk, piouké èk la Pli. Li sa pa piouk, piouké èk son fiy.

Alor, la Tèr la komans tomb malad. Son kor la komans désiré, son kor la komans sèk. Té i rouv partou. Son san la komans koulé. E lo san-la, tèlman la Tèr té tris, tèlman li lavé doulèr, li la pèrd son léomé, son lamour. Lé pa lo san la koulé ? Kosa la koulé dapré zot ? La lav la komans koulé. Son san lété la lav volkan, la komans koulé. Apré sa, la Tèr la komans giny kap kap, té i tramb, té i tramb, té i tramb.

La Pli té i ésèy soutyin son momon, mé ti giny pa. La Tèr té i tramb, mé té i giny pi. Té i giny pi, tèlman li lavé sagrin dési li. A fors tramblé, tramblé, tramblé, la komans sékouy la Tèr partou. La Tèr la komans kas, kas an morso.

《空》は降りようとした。足を一本踏み出し、足の指を一本出したところですぐにまた昇った。余りにも遠すぎた！ 彼は余りにも高く昇り過ぎたのだ。《大地》は地上で彼を見上げていた。《空》は言った：「だめだ。今日はやめておく、多分そのうち。それまでここにいるよ」。

アンガニ、アンガニ！

アリナ、アリナ！

《大地》は下に留まり、《空》は天上に留まった。《大地》は独りぼっちだった。誰と踊ったり、からかい合ったりする？ 《雨》とならできた。でも彼女は口づけを交わすこと、《雨》と口づけを交わすことはしなかった。彼女は口づけを交わすこと、娘と口づけを交わすことはしなかった。

やがて《大地》は病いに侵され始めた。彼女の身体は裂け始め、彼女の身体は乾き始めた。あちこちにひび割れができた。彼女の血が流れ始めた。その血は、《大地》の余りの悲しみと余りの苦しみから出たものだった。彼女は愛する人、恋する人を失ったからだ。血なんか流れないって？ じゃあ何が流れたのか？ 火山の溶岩が流れ始めたのだ。彼女の血とは火山の溶岩で、それが流れ始めたのだった。そうして《大地》は恐怖に捉われて、震え、震え、震え続けた。

《雨》がママを元気づけようとしたがだめだった。《大地》は震え、なす術がなかった。何もできなかった。それほど苦しいが《大地》にのしかかっていた。激しく震え、震え、震え、震え、《大地》は至るところで揺れ始めた。《大地》は壊れ始め、粉々に壊れた。

La Pli la di : « Papa, désann ! Momon lé malad ! » Papa i ésèy désann.  
Mé li fini mont tro lwin. I giny pi.

Promié fwa, promié fwa, lo dézièm fiy la larg son pilon. La li la konpri,  
la di : « A mwin la fé sa ? Kosa ma parti fé ? Akoz dé mwin zordi,  
momon lé malad, momon èk papa la fini séparé. Zamé bana i ginyra pi  
rotrov a zot. Koman mi sar fé ? A mwin la anvoy malédiksyon si mon  
famiy ? Fo mi trouv in manyèr... Fo mi trouv in manyèr po soulaz in pé  
son sagrin. »

Lo papa lao i plèr, i plèr, i plèr mèm, parèy inn ti fiy. Alor, ti fiy-la la di  
non, li la larg son pilon. La di : « Vodémyé mi sava. Vodémyé mi sava  
lwin, lwin, mi vwa pi soufrans bana. Bana i ginyra pi akiz a mwin. Akoz  
dé mwin lariv tousala. »

E pi la part. Li la komans marsé lwin, lwin, lwin, ziskatan son pié la bat  
dann in gro zafèr konmsa. Sa té rond, sa té blan, té klat, té fré. Li la  
trapé, li la mèt sa koté son zorèy. Li la trouv té gayar. Alor, li la koz dan  
lo zorèy lo galé. Té in gro galé konmsa. Li la koz dan lo zorèy lo galé. Lo  
galé la di : « Wi, wi, mi vé, mi vé. » Alor ti fiy la anvoy lo galé anlèr. Galé  
la lariv anlèr, dann lo Syèl, la di :

« Hé, ou koné, out ti fiy anba la anvoy a mwin. La di a mwin konmsa ou  
lé pa tro tousèl, konmsa ma éklèr a ou.

《雨》が言った：「パパ、降りてきて！ ママが病気なの！」。パパは再び降りようと試みた。しかし結局は遠く上の方に昇ってしまった。彼はできなかった。

そこで初めて、次女は初めてすり鉢を手から離した。彼女は悟って言った：「私のせいでこうなったの？ 私が引き起こしたの？ 私が理由で今ではママが病気になって、ママはパパと離ればなれになったのね。みんながまた会うことはもうないわ。私はどうすればいいの？ 私のせいで家族に不幸が降りかかったの？ 何か方法を見つけないと...ママの悲しみを少しでも和らげる方法を見つけないと」。

天上ではパパがまるで女の子のように泣いて泣いて泣きじゃくっていた。その時、娘は「だめ」と言ってすり鉢を捨てた。彼女は言った：「私は去った方がいいわ。遠くへ遠くへ去ってこんな苦しみをもう見たくない。みんな私のせいでうまくいかなかった。私のせいでこんなことになってしまった」。

そして彼女は出て行った。彼女が遠くへ遠くへと歩き始めると彼女の足が大きなものにぶつかった。それは丸くて白いもので、輝いて冷たかった。彼女はそれを拾い上げてそれを自分の耳に近づけた。彼女はそれがとてもきれいだと思った。そして彼女はその石の耳に語りかけた。それはこんなに大きな石だった。彼女は石の耳に語りかけた。石が言った：「宜しい、宜しい、そうしよう、そうしよう」。そして娘は石を空高く投げた。石は天上の《空》のところに着き、こう言った：

「やあ、あなたの娘さんが私をここに遣わした。彼女が私に言うには、あなたが余りにも独りぼっちで過ごしているから、私にあなたを照らしてくれと。」

- Bin, kisa oulé ou ?

- Bin, a mwin la line min. Ou s'ra pi tousèl koméla. Nou dé ou va rès lao dan lo syèl. »

Ah, lo Syèl kontan ! Anfin, li la trouv in moun pou li zoué ansanm. Lé dé la komans dansé, takiné... Sèlman, lo Syèl la di : « Piouk, piouké, nout dé ou i f'ra pa, hin ! Ah non, mwin la ryink inn mi ème, mi sanzra pa. Mé nout dé ou i pé amizé kan mèm pou fé pas lo tan. »

Pwi ti fiy la vi ké son papa i komans èk trankil, komans retrouv in pé, in pé favèr, la di : « Bon, alé. Malé in pé pli lwin. Malé lwin ousa pèrsonn i vwa pa mwin. » E pi la, konm si inn nafèr té i kri a li, son pié la arbat dann innot galé, in galé ankòr pli gro, pli gro. Sa té ron mèm, té zonn, té so. Li la trap lo gro galé, la koz dann zorèy lo galé. Galé la di a li : « Wi, mi vé mèm ! » La anvoy lo gro galé anlèr laba. Gro galé la ariv anlèr, la di :

« Hé, mi pé v'ni èk zot ? Ti fiy la anvoy a mwin. A ou, a ou la line, konmsa tanzantan ou la bézwin ropozé. Ou pé pa rès toutan. Tanzantan ou la bézwin dormi. Bin, kan ou dor, a mwin i pran la rolèv mwin, konmsa li s'ra zamé dann fé nwar-li. E pi, si li la fré, ma résof a li inn ti pé.

- Bin kisa oulé ou ?

- A mwin Solèy ! »

Ala, lo Syèl, la Line, Solèy, bana anlèr i fé la fèt.

— そうかい、あんたは誰だ？

— はい、私は《月》です。あなたはもう独りぼっちじゃありません。私たち二人で空の高みに留まります」。

ああ、《空》は喜んだ！ やっと一緒に遊ぶ相手を見つけたのだ。二人は躍り、からかい始めた... ただ、《空》は言った：「口づけは、口づけは、僕ら二人では交わさないでこう。ああ、だめだ、僕が愛するのはひとりだけで、僕は変わらない。僕たち二人が遊ぶのはただ時間つぶしのためなんだ」。

娘はパパが落ち着き始め、少しずつ元に戻るのを見て言った：「よかった、これで。私はもう少し遠くまで行くわ。誰にも遭わないところまで」。その時、何かが彼女に呼び掛けたように、彼女の足が別の石にぶつかった。その石はずっとずっと大きかった。それは丸く、黄色で、熱かった。彼女はその大きな石を取って耳元に話しかけた。石は彼女に言った：「宜しい、そうしよう！」。彼女はその大きな石を高く投げた。大きな石は天に着いて言った：

「やあ、仲間に入れてくれるかい？ 娘さんが私を遣わしたんだ。君、《月》さん、君は時々休む必要がある。君はずっと留まってははいられない。時々君は寝なければならない。そう、君が寝たら僕が起きてくる、絶対暗くならないようにね。それに、寒くなったら私が彼を少し温める。

— ところであんたは誰だい？

— 僕は《太陽》さ！」。

そこで《空》、《月》、《太陽》はそろって天上でパーティーをした。



Mazinn a zot la Tèr dann fon. La po manzé la raz, i manz la raz, lo dan i zoué lakordéon : « A toué mon ti kitamèr, vwa bonom koman i lé... hin, fini oubli a mwin ! »

La Tèr la arkomans tomb malad ankòr pli for marmay. Tout kalité boubou la Tèr la giny. Konmsa lariv volkan, konmsa lariv tranbléman d'tèr, konmsa lariv tsunami, konmsa lariv tout kalité katastrof nou koné koméla. Ti fiy-la kan la vi sa, la di : « Oté, ma fini okip papa. Astèr i fo mi okip in kou momon. I fo mi gard tousala. Koman mi sar fé ? Pétèt si mi mars in pé pli lwin, ma trouv in lidé. » Ti fiy-la la marsé, marsé, marsé, in pé pli lwin, pli lwin.

E pi li ariv tèr laba, li vwa in ta galé konmsa, tout galé parèy. Ekout byin sèt mi di a zot, sa lé inportan. Tout' parèy, mèm koulèr, mèm form, mèm grosèr, mèm salèr, tout' parèy. Ti fiy-la la trap in ponyé, mi donn a zot in pé osi, trapé, trapé, trap sakèn inn. Koz dan zorèy zot galé èstèr. Lamyinn la di wi, kosa lé zot la di ? La di wi ? Ma la domann a li kèl non li vé, paské i fo nou donn in non, oubli pa zistwar-la lé inportan, si ou na poin lo non, ou éksist pa, hin !

Lamyinn la di li vé i apèl a li lo non Isabèl. Koman i apèl out galé ou ? Bin domann a li ! A ou, koman i apèl out galé, Ann ? A ou, koman i apèl out galé, Junichi, Silvi, Mazaki, Izabèl... ? E ou, ma la anvi apèl a ou Ti Zan. Astèr zot tout, tout zot galé na in non. Poz a li, poz a li, poz a li.

地上の《大地》のことを想像してみて。彼女は怒りを抑えるため、そこでアコーディオンを弾いた<sup>〔伸びたり縮んだりすること〕</sup>：「あなたは最低、まったく男というのはこれだから... 私のことを忘れたのね！」。

《大地》の病気はますます悪化した。彼女はありとあらゆる傷を負った。それは、火山や地震や津波などの厄災となって起こった。娘はそれを見て言った：「そうだ、私はパパに気を取られていた。今はママのことを気にかけないと。すべての病に気をつけないと。どうしたらいいだろう？ 多分もう少し遠くまで歩けば考えが見つかるわ」。娘は歩いて歩いて歩いて、もう少し遠くへ、より遠くへと進んだ。

そしてある場所に着くと、彼女はすべてが同じような石の山を見つけた。いいこと、私がみんなに言うのはそれが肝心だということ。みんな似ていて、同じ色、同じ形、同じ大きさ、同じ熱、みんなそっくり。娘は石を手にとった。私もみんなに少しあげるから、ひとりがひとつずつ取って、取って、取って。石の耳に話しかけて。私の石は返事をしたけど、みんなのはどう？ 返事した？ そうしたら、どんな名前がほしいか尋ねてみて。だって名前をつけなくちゃいけない。このお話ではそこが大事ということを忘れないで。もし名前がなかったら、いないことと同じでしょ！

私の石はイザベルという名前がいいと言った。みんなの石はどう？ さあ、聞いてみて！ アンヌ、あなたの石は何という名前？ ジュンイチ、シルヴィー、マザキ、イザベル...<sup>〔その場にいる人や語り手の友人の名前〕</sup>？ それじゃこの石はチジャンと呼ぶことにする。これでみんな、みんなの石の全部が名前を持ったことになる。これにも、これにも、これにも。

Ti fiy la di : « Astèr, papa fini giny la Line, fini giny Solèy. A zot-la, a zot, tout zot galé mi lès a zot pou momon, a zot rès si la tèr. A zot, a partir dé mintnan, zot s'ra d'moun. Mé zot-la, zamé zot i mont anlèr zot ! A zot rès si la tèr, i fo pa partazé sinon bana va tomb zalou. »

E sé konmsa ké nou nou lariv si la tèr. Ti fiy-la la mèt a nou si la tèr. Mé avan, la mèt a nou, la di : « Oubli pa marmay, zot lé la po protèz momon. Tas manyèr li plèr pi. Tas mwayin li tomb pi malad. Tas manyèr son kor i klat pi po fé tomb tout kalité la maladi, tout kalité boubou. »

Pwi, èl la sant inn ti sanson :

♪ Les gens qui s'aiment, sèment, sèment, sèment. Ti grin lèspwar, ti grin lamour. Inn ti grin lèspwar pou géri la Tèr, Inn ti grin lèspwar dann fé nwar, Inn ti grin lamour pou fé lèv bardzour ! Inn ti grin pou ou, Inn ti grin pou mwin, Inn ti grin pou li, Inn ti grin pou èl, Inn ti grin lèspwar, Inn ti grin lamour, Les gens qui s'aiment, sèment, sèment, sèment... ♪

« E mi donn a zot inn misyon. Zot i vwa pilon ma la po pilé dépi bonèr-la, navé in rézon mwin té po pilé. Ma la pil la kok po lès lo grin po zot. In grin po sakèn. Zot i vwa ti grin ma la donn a zot-la, fé lo tour, gard momon dési tout lanvèrgir, dési tout' koutir. Sak ti trou zot i trouv la, mèt lo grin la dédan. Nou tout nou la parti rod not trou, poz lo grin dédan, bous byin lo trou, hin. »

娘は言った：「今ではパパには《月》がいて、《太陽》がいる。私はあなた方、すべての石をママのために残しておくわ。みんなをこの地上に置くわ。みんな、たった今からみんなはそれぞれひとりの人なのよ。でもみんな、決して天上には昇らないで！ みんな地上に留まって、別れてはだめ。みんながやきもち焼きになってしまうから」。

こうして私たちは地上にやって来た。その娘が私たちを地上に置いたのだ。でも私たちを置く前に彼女は言った：「忘れないように、子供たち。みんなはここにいてママを守るのよ。彼女がもう泣かないようにしてあげて。彼女が病気になるようにしてあげて。彼女の身体が引き裂かれて色んな病気にかったり、色んな傷を負わないようにしてあげて」。そして彼女は歌い始めた：

♪ 愛し合う人たちは蒔く、蒔く、蒔く、蒔く。希望の小さな種を、愛の小さな種を。《大地》を癒すために希望の小さな種を、夜になったら希望の小さな種を、黎明になったら愛の小さな種を！ あなたのために小さな種を、私のために小さな種を、彼のために小さな種を、彼女のために小さな種を、希望の小さな種を、愛の小さな種を、愛し合う人たちは蒔く、蒔く、蒔く、蒔く ♪

「みんなに任務を与えるわ。これは私がずっと前から砕くのに使ったすり鉢。砕くには理由があったのだけど。みんなに種を委ねるためにそれを砕くわ。それぞれにひと粒ずつ。これがみんなにあげる種よ。これを持って大地を巡り、ママの上にあるすべての裂け目、すべての傷跡の手当てをするの。みんなが穴を見つけるたびにその中に種を蒔いて。私たちはみんなで出発して他の穴を見つけ、その中に種を蒔き、穴をしっかりとふさぐのよ」。

Apré sa, ti fiy la kri son sèr la Pli, la di : « Vyin a ou, dans a ou èstèr, dans a ou, dans a ou, alon fé la fèt po momon. » Promié fwa lé dé fiy èk lo momon la dansé, la fé la fèt.

La Pli la monté, la désann, la parti vwar lo papa, la parti rakont tout lo papa, la ardésann. Kan la Pli la désann, la fann partou. Sak ti grin la pousé. Zot bann grin zot la mèt dann lo trou, tout la pousé ! Na inn la donn in pié mang, lot la donn in pié banann, lot la donn in pié koko, lot in pié roz, lot in pié lètsi, lot ankòr in pié zoranz, lot in pié zavoka. E toudinkou, tout boubou la Tèr la fermé. E la Tèr la pli zamé été tousèl paské nou té la. Anfin nou té finn arivé.

Mé zot i di pa, lo Syèl anlèr laba son zalouz'ri la monté li. Li na ryink dé kamarad anlèr-la. Eh bin, li vé arsann. Bin la Tèr la di a li : « Mounwar, bin si ou vé désann ? Mi koné pa kèl kalité transpor ou sar pran. Lé pa koméla po arivé. » Mé tanzantan-la, lo Syèl i di : « Hum, atann a ou. »

Dan la nwit, kan nou té i dor, li té vyin koz dann nout zorèy parèy sèrpan-la, i sif dann nout zorèy konmsa : « Hé, mi giny fé mont a zot si zot i vé. Alon monté ! Mi giny fé mont a ou, mi giny invant in zafèr po giny la zèl po monté, hin ! »

そのあと、娘は姉の《雨》を呼んで言った：「来て、今から踊りましょう、踊って、踊って、ママのためにお祝いをしましょう」。二人の姉妹は初めてママと一緒に踊り、お祝いをした。

《雨》は昇ったり降りたりしながら、パパに会いに行って、パパにすべてを伝えに行き、そしてまた降りてきた。《雨》は降りる時、至るところに降り注いだ。それで小さな種が芽を出した。穴に蒔かれたすべての種が芽を吹いた！ あるものはマンゴの樹になり、他のものは、バナナの樹、ココヤシの樹、バラの樹、ライチの樹、さらにはオレンジの樹、アボカドの樹になった。そしてそのうちに《大地》のすべての傷はふさがった。これで《大地》はもう独りぼっちではなくなった。私たちがいるからだ。ようやく私たちがやって来たのだ。

しかし、みんなには言っていないけれど、天上の《空》は嫉妬を感じていた。彼には天上に仲間が二人しかいなかったから。そこで彼は下に降りようとした。すると《大地》が彼に言った：「今になってあんたは降りたいって？ 私にはあんたがどうやって動こうとしているのかわからない。あんたがたどり着くなんてあり得ないわ」。しかし《空》は時おり言った：「そうかい、待ってろよ」。

夜になって私たちが寝ている時、彼は私たちの耳元にヘビのようにやって来て、こうささやいた：「なあ、私はお前たちが望めばお前たちを昇らせることができる。さあ昇れ！ 私はお前たちを昇らせることができる。お前たちに昇るための羽になるものを思いついたぞ！」。

La Tèr la di : « Ziska sa, ziska mon sèl famiy i rès a mwin, li na ni trapé ! Atann a ou. » La Tèr la trap nout tout, la mèt dosou son rob, fermé. Lo Syèl i vwa pi la Tèr di tou, kasyèt. A nou toufé sou rob la Tèr, nou di : « Té momon, i fé so ladsou, i fé nwar, lès a nou sort in pé déor ! » Ah, lo momon la di : « Non, marmay, non, sort pa. Momon i fé sa po protèz a zot, sort pas ! Vwa si zot i sort déor-la, ah, zot va mor ! Zot va mor, lo Syèl la fini giny maladi. La si zot i sort déor la, tout bann kalité maladi zot i giny, zot sar mor. Rès la mèm. Sort pa marmay, sort pa ! Rès sou rob momon. »

E zot i koné tousa galé navé la, na touzour inn lé fronté dédan. Néna inn la di : « Té, momon la po rakont a nou laryaz li la, hin ! Hé, a ou véyé, mi sar sort in ti ninstan. Mi sar gardé kosa nana déor. Zist in ti ninstan ! »

Li la soulèv lo rob lo momon kan i dor, li sort déor. Li la sort in ti ninstan, li la gardé. Li la vi lo Syèl po zoué, po dansé èk la Line, èk Solèy, pèrson pa malad ! Li la rorantré vitman, li la parti rakont sa tout son bann frèr li la.

Lo momon i lèv in kou, la di :

《大地》は言った：「やっと私の唯一の家族が私のところにいるのに彼がさらっていくなんて！ 待ってなさい」。《大地》は私たちをすべて集めて自分の衣の下に隠した。《空》は《大地》が隠れたのでまったく見えなくなった。

私たちは《大地》の衣の下で息苦しくなって言った：「ねえママ，下は暑いし暗い。外に少し出して！」。ああ，ママは言った：「だめ，子供たち，だめ，外に出てはだめ。ママはお前たちを守るためにこうしているのだから，外に出てはだめ！ もし外に出たら，ああ，あなたたちは死んでしまうわ！ あなたたちは死ぬわよ，《空》は病気なんだから。もしみんなが外に出たら，ありとあらゆる病気にかかって死んでしまうのよ。ここに留まりなさい。出てはいけません，子供たち，出てはだめ！ ママの衣の下に留まりなさい」。

ところがみんな知っての通り，すべての石の中にはいつも厚かましいのがいる。こう言った者がいた：「なあ，ママがあのように言っているのは僕たちをここに押さえつけようとしているからだ！ 見てろよ，僕はちょっと外に出てくる。外ではどうなっているのかを見に行ってくる。ほんの少しだけさ！」。

彼は《大地》が眠っている時に，彼女の衣をまくり上げて外に出た。彼はほんの少しだけ外に出て眺めた。彼はそこで，《空》が《月》や《太陽》と遊んだり踊ったりしているのを見た。誰も病気ではなかった！ 彼はすぐに戻り，多くの兄弟に見たことすべてを話しに行った。

ママが目覚めて言った：



« Hé, vyin in kou isi la. Akoz ou fini sanz koulèr konmsa ou ? Ousa ou sort ?

- Ah, momon, mi sort pa ryin, tèr-la mèm mwìn !

- Ou la parti déor ? Ou la sort déor ? Gardé ! Ma la di a zot, ma la di a zot sort pas déor. Gard, la fini sanz koulèr, la maladi la fini ariv dési li. Fout a mwìn sa déor ! »

La trap a li, la mèt déor. Pèrson bouz pi sou rob momon-la : « Oté, oté Isabèl sar mort ! La vi, ma la di a zot sort pa, hin. » Pèrson i bouz pi.

Angany, Angany !

Arina, Arina !

Nou antan Isabèl po dans maloya laba : « Té, bin momon lé mantèr ! Bin, Isabèl ponkor mor ! » Lé dézyèm i di : « Atann, mi sar gardé. Bouz pa, mi sar gardé. » Li vèy kan le momon i dor, li soulèv lo rob. Li sort déor. Li vwa Isabèl déor po fé griyad, ah, ah, po dansé. Solèy i vyin karès son po, la Line i vyin i rafrési a li. La di : « Té, mantèr, i giny pa la maladi. Isabèl na lontan lé déor, ponkor mor ! Alon nou. »

Momon i lèv :

「ちょっと、ここに来なさい。お前は どうして そんな風に色が変わったの？ お前は どこに出かけたの？

ー あのママ、どこにも行ってません、僕はそこにずっといました！

ー お前は外に出かけたでしょう？ お前は外に出たのね？ 見なさい！ みんなに言ったでしょう、外には出ないようにと。見なさい、色が変わっているわ、病気にうつったのよ。外に出ていきなさい」。

彼女は彼をつかまえて外に出した。ママの衣の下で誰も動かなかった：「ほらほら、イザベルは死ぬのよ！ 彼女を見なさい。みんなに外に出ないように言ったでしょう」。誰も動かなかった。

アングニ、アングニ！

アリナ、アリナ！

私たちはイザベルが外でマロヤを踊っているのを聞いた：「何だ、ママは嘘つきだ！ イザベルは死んでないぞ！」。二人目が言った：「待って、私が見てくる。じっとしてて、私が見てくるわ」。彼女はママが寝ている時に衣をまくり上げた。彼女は外に出た。彼女はイザベルが外でバーベキューをして、ああ、踊っているのを見た。《太陽》が彼女の肌を撫でにやって来て、《月》が彼女に映りにやって来た。彼女は言った：「何だ、嘘つき、病気なんかじゃない。イザベルはずっと外にいたのに死んでいない！ みんな行こうよ」。

ママが起きた：

« Kosa, ou la sot déor ? Ou la sort déor ? Gard out po ! Oté, ma la di a zot sort pa. Gard sèt la lé ankor pli nwar ké lot ! Konbyin d'tan ou la rèss déor ?

- Bin, ma la rèss in domizourné.

- Bin, konmsa mèm, ou lé malad ma fiy. Trap a mwin sa. Fout a mwin sa déor ! »

Lé zot la di : « Momon la mèt a li déor, li mor pa. Momon lé mantèss sa ! Alon sorti nout tout, don. » Inn par inn, la sorti. La vèy kan lo momon té i dor, la lèvv lo rob, inn par inn la sort déor.

In moman doné, lo momon la rann a li kont. Li té oblizé di la vérité. La di : « Lé pa vré, lé pa vré sèt ma la di a zot. Si zot i sort déor, zot i mor pa. Mé ma la vé pèr ké si zot té sort déor, zot té i èmè pi a mwin, zot té i rovvin pi, zot té i rèss ansanm zot papa. Sé po sa ma la invant so mansonz-la. A ou, mi koné ou la sort an promyé. Na lontan ou lé déor, gard out po koman finn nwar ! » Sé konmsa ké la Tèr la konpri kisa la sort an promié, kisa la sort an dèrnyé. Sèt la sort an promié, té finn giny plis koudsolèy zot i konpran byin.

E la, la Tèr la di : « Mi rokoné té in mansonz, promié mansonz linivèr la invanté. » La Tèr la fé krwar ké si zot té sort déor, zot té i mor, zot té i giny la maladi, tousala paské li té vé gard son bann zanfan.

「どうしたの、お前は外に出たの？ 外に出たのね？ お前の肌を見なさい！ ほら、みんなに外に出ないように言ったでしょう。これを見なさい、他の者よりずっと黒いわ！ どのくらい外にいたの？

ー うーん、半日ほどいました。

ー ほら、やっぱり、お前も病気ね。つかまえなさい。外に追い出すのよ！」。

みんなは言った：「ママは彼女を外に出したけど死ななかった。ママは嘘つきだ！ だからみんなで外に行こう」。ひとりずつ出ていった。彼らはママが寝ているのを見計らって、衣をまくりあげ、ひとりずつ外に出た。

とうとうママは彼らに説明しに戻ってきた。彼女は真実を話すしかなかった。彼女は言った：「本当じゃなかった。みんなに言ったことは本当じゃなかった。みんなが外に出ても死にはしないわ。でも私がそうしたのは、みんなが外に出てしまったら、私をもう愛してくれないし、戻ってこないし、お前たちのパパと一緒に留まるから。そのためにこの嘘を思いついたの。でもお前、最初にお前が外に出たことを知っているわ。お前は長い間外にいたから、見なさい、肌がそんなに黒くなっている！」。こうして《大地》は誰が最初に外に出て、誰が最後に出たのかが分かった。最初に出た者が太陽の光を余計に浴びたことがみんなにも分かった。

そして《大地》は言った：「私は嘘をついた、この世でつかれた最初の嘘を」。《大地》は、みんなが外に出たら死んでしまう、病気になってしまうと信じさせたが、これは彼女の子供たちを守ろうとしたからだった。

Apré sa, lo Syèl èk la Tèr la rotomb kamarad, la pi tomb lamouré paské té i giny pi, té tro lwin. Ou koné, lamour si internèt, lé in pé konmsa, i mars pa paské lé in pé tro lwin. Mé lé dé la artonm kamarad. Té i koz, lo ti fiy la Pli té i fé lo mésazé. Mé la pi zamé lété parèy, zot i pans byin.

Mé nou, nou la pa oubli nout promès ke nou la fé dépi lo dépar. Nou la di, nou va rès èk ou momon. Out ti mansonz lété inn ti mansonz, mé nou la konpri ké lété po protèz a nou. Mé nou va rès èk ou. Ah, di kou, dépi se zour-la, nou, nou ésèy, na in pé la finn oublyé, la finn oublyé kosa lété not misyon dépi lo dépar. Protèz la Tèr par tou lé mwayin, hin ! Protèz la Tèr, mé tanzantan, nou oubli. Tanzantan, i fo rapèl domoun ké, si nou lé la, sé pa pou ninportkwé ! Nou na in misyon. Nou na in fonksyon si la Tèr. I fo pa ké nou oubli sa.

Angany, Angany !

Arina Arina !

その後、《空》と《大地》はよりを戻したが、愛し合うことはなかった。それには余りにも遠かったからだ。インターネットの上での恋愛もちょっとこれに似ていて、うまくいかないのは遠すぎるからだ。でも、二人は友だちでいられるはずだ。それが、娘の《雨》が言ったこと、送ったメッセージだった。しかし決してそうはならなかった、みんなよく考えて。

でも私たちは最初からの約束を忘れていない。ママと一緒に留まるという約束を。あなたがついた嘘は小さな嘘だったし、私たちはそれが私たちを守るためだったと分かっている。だから私たちはあなたと一緒にいる。ああ、その日以来私たちは、半ば忘れられた目的を果たそうとしている。忘れられた目的というのは、私たちの最初からの使命だ。つまり、あらゆる方法で《大地＝地球》を守るということ！ 《地球》を守る、しかし時々私たちはそれを忘れてしまう。時々人々に思い起こさせなければならないのは、私たちがここにいるのはどうでもいいことじゃないということ！ 私たちには使命がある。私たちは《地球》に対して役目を負っている。それを忘れてはいけない。

アンガニ、アンガニ！

アリナ、アリナ！

## 11. Bounounou

Daniel BERGEAULT et Josette SAVIGNY

Kriké !

Kraké !

Chasse, chasse kwé ? bébéè !

Il était une fois, un petit garçon qui s'appelait Bounounou. Bounounou n'avait plus de papa, n'avait plus de maman. Té fé pitié, té i vive ek sa grand-mère, lété vièy vièy mèm.

Bounounou, il avait un problème dans sa tête. Bounounou, il aurait voulu faire un cadeau à sa grand-mère pour son anniversaire, pas n'importe quel anniversaire. Elle avait 99 ans ! C'était l'anniversaire des cent ans ! Cent ans ! Bounounou voulait faire un cadeau.

Mé lu lavé pas d'argent, lu na pwin ryin, pwin pwin inn ti katre sou. Donc, lu la kalkilé, lu valé rodé rodé rodé rodé in kado, mé où chercher un cadeau ?

In matin, Bounounou, lu la pri son bertèl su son do, dédans du linge, et il est parti. Et lu la parti où ? Lu la entendu le Piton des Neiges au-dessus qui disait : « Bounounou, vas-y Bounounou, fo partir ! Bounounou, allez, prends ta vie en main Bounounou, Bounounou, je te parle Bounounou ! » Et Bounounou, il est parti, il est parti sur le chemin. Il a marché marché marché, il a traversé les champs de la grand-mère.

## 11. ブヌヌ

ダニエル・ベルジョー&ジョゼット・サヴィニー

クリケ！

クラケ！

追っ払え，何を追っ払う？ 悪魔！

昔々，ブヌヌという少年がいた。ブヌヌにはパパもママもいなかった。可哀想な彼は，とっても年寄りのおばあさんと一緒に暮らしていた。

ブヌヌは悩みを抱えていた。ブヌヌはおばあさんの誕生日にプレゼントをしたいと思っていた。ただの誕生日じゃない。彼女は九十九歳！ ということは百歳の誕生日！ 百歳だ！ ブヌヌはプレゼントをあげたかった。

ところが彼はお金を持っていなかった。まるっきりすっからかんで一銭も持っていなかった。だから彼は考えた。プレゼントを探して，探して，探しまろう，でもどこでプレゼントを探す？

ある朝，ブヌヌはベルテル<sup>[ビヨウタコノキ *Pandanus utilis* の繊維で編んだ平たい背負い籠]</sup>を背負い，その中に手ぬぐいを入れて出発した。でもどこに？ 彼はそびえ立つピトン・デ・ネージュ<sup>[レユニオン島のほぼ中央にある標高 3,069 メートルの山]</sup>がこう言っているのを聞いた：「ブヌヌ，それ行けブヌヌ，出かけるんだ！ ブヌヌ，さあ自分の人生をつかむんだ，ブヌヌ，お前に言ってるんだよ，ブヌヌ！」。そこでブヌヌは出発し，道を歩き出した。彼は歩いて，歩いて，歩いて，おばあさんの畑を抜けていった。



Pou done a lu courage, lu la invant inn ti chanson. Lu la chanté :

♪ Je m'appelle Bounounou et je marche, et je marche, Je m'appelle  
Bounounou et je cours sur le chemin ! ♪

« Et pourquoi donc ? Pour trouver un cadeau pour ma mémé ! »

Le chemin la kondwi Bounounou dan in bwa d'filaos. Tout à kou, dan  
les filao, lu la vu a tèr, lu la vu inn ti tourtrèl, inn ti tourtrèl kolé dan la  
kol, bana la piège le ti tourtrèl. Aïe Aïe Aïe, Bounounou, tou dousman,  
tou dousman, il a pris la petite tourterelle, il l'a mise comme ça, il a  
netoyé les plumes, il l'a bien seré contre lui, pas trop hein. Et la, lu la di  
konm sa : « La ma la trouv in kado pou ma mémé ! »

Et sé konm sa Bounounou lu la repri le chemin, lété ankor loin. Il a  
marché marché marché, et, tou din kou, il a vu inn kaz, in kaz avèk la  
lumière. I konmansé a fèr noir.

Il a appelé, la di : « Na pwin pèrson, na pwin d'moune ? » Il y a une  
dam qui arivé, la danm la di :

« Ah mon petit garçon, konman tu t'appelles ?

- Bounounou, madam ! Mé a mwin mèm lé pa tou sèl, néna in oiseau.

- Sé pa grave sa ! »

Lu la domandé : « Est-ce ke mi pe manger chez ou ? Ou est-ce ke mi  
pe dormir chez ou, parce ke i fénwi, mwin lé ankor loin. » La dame i di  
a li : « Ben oui, mon ti garçon, mé oui ! »

彼は自分を元気づけるために短い歌を作ってそれを歌った：

♪ 僕の名前はブヌヌ、歩いて、歩いて、僕の名前はブヌヌ、道を駆けていく！ ♪

「どうして？ ばあちゃんへのプレゼントを見つけるため！」。

その道はフィラオ<sup>[ブナ目の高木常緑樹  
*Casuarina equisetifolia*]</sup>の森に通じていた。フィラオの森の中で彼は突然、地面に小さなキジバトを見つけた。小さなキジバトは鳥もちにかかっていた。誰かがこの小さなキジバトを罠にかけたのだ。やれやれ、ブヌヌはその小さなキジバトを優しく優しく拾い上げ、こうやって置いて、羽を洗い、抱きしめた、そんなに強くなくな。そこで彼は言った：「ばあちゃんへのプレゼントを見つけたぞ！」。

その後、ブヌヌは再び道を進んだが、まだまだ遠かった。彼は歩いて、歩いて、歩いて行くと突然、明りの灯った一軒の家を見つけた。夜になろうとしていた。彼は呼んだ：「誰かいません、誰かいませんか？」。ひとりの老婆がやって来て言った：

「あら、坊ちゃん、何ていう名前？」

ー ブヌヌです、奥さん！ ところで僕ひとりじゃなくて鳥が一羽います。

ー 大丈夫よ！」。

彼は尋ねた：「お宅でご飯を食べさせてくれますか？ それとお宅に泊めてもらえますか？ もう夜になったし、まだ先が遠いのです」。彼女は答えた：「はい、坊ちゃん、勿論よ！」。

Lu la mi le ti zwazo dans une cage, la dam la di : « Mwin néna inn cage lé vid parce ke mon chat la grafinyé mon oiseau, mon oiseau lé mor, fini mort. » Et elle a mis le ti tourtrèl dans la cage. Et puis, zot la bien mangé, é zot la dormi.

Le landmin matin, Bounounou la di : « Mi sa va, madam, mèrsi, mé rand mon zwazo ? » Et la dame la di :

« Ah, ah, non mon ti garson, ah, ah, non mon ti garson, ah, ah, non mon ti garson.

- Lé pa posib, non, lé pa posib, mi gard lo zwazo ! Mé kosa mi sar done ma mémé, sé le kado dema mémé !

- Rogard, mwin néna deux gran kouto, ben, si ou ve in kouto ?

- Ah oui. »

La di Bounounou, oui, in gran kouto. Lu la mi le kouto dan son bertèl, et, lu lé parti : « Mèrsi madam, orovwar madam. » Lu lété kontan, lu la chanté :

♪ Je m'appelle Bounounou et je marche, et je marche, Je m'appelle Bounounou et je cours sur le chemin ! ♪

« Et pourquoi donc ? Pour trouver un cadeau pour ma mémé ! Et j'ai échangé un oiseau contre un couteau ! »

Bounounou la ankore marché marché, et là, le chemin i kondwisé dan les cannes. Toudinkou, dan lé gran champ de canne, sété haut konm sa, dan lé chemin de canne, il a entendu des bruits, il a entendu frapper comme ça, des bruits de ferraille.

彼は小鳥を籠の中に入れて、女の人が言った：「空っぽの鳥籠があるのは、うちの猫が私の小鳥をひっかいて、それで小鳥が死んでしまったからなの」。彼女は小さなキジバトを鳥籠に入れた。それから彼らはたっぷり食事をして、ぐっすり寝た。

翌朝ブヌヌは言った：「奥さん、僕は出発します。どうもありがとう。僕の小鳥を返してくれますか?」。すると女の方は言った：

— あらあら、だめ、坊ちゃん、あらあら、だめ、坊ちゃん、あらあら、だめ、坊ちゃん。

— そんなのだめです、そんな。小鳥は僕のものです! そうしたら、ばあちゃんに何をあげればいいんですか? それはばあちゃんへのプレゼントです!

— 見なさい、私は大きなナイフをふたつ持っているから、あんたはひとつほしいかい?

— ああ、はい」。

ブヌヌは「はい」と答えた、大きなナイフだった。彼はナイフをベルトの中に入れ、そして出発した：「ありがとう奥さん、さようなら奥さん」。彼は満足して歌った：

♪ 僕の名前はブヌヌ、歩いて、歩いて、僕の名前はブヌヌ、道を駆けていく! ♪

「どうして? ばあちゃんへのプレゼントを見つけるため! それで僕は小鳥をナイフに交換した!」。

ブヌヌがさらに歩いて歩くと、その道はサトウキビ畑に通じていた。これぐらい背の高い広いサトウキビ畑の中で、サトウキビの道を歩く途中で突然、彼は物音を、何かを打つような、がちゃがちゃという物音を聞いた。

Il a regardé, lavé des dam, des danm qui koupé la canne. Zot i devine pa ek wa ? Jamais, zot va pa deviné ek kwa bana i koupé d'canne. Avèk des roches, des roches coupantes konm sa ! Bounounou a di :

« Atann médam, regardé, mwin nana in gran kouto ! » Bounounou la koupé les cannes, « tchak tchak tchak », en deux tan, trois mouvman, « tchak tchak tchak », navé in paké de canne koupé. Les dames lui ont dit :

« Prèt ton kouto ! prêt ton kouto, Bounounou !

- Mé oui ! byin sur. »

Lu la prêt le gran kouto. Les dames ont coupé les cannes, « tchak tchak tchak » Elles ont fait des tas de cannes, et apré, le soir, elles ont mis les cannes dans des grands paniers, les paniers su zot tèt, et lé vwala parti.

Mais le couteau avec, alors, Bounounou a dit : « Mesdames, mesdames, est-ce que je peux venir manger chez vous ? Est-ce que je peux dormir chez vous ? » Et bann La Réunion bon cœur, la di : « Oui oui oui, byin sur, byin sur ! » Et la, Bounounou, li la byin joué ek lé marmay, lu la byin joué, la byin mangé, lu la dormi.

Et le landmin matin, Bounounou s'est levé et la di :

« Orovwar médam, mi pe reprend mon kouto, sou plé ?

彼が見ると、何人かの女たちがいて、女の人たちはサトウキビを刈っていた。みんなは何を使っていたかわかるかな？ 彼女たちが何を使ってサトウキビを刈っていたのか、みんなには絶対分らないだろう。彼女たちは石で、それも尖った石を使っていた！ ブヌヌは言った：「みなさん、ちょっと待って、見て、僕は大きなナイフを持っているんだよ！」。ブヌヌはサトウキビを刈った：「スパッ、スパッ、スパッ」、間を置いて三回切る、「スパッ、スパッ、スパッ」、ひと山のサトウキビが刈れた。女たちは彼に言った：「あんたのナイフを貸して！ あんたのナイフを貸して、ブヌヌ！

ー いいよ！ 勿論」。

彼は大きなナイフを貸してやった。女たちはサトウキビを刈った：「スパッ、スパッ、スパッ」。彼女たちはサトウキビの山を築き、その後夕刻になるとサトウキビを大きな籠に入れて頭の上に載せ、出発した。

ところが、ナイフは... そこでブヌヌは言った：「すみません、あなた方のお宅にご飯を食べに行っていていいですか？ それとあなた方のお宅に泊めてもらえますか？」。するとみんなはレユニオンの親切心で彼に言った：「はいはいはい、勿論、勿論！」。そしてブヌヌは子供たちと一緒にたくさん遊び、たっぷり食事をしてぐっすり寝た。

そして翌日の朝、ブヌヌは起きてから言った：

「さようなら、みなさん、僕のナイフを返してくれますか？

- Ah non, ah non, Bounounou, konman nou va koup nout canne si nou na pwin d'kouto ? Mé atan, nou va done a ou in panyé. »

Et la, li té kontan, panyé pou sa mémé. Li té port in joli panyé pou sa mémé. Oui, Bounounou lé parti avèk panier su la tèt, lu la marché, marché.

Et là, le sentier remontait vers le volcan, il remontait vers les hauts, il est passé dans les champs. Pour se donner du courage, il a chanté sa petite chanson :

♪ Je m'appelle Bounounou et je marche, et je marche, Je m'appelle Bounounou et je cours sur le chemin ! ♪

« Et pourquoi donc ? Pour trouver un cadeau pour ma mémé ! Et j'ai échangé un oiseau contre un couteau, un couteau contre un panier ! »

Tout à coup, là-haut, il voyait le volcan laba, il a entendu : « Hum, Hum, Hum. » Il y avait des vaches, il est parti voir. Et il a vu des dames, des dames qui trayaient les vaches. Et sa, bann marmay i koné pu.

Et après, il y avait une dame qui faisait le beurre, et après elle l'enveloppait dans des feuilles de banane. Et puis, les dames portaient konm sa le beurre su zot tèt. Alor, Bounounou la di : « Médam, médam, atan, mwin néna in gran panyé, ma prêt a zot mon panyé. » Bana té kontan.

Bounounou la di konm sa : « Médam, est ce que je peux manger chez vous ? Est ce que je peux dormir chez vous ? » Et la, gran cœur, la di : « Bien sur Bounounou, et puis, ou va joué ek bann marmay la ba. » Et le soir, lu la byin mangé, lu la byin dormi.

ー ああだめ、ああだめ、ブヌヌ。ナイフがなかったら私たちはどうやってサトウキビを刈ればいいのか？ ちょっと待って、籠をあげましょう」。

彼はばあちゃんにあげる籠に喜んだ。彼はばあちゃんのためのきれいな籠を持った。そう、ブヌヌは籠を頭に載せて出発し、歩きに歩いた。

その道はまた火山への登りになっていて、彼は高地に向かって登り、野原の中を通った。彼は自分を元気づけるためにあの短い歌を歌った：

♪ 僕の名前はブヌヌ、歩いて、歩いて、僕の名前はブヌヌ、道を駆けていく！ ♪

「どうして？ ばあちゃんへのプレゼントを見つけるため！ 僕は小鳥をナイフに、ナイフを籠に交換した！」。

彼は上の方で火山を見ていたが、突然声を聞いた：「ムー、ムー、ムー」。そこに牝牛がいたので彼は見に行った。すると、女たちが見えて彼女たちは牝牛の乳を搾っていた。そういうものは子供たちは知らないだろう。

そこには、他の女の人がひとりいてバターを作り、それをバナナの葉っぱでくるんでいた。それから、女たちはこんな風にバターを頭に載せた。そこでブヌヌは言った：「すみません、ちょっと待って、僕は大きな籠を持っているので僕の籠を貸しますよ」。みんなは喜んだ。

ブヌヌはこう言った：「すみません、あなた方のお宅でご飯を食べていいですか？ それとあなた方のお宅に泊めてもらえますか？」。女たちは親切にも彼に言った：「勿論、ブヌヌ。ついでに、そこで子供たちと遊んでちょうだい」。夜になって、彼はたっぷり食事をしとぐっすり寝た。



Lu lété pré pou repartir, lu la di : « Médam, mon panyé, siou plé ? »

Lé danm la di :

« Ah non, ah non, Bounounou, nou la bészwin out panyé !

- Mé kosa mi sar done ma mémé konm kado lanivèrsèr ? »

Et la, inn la di :

« Atan, ma done a ou un bon po d'beurre.

- Hum ! »

La, Bounounou lété kontan, Bounounou kalkul déjà gato lu sa va mangé ek le beurre ek sa granmèr. Lu la di : « Oui oui toutswit ! »

Lu la désandu, le chemin désandé. Il a dit orovwar tout ça, lu la désandu avèk son po d'beurre. Le chemin i désandé vers la mèr. Et la, le solèy la pwaké in bon pe. Lu lavé chaud. Et là, dans le fond, il a vu un arbre : « La mi sar giny kas inn ti somèy la dosou, trankil. »

Bounounou lé parti sou larb. Il a voulu dormir sou larb. Il a konmansé à dormir mais la il a entendu une vwa qui disait : « Hum, j'ai mal, j'ai mal à ma peau ! » Il s'est levé, lu krwayé révé. Lu rogard partou, pwinn pèrsonn. Pèrsonn.

Alors, il a recommencé à dormir, essayé. « J'ai mal... » C'était l'arbre qui parlait. Eh ouais, les arbres i parlé avan. Sété larb ki parlé. Et larb a redi : « J'ai mal à ma peau ! J'ai mal à ma peau ! » Bounounou a dit :

« Ben, regarde, moi, j'ai du beurre. Attends. »

彼は出発の用意をして言った：「すみません、僕の籠をお願いします」。女たちが言った：

「ああだめ、ああだめ、ブヌヌ。私たちにはあんたの籠が必要だから。

－ でも、ばあちゃんの誕生日のプレゼントに何をあげればいいの？」。

するとひとりが言った：

「待って、私があんたにバターをひと壺あげるわ。

－ うん！」。

ブヌヌは喜んだ。ブヌヌはもう、おばあさんと一緒にそのバターで作って食べるお菓子のことを考えた。彼は言った：「はい、はい、すぐもらいます！」。

彼は下り道を下っていった。彼はみんなにさよならを言って、バターの壺を持って下っていった。道は海へと下っていた。そして太陽は彼をこんがりと焼いた。彼は暑かった。すると彼は窪地に一本の樹を見つけた：「あの下で静かにちょっと昼寝をしよう」。

ブヌヌは樹の下に行った。彼は樹の下で眠りたかった。彼は眠り始めたが、声が聞こえ、こう言っていた：「ああ、痛い、皮が痛い！」。彼は起きて、夢を見ていたのだと思った。彼は辺りを見回したが、誰もいなかった。誰も。

そこで彼はまた眠ろうとしたら：「痛い...」。その樹が話していたのだった。そう、樹たちはかつては話していた。話していたのはその樹だった。樹はまた言った：「皮が痛い！ 皮が痛い！」。ブヌヌは言った：「ほら見て、僕はバターを持っているよ。待ってて」。

In bon marmay kan mèm. Et Bounounou a passé du beurre partout sur les branches de l'arbre, il a grimpé dan le pié d'bwa, il a passé du beurre sur les branches. Et l'arbre faisait : « Hum, hum. Sé byin, sé bon ! Hum, sé bon. » Et Bounounou a pu dormir, lu la dormi in bon ti pe.

Quand il s'est réveillé, il a dit :

« Hé, l'arbre, mon beurre s'il te plaît ? Rends le beurre.

- Mé non, lé pa possib.

- Konman mi fé ? Mé kosa mi sar done ma mémé konm kado, sé le kado de ma mémé pou son anivèrsè. »

Et là, l'arbre a dit : « Ecarte-toi, vite, vite, c'est dangereux. » Et l'arbre a fait tomber in ta d'branches, in ta d'branches, mortes, branches sek. Et Bounounou, il a ramassé le bwa sek, tou sa, il a fé in joli paké de bwa sek, il a mis le paké de bwa sur la tèt, il a repris le chemin. Bon marmay ke lu lété, lu la di lu sa fé in joli kado pou sa mémé, elle n'aura pu la pèn alé rod le bwa dan la foré. Lu lété kontan.

E la, le chemin i remont dan la foré, i monté monté, dan léo, lao vers le Maïdo. Bounounou, en montant, il a chanté sa petite chanson, pour ankouraz a li :

♪ Je m'appelle Bounounou et je marche, et je marche, Je m'appelle Bounounou et je cours sur le chemin ! ♪

« Et pourquoi donc ? Pour trouver un cadeau pour ma mémé ! Et j'ai échangé un oiseau contre un couteau, un couteau contre un panier, un panier contre du beurre, et du beurre contre du bois ! »

それにしても親切な子供だ。ブヌヌは樹の枝のあちこちにバターを擦り込んだ。彼は樹に登って枝にバターを擦り込んだのだ。すると樹が言った：「うん、うん。これはいい、これはいい！ うん、こりゃいいぞ」。そしてブヌヌは眠ることができて、長い間眠り込んだ。

目が覚めてから彼は樹に言った：

「ねえ、樹さん、僕のバターをお願い。バターを返して。

— いや、それは無理だ。

— え、どうしよう？ 何をばあちゃんへのプレゼントにすればいいんだ、あれはばあちゃんの誕生日のプレゼントなんだ」。

すると樹が言った：「ちょっと離れて、早く、早く、危ないから」。そして樹は枯れて乾いた枝をひと山ほど振るい落とした。そこでブヌヌは枯れ枝を集めてきれいな包みにしてからそれを頭に載せ、また道を進んだ。親切な少年は、それがばあちゃんへのいいプレゼントになると思った。彼女がもう森に焚き木を探しに行く苦労をせずにすむからだ。彼は喜んだ。

道は森に向かって再び登り坂になっていた。彼は高地をマイド<sup>「レユニオン島中西部の標高 2190 メートルの尖峰。マダガスカル語で「焼けた土地」の意」</sup>の方へ登りに登った。ブヌヌは登りながら自分を元気づけるために自分の短い歌を歌った：

♪ 僕の名前はブヌヌ、歩いて、歩いて、僕の名前はブヌヌ、道を駆けていく！ ♪

「どうして？ ばあちゃんへのプレゼントを見つけるため！ 僕は小鳥をナイフに、ナイフを籠に、籠をバターに、バターを焚き木に交換した！」。

Et là-haut, dans la forêt de tamarins, là-haut, il a vu un petit village qui était kasyèt dan la foré. Il y avait un petit village avèk joli ti kaz en pay, sété in village lontan. Et quand il est arrivé juste avec son paquet de bois sur la tête, les gens la kouru, la kriyé : « Du bois, du bois ! »

Bounounou :

« Pourquoi vous voulez mon bois ?

- Mais nous, on est des marchands de bois, on est des charbonniers, on fabrique le charbon de bois, il nous faut du bois. Et nou, nou la pu d'bwa, la sécheresse, depuis cinq ans la pa plu. Il nous faut du bois ! »

Toujours parèy, bon cœur kon lu lé, lu la done son ti paké de bwa. Lu pran le paké de bwa, lu la done le paké de bwa. Là, un vieux monsieur qui regardait. Mé lu la di au vieux monsieur : « Ke sa sé in kado pou lanivèrsèr de ma mémé, pou lé cent ans de ma mémé. » Le vieux monsieur la di : « Bounounou ou lé vréman gentil. Ou lé gentil ansamb nou, vréman, lé gentil ansanm nou. Parce ke nou lé charbonnier, personne lé gentil ansanm nou, mé ou lé gentil vréman. Atan, Bounounou, atann in pe ! »

Le monsieur lé parti la déryèr, le monsieur lété pa konm toulmoun, le monsieur lé revenu avèk inn ti bourik, avèk dessus deux jolis paniers. La di : « Regarde Bounounou, les paniers, c'est pour ta grand-mère. » Bounounou la di orovwar, et il est parti, parti avèk un âne et deux paniers, mais deux paniers remplis de cadeaux pour sa mémé.

てっぺんにあるタマリンドの森の中で彼は、森の真ん中に隠れた小さな村を見つけた。それは藁づくりのきれいな小さな小屋が建ち並ぶ、昔風の小さな村だった。彼が焚き木の包みを頭に載せて着いた時、人々が走り寄ってきて叫んだ：「焚き木だ！ 焚き木だ！」。

ブヌヌは聞いた：

「どうして僕の焚き木を欲しいんですか？

ー 実はわしらは焚き木売りで炭焼きもやっているが、焚き木から炭を作っているから焚き木は欠かせない。ところがわしらには焚き木がもうない。ここ五年ほど干ばつで雨が降っていないからだ。焚き木が必要なんだ！」。

ブヌヌはいつものように親切心から焚き木の包みをあげた。彼は焚き木の包みを取って、彼らに焚き木の包みを差し出した。そこでひとりの年老いた男がその様子を見ていた。ブヌヌは老人に話した：「これはばあちゃんの誕生日のプレゼントなんです、ばあちゃんの百歳のための」。するとその老人が言った：「ブヌヌ、お前は本当に親切だ。わしらは炭焼きだから誰も親切にしてくれなかった。でもお前は本当に親切だ。待ってなさい、ブヌヌ、少し待って」。

男の人は裏の方に向かった。彼は他のみんなと同じではなかった。彼は二つのきれいな籠を背負った一頭のロバを連れて戻ってきた。彼は言った：「ほら見なさい、ブヌヌ。この籠をお前のおばあさんに」。ブヌヌは彼にさようならを言って出発した。一頭のロバ、それに、ばあちゃんへのプレゼントが詰まった二つの籠と一緒に。

Bounounou : « La mi rant mon kaz. » La lété kontan. Et il chante :

♪ Je m'appelle Bounounou et je marche, et je marche, Je m'appelle Bounounou et je cours sur le chemin ! ♪

« Et pourquoi donc ? Pour trouver un cadeau pour ma mémé ! Et j'ai échangé un oiseau contre un couteau, un couteau contre un panier, un panier contre du beurre, du beurre contre un paquet de bois, un paquet de bois contre un âne avec deux paniers remplis de cadeaux. »

Et la, lu lariv chez sa mémé. Et kan la mémé la entendu l'âne qui a kriyé : « Hi han. » La mémé lé sorti, et elle a di : « Bounounou, sé kwa sa, sé kwa sèt âne-la ? Mé enfin Bounounou, nou lé pa des voleurs. Alé rand l'âne la ou sa ou la pran sa et vit fé, hein ! »

Bounounou la di : « Mé non mémé, ma esplik a ou. Ma la pa volé, mwin lé pa voleur, mwin, mémé, mwin lavé tou échangé. Au début, ma la trouv in zwazo, apré lwazo, ma lé échangé kont in kouto, in kouto kont in panyé, in panyé kont du beurre, du beurre kont du bois, et du bois kont in âne. Les cadeaux c'est pour toi ! »

La grand-mère la pri lé kado, la ouvèr. Lavé inn bel rob, in sapo, des bijoux, des bracelets... La grand-mère été kontant, lé parti toutswit vwar sé copines, la parti rod voisin, la di : « Vyin regardé, agard sa ! » Et lontan, bann voizine lété pa jalouz, zot lété pluto kontan, la di :

« Konman ou la giny tou sa ?

- Mé sé mon ti Bounounou, sa sé in gayar marmay, mon Bounounou. »

ブヌヌは言った：「さあ、家に帰ろう」。彼は嬉しかった。  
そして彼は歌った：

♪ 僕の名前はブヌヌ，歩いて，歩いて，僕の名前はブヌヌ，道を駆けていく！ ♪

「どうして？ ばあちゃんへのプレゼントを見つけるため！ 僕は小鳥をナイフに，ナイフを籠に，籠をバターに，バターを焚き木に，焚き木をロバとプレゼントが一杯の籠二つと交換した！」。

そして彼はばあちゃんの家に着いた。ばあちゃんはロバが「イ・アン」と鳴くのを聞いて家から出て来て言った：「ブヌヌ，何だいそれは，そのロバは？ やれやれブヌヌ，私らは泥棒じゃないからね。ロバを取ってきたところにとっと返してきなさい，早くするのよ，いいわね」。

ブヌヌは言った：「違うんだよ，ばあちゃん，説明するから。僕は何も取っちゃいないし，泥棒じゃないんだよ，ばあちゃん。みんな交換したものだよ。最初に鳥を見つけた。鳥のあと，僕はそれをナイフと交換して，ナイフを籠に，籠をバターに，バターを焚き木に，焚き木をロバと交換したんだよ。ばあちゃんへのプレゼントさ！」。

おばあさんはプレゼントを取ってそれを開けた。そこにあったのは，きれいな服，帽子，宝石，腕輪... おばあさんは喜んで，すぐに友達や近所の人のところに見せに行って言った：「見にいっちゃい。ほらこれを見て！」。昔は，近所の人たちは妬むこともせず，むしろ喜んで言った：

「これ全部，どうやってもらったの？

ー これはね，私のかわいいブヌヌ，本当に素敵な子。私のブヌヌ」。



Sé le Piton des Neiges la di a lu : « Alé, Bounounou, va, va. Bounounou sé in gayar marmay, é konman lu la fé sa ? » Ben, la espliké : « Au début, lu lavé in zwazo, lwazo la échange kont in kouto, le kouto kont in panyé, le panyé kont du beurre, le beurre kont du bois, et le bois kont l'âne é lé kado. »

ピトン・デ・ネイジュが彼に言った：「やあブヌヌ，ほらほらブヌヌ，いい子だ。それどうしたんだい？」。そこで彼は説明した：「最初は鳥を見つけて，鳥をナイフに交換し，ナイフを籠に，籠をバターに，バターを焚き木に，焚き木を，ロバとプレゼントに」。

注：この物語はフランス本土出身の夫とレユニオン出身の妻が，紙芝居を見せながら夫婦で交互にフランス語とレユニオン・クレオール語で語ったものである（次の物語も同じ形式である）。

## 12. Une fermière et ses animaux

Daniel BERGEAULT et Josette SAVIGNY

Kriké !

Kraké !

Il était une fois une fermière qui élevait des animaux dans les hauts. Elle avait des cabris, et puis aussi, un chien. Elle était très contente parce que tous les animaux étaient gentils avec elle, très gentils, très gentils très gentils avec elle.

Mais un jour, un jour pour un mauvais jour, la fermière est très en colère, sa peau est toute rouge, et ses yeux noirs, et son sové, en pay, en pétar, en touf papang. Et pou kosa, zot i devine pa ?

Elle a vu un kabri joli dan son karo d'frèz. La fermière la di : « Kabri, kabri, sort de là, sort de là, vit, rant dan ton park ! » Kabri la di : « Ah non non non, mwin lé antrinn de manger les frèz, lé bon, lé fréz lé bon, mwin lé antrinn de ranplir mon vant, ah non, mwin mi sort pa ! Mi ème les frèz, sé bon les frèz. Non, non ! »

Konman on va fèr ? Konman on va fèr ? Aïe, Aïe, Aïe ! Elle a vu, elle a trouvé un gros chien. Elle dit au chien : « Vyin in ninstan, vyin in èstan, ou sa va sas le kabri dan le karo d'fraise, na le kabri antrinn d'manger toutes mes frèz. »

## 12. 農婦と動物たち

ダニエル・ベルジョー & ジョゼット・サヴィニー

クリケ！

クラケ！

昔々、ひとりの農婦がいて高地で動物を飼っていた。彼女は子ヤギたちと、それから一匹の犬を飼っていた。彼女はとても満足していた。というのも、動物たちみんなが彼女にやさしかったから、とてもとてもやさしかったから。

ところがある日のこと、それはひどい一日で、農婦はとても怒っていたので、肌は真っ赤に、両の目は真っ黒に、そして髪の毛は怒り狂って、まるでサワノスリ<sup>[タカ科の鳥]</sup>Circus spilonotusの尾のようだった。どうしてかって、みんなにわかるかな？

彼女は一匹の可愛い子ヤギが自分のイチゴ畑にいるのを見つけた。農婦は言った：「子ヤギちゃん、子ヤギちゃん、そこから早く出なさい、そこから出て柵の中に戻りなさい！」。子ヤギは言った：「ああ、だめだめだめ、僕はイチゴを食べているところだから。これおいしい、イチゴはとってもおいしいし、お腹を一杯にしているところだからだめ、ああだめ、ここから出て行かないよ！ イチゴ大好き、このイチゴはおいしいから。だめだめ！」。

どうしよう？ どうしよう？ やれやれ！ 彼女は辺りを見て大きな犬を見つけた。彼女は犬に言った：「ちょっと来てくれる、すぐに来て。イチゴ畑にいる子ヤギを追っばらいに行つて。子ヤギが私のイチゴを全部たべちゃうから」。

Le chien : « Ah ah non non, mi sar pa mord kabri, kabri sé mon dalon, sé mon dalon. Kabri mi joué ek lu, tout le tan, jamais mi mord pa lu, non, non, sé non ! »

Aïe, Aïe, Aïe ! konman on va fèr ? Le kabri ve pa sortir dan le karo d'fraises, le chien ne ve pa mord le kabri. Et là, la fermière a demandé au baton. Elle a réfléchi, et elle la di : « Bâton va taper le chien, parce ke le chien ne ve pa mord le kabri. » Et le baton la di : « Non non non, mwin mi tape pa le chien, le chien sé mon dalon. Mwin mi joué ek lu touttan, i di non, mwin mi tape pa le chien, fé se ke zot i vé, mwin mi tape pa le chien ! »

Alors la fermière : « Konman mi va fèr ? Le bâton ne veut pas taper le chien, le chien ne ve pa mord le cabri et le cabri ne ve pa sortir du karo d'frèz. »

Aïe, Aïe, Aïe ! Il fo trouver une idée. Eh, ou la vu le feu, elle la di : « Feu, s'il te plaît, va brûler le bâton, sort, va brûler le bâton parce que le bâton, le bâton ne ve pas taper le chien. »

Et le feu a di : « Non non non, mwin mi brûle pa le bâton, le bâton i joue ek mwin touttan, i remu mes brèz, i remu ma cendre, non non non, ryin a fèr, mwin mi brûle pa le bâton ! »

La fermière : « Aïe, Aïe, Aïe ! Le feu ne ve pa brûler le bâton, le bâton ne ve pa taper le chien, le chien ne ve pa mord le kabri, et le kabri i ve pa sortir dan le karo d'frèze ! Ben, konman on va fèr alor ? Ben, konman on va fèr alor ? »

犬が答えた：「ああ、だめだめ、僕は子ヤギに噛みつかないよ。子ヤギは僕の友だちなんだ。子ヤギとはいつも一緒に遊んでいるし、噛みつくなるとんでもない。だめだめ、それはだめ！」。

やれやれ！ どうしよう？ 子ヤギはイチゴ畑から出ようとしなないし、犬は子ヤギに噛みつこうとしなない。それで、農婦は棒切れに頼んだ。彼女はちょっと考えてから言った：「棒切れさん、犬をぶってちょうだい。子ヤギに噛みつこうとしなないから」。すると棒切れが言った：「だめだめだめ、犬をぶつなんてしないよ。犬は僕の友だちなんだ。僕はいつも一緒に遊んでいるから、だめ、犬をぶちやしない。あんたは好きなことをすればいいけど、僕は犬をぶちはしない！」。

そこで農婦は考えた：『どうすればいいだろう？ 棒切れは犬をぶとうとしなないし、犬は子ヤギに噛みつこうとしなないし、子ヤギはイチゴ畑から出て行こうとしなない』。

いやはや！ 何か考えを見つけないと。おや、彼女はそこに火を見つけて言った：「火さん、お願いだからその棒切れを燃やしてくれない。行って棒切れを燃やしてちょうだい。犬をぶとうとしなないから」。

すると火は言った：「だめだめだめ、僕は棒切れを燃やさないよ。棒切れはいつも僕と遊んでくれる。僕の燃えかすや灰をかき混ぜてくれる。だめだめだめ、絶対だめ、僕は棒切れを燃やしはしない！」。

農婦は言った：「やれやれ！ 火は棒切れを燃やそうとしなないし、棒切れは犬をぶとうとしなないし、犬は子ヤギに噛みつこうとしなないし、子ヤギはイチゴ畑から出て行こうとしなない！ もうどうしたらいいだろう？ もうどうしたらいいだろう？」。

Ah, la rivière ! I di : « Rivière, vite sort de ton lit, déborde, va éteindre le feu, parce que le feu ne veut pas brûler le baton. » La rivière la di :

« Non non non, mwin pa kèstyon alé éteindre le feu. Le swar, le feu i réchauffe a mwin, non, mwin mi étin pa le feu, le feu sé mon dalon. »

Ah, ah ! La fermière, « Aïe aïe aïe, i fo trouver in solution, konman i va fèr ? » Elle a vu le bœuf, le gros bœuf, la di : « Gros bœuf, mon gro kaf, mon bœuf, va bwar lo de la rivière parce ke la rivière ne ve pas éteindre le feu. » Le bœuf : « Mi bwa pas lo la rivière mwin. Ah non, mi bwa kan mwin la soif, mi biny dédan et tout sa, mwin mi bwa pa tout lo de la rivière, pa kèstyon, fé sek ou ve, mi ve pa ! »

La fermière, alors : « Aïe, Aïe, Aïe, le bœuf ne veut pas bwar l'eau de la rivière, la rivière ne veut pas éteindre le feu, le feu ne veut pas brûler le baton, le baton ne veut pas taper le chien, et le chien ne veut pas mordre le cabri, et le cabri ne veut pas sortir dans le karo de frèz ! Aïe, Aïe, Aïe, i fo trouver inn solution. »

Elle la kouru, elle lé sorti, elle lé parti voir le boucher : « S'il te plaît, va tuer le bœuf, va couper le bœuf, parce ke le bœuf i ve pa bwar lo de la rivière. » Et le boucher, a se moman-la, a di : « Oui, oui, oui, ma la besoin de viande pou mes clients, ma la besoin de steaks pou mes ban ti marmay, toutswit mi sa va. »

そうだ、川だ！ 農婦は言った：「川さん、早くベッドから出てきてあふれ出して、火を消してちょうだい。火は棒切れを燃やそうとしないの」。川は言った：「だめだめだめ、僕としては火を消しに行くなんてまったくもって論外だ。夜になると火は僕を温め直してくれるし、だめ、僕は火を消さない。火は僕の友だちなんだ」。

あーあ、農婦は言った：「やれやれ、何とかしなくては、どうすればいいだろう？」。彼女は牛を見つけた、大きな牛だ。女は牛に言った：「大きな牛さん、大きなカフル<sup>レユニオンでは表型がアフリカ及び/或いはマダガスカルに出自を有するものを指す</sup>」の牛さん、川の水を飲んでしまっちょうだい。川が火を消さないから」。牛は答えた：「僕は川の水は飲まないよ。ああ、だめ、僕が飲むのは喉が渴いている時と、水浴びする時だけさ。だから僕は川の水を全部飲むなんてことはしない、問題外さ。あんたは好きなようにすればいいけど、僕はだめだ！」。

農婦は言った：「やれやれ、牛は川の水を飲もうとしないし、川は火を消そうとしないし、火は棒切れを燃やそうとしないし、棒切れは犬をぶとうとしないし、犬は子ヤギを囓もうとしないし、子ヤギはイチゴ畑から出て行こうとしないし！ やれやれ、何とかしなくては」。

彼女は走って外に出て、肉屋に会いに行った：「お願い、牛を殺して、牛をバラバラにしてちょうだい。牛は川の水を飲もうとしないの」。すぐに肉屋は答えた：「はいはいはい、お客さんたちに肉が入用だし、うちの子供たちにはステーキがあるので今すぐ行くよ」。



Et le boucher, en grandes enjambées, il est parti, lé arivé vers le bœuf. Mé kan le bœuf la vu le couteau, la di : « Non, non, non, kamarad, lé bon, pas la pèn fé dot malèr konm sa, mi sort, mi sa va, mi sa va bwar lo d'la rivière. »

Mé kan la rivière la vu le bœuf arivé, la di : « Non, pa la pèn, non non, lé bon, lé bon, fé pa de zistwar, lé bon, mi étèn le feu toutswit. »

La rivière était sorti de son lit, la rivière est partie pou étèn le feu, la di : « Ah, ah, lé bon, lé bon, mi sa va brule le bâton toutswit ! » Et le feu a sauté sauté sauté, il a sauté vers le bâton. Aïe, Aïe, Aïe !

Kan le bâton la vu arivé le feu, la dit : « Non, non, lé bon, lé bon, san zistwar, mi sa va tap le chien. Atan, mi sa va tap a lu toutswit. » Et le bâton a soté vers le chien.

Mé kan le chien la vu ke le bâton i arivé, la di : « Non, lé bon, lé bon, mon kamarad, pa besoin fèr zistwar, lé bon, mi sar mord le kabri toutswit. »

Lu la soté vers le kabri et le kabri, kan li la vu le chien, li la di : « Aïe, Aïe, Aïe ! Lé bon, lé bon, lé bon, mi mange pu fraise, et mi rant dan mon park toutswit. » Et la, lu la kouru, li la rant dan son park.

E la fermière la rotrov son sourire en tranche papay, tout kontant, et tout lé rantré dan lord.

そして肉屋は大股で牛に向かって行った。牛は包丁を目にすると言った：「だめだめだめ、お兄さん、参った。わかったよ、こんな目に遭うのはごめんだ、行くよ、行きますよ、川の水を飲みに行くよ」。

川は牛がやって来るのを見て言った：「いや、来なくていいよ、だめだめ、わかった、わかった、いざこざはごめんだ、わかった、今すぐに火を消すよ」。

川が床からあふれ出し、川が火を消すために向かうと、火が言った：「ああ、わかった、わかった、すぐに棒切れを燃やしに行くよ」。そして火は飛び跳ね、飛び跳ね、棒切れの方に向かった。やれやれ！

棒切れは火がやって来るのを見て言った：「だめだめ、わかった、わかった、もめ事はいやだ、犬をぶちに行くよ。待ってろ、すぐにぶちに行くからな」。そして棒切れは飛び跳ねて犬に向かった。

犬は棒切れがやって来るのを見て言った：「だめ、わかった、わかった、おい君、いざこざはごめんだ、わかった、すぐに子ヤギに噛みつきに行くよ」。

犬が子ヤギの方に向かって行くと、子ヤギは犬を見て言った：「やれやれ！わかった、わかったよ、もうイチゴは食べないから。すぐに柵に戻るよ」。彼は走って柵の中に戻った。

そして農婦は満面の微笑みを取り戻し、すっかり満足し、すべては元通りにおさまった。

### 13. Ti Zan èk sotrèl blé

Luco SAUTRON

Kriké !

Kraké !

Deux fois, sas !

Kriké !

Kraké !

Kriké !

Sas !

Kosa i sas ?

Tang ?

Ah... La sas tang, la sas tang i sort lo swar pou alé la sas tang.

Kosa i sas ankor ?

La pousyèr !

La pousyèr, la pousyèr... sa sé dann la kaz, fo pa na la pousyèr !

Lo mous !

Ah, pa ryink lo mous ! Ay yay, la pa ryink lo mous, lo mous sèt i vwa é lo mous sèt i vwa pa. Hin, kan, kan i di sas, i fo sas tout' sèt la pa bon. E kan nou lé tèr-la, ankor plis, i fo pa sèt lé pa bon, i vyin koté nou. Tèr la, na ryink sèt lé bon !

### 13. チジャンと青いバツタ

リュコ・ソートロン

クリケ！

クラケ！

二回狩れ！

クリケ！

クラケ！

クリケ！

狩れ！

何を狩る？

タング？〔マダガスカル原産の食虫小型哺乳類で肉が佳味。Ericaneus setosus〕

ああ... タングを狩る，タングを狩る，夜に出かけてタングを狩る。

他に狩れるものは？

ほこり！

ほこり，ほこり... それは家の中，ほこりがあってはだめだ！

ハエ！

ああ，ハエは大したことない！ いやはや，ハエは大したことない，ハエだって目にするやつと，目に入らないのがある。ほら，狩ると言ったら，よくないものすべてを狩らなきゃだめだ。そして，僕らがここにいるならなおのこと，よくないものが僕らのところに来てはいけぬ。ここにはいいものだけだ！

Kriké !

Kraké !

Kriké !

Sas !

Wi, paské si mi rakont a zot inn zistwar grénouy. I paré ke, kan ou rakont la zourné san komans par la formil, sèt ou rakont, ou vyin parèy.

Donk, na dé fwa ma la voulu éséyé rakont zistwar in boug la v'ni ris, inportan, mé la pa marché. Na in kou, ma la ésèy rakont inn zistwar. In boug korn la pous' si son tèt. Na in bos la aparèt si mon koko d'tèt. Donk pou zordi, mi komans touzour par le komansman. E lo komansman, i di a ou konmsa : « Lavé in fwa, mésié lo fwa la manz son fwa, avèk kosa dapré zot ? Avèk in grin d'sèl ! La pa dé, hin, paské sinon la pa bon. Mésié lo fwa la manz son fwa avèk in grin d'sèl. »

Wi, sa zistwar danntan lo rwa ! Danntan lontan, mé sirtou, danntan koméla, danntan vakans. Lavé inn ti marmay té abit isi. Ti marmay la i apèl Ti Zan. Ti Zan té inn ti marmay konm tout marmay. E kan té i ariv vakans, son zafèr lété monté, désann, tourné, viré, alé, badinaz.

In kou, dann son badinaz, Ti Zan, kosa li trouv ? Inn nafèr po li té rar, li la trouv. In sotrèl blé ! Anfin, néna sèrtin va dir, sa pa in sotrèl. Sa in libélil. Dot' va di konmsa, sé inn démoizèl. Mé po Ti Zan, lété in sotrèl blé.

クリケ！

クラケ！

クリケ！

狩れ！

そう、私がカエル話を語るとしよう。どうやら、昼間に語る時にはいつもの出だしから始めないと、語り手だけが語って、同じようになってしまう。

という訳で、以前金持ちのお偉いさんの話を語ろうとしたことが何度かあるけどどうもいかなかった。ある時は、角を生やした人の話を語ろうとしたことがある。その時は私の頭にこぶが出てきた。だから今日はいつもの出だしから始めることにするよ。出だしはこんな風に言う：「ある時<sup>フオワ</sup>、フオワさんが自分の肝<sup>フオワ</sup>を食べた、何と？ 一粒の塩と！」。二粒じゃないよ、だってそうしなきゃまずい。「フオワさんが自分の肝<sup>フオワ</sup>を一粒の塩と一緒に食べた」。

そう、この話は王様がいた時代！ かつての頃の話だが、時期としては、ちょうど今のようなヴァカンスの頃の話だ。ここにひとりの少年が住んでいた。その子供の名前はチジャン。他の子供と同じような少年だ。ヴァカンスになると彼のやることと言えば、上ったり下ったり、あっちへ行ったりこっちに来たり、うろつき回ることだった。

ある時、うろついている途中でチジャンは何を見つけたか？ 彼にとって珍しいものを見つけた。青いバッタだ！ ある人はそれはバッタじゃないと言うだろう。トンボだと。他の人ならお嬢さんと言うだろう<sup>[sotrel には「瘦せた女性」の意味がある]</sup>。でもチジャンにとってそれは青いバッタだった。

E li té tèlman fyèr kap son sotrèl blé, li la kouri : « Papa, papa, papa rogard, rogard mon sotrèl blé ma la trouv dann badinaz ! »

Le papa la gardé : « Ah, lé vré, lé joli vréman out sotrèl ! » Lo papa la trap lo sotrèl. Li té ème koléksioné osi. Li la ramasé. É pou la pèn, li va donn Ti Zan in rékonpans, in lésanz. Li la atrap in kalbas, é li la donn Ti Zan in kalbas.

Ti Zan té fyèr èk son kalbas : « Ah ah, mwin néna inn kalbas. Mwin na in kalbas. Kosa mi giny fé avèk mon kalbas ? Mi giny rampli dolo dédan. Mi giny tourn' a li. Mi giny fé in tanbour avèk. Mi giny mèt do sèl. Mi giny alé dann ka foré ramas' zoli frwi dann la foré, goyavyé, mandarin..., mèt dédan ! »

Sèlman li mars, son reflèksyon lé zoli dann son tèt, kosa li vwa tèr laba ? Inn madam dann bor la rivyèr. Lo madam lé antrinn lav son linz. E li vwa lo madam i trap dolo dann la rivyèr avèk son dé min, i vèrs si son linz laba, i arkomans. A pinn li la finn lèw son bra, tout dolo i koul.

« Madam, madam, pa konmsa i fé ! Madam ogard mon kalbas ! Ou pran lo kalbas, ou giny trap dolo konm ou vé, ou vèrs lot koté, é inn instan out' travay i avans. »

Lo madam la di : « Ah, mon anfan, ou néna in bon lidé ou la ! Prét' a mwin le kalbas. » El la pran lo kalbas, é sé sèt a la fé. El la trap dolo. Inn instan, èl té finn mèt dolo laba po savon son linz.

彼は青いバツタを大層自慢に思い、走って帰った：「パパ、パパ、パパ、見て見て、僕の青いバツタ。散歩中に見つけたんだ！」。

パパはそれを見た：「ああ、そうだ、お前のバツタは本当にきれいだな！」。パパはバツタをつまんだ。彼もコレクションが好きだった。彼はそれを加えた。そしてその見返りに彼はチジャンに褒美を与えることにした。彼はヒョウタンを取り、そのヒョウタンをチジャンに与えた。

チジャンはヒョウタンを自慢に思った：「ああ、僕はヒョウタンを持っている。ヒョウタンだ。このヒョウタンで何ができるだろう？ 中に水を入れられる。振ってもいい。それで太鼓も作れる。塩を入れられる。森に行つて、素敵な果物を集めて、ゴイヤヴィエ<sup>[フトモモ科の熱帯性低木果樹。Psidium guajava]</sup>とかマンダリン<sup>[ミカン属の常緑低木果樹。Citrus reticulata]</sup>なんかを中に入れられる！」。

頭の中で色々楽しく思い描きながら歩いていたところ、彼はそこで何を見つけたか？ 川辺にひとりの女の人を見つけた。その女の方は洗濯をしているところだった。彼は女の方が川の水を両手ですくって洗濯物に繰り返しかけているのを見た。彼女が腕を上げるとすぐに水は全部こぼれていた。

「奥さん、奥さん、それじゃだめですよ！ 奥さん、僕のヒョウタンを見て！ このヒョウタンをどうぞ、これなら水を好きなように汲んで別のところに運べて、仕事がかどりますよ」。

女の方は言った：「あら坊や、それはいい考えね！ そのヒョウタンを私に貸して」。彼女はヒョウタンを取って仕事を始めた。彼女は水を汲んだ。そしてすぐに洗濯物に石鹸をつけるために水を垂らした。



Ti Zan la rogardé : « Madam, out travay lé byin. Sa, sa mon kalbas sa !  
Sa kalbas. Ma la giny avèk mon papa. Papa ke la pran mon sotrèl blé.  
Sotrèl ma la giny dann badinaz. »

Le madam la di : « Hin, mon anfan, mon anfan, inn zoutiy, sé pou inn  
ouvriyé. Donk le kalbas, mi trouv i va a mwin byin. Atann. Bouz pa. Ma  
trouv in nafèr po ou. » El la parti dann son bann zafèr laba, lo madam,  
él la atrap inn ponyé lantiy : « Inn mon anfan, vwala po ou. » El la donn  
Ti Zan lo ponyé lantiy.

E Ti Zan, finalman : « Le kalbas li té pa gran bézwin lo kalbas, hin. Avèk  
lantiy. Ah ! Mwin na lantiy. Kosa mi giny fèr avèk lantiy ? Mi giny fé  
kwi ? Inn pé mi fé kwi, inn pé mi plant ! Apré sa mi arginy rékolté. Apré  
mi fé kwi lantiy. Apré mi manj lantiy, apré... »

Li la pa giny trouvé kosa li noré giny fé apré avèk lantiy. Dovan li dann  
somin, kosa li vwa ? Inn bann zwazo ! Lo bann zwazo lé la, lé antrinn  
béké, béké, dann galé.

« Té bann zwazo, pa konmsa i fé. Zot i manz galé ? Gard la, mwin na  
zoli lantiy, sa lé bon ! » Li la pa giny lo tan mont lo bann zwazo lo lantiy.  
Lo bann zwazo sé sot si lo lantiy, béké, béké. Inn instan, apropté lo  
lantiy.

チジャンは彼女を眺めて言った：「奥さん、仕事がうまくいっていますね。それ、僕のヒョウタンです！ そのヒョウタン、パパからもらったんです。パパは僕の青いバツタを手に入れました。バツタは僕が散歩中に見つけたんだ」。

女の人は言った：「そうなの坊や、この道具は働く人のためのものね。だからこのヒョウタン、私にとっても都合がいいわ。待って。じっとして。あなたにあげるものを探すわ」。彼女は自分の持ち物の中を探しに行き、レンズ豆をひとつかみ取った：「坊や、これをあなたにあげるわ」。そして彼女はチジャンにレンズ豆をひとつかみ渡した。

そこでチジャンは結局こう思った：『ヒョウタンはそんなに必要じゃないし、ヒョウタンはね。レンズ豆か。ああ！ レンズ豆があるんだ。レンズ豆で何ができるだろう？ 何が作れるだろう？ 少し煮て、残りを植えよう！ そうしたらまた採れる。その後でレンズ豆を煮よう。それからレンズ豆を食べよう、それから... 』。

彼にはそのあとレンズ豆をどうするか見つけることができなかった。道で彼の目の前に何を見たのか？ 鳥の群れだ！ 鳥の群れがそこにいて、砂利の中をしきりについばんでいるところだった。

「おいおい、鳥たち、そんなことしちゃだめだよ！ 砂利なんか食べているのかい？ ほら見て、僕はいいレンズ豆を持っている、これおいしいよ！」。彼には鳥の群れにレンズ豆を見せるひまもなかった。鳥たちがレンズ豆の上に集まって、ついばみ、ついばんだ。あっという間にレンズ豆はなくなった。

« Hin, hin, pasa, pasa ma la di a zot. Sa mon lantiy sa. Sa lantiy ma la giny avèk lo madam ke la pran mon kalbas. Kalbas ma la giny avèk papa. Papa ke la pran mon sotrèl. Sotrèl ma la giny dann badinaz. » Lo bann zwazo la rogard a li, la pa di ryin.

Bin wi, zwazo i koz pa. Anfin danntan-la té i koz pa ! Na in zwazo la bouz inn pé son zèl, é na inn plim la tomb a tèr. Plim-la kan li la gardé, on diré lavé in larkansyèl dann lo plim. Li la atrapé lo plim, li la di : « Ah, ah, ma la ginyé in joli plim ! Ah, plim-la, mi giny mèt sa si mon sapo, apré, a mwin le pli bo ! Sinon sa, mi giny... Kosa mi giny fé ankor avèk ? Mi giny ékri in joli poèm... Kosa mi giny fé ankor ? Mi giny digdig lo kou mon lémé... Kosa mi giny fé ankor ? »

E bin, li la réflési. Konm li té réfléchi, dann fon laba, kosa li vwa ? Li la vi in bonom asiz si inn lèspès tabouré, dovan li inn lèspès gran lékrito avèk inn èspès galé dann son min. Kan li la ariv de pré, té inn èspès bout sarbon. E lo boug té antrinn fé inn lèt, inn ot' lèt, té fé dé lèt, té ranpli son paz tèlman son galé té gro. Li rogard :

« Bonzour mésié.

- Ah non, marmay, hin, déranz pa mwin. Hin, mwin lé antrinn réflési konm ou vwa mwin-la. Mwin sé inn lékrivin. E mwin lé antrinn ékri inn liv. Alor, lès a mwin. Dézà ou vwa...

「おいおい、だめだよ、だめだよ、言ったじゃないか。これは僕のレンズ豆だ。このレンズ豆は女の人からもらったもので、その人には僕のヒョウタンをあげた。ヒョウタンはパパからもらった。パパには僕のバツタをあげた。バツタは僕が散歩中に見つけたんだ」。鳥たちは彼を見たが何も言わなかった。

そう、鳥は話さないからね。結局、その時も話さなかった！ 一羽の鳥が羽をちょっと揺すり、羽根が一本地面に落ちてきた。彼がその羽根を見ると、羽根の中に虹がいるようだった。彼は羽根を掴んで言った：「ああ、きれいな羽根が手に入ったぞ！ ああ、この羽根、帽子にさせるし、そうしたら僕はもっと男前になる！ でなければ... 他に何ができるだろう？ 素敵な詩を書く... それから何をしよう？ 恋人の首をくすぐる... 他に何ができるだろう？」。

こうして彼は思案していた。彼がそこで考え込んでいた時、何を見たか？ 彼はひとりの男の人が棚板のようなものに腰かけているのを見た。その人の前には大きなインク壺のようなものがあり、手には石のようなものを持っていた。彼が近づくと、それは炭のかけらだった。その人は次々と字を書いている途中だったが、石が大きいので、ページが一杯になった。彼はそれを見て言った：

「こんにちは。

— ああ、だめだよ、お若いの、わしの邪魔をしないでくれ。見ての通り、今考えているところだから。わしは物書きだ。本を書いているんだよ。だから放っておいてくれ。わかっているだろう...

- Mésié lékrivin, pa konmsa i fé. Rogard mon plim. Ou pran inn plim, ou tay la bèk, ou tramp a li dann lank, inn instan ou giny ékri. »

Sat li la fé konm lo marmay la di. Lo lékrivin li la komans toutswit aprè ékri, ékri... Lavé inn ta zafèr dann son tèt. Donk inn instan li la ranpli in paz, li la tourn la paz, li la komans kontinyé déryèr.

Ti Zan la dobout' a koté, la di :

« Mésié, Mésié lékrivin, Mésié lékrivin, sa mon plim sa. Sa plim ma la giny avèk zwazo. Zwazo ke la manz mon lantiy. Lantiy ma la giny avèk madam. Madam ke la mon kalbas. Kalbas ma la giny avèk papa. Papa ke la pran mon sotrèl blé. Sotrèl blé ke ma la giny dann badinaz.

- Hin, ékout a mwin mon anfan ! La, mwin lé okipé. Hin, vwala inn fèy po ou, pran inn fèy, é lès a mwin trankil. »

Ti Zan la pa rod plis. Li la giny son fèy. Li té fyèr. Li lavé in gran fèy, inn gran kayé konmsa. Li la parti avèk : « Mwin na inn gran fèy, kosa mi giny fé avèk inn gran fèy ? » I komans pran lélan : « Avèk mon gran fèy, mi giny fé inn lavyon, mi giny fé in lavyon ! Sinon sa, mi giny fé inn bato osi ! Sinon sa, mi giny fé in sapo ! Kosa mi giny fé ankò avèk ? Inn korné ! Ah wi, mi giny mèt pistas, goyavyé dédan. Kosa mi giny fé ankò ? »

ー 作家先生、いえ、そうではなくて。僕の羽根を見て下さい。この羽根を取って削ってからインクに浸すともっと早く書けますよ」。

彼は少年が言ったようにした。作家は次から次に素早く書き始めた... 彼の頭の中に色々とはまっていたのだった。だから、あっと言う間にページを埋めて、次のページをめくり裏側に続けた。

チジャンはその横に立って言った：

「すみません、作家先生、作家先生、それ僕の羽根です。その羽根は鳥からもらったんです。鳥は僕のレンズ豆を食べました。レンズ豆は女の人にももらいました。その女の方は僕からヒョウタンをもらいました。そのヒョウタンはパパがくれたものです。パパは僕の青いバツタをもらいました。青いバツタは僕が散歩中に見つけたんです。

ー あのなよく聞け、お若いの！ わしは忙しい。ほら、この紙を君にやるから、紙を持ってけ、わしには構わなくてくれ」。

チジャンはそれ以上頼まなかった。彼は紙をもらった。彼は満足した。彼は大きな紙、こんな風に大きなノートの紙を手に入れた。彼はそれを持って出発した：「大きな紙をもらったぞ、この大きな紙で何ができるだろう？」。彼は想像をめぐらせ始めた：『この大きな紙で飛行機が作れる、飛行機だ！ でなければ船も作れるぞ！ でなければ帽子だって作れる！ 他に何ができるだろう？ 三角の袋だ！ そうだ、その中にビスタチオやゴイヤヴィエに入れられる。他に何ができるだろう？』。

Plis li té trouvé lidé, plis li la rapros a li le vilaj. E a lantré lo vilaj, lavé la forz. Le forzron byin sir li té pouvé pa èt dann fon laba. Talèr do fé i pran. I sa pa bril la kaz domoun. Kan li ariv koté la forz, li gard par la fénèt konmsa.

Li vwa le forzron pansé dovan son foyé de sann. É le forzron i fé konm « Pfeu ». Lé antrinn souflé po ésèy fé prann dé ti bout' la brèz. E la, plis li soufl', plis la fimé i rant par son trou d'né, plis i rant par son trou d'né, plis li tous.

Ti Zan la rogard sa par la fénèt : « Mésié, Mésié forzron, pa konmsa i fé. Rogard, mwin na in papyé. Rogard papyé-la. Ou désir inn ti bout par inn ti bout, ou mèt koté la brèz « Pfeu », ou soufl', inn ti linstan out fé i pran. »

E forzron la di : « Ah, marmay, la pa kouyon sèt ou di. » Li la pran lo papyé. Li la désir ti morso par ti morso, li la mèt koté la brèz. Lo bann sarbon té i tard po prann fé talèr-la. Inn instan do fé la pran « Pfeu ». E inn instan, son souflé la komans a tiré, é lété pa lwin... La di a ou konmsa : « Kan lo fèr lé cho, i fo pass' dési. Marmay, sort' a ou tèr-la. Lé danzéré dann la forz. »

Ti Zan la rogardé : « Hin hin, Mésié, Mésié, sa mon papyé sa ! Rand a mwin mon papyé si mi sa va. Sa papyé ma la giny avèk lékrivin. Lékrivin ke la pran mon plim. Mon plim ke ma la giny avèk zwazo. Zwazo ke la pran mon lantiy. Lantiy ke ma la giny avèk madam. Madam ke la pran mon kalbas. Kalbas ma la giny avèk papa. Papa ke lapran mon sotrèl blé. Sotrèl blé ke ma la giny dann badinaz. »

彼が考えを巡らせているうちに、彼は村に近づいた。村の入り口に鍛冶屋があった。鍛冶屋は勿論村の中にはない。鍛冶屋は火を扱う。人様の家を燃やす訳にはいかないからだ。彼は鍛冶屋の脇までやって来てこんな風に窓越しに覗いた。

彼は鍛冶屋が炉の前に屈んでいるのを見た。そして鍛冶屋はこんな風に息を吹いていた：「プフ」。彼は小さな燠火を大きくしようと息を吹き込んでいるところだった。彼が吹けば吹くほど煙が彼の鼻の穴に入り、煙が彼の鼻の中に入れば入るほど、彼はますます咳き込むのだった。

チジャンは窓越しにそれを見て言った：「あの鍛冶屋さん、それじゃだめです。見て、僕は紙を持っています。この紙を見て。あなたがちょっとずつちぎって燠火の横において、『プフ』と息を吹けばすぐに火を起こせますよ」。

鍛冶屋は言った：「ああ兄ちゃん、お前の言ってることは悪くないな」。彼は紙を取った。彼はそれを小さくちぎり、燠火の横に置いた。炭がたくさんあっても火を起こすのに時間はかかる。火をすぐ起こすには『プフィ』だ。彼の息が吹かれると、ほどなく... 彼は言った：「鉄は熱いうちに打てだ。若いお、そこから離れろ。鍛冶場の中は危ない」。

チジャンは彼を見た：「あの、すみません、それは僕の紙です！ 帰るなら僕の紙を返して下さい。その紙は作家さんからもらったものです。作家さんは僕から羽根をもらいました。僕の羽根は鳥からもらったものです。鳥は僕からレンズ豆をもらいました。レンズ豆は女の人にももらいました。その女の方は僕からヒョウタンをもらいました。そのヒョウタンはパパがくれました。パパは僕から青いバツタをもらいました。青いバツタは僕が散歩中に見つけたものです」。



Le forzron la réflési inn kou, la gard anlèr, la trap inn ké d'bèf. Dann la forz, la ké bèf-la té sèk, sèk, sèk. Té rès zis le ti bout la pwal o bout tèlman lété sèk. Mé kan Ti Zan la giny lo ké bèf, li té fyèr. E la, sé pa inn lidé koman la pas par son tèt, marmay-la la parti dann bor la rivyèr, li la fouy inn gran trou, li la mèt lo ké bèf dédan, li la robous lo trou.

É li sé mèt à kriyé : « O sékour, mon bèf ! O sékour, mon bèf ! Lasasin, zandarm, la polis, domoun, vyin a zot ! O sékour, èd a mwin ! Mon bèf, mon bèf, mon bèf la anfans... » Li la fé tèlman désord : « Mon bèf la antéré, mon bèf, mon bèf, mon bèf... ! » Dé zandarm la v'ni. Na inn zandarm la di :

« Qu'est-ce qui se passe. Expliquez.

- Mon bèf, mon bèf la anfans dann la sab mésié !

- Ne t'inquiète pas. »

Na inn zandarm la trap lo ké bèf. Le dézyèm, la ténir le zandarm déryèr. Zot la ralé... La ké la v'ni dann zot min : « Hin, in... Haaa... Mon bèf, mon bèf ! Ma lavé inn bèf antyé ! Mon bèf lé kasé an dé ! I rès ryink la ké. Rand a mwin mon bèf ! »

Li la fé tèlman désord', ke bana té oblize aminn a li dovan lo ziz. Le ziz dann tribinal la ékout son zistwar. E la Ti Zan la arkomansé son kryé :

« Mon bèf, mon bèf ! Bana, ma lavé in bèf antyé la kas an dé ! I rès ryink la ké ! »

鍛冶屋はちょっと考えてから、上の方を見て、牛の尻尾を掴んだ。鍛冶場の中でその牛の尻尾はからからに干からびていた。端っこに毛の束が少ししか残っていないほど干からびていた。でもチジャンは牛の尻尾をもらって満足した。そしてそれをどうしようかと頭の中で考えながら少年は川岸に行き、大きな穴を掘ってそこに牛の尻尾を置いてから穴を埋めた。

そして彼は叫び始めた：「助けて！ 僕の牛！ 助けて！ 人殺し！ 憲兵さん、お巡りさん、誰か、みんな来て！ 助けて！ 僕を救って！ 僕の牛、僕の牛がはまり込んだじゃった...」。彼はとんでもない騒ぎを起こした：「僕の牛が埋まっちゃった、僕の牛、僕の牛、僕の牛...！」。二人の憲兵がやって来た。ひとりの憲兵が言った：

「一体何ごとだ。説明したまえ。

ー 僕の牛、僕の牛が砂の中にはまり込んだんです！

ー 心配ないよ」。

憲兵のひとりが牛の尻尾を掴んだ。二人目がその憲兵を後ろから支えた。彼らが引っ張ると... 尻尾が手に残った：「ええ、何... ああ... 僕の牛、僕の牛！ 丸々一頭の牛だったのに！ 僕の牛が真っ二つにされてしまった！ 尻尾しかない！ 僕の牛を返して！」。

彼が余りに騒ぐのでみんなは彼を判事の前に連れて行かざるを得なかった。判事は裁判所で彼の話を聞いた。しかしそこでもチジャンはまたわめき始めた：「僕の牛、僕の牛！ 丸々一頭の牛だったのにあの人たちが二つにしちゃった。尻尾しか残ってない！」。

Le ziz la pa tréné, la pa réflési lontan, la di : « Pour faire taire cet enfant, rendez-lui son bœuf. »

E wi, mézami ! Sété la promièr fwa dann in mèm zourné, kan Ti Zan la roparti avèk son bèf, ké mwin la vi avèk mon zié, inn sotrèl transform an bèf ! Té inn sotrèl blé !

Si zistwar la lé mantèr, la pa mwin lotèr ! Sa i éspas dann vakans.

Kriké !

Kraké !

判事は引き延ばさず、長くは考えずに言った：「この子供を黙らせるために、彼の牛を返すように」。〔裁判所は公的機関なので判事の言葉で  
ある〕葉はクレオル語ではなくフランス

そう、みんな！ その同じ日にチジャンが牛を連れて戻った時、牛に変わってしまったバッタを自分の目で見るのは私にとって初めてだった。それは青いバッタだったんだから！

お話が嘘でも私のせいじゃない！ それはヴァカンス中の出来事だった。

クリケ！

クラケ！

#### 14. Le kalou mazik

Patricia CHAMAND

Lavé inn fwa, in mémé, in pé vié. El i santé kèl alé mourir. Du kou èl lavé in léritaz pou donn sé zanfan, dé ti zanfan. Lavé inn té pli gran ké lot byin sir, le gran èk le ti. Le gran, èl i donn in pilon. El i èsplik pa gran soz. El i di : « Paské sé mon kado, paské mi sar mor. Ou, sé in pilon. » E le ti, èl i donn in kalou.

Dé trwa zour apré, le granmèr i mor. Bin, le gran marmay li na son pilon, li aminn dann sa kaz, li la pi tro touselé. Mé le ti marmay, le ti marmay la di : « Ekout, si mémé la donn a mwin sa, in zour sa i pé konsèrn in nafèr. » E li la mèl dan son sak, é li té mars avèk partou. Li travayé, li té pa tro ris. Li té koup do bwa dan la foré.

In zour, li té pou koup de bwa dan la foré, na in sèrpan i avans dovan li konmsa. Li té koz pa pou linstan. Li arèt travay, é li di a li : « Kosa li vé sèd la ? » Le sèrpan i di : « Vwala, dann out sak na inn nafèr lé mazik. Eské ou voudré prêt a mwin out kalou ? Paské sa sé in kalou mazik ! »

Le ti marmay i di : « Kosasa sa ! Sa in kalou mazik, mi koné pa ryan. »

14. 魔法のすりこ木〔レユニオンではフランス語の pilon (すりこ木) は「すり鉢」の意で、すりこ木は kalou-〕

パトリシア・シャマン

昔々、歳をとったおばあさんがいた。彼女は自分がもうすぐ死ぬだろうと感じていた。それで彼女は二人の孫に形見を遺した。ひとりはおもうひとりより勿論年上で、年長と年少の二人だった。年上の方に彼女はすり鉢を与えた。彼女は余り説明をしなかった。彼女は言った：「これをあげるのは私からの贈り物で、もうすぐ死ぬからね。お前にはこのすり鉢だ」。そして年下の方にすりこ木を与えた。

数日後におばあさんは亡くなった。それで年上の孫はすり鉢を家に持ち帰ったが、隅に置いたまま忘れてしまった。しかし年下の孫は言った：「よし、おばあさんがこれを僕にくれたからには、いつか役に立つに違いない」。彼はすりこ木を袋に入れて、どこに行く時も持ち歩いた。彼は働いていたがそれほど裕福ではなかった。彼は森で木こりをしていたのだ。

ある日、彼が木を伐るため森にいた時、一匹のヘビが彼の前に進み寄ってきた。しばらく彼は何も話さなかった。仕事の手を休めて彼は聞いた：「何か用があるのかい？」。ヘビは彼に言った：「あんたの袋の中には魔法のものが入っているね。そのすりこ木を貸してくれないかい？ それは魔法のすりこ木なんだ！」。

年下の孫が言った：「何だって？ これが魔法のすりこ木だって！ 全然知らなかった」。

Li té bon kèr, li vé byin prèt son kalou. Le sèrpan i sava avèk lo kalou. In ti moman pli tar, i vyin di a li mèrsi, i di : « Out' kalou lé mazik, Mésié sèrpan lété mor, é gras a out kalou, li la arlévé. » Le ti marmay i trouv sa bizar. Li la armèt lo kalou dan son sak : « Bin sa i pé fé lèw lo mor, promyèr nouvèl ! »

Li sar son kaz. Si sa rout, li trouv in syin mor. Li di : « Oté mi sa ésèy mon kalou. » Li trap lo kalou dan son sak. Li frot lo kalou si la figir lo syin, la gèl lo syin. La, lo syin i arlèw, an form : « Oté, mi di a ryin. » Li armèt son kalou dan son sak é li aminn son syin dan son kaz. Li la giny in syin.

Li fé sa vi trankilman san dir pèrson ryin. Li mèm li koné li na in kalou mazik. Mé dann le vilaz, i komans konèt, domoun i koz. I komans konèt ké li na in kalou mazik, é ke, aparaman, i fé lèw lo mor, etc.

In zour, le rwa i vyin sé le zèn marmay. I di a li konmsa :  
« Mwin na in problèm. Mwin na inn prinsès i sar mor, lé prèsk déza mor dayèr. Eské, par azard, ou voudré prèt a mwin out kalou mazik ? Domoun la kozé é la di ke, aparaman, ou na in kalou mazik é i fè lèw lo mor.

彼は親切にもそのすりこ木を貸してやった。ヘビはすりこ木を持って立ち去った。しばらくしてからヘビが戻ってきて彼に礼を言った：「あんたの魔法のすりこ木，うちの旦那が死んだのだけど，あんたのすりこ木のおかげで生き返ったよ」。少年は驚いた。彼はすりこ木を袋に戻した：「これが死んだ人を甦らせることができるとしたら，こりゃすごい話だ！」。

彼は家に向かった。その途中で，彼は死んだ犬を見つけた。彼は言った：「おっと，僕のすりこ木を試してみようか」。彼は袋の中のすりこ木を出した。彼はすりこ木で犬の顔と喉を撫でた。すると犬はたちまち生き返って元通りになった：「なんてこった，秘密にしておこう」。彼はすりこ木を袋に戻し，家に犬を連れていった。彼は犬まで手に入れた。

彼は誰にも何も言わずにひっそりと暮らした。彼自身は自分が魔法のすりこ木を持っていることを分かっていた。ところが，村では知られ始めていて，みんなが噂をした。彼が魔法のすりこ木を持っていて，実際にそれが死んだ人を甦らせるなどなど。

ある日，王様が若者に会いにやって来た。王様はこう言った：

「わしは問題を抱えておる。わしには王女がいるのだが彼女が死にそうなのだ，と言うより殆ど死んだも同然なのだ。お前はわしに魔法のすりこ木を貸してくれる気はないか？ みんながそのことを話していて，それによるとお前は魔法のすりこ木を持っていて，それは死者を甦らせるそうではないか。



- Wi, mi vé byin. »

Le rwa i promèt a li, i di a li : « Par kont', si ma fiy i lèw-la, bin sé ou i devyin lo rwa. Ou maryé ansamb èl, é ou s'ra le rwa. » Dé tout' fason, sa sé in nafèr i refuz pa.

Di kou li prêt son kalou, é le rwa i sava avèk, i pas si la figir la prinsès. Figir a zot ke la prinsès i relèv. El i ri, èl lé an form. Donk, le rwa i tyin son promès. Lé dé i maryé.

Le ti marmay, lo pov koupèr d'bwa, li devyin le rwa son tour, byin konsyan ke lu néna inn nafèr lé gayar ansanm lu, le kalou ke son mémé la donn a li. La, li réflési : « Si mon kalou i fé lèw lo mor, bin mon kalou i pé anpès a mwin d'mor osi. »

Donk, di kou, tou lé matin, zot i lèw bonèr lé dé, i pas le kalou si zot figir konmsa pou devenir imortèl. Mé sa i kontant' pa le mémé. Dann syèl laba kan solèy i lèw le matin, promié zafèr li wa, sé sa. Sé le ti marmay le rwa koméla èk son prinsès i pas le kalou pou devenir imortèl.

I di : « Ah non, non, lé pa bon. Lé pa zis, lé pa égal, i pé pa pas konmsa. Ah, mi vé pa zot i fé sa. Toulmoun i va èt imortèl. Non. »

I fé ke le solèy i désid rod lo kalou si la tèr pou le mémé. In nafèr difisil pour fé, mé le solèy la giny fé. Li la ariv dousman, li vyin rod lo kalou.

ー はい、そうしましょう」。

王様は約束としてこう言った：「もしわしの娘が生き返ったらお前が王になる。お前が彼女と結婚してお前は王になるのだ」。いずれにしても断ることはできなかった。

そして彼は王様にすりこ木を貸し、王様はそれを持って戻り、娘の顔をそれで触れた。すると、娘は生き返った。彼女は笑って元気になった。そこで王様は約束を守った。二人は結婚した。

貧しい木こりだった若者が王になったが、それは彼のおばあさんがくれたすりこ木が何か素晴らしいことを彼にもたらすと自分に言い聞かせていたからだ。そこで彼は思った：『僕のすりこ木が死者を甦らせるとすれば、僕のすりこ木は僕を死から守ってくれるはずだ』。

こうして彼らは毎朝日が昇る頃、不死になるために、すりこ木で自分たちの顔をさすった。ところが、おばあさんにはそれが気にいらなかった。天上で、朝になって空に太陽が昇ると彼女が最初に目にするのはそれだった。それは、王様になった年下の孫が王女と一緒に、不死になるためにすりこ木で自分に触れることだった。

彼女は言った：「ああ、だめだめ、それはよくない。正しくないし公平でもないし、そんなことはするもんじゃない。ああ、彼らがそんなことするなんて私は望んじやいない。誰もが不死になるなんて。だめだ」。

彼女は太陽に、自分のために地上に行ってすりこ木を捜すよう頼んだ。難しい仕事だったが、太陽はうまくやった。太陽はそっと降りてきてすりこ木を捜しに行った。

Mé kisa i vèy le kalou dapré zot ? Le syin ! Le syin lété sové. I fé ke le solèy èk le syin la komans batayé, batayé, pourswiv inn a lot. Mé le solèy la ginyé trap lo kalou é repartir lwin laba dann le syèl. Le syin la pa larg lo kor, la swiv le solèy. É i kour, i kour, i kour, i kour, déryèr solèy.

Dépi se tan-la, tanzantan, le syin i giny kap solèy konmsa dann son gèl, mèl dan son vant. La, a se moman-la, bana i di ke néna léklips. Lé pa vré, solèy dann le vant le syin, i bril a li tèlman, i pwak a li tèlman, apré solèy lé resorti. Bana i di sé léklips, mwin mi krwa pa. Mwin mi koné ke sé le syin la pou batay avèk solèy laba.

Kriké !

Kraké !

ところが、誰がすりこ木を見張っていたと思う？ 犬だった！ 命を救われた犬だった。そこで太陽と犬は戦い始め、お互いに追いかけて回した。太陽がとうとうすりこ木を奪うと、遠く空に昇っていった。犬はめげずに太陽の後を追った。犬は走って走って走って走って、太陽を追った。

その時以来、犬は時々太陽の喉にがぶりと食らいついてお腹に入れてしまうことがある。その時が日食だと言われている。そんなことはあり得ない、太陽が犬のお腹の中にあったら、犬は燃えるし焦げるし太陽が犬の外に出てしまう。みんなはそれが日食だと言うけれど私は信じない。私は太陽と犬がそこでまだ戦い続けていることを知っている。  
クリケ！  
クラケ！

## 15. Le marmay la fé in rèv

Xavier RIVIERE

Kosa in soz, Médam Mésié la sosyété ?

« Kèl soz ?

- Mi sèm avèk lo dwa. Mon dwa i sèm, mé sé mon zié ki rékol. Mi fann avèk la bous é mi ramas èk zorèy.

- Zistwar ! »

Kriké !

Kraké !

Mésié Dam la sosyété, na inn fwa po inn bonn fwa, Mésié le Fwa la manz son fwa avèk in grin d'sèl.

Zistwar-la, pa zistwar mantèr. Sé bann gramoun mèm la rakonté. Bann gramoun la rakont sa mon gramoun, mon gramoun la rakont sa mon papa. Mon papa dé fwa, kan li dor, bin li koz. Kan li koz, bin mi ékout.

Kriké !

Kraké !

Zistwar i apèl : « Le marmay la fé in rèv ». Mé ma apèl a li Ti Zan mwin alor. Mi répèt. Si zistwar-la lé mantèr, la pa mwin lotèr !

Ti Zan, in gran matin, li té pou dormi dann son li. E la dann son dormi, son zié fèrmé, in moman doné, in sourir an trans papay la mont si son figir.

## 15. 夢を見た子供

グザビエ・リヴィエール

謎かけの《これ何だ?》をやってみよう、紳士淑女のみなさん!

「どういうもの?

— 私は指で蒔く。私の指が蒔く、でも私の目が刈り取る。  
私は口で広がるが、耳で集める。

— それはお話だ!」。

クリケ!

クラケ!

紳士淑女のみなさん、ある<sup>フオワ</sup>時、一度だけ<sup>フオワ</sup>フォワさんが自分の<sup>フオワ</sup>肝を塩ひと粒と一緒に食べた。

この物語は嘘じゃない。昔の人が語ったものだ。昔の人が私の祖父に語り、祖父が私のパパに語った。パパは時々寝ている間も話していた。彼が話している時に私が聞いたという訳だ。

クリケ!

クラケ!

話のタイトルは「夢を見た子供」だ。私はその子供のことをチジャンと呼んでいる。もう一度言っておくけど、この話が嘘だとしても、私のせいじゃない!

チジャンはある朝早く、まだベッドで眠っていた。そして寝ている時、目を閉じたままで突然、満面の笑みが彼の顔に浮かんだ。

Lé zié té ankor fèrmé, malol té ankor pri d'dann tout'. A in moman doné li la lèvé, le sourir touzour si son figir. Alors, li la tir son p'ti malol. Son révèy la soné. Li la lèvé.

Kriké !

Kraké !

La tir son ti parès : « Té ma la fé in gayar rèv-la. Té, rèv-la té gayar vréman ! » Li romazinn son rèv tout. Li trap inn ti kayé, li ékri son tèv tout. Apré sa li sort dann son samb, li sar vwar son papa : « Papa, ma la fé in gayar rèv. Mi zir a ou té. Kan ma la lèvé, sourir si mon figir tout. » Le papa la domann a li sé kwé le zistwar. Krwa mwin si zot i vé, si zot i vé pa krwa pa. Le marmay la réponn : « Papa, mé zistwar-la mi préfèr gard pou mwin. Sa sé mon ti sékré ! »

Kriké !

Kraké !

A in moman doné, le papa la pa konpri. La rodemann a li, la insisté : « Vréman, zistwar vo myé mi gard pou mwin mi di a ou. Non mi di a ou, vréman vréman... »

Mésié médam la sosyété, a fors le tan la pasé, le papa komans nèrvé. A in moman doné, le papa la trap in fwèt pès. Inn ti fwèt pès.

Kriké !

Kraké !

目はまだ閉じたままで、目やにもまだ中にあった。しばらくして彼は目を覚ましたが、相変わらず彼の顔に笑みがあった。そこで彼は目やにをこすった。目覚ましが鳴った。彼は起きた。

クリケ！

クラケ！

チジャンはだるそうに伸びをした：「なんてすごい夢を見たんだ。そう本当にいい夢だった！」。彼は夢を全部思い出した。彼は小さなノートを取り出して夢を全部書きとめた。その後で彼は自分の部屋を出てパパを探しに行った：「パパ、すごい夢を見たんだ。誓って言うよ。起きた時に顔中が笑ったままだったし」。パパは彼にそれがどういう話だったか尋ねた。私を信じたいか、信じたくないか。子供が答えた：「パパ、その話だけど、自分の中にしまっておきたいんだ。それは僕の秘密なんだ！」。

クリケ！

クラケ！

パパはしばらくの間、理解できなかった。彼はもう一度頼んだがチジャンはしつこかった：「本当に、この話は自分のために取っておきたいんだって言ったでしょ。話さないから、本当に、本当に...」。

紳士淑女のみなさん、時間が経つにつれてパパは苛立ってきた。そこでパパはお仕置き用の鞭を掴んだ。小さなお仕置き用の鞭だ。

クリケ！

クラケ！



Papa la trap inn fwèt pès. Le Ti Zan la bèz in kouri, la kouri, la kouri.  
Dann son kouri, li la parti kasyèt dann in gran touf banbou. E la li la  
kasyèt déryèr le touf banbou-la.

Kriké !

Kraké !

Zot la finn vi in ta d'zistwar konmsa néna sorsyèr i tourn in gro kiyèr.  
Anndan-la, nana zariko, anndan-la nana krapo, la bav zèskargo, lavé  
d'zarégné... Oté, tousa la ! Zot la vi osi ! La prèv ke lé vré !

Kan mi di « Kraké ! », zot i répon « Sasé ! »

Kraké !

Sasé !

Bana la parti ! Bann mové zèspri-la.

Alor, dann son tourné viré, a in moman doné... Dé fwa, na inn ti  
marmay té i kasyèt dann trou koté son kaz : « Hum. Kosa ou la ni fé  
koté tèr-la ? » Ti Zan la rogard lo madam : « Mé ma la ni... Ma rakont a  
ou... »

Li la rant dann lo ti kaz :

« Madam, an réson la, se matin ma la fé in gayar rèv. E rèv-la la, ma la  
gard pou mwin. Papa la pa tro konpri. Papa té vé vréman savwar  
vréman. Ma la kouri, ma la kouri, ma lariv déryèr la po kasyèt mwin.

パパはお仕置き用の鞭を掴んだ。チジャンは一目散に逃げ出し、走って走って走った。逃げていく途中で彼は大きな竹藪の中に入った。そして彼はその竹藪の裏に隠れた。

クリケ！

クラケ！

こういう物語の多くでみんなが目にするのは魔女がいて、彼女は大きなスプーンをかき混ぜている。その中には、インゲン豆があって、その中にはヒキガエル、エスカルゴの粘液、クモ... そう、そういうもの全部だ！ みんなも見ろだろう？ それが本当だという証拠だ！

私が「クラケ！」と言ったら、みんな「追い払え！」と応えて。

クラケ！

追い払え！

これで行ってしまった！ すべての悪霊がいなくなった。

ところで、勿体ぶって言うけれど... しばしば子供が隠れている穴の横にその家があるんだな：「ふうむ。お前はそこで何をしているんだ？」。チジャンはその女の人を見て：「あの、僕はその... あなたにお話をしようと...」。

彼はその小さな家に入った：

「奥さん、こういうことです。今朝僕は素敵な夢を見ました。それで、その夢は僕だけのものにしました。パパは余り分かってくれませんでした。パパは本当に本当に知りたかったのです。僕は逃げて逃げて、その裏までやって来て隠れました。

- Hum, hum. Sa mèm mèm alor mon zanfan, hin. Di a mwin inn ti kou sé kwé rèv ou la fé-la la ? »

Alor Ti Zan la gard lo madam : « Mé mwin si mi rakont a ou mon rèv madam, kosa ou dar mwin ou ? » A zot déviné sé kwé i lé. Anfin de kont néna trwa kat parmi nou i koné sé kwa le zobjé. I sort Zapon. Lévantay ? Saké ?

Kriké !

Kraké !

Zistwar i sort par la bous, i rant èk zorèy ! La vérité la mansonz'ri i rant par lo mèm port, i sort par lo mèm port. Krwa pa tro le zistwar, krwa pa tro.

Kriké !

Kraké !

« Mé ma... Dar ou... in lévantay mazik, Ti Zan.

- In lévantay mazik ? Bin, madam, dar mwin, apré ma rakont a ou. »

Li vyin avèk lo vié madam, li la pran. Li la di : « Lé gayar. Mèrsi ! » Li la atrap lévantay-la. Le madam la èsplik a li :

« Avèk lévantay la, ou évant a ou, marmay, ou va giny volé.

- Lé vré vréman ? »

Si zot i vé, zot i vé pa. Si zot i krwa pa !

Mé le Ti Zan la pa rakont lo zistwar inntyork. Li la inventé. Li la pri la fénèt an volan. Li la volé, la volé é li la ariv anlèr dan lé zèr lao. Ariv anlèr dan lé zèr lao, le van té i pas konmsa. Le van la sant a li inn ti sanson. Le van lavé apri dann inn touf banbou.

— ほう、ほう。そうだったのかい、坊や。私にお前が見たというその夢のことをちょっと話してくれないかい?」。

そこでチジャンは彼女を見た：「でも奥さん、僕がもしあなたに僕の夢のことを話したら僕に何をくれます?」。さてそれが何だかみんな当ててごらん。三、四人かはそれが何かわかるはず。それは日本から来たものだ。扇子? 酒?

クリケ!

クラケ!

物語は口から出て、耳に入る! 真実と嘘は同じ門から入って同じ門から出る。物語を信じすぎないこと、余り信じるな。

クリケ!

クラケ!

「そうだね、お前にあげるのは... 魔法の扇子だ、チジャン。

— 魔法の扇子? ねえ奥さん、それ下さい、その後であなたに話します」。

彼は老女と一緒にいき、それをもらった。彼は言った：「これは素敵だ。有難う!」。彼はその扇子を握んだ。老女は彼に説明した：

「その扇子で自分を扇ぐと、坊や、飛べるんだよ。

— それ本当に本当?」。

みんなが望むにしろ、望まないにしろ。もしみんなが信じたくないにしろ!

ところがチジャンはその物語を話さなかった。彼は話でっちあげたのだ。彼は窓から飛んで行った。彼は飛んで飛んで空の高みまで飛んだ。彼が天の高みに着くと、風が彼にこんな風に触れた。風が彼に唄を歌った。風はその唄を竹藪で教わったのだった。

Kriké !

Kraké !

Oté dann son volé-la, Ti Zan té pou floté. E li té imazinn ankò son rèv li la fé gran matin : « Oté, rèv la té vréman gayar sa ! » A in moman doné, li ariv par dési la mèr. Li la vi la mèr. Li la vi le blé la mèr tout, li la vi lorizon tout. Li la avansé, la avansé... La li té i vwa pi tro la tèr.

A in moman doné, Médam Mésié la sosyété ! Té, dan mon zistwar i di konmsa, Ti Zan dépi anlèr laba la vi in zil ron, ron, an plin milyé la mèr. Alors, avèk son lévantay, li la mèt dann son pos.

Kraké !

Sas !

Li la d'sann si le ti zil. La li té èk lévantay dan lé zèr konmsa-la.

Kriké !

Kraké !

Ti Zan la d'sann si le ti zil ron. Le ti zil té ron, ron, ron, kan mi di a zot, pa karé. La d'sann dési. Li asiz.

Kriké !

Kraké !

Li la asiz si le gro zil la, té byin ron. La, li la ranz son évantay in kou. Li la mazinn son rèv ankò in kou. La, dan lo swar sizèr a tèr-la, dann son mazinasyon, lo zil, krwa mwin si zot i vé, lo zistwar i di vréman sa, la mèt a bouzé.

クリケ！

クラケ！

さて、飛んでいる間、チジャンは漂っていた。そして彼は朝早く見た夢のことをまた考えていた：『ああ、僕が見た夢は本当に素晴らしかったな！』。いつのまにか彼は海の上まで来ていた。彼は海を見た。彼は真っ青な海を見て、水平線を見渡した。彼は進んで、進んで... 彼は余り陸地を見ないようにした。

しばらくすると、紳士淑女のみなさん！ そう私の物語では、チジャンは空の高みから海のちょうど真ん中に、丸い、真ん丸の島を見つけた。そして扇子をポケットにしまった。

クラケ！

追っ払え！

彼はその小さな島に降りた。彼は空中で扇子を使ってそうしたのだった。

クリケ！

クラケ！

チジャンはその小さな真ん丸の島に降りた。その小さな島は丸く、丸く、丸く、私がみんなに言っているからには四角ではない。彼はその上に降り立った。彼は座った。

クリケ！

クラケ！

彼はその大きな真ん丸の島の上に座った。そこで彼は扇子をしまった。彼は夢のことをまた考えた。その時は夕方の六時頃だったが、彼が物思いに耽っていると、信じたいなら信じてもいいけど、この物語が本当にそう語っていることには、島が動き出した。

Kriké !

Kraké !

Alor Ti Zan la lèvé. In gro balèn ! Li té si le do in gro balèn ! Médam  
Mésié la sosyété, kan mi di a zot ke lété gro, lété gro vréman.

E la, in gro vwa la di a li konmsa : « Kosa ou fé si mon do ? » Le Ti Zan  
la èsplik lo balèn lo zistwar : « Anfin d'kont se matin, ma la fé in rèv. Ma  
la préfèr gard pou mwin. Papa la pa konpri. Li la kour déryèr mwin èk  
in fwèt pès. Ma lariv la kaz in madam, la donn a mwin in évantay mazik.  
Mwin la vol dan lé zèr. Ma la ariv si out dos. Sa mèm. »

Kriké !

Kraké !

La fé rir a li. Lo balèn la ri tout dan son lo. Alors, Ti Zan la fé son  
lèsplikasyon. Lo balèn avèk son zié... le zié lo balèn, mi di a zot, lé osi  
gro ké le Ti Zan. La agardé le Ti Zan lé anlèr konmsa-la :

« Hum. Bin, rakont a mwin in kou. Rakont rèv-la.

- Bin wi, mwin mi donn a ou in zistwar. Mé ou, kosa ou dar mwin ? »

Lo balèn la gard a li, la fé : « Hum. »

クリケ！

クラケ！

そこでチジャンは立ち上がった。大きなクジラだ！ 彼は大きなクジラの背中の上にいたのだ！ 紳士淑女のみなさん、私がそれは大きなクジラだと話したら、本当に大きなクジラということだ。

その時、大きな声が彼にこう言った：「私の背中の上でお前は何をしているのだ？」。チジャンはクジラにいきさつを説明した：「あの、どういうことかという、今朝僕は夢を見たんだ。でも自分の中にしまっておきたかった。パパはそれが分からなかった。彼はお仕置き用の鞭を持って僕を追いかけてきた。僕は女の人の家に着いて、彼女は僕に魔法の扇子をくれた。僕は空を飛んだんだ。あなたの背中の上に着いた。という訳です」。

クリケ！

クラケ！

これが彼を笑わせた。クジラは水の中で大笑いした。そこでチジャンは説明をした。クジラはその目で... クジラの目は、みんなに言うけど、チジャンと同じ大きさぐらいあった。彼は上にいるチジャンを見てこう言った：

「ふむ。それじゃ私にちょっと話してくれないか。その夢のことを話してくれ。

ー いいよ、その話をあなたにしてあげる。でもあなたは何をくれるの？」。

クジラは彼を見て言った：「ふーむ」。



Atann a zot « Kosa in soz ? » Gro zèspri zot i pé dormi. Sé in dévinèt qui rosanm gro zèspri, mé la pa gro zèspri : « Mi sis, mi sis, mi bour dann trou ? » Sé le fil lo zégwiw !

Kriké !

Kraké !

An rézon, lo balèn la di Ti Zan konmsa :

« Hum. Ou vwa dési mon koté d'zié gros par isi-la, nana in zégwiw. Zégwiw-la lé mazik ! Zégwiw-la i ardonn la vi.

- Lé bon, ma trapé. »

Ti Zan la d'sann dosou lo gro zié é la trap le ti zégwiw. Médam Mésié la sosyété, ankor in kou li pa atann ryin. La atrap lévantay, la rouvèr é la mont dan lé zèr. La mèt son ti zégwiw byin anroulé par isi. E pi sa la volé.

Dann lé zèr lao, le van la anport a li inn ti pé pli loin. Li lariv dann ti bor la kot. Ousa li la arivé la, lavé bann kaz tout koulèr. Lavé bann kaz nèv, lavé bann kaz zonn, rouz, lavé bann kaz vèr, lavé la kaz larkansyèl. Lavé tout bann kalité la kaz la. E pi sa, li la d'sann dési avèk son lévantay, é li lariv dann le milyé le vilaz. Dann le vilaz la, Médam Mésié la sosyété, tout domoun lété pou pléré.

Kriké !

Kraké !

Li la d'mann in madam. Lo madam la réponn a li : « Mon zanfan, na inn ti fiy lé mor dann le vilaz. Ti fiy la, bin, nout tout té i èm a li. »

ちょっとここで謎々の《これ何だ?》を出そう。へそ曲がりの人は寝ててもいいよ。この謎々はへそ曲がりに見えるけど、へそ曲がりじゃない：「私は吸い上げ、吸い上げ、穴に入れる」。それは針の糸だ！

クリケ！

クラケ！

クジラはその取引きに応じてチジャンに言った：

「宜しい。私のこっち側にある大きな目の下に針が一本ある。魔法の針だ！ その針は命を蘇らせる力がある。

ー それはいいな、僕もらうよ」。

チジャンは大きな目の下に降りて小さな針を手に入れた。紳士淑女のみなさん、彼はまたしてもぐずぐずはしなかった。彼は扇子を取り出してそれを拡げ、空に昇った。彼は小さな針をしっかりと包んだ。そして彼は飛び立った。

天空で風が彼を少し遠くまで運んだ。彼は反対側の岸に着いた。彼が着いたところには、あらゆる色の家がたくさんあった。真新しい家があったし、黄色や赤色の家があり、緑の家があり、虹色の家もあった。そこにはあらゆる種類の家があった。そして彼は扇子を使って降りて行き、村の真ん中に行き着いた。その村では、紳士淑女のみなさん、みんな泣いていた！

クリケ！

クラケ！

チジャンはひとりの女の人に何があったのかを尋ねた。女の人は彼に答えた：「坊や、村の少女が死んだの。その子はね、わたしらみんなが好きだった」。

Li la gard lo madam konmsa mèm : « Anminn a mwin la vèyé ». Alor tout domoun, lavé lo papa, lavé a li, la antandi dir ké lavé in garson té pé fé inn nafèr.

Le ti fiy lété alonzé si le li, si le mat'la konmsa la, té drwat. Médam Mésié la sosyété, Ti Zan la atrap lo ti fiy, la atrap lo zégwiw mazik, la plant dan lo min. Oté, lo vant ti fiy la mèt a gonflé. A in moman doné, lo zié la rouvèr. Èl la ropran la vi oté ! Zégwiw té vréman mazik.

Ti fiy-la la asiz konmsa-la. Oté, tout domoun té kontan. Bana la fé gran, gran diné tout. La invit le Ti Zan tout. Sa té le swar mèm. Alor, le swar mèm, Ti Zan té dan le gran diné. La lès inn ti plas po li zist koté lo ti fiy. La asiz konmsa koté le ti fiy.

E bana la mèt a kozé : « Wi, sési sela, par isi par la ba. » In moman doné, le ti fiy la demann a li : « Bin koman la fé sa ? »

Ti Zan la agard lo ti fiy, la di :

« An rézon-la, se matin, ma la di papa mi préfèr gard mon rèv, etc. E sé konmsa ma la ariv a tèr-la anfin d'kont. Ma la giny zégwiw avèk la balèn. Sé in zégwiw mazik la mars vréman si out min.

- Kwé ? »

Le ti fiy la demann Ti Zan :

« Rakont out rèv la in kou alor.

彼は女の人を見てこう言った：「夜になったらその子を運んで来て下さい」。それで人々はみんな、その中にはパパもいたが、何かできるかも知れない少年がいるという報せを聞いた。

少女はベッドのマットレスの上にこんな風に横たわり、こわばっていた。紳士淑女のみなさん、チジャンは少女を抱き上げ、魔法の針をつまみ、それを彼女の手に刺した。何と、少女のお腹が膨らみ始めた。突然、彼女の目が開いた。そして、何と彼女は生き返った！ その針は本当に魔法の針だった。

少女はこんな風に座った。さあ、みんな喜んだ。みんなは盛大なお祝いをした。みんなはチジャンを招いた。それは夜だった。その夜、チジャンは大宴会にいた。彼はちょうど少女の隣に席をあてがわれた。彼はそうして少女の隣に座った。

みんなは彼に、「そう、あれやこれや、どうのこうの」と話し始めた。すると少女が彼に尋ねた：「でもどうやってあんなことが出来たの？」。チジャンは少女を見て言った：

「どういうことかと言うと、今朝、僕はパパに僕の夢を話したくないと言って... それやこれやで僕は結局ここに着いた。僕はクジラに針をもらった。それは魔法の針で、君の手に本当に効いたという訳さ。

— 何ですって？」。

少女はチジャンに尋ねた：

「それじゃ、あなたの夢をちょっと話してよ。

- Ou koné kwé ou ? Ou vwa tout la zourné ma la viv-la, sé sa le rèv ké mwin la fé... Ziskatan, ziskatan, ziskatan... Paské la mon rèv ma la révéyé. Ma la d'mann a ou, ou lé tousèl ? »

Kriké !

Kraké !

— 何だかわかるかい？ ほら，今日一日の間，僕が体験したすべてのことだよ。それが僕が見た夢なんだ... 今まで，今まで，今まで... というのも今やっと夢から覚めたところなんだ。ちょっと君に聞くけど，君は誰かお相手いるのかい？」。

クリケ！

クラケ！

## 16. Fatou

Isabelle METZGER-CILLON

Paré pa paré ?

Paré !

Sa in zistwar la pa arivé néna si lontan d'sa. Se zistwar larivé zist apré kan Mésié lé Fwa té fini manz son fwa ansanm in-grin sèl. Zot i rapèl sa ? Na pwin tro lontan, somanké yèr ou byin avan-yèr.

E se zistwar-la, i komans pa ici, mi préfèr di a zot toutswit ! Sa i sort dan péi Lafrik, lot koté la mèr laba po nou, dann péi Yaoundé, dann péi Kounta Kinté. Navé inn ti fiy, ti gigin ti fiy. I paré kan Afrik laba, bann marmay lé ti, mé sad'la, lé té... plis ké p'ti, li té gigin mèm. Son momon lavé donn a li in ti nom, té apèl a li Fatou.

Fatou té i viv byin, té i viv éré, té i viv trankil ansanm tout son famiy. Mé ti fiy la tèlman té i ravaz tout la zourné, té i kour partou dann karo d'bwa, i grinp dési lo do léléfan, i rod po ral zorèy bann ziraf la. Bin kan i ariv la fin d'zourné, zot i pans biyn, li lé fatigé, li lé kas kasé. Bin ti fiy la té i dor in ta, in ta, toultan li té i dor. Kan li té ravaz pa, li té i dor !

## 16. ファトゥ

イザベル・メツゲル＝シヨン

パレ、パ、パレ？【語り手が聴き手に、聴く準備ができて  
きているか、と尋ねる問いかけ】

パレ！【準備ができてい  
るという応え】

このお話はそんなに昔のことじゃない。それは、フォワさんが自分の肝<sup>フォワ</sup>を塩ひと粒と一緒に食べたちょっと後の出来事。みんな覚えているかな？ だからそれほど前じゃなくて、多分昨日か一昨日の話。

それから、このお話はここで始まるのではなく、みんなにすぐ言うから！ それはアフリカの国、私たちと海を隔てた向こう側のヤウンデという国<sup>【アフリカ中西部に位置する  
カメルーン共和国の首都】</sup>、クンタ・キンテの国で始まる。そこにひとりの小さな、とっても小さな女の子がいた。アフリカでは多くの子供が小さいと言われていたけど、その子はそう... 本当にちっこかった。彼女のママは彼女に可愛い名前を付けて、ファトゥと呼んだ。

ファトゥは楽しく暮らし、幸せに暮らし、家族みんなと静かに暮らしていた。しかし少女は一日中じっとせずに、森の中を走り回り、ゾウの背中に乗り、キリンを見つけてはその耳を引っ張った。そんな訳で、一日が終わるとお分かりだと思うが、彼女は疲れてぐったりとなった。それから少女はずっとずっと眠り続けるのだった。彼女は騒いでいなければ寝ていた！



E pi in swar konmsa li dor, li san son li i balot', i balot', i balot' si koté.  
Fatou i karkiy son dé zié, é la li vwa son li lé dési d'lo, i flot. Partou otour,  
ryink dolo. Pi d'kaz, pi d'momon, pi d'papa, pi d'pié bwa, ryink dolo  
partou ! Mazinn a zot inn ti marmay konmsa i rod son momon, i rod  
son papa, i rod son kaz, i trouv pi. Kosa i fé ? E bin, i plèr ! Zot i koné  
koman domoun Lafrik i plèr ? Zot i vé mi mont a zot ? Fatou i asiz si son  
li, donk li plèr : « In... in, in... in, in... in » É pli ké lo li i flot si d'lo, pli ti fiy  
la i plèr, i plèr mèm.

Ziskatan in gran matin, son li fors tan voyaz dési d'lo-la, la kosté koté  
la mèr, isi, si la kot La Rényon mèm, pa tro lwin tèr-la. In pèsèr,  
somanké té... koman i apèl out pèsèr la ? Fano, mi koné pa. Fatou la pa  
giny di a nou lo non, mi koné pas ki sa té i lé. Mé, té in pèsèr !

Mésié pèsèr la i vwa ti fiy la antrinn pléré si son li. Déza promié fwa li  
vwa in li i flot, i ariv ziska tèr-la, é pi li la romarké : « Hum, ti fiy-la, pa in  
moun isi sa. La manyèr son sévé lé trésé, son bann kabay dési li, i  
rosanm pa linz la boutik La Rényon sa. Oté ti fiy, osa ou sort ou ? »

ある晩、彼女がそんな風に寝ている時、ベッドがゆらゆらゆらと揺れているのを感じた。ファトゥが両目を開けると、ベッドが水の上で漂っているのを見た。辺り一面、水以外何もなかった。家もなければ、ママもパパもおらず、樹もなく、水だけだった！　こんな小さな子供がママを探し、パパを探し、家を探しても見つからないところを想像してごらん。彼女は どうする？　そう、彼女は泣いた。みんなはアフリカの人がどうやって泣くのか知っているかい？　何なら見せてあげよう。ファトゥはベッドの上に座って泣いた：「アン... アン、アン... アン、アン... アン」。そしてベッドが水の上で揺れれば揺れるほど、少女は泣いて、泣き続けるのだった。

そしてある朝早く、長い間水の上を漂っていた彼女のベッドは、海岸、ここレユニオンの海岸、ここからそう遠くないところに流れ着いた。そこにひとりの漁師がいて、確か... その漁師の名前は何かだっけ？　ファノだったか、私は知らない。ファトゥだって彼の名前を私たちに言えないよ、だって私も誰だか知らないんだから。とにかく漁師がいたんだ！

漁師さんはベッドの上で泣いている少女を見つけた。彼はベッドが漂ってそこに流れ着いたのを見たのは初めてで、彼は彼女を観察した：「ふむ、この女の子はこの人間ではないな。髪の毛は三つ編みにしてあるし、身につけているものはレユニオンの店にある服には似ていない。おーい、娘さん、あんたどこから来たんだい？」。

Fatou la pèr. Déza i konpran pa kosa boug-la la po di a li. Li la koz dousman, é pi li koz ti dousman konm la grandèr son ti kor. La di :

« Momon. Momon. » Gramoun pèsèr-la pa konpri ryin, lo sèl zafèr li la konpri : « Somanké, li la pou rod son momon. »

Trapé lo ti fiy, rasir a li inn ti pé. I di a li : « Vyin, hin. Na inn ti mémé i abrit pa tro lwinn a tèr la. Atann, atann son kaz, lo tan mi sar rod out momon. »

La dépoz Fatou dovan la kaz inn vié mémé. Inn mémé konm ninport kèl mémé, konm la vot, nou té apèl a li mémé Martha. Sèlman, na inn bon pé d'moun té i apèl a li Martha la fol, soi dizan son tèt la bloké inn zour, mé po kosa, nou koné pa.

Pèsèr la i dépoz Fatou la kaz Martha, é pi li fé lo tour La Rényon pou alé rod lo momon. Sèlman, kan pèsèr-la la dépoz Fatou la, na inn nafèr li la pa di. Martha, la tèt té piké vrèman. Dan son degré de piké d'tèt, Martha té i pran a li po inn sorsyèr. Li té po kri partou, li mèm désandan kisa dapré zot ? « Granmèrkal ! » Li mèm désandan Granmèrkal ! Li té pran a li po ti ti ti ti zanfan Granmèrkal.

Fatou i rant dan la kaz. Mémé Martha i mèt a li asiz dann sofa. I di a li : « Ou la fin mon zanfan ? » Fatou i konpran pa. « Miam miam, tiap tiap ? » Fatou i bouz la tèt, i di : « wè. »

ファトゥは怖かった。そのおじさんが自分に言っていることが分からなかった。彼女は彼に静かに、彼女の小さな身体と同じほど静かに話した。彼女は言った：「ママ、ママ」。老いたその漁師は何も分からなかったが、ひとつのことだけは分かった：「多分、この子はママを探しているようだ」。

彼は少女を掴んで抱き上げた。彼は彼女に言った：「こっちへおいで。ここから遠くないところにばあさんが住んでいる。待っていなさい。彼女の家で待っているんだ、私がお前のママを探している間は」。

彼はファトゥを老婆の家の前まで連れて行った。その老婆は誰であってもいいのだけれど、マルタ婆さんとでも呼んでおこう。ただ多くの人たちは、「狂ったマルタ」と呼んでいた。つまり彼女の頭がある時おかしくなったということなんだけど、どうしてそうなったのかは分からない。

漁師はファトゥをマルタの家に預けてから、彼女のママを捜しにレユニオン中を回った。ただ、その漁師はファトゥをそこに置いていく時にそのことを言わなかった。マルタは本当に頭がやられていた。どのぐらいおかしかったかと言うと、マルタは自分のことを魔女だと思っていた。それにあちこちで自分のことを子孫だと吹聴していた。誰の子孫だと思う？ 《カル婆》！ 《カル婆》の子孫！ 彼女は自分のことを《カル婆》の来孫<sup>曾孫  
の孫</sup>だと思っていた。

ファトゥは家に入った。マルタ婆さんは彼女をソファに座らせた。彼女は言った：「お腹が減ってないかい、嬢ちゃん」。ファトゥは分からなかった。「ぱくぱく、まんま？」。ファトゥは頭を動かして言った：「はい」。

Mémé Martha i sar dan la kwizinn, i trap son gro marmit. A la la la, grosèr lo marmit ! Mèt dovan lo ti fiy. Fatou i bèk, i bèk dé trwa grin d'ri. Mé oubli pa ma la di a zot li lé gigne, son ti bous la i rant pa in bon pé manzé d'dan.

Mémé Martha i di : « Oté, manz pli vit ma fiy ! Talèr pèsèr la na lo tan arivé, ou la pokor angrésé ! » Fatou i konpran mèm pa kosa li di. Mémé Martha sé trap lo gro kiyèr rampli dori, fout' lo gro kiyèr dann la bous lo zanfan, rod po touf touf lo marmay. Fatou la konpri, dann son koko, li po maziné : « Té li lé po angrès a mwin li la ? Ben mounwar, pa mwin byin sir po rès la ! »

Fatou sé sot par la fénèt, kour déor. Li ariv déor, kri lasasin, rod in moun po èd a li, pèrson la pwin. Gro fénwar i komans rantré. Li lé pa son kaz. Li la pèr. Oté, ousa li sar kasyèt ? Li sé rant an misouk par lo trou ou sa lo syin i rant, rant sou lo li, bouz pi.

Mé, hin, Martha, la santi lodèr, la santi lodèr konm si navé inn té po kasyèt par la. Martha la kri a li, la di : « Hé, Fatou, Fatou, vyin isi mon zanfan, vyin, mémé Martha néna gato, vyin ! » Fatou kasyèt, kalkil : « Kosa mi koné pa ou sar manz à mwin ! Mi bouz pa, mi rès la mèm. »

マルタ婆さんは台所に行って大きな鍋を取り出した。おやおや、何て大きな鍋！ 彼女はそれを少女の前に置いた。ファトゥは二、三粒の米をついばんだ。忘れてはいけないのは、彼女がとても小さいので、その小さな口に食べ物はたくさん入らないということだ。

マルタ婆さんは言った：「さあ、もっと早く食べるんだ！ 漁師が戻るまで時間があっても、お前さんはそれまでに太らないよ！」。ファトゥは何を言われたか分からなかった。マルタ婆さんは米を盛った大きなスプーンを持ってきて、子供の口の中にその大きなスプーンを押し込んだので子供は危うく息を詰まらせるところだった。そこでファトゥは理解して、頭の中で思った：『この人は私を太らせようとしている？ ああ、ここにいたらだめだわ！』。

ファトゥは窓から飛び降りて外に駆け出した。外に出ると「人殺し」と叫んで誰か助けてくれる人を探したが誰もいなかった。彼女は大きな恐怖に襲われた。自分の家はない。彼女は怖かった。一体、どこに隠れたらいいのだろう？ 彼女は犬が入る穴からこっそりと帰り、ベッドの下に入っ

てじっとしていた。

ところが、ほら、マルタは臭いをかいで、彼女がそこに隠れているのが臭いでわかった。マルタは呼んで言った：「ほら、ファトゥ、ファトゥ、こっちにおいで嬢ちゃん、おいで、マルタ婆ちゃんがお菓子を持っているからおいで！」。ファトゥは隠れて思った：『どうしてこの人は私を食べようとしているのか分からない！ ここから動かないでじっとしていよう』。

« Fatou, Fatou, vyin a ou ! » Fatou la di : « Non ! Mi koné ou sar manz à mwin ! Ou ginyra pa trap a mwin ! » Mémé Martha la komans nèrvé, la di : « Oté ti fiy la nad' toupé ! Fo mi trouv in manyèr, fo mi trouv in manyèr po mwin manz ti fiy la. Si la pa mwin, na inn ot va manz a li. Paské sinon li sa répèt partou kosa mi sar fé èk li. »

« Fatou, rand a mwin inn ti sèrvis, hin, siouplé. Alé rod inn tipé d'myèl dann la foré, pa tro lwin, zist tèr la néna in gro gob domyèl. Aminn inn tipé, ma fé dé bonbon dmyèl, ma la fin. » Fatou la di : « Mi sar rod out myèl, mé tansyon a ou, kosté pa tro koté dmwin, lès a mwin pasé. »

Fatou la sort déor. Inn instan lariv dann karo d'bwa. Martha la anvoy a li dann karo d'bwa a tèr la, paské li koné, li koné zwazo la vèvé lé la. Zot i koné zwazo la vèvé zot ? Zot i koné pa li ? Ah bin, vo myé zot i krwaz pa son somin. Si i apèl a li la vèvé, lé pa pou ryin, hin. Wa, si ou la krwaz son somin-la, ou lé sir, ou lé sir é sèrtin, dan lé zour ki swiv, ou sa kas kiyèr, ou sar mor. Martha fini kalkil son kou. La di : « Ma anvoy a li, zwazo la vèvé va tomb si li, li va krèw sé pa kèl bor la ba, pèrson trouv'ra pa son tras. »

「ファトゥ、ファトゥ、おいでったら」。ファトゥは言った：「いやだ！ あんたが私を食べるって分かっている！ あんたには捕まらないからね！」。マルタ婆さんはいらいらし始めて思った：『この小娘は何て厚かましいんだろう！ 何か方法を見つけないと、この小娘を食べる方法を見つけないと。わしでなくても誰かこいつを食べる奴がいるだろう。そうしないと、こいつはあちこちでわしと面倒を繰り返すだろう』。

「ファトゥ、ちょっとお前に頼みがある、いいかい、お願いだ。森に行ってハチミツを少し探してきておくれ。そんなに遠くないところで、そこに大きなハチミツのかたまりがある。少し持ってきておくれ。それでハチミツの揚げ菓子を作るんだ。お腹が減ったのだね」。ファトゥは言った：「あんたのハチミツを探しに行くわ。でもいいこと、私に余り近づかないで。そのまま行かせて」。

ファトゥは外に出た。すぐに森に着いた。マルタが彼女をその森にやったのは、そこにヴェヴェ鳥<sup>[X]</sup><sub>鳥</sub>がいることを知っていたからだ。みんなはヴェヴェ鳥のことを知ってるかい？ 知らない？ ああそう、道で出くわさない方がいい。ヴェヴェ鳥と呼ばれるのには訳があるんだ。あなたがもし道でそいつに出くわして、それが確かだったら、何日か後に死んでしまう。マルタはこうたくらんでいた：『あいつを使いに出したら、ヴェヴェ鳥がどこか分からないところであいつに飛びかかって殺してしまい、誰もその跡を見つけれないだろう』。



Malérèzman Fatou, ti ginn konm li lé, kan li la antandi zwazo la vévé, la zèl « frap frap frap frap », Fatou sé kasyèt sou inn ros. Zwazo la vévé la la viré, la tourné, la rodé, oki bourik. Pa trouv a li, la pa trouv a li, wi. Fatou la lès zwazo la vévé alé, trap son gob domyèl, atourn la kaz Martha.

Fatou i ariv, Martha i rotrov son trou d'né. La di : « Hin ! Oté ti fiy ou la fini rov'ni ? Ben, zwazo la vévé la pa manz a ou dont ? » Fatou i di : « Bin non ! Ma la kasyèt sou in roz, li la pa trouv a mwin. » « Hum ! Oté, ben ti fiy la néna d'rosours dann son koko, i fo mi trouv inn ot mwayin pou débaras a mwin de se marmay la. Ma la trouvé ! »

« Fatou, vyin, vyin ou isi, hin, ma la ankor fin, ou voudré pa alé lav mon marmit ? Alé lav mon marmit konmsa ma giny fé kwir mon manzé. Dann mon marmit lé sal, dépi dé trwa somèn, mon do i fé si tèlman mal, mi giny pa désann ziska bordaz la mèr. Lav mon marmit. Mé atansyon, rovyin pa si marmit la lé pa prop, paské ma fiy, sé ou mi manz sinon ! »

Fatou la trap lo marmit, la mèt si son tèt, la parti. Mé bordaz la mèr, sa lé lwin, i fo mars lontan wi marmay ! Anplis ké sa, ma la di a zot, Fatou lé pa ryink p'ti, li lé plis ké ti, li lé ti ginn. Alor, imazinn a zot son dé ti pyé koman i avans pa byin vit.

ところが生憎なことに、ファトゥは小さかったので、ヴェヴェ鳥の「フラップ、フラップ、フラップ、フラップ」という羽音を聞いて、岩陰に隠れた。ヴェヴェ鳥は飛んで巡回して探したが、ロバー匹も見つからなかった。彼女を見つけれなかった。ファトゥはヴェヴェ鳥をやり過ぐすと、ひとかたまりのハチミツを取ってマルタの家に戻った。

ファトゥが帰るとマルタは鼻の穴を膨らませた。彼女は言った：「おや！ 小娘、お前は戻って来れたのか。そうか、ヴェヴェ鳥はお前を食べなかったということだな」。ファトゥは言った：「そうよ！ 私が岩陰に隠れたので私を見つけられなかった」。『ふーむ、この小娘の頭はまともなようだ。このガキを片付けるのに他の方法を見つけないと。あったぞ！』。

「ファトゥ、来なさい。こっちへ来なさい。いいかい、まだ終わってないよ。わしの鍋を洗いに行ってくれないかい？ わしのご飯を作れるように鍋を洗いに行ってくるんだ。わしの鍋の中は汚れている、ここ数週間ほどわしは背中が痛くて海岸まで鍋を洗い到下りて行けないんだよ。鍋を洗っておくれ。但し、鍋がきれいになるまで帰ってこないように。そうでないとお前を食べてしまうぞ」。

ファトゥは鍋を取って頭の上に載せて出かけた。しかし海岸までは遠く、長い間歩かなければならなかったんだ！ おまけに、みんなに言ったように、ファトゥは小さいどころか、本当にちっこいことこの上なかった。だからお分りのように、彼女の小さな二本の脚ではそんなに早く進めなかった。

Fatou i di : « Té kèl èr mi sa ariv a tèr ba. Si mi té koné sa, mi té pran kar zonn ! » Ti lamp, ti lamp, li avans, li avans, le somin lé ankòr lwin. Li travèrs in lèspès foré. Fatou i di : « Lé bizar, la foré lété pa tèr la sa kan mwinn té pou gardé. La pa grav, pétèt i fo ké mi pas la. »

Li travèrs lo foré. Pli li travèrs lo foré, é plik lo bann pyé dbwa i sanz koulèr. In pé lé nwar, na in pé lé maron, na in pé lé vèr, on diré ké lé bann pyé d'bwa i èsèy copyé sakèn in koulèr, mé na pwin in koulèr i rosanb inn é lot. Lontan apré, la lang la di, la pa mwinn, zistwar i rakont ké sé pyé d'bwa i apèl « Pyé d'bwa sanz koulèr ». E se foré la té apèl la « Foré bwa d'koulèr » paské sak moun té i rant dédan, pyé d'bwa té sanz koulèr, té i pran la koulèr out pèr. Out pèr lé pa mèm koulèr ké la myinn. Sèk Ann lé pa mèm koulèr ke la myinn, sèk Zan-Pyèr, sèk Albert, non pli. Sak pèr navé son koulèr, donk sak pyé d'bwa té pran la koulèr la pèr lo moun.

Fatou i avans dousman dousman dann se foré d'bwa d'koulèr la. E pi kap kap té i mont dési li paské li san li lé pa tousèl, li vwa pa, mé li san li lé pa tousèl dann la foré la. E la dann détour dinn ti santyé, li antan :

« Sssssssssssssssss... sssssssss... ssss... ssssss ».

ファトゥは言った：「ああ、いつになったらあっちに着けるだろう。もし知っていたらカール・ジョーヌ<sup>「レユニオンの都市間バス路線。車体が黄色（ジョーヌ）であることからこの名で呼ばれている」</sup>に乗るのに！」。彼女は少しずつ少しずつ、進んで進んでいったが道はまだ遠かった。彼女は森の中を抜けていった。ファトゥは言った：「何だかおかしい。私がさっき見た時にはここには森なんかなかったのに。でもいいわ、ここを通り抜けなくちゃ」。

彼女は森を通った。森に深く分け入れれば分け入るほど、辺りの樹がその色を変えた。ある時は黒、またある時は栗色、緑などに変わり、まるでそれぞれの樹が色を真似ようとしているのに、ひとつとして似ているものはなかった。ずっと後になって、私が語ったのではないけれど、物語の中でそれらの樹は「色を変える樹」と呼ばれるようになった。そして、「色がついた森」と呼ばれるようになったのは、誰かがそこに入ると、樹が色を変えて、その人の恐怖の色になると言われているからだ。みんなの恐怖は私の恐怖と同じ色ではない。アンヌの色は私のとは同じ色ではないし、ジャン＝ピエールもアルベールも同じこと。それぞれの恐怖にはそれぞれの色があるから、それぞれの樹が変わる色もそれぞれの人によって違う。

ファトゥはゆっくりゆっくりと「色のついた森」を進んで行った。すると突然恐怖を感じた。ひとりではないことを感じたからだ。彼女は何も見なかったが森の中でひとりではないのを感じた。すると道の曲がり角で彼女に聞こえた：「シューシューシュー...シューシュー...シュー...シューシュー」。

In bèl sèrpan i drès dovan li. A la la la lang marmay, kat mèt la lang lo sèrpan. La lang la i vyin, i tourn otour son tèt, i rant dann son zorèy, dann son né, i dig dig a li. Sèrpan la i koz ansanm li, i di a li : « Kisa ou lé ? Ousa ou sa va ? » Kap kap i mont ankor plis dési li. La i komans i moud poiv la. La plim i drès si son bra. Fatou la pèr. Kan zot la pèr, kosa zot i fé zot ? I kour, i kri lasasin ? Ou zèt galé ? Ti fiy-la i kour pa. Bann domoun i sort dann péi Lafrik, i kour pa laba. Bana i sant. Fatou la poz son marmit a tèr. Sèrpan la domann a li kisa li lé é ousa li sava. Li la poz son marmit é li la répon :

♪ Mi apèl Fatou, Mwin na pi momon ni papa, la vi lé dir, mwin na traka, paské mi abité sé la sorsyèr. É mi sa va o bor la mèr, avèk mon marmit si la tèt. Mon zamb i tramb, mwin la pèr ♪

« Sssssssss... ssssss... sss », sèrpan la giny lélan. « Ssss... Ssss... », la di : « Oté ! Ssss... ssss, sanson la lé zoli ma fiy, lé zoli. Ou sant byin ! Pas a ou, pas a ou, mi manz'ra pa ou. » Gras son sanson, sèrpan la pa manz Fatou, la lès a li pasé. Fatou trap son marmit, mèt si son tèt vitman, kour kour kour. Malgré son pyé lé ti gigin, i avans pa vit, kour a ou tifiy !

Ou koné pa ankor kèl kalité d'zanimo ou sa ankor rankontré dan se foré bwa d'koulèr la. Fatou la giny lélan, la arasé marmay, la kouri. Ziskatan son tèt la bat dann..., mi koné pa kosa, la fé « boum ! ».

巨大なヘビが彼女の前に立ちはだかっていた。ああ、そのヘビの舌は何と四メートルはあった。その舌が彼女に近づき、頭に巻きついて耳や鼻の中に入ってきて彼女をくすぐった。ヘビは彼女に話しかけて言った：「お前は誰だ？どこへ行く？」。彼女はますます怖くなった。彼女は恐怖を感じ始めた。彼女の腕に鳥肌が立った。ファトゥは怖かった。もしみんなが怖くなったらどうする？ 逃げるとか、人殺しと叫ぶ？ 石を投げる？ この少女は逃げなかった。アフリカ出身の人はそういう時は逃げない。みんな歌うんだ。彼女は鍋を地面に置いた。ヘビは彼女に、誰でどこに行くのかを聞いた。彼女は鍋を置いてから答えた：

♪ 私はファトゥ、ママもパパもいない、暮らしはつらいし心配ばかり、魔女のところに住んでいるから。私は海辺まで降りていく、鍋を頭に載せて。私の脚は震えている、怖いから ♪

「シューシューシュー... シューシュー... シュー」、ヘビが寄ってきた。「シュー... シュー」、彼女に言った：「おや！シュー... シュー、その歌は美しい、娘さん、美しい。歌がうまいぞ！通っていい、通っていい、お前さんを食べやしない」。歌に免じてヘビはファトゥを食べずに通してやった。ファトゥは鍋をつかむや否や頭に載せて走りに走った。彼女の脚はとても小さいけれど、彼女は速く進み、走った、この少女は！

みんなはまだ、この「色のついた森」で遇っていない動物がどんな種類なのか知らないよね。ファトゥは突き進み、急いで走り、逃げた。すると彼女の頭が... 何か分からないものにぶつかって、「どん！」と音を立てた。

In bèf, in bèl bèf moka byin gra ! A la la la lo gro bos si lo do. Bèf moka la i rogar a li, trou d'né i ékart, la fimé i komans sorti, i koman bouz lo pyé : « Kisa ou lé ? Ou sa ou sava ? »

Oubli pa kosa ma la di a zot. Kap kap dési li, son dan i komans zoué lakordéon, son lèstoma i komans moul poiv, la pèr dési li. Kosa domoun Lafrik i fé kan la pèr ? Li poz son marmit a tèr :

♪ Mi apèl Fatou, Mwin na pi momon ni papa, la vi lé dir, mwin na traka, paské mi abit sé la sorsyèr. É mi sa va o bor la mèr, avèk mon marmit si la tèt. Mon zamb i tramb, mwin la pèr ♪

Lo bèf i di : « Ha, ha ! Té sanson-la lé bèl sa. Promié fwa mi antan in gayar sanson konmsa ! In ti fiy, mi manz'ra pa ou zordi, pas a ou, pas, pas vitman, mi manz'ra pa ou. » Bèf la lès a li pasé. Fatou la mèt son marmit si son tèt é li kour, la di : « Kosa kosa i atann a mwin ankor lot koté laba ? »

Li la kour ankor pli vit. Inn instan lariv bordaz la mèr. Son kèr té klèr, son kèr té klèr, la di : « Ha ! Somanké mi trouv a pi ryin. » Plonz lo marmit dan'lo. Komans trap in pé la sab, frot èk lo dmèr po nétoy lo marmit... Zot i di pa ké sé la ké li antan in désord. Fatou la di : « Té bon dyé, kosa, kosa ou la anvoy pou mwin ankor ? »

E la li antan : « Klakla klakla klakla klakla... Klakla klakla klakla klakla... » Fatou i tourn lo do. In bèl krab marmay !

それは牛、立派に太った大きなモカ牛だった！ おやおや、背中のコブの大きなこと。モカ牛は彼女を見て、鼻の穴を広げ、そこから湯気を立てて脚を動かし始めた：「お前はだれだ？ お前はどこに行く？」。

私がみんなに言ったことをお忘れなく。彼女は恐怖に襲われ、アコーディオンを弾いてるように歯をガチガチ言わせ、胃がよじれるほど怖かった。アフリカの人は怖い時にはどうしたっけ？ 彼女は鍋を地面に置いた：

♪ 私はファトゥ、ママもパパもない、暮らしはつらいし心配ばかり、魔女のところに住んでいるから。私は海辺まで降りていく、鍋を頭に載せて。私の脚は震えている、怖いから ♪

牛は言った：「ああ！ その歌はきれいだ。こんな素敵な歌を聴いたのは初めてだ！ お嬢ちゃん、今日はお前を食べないから通りな、早く通りな、お前を食べないよ」。牛は彼女を通させた。ファトゥは鍋を頭に載せて走り出して言った：「まだこの先で何が私を待ち受けているのかしら？」。

彼女はさらに速く走った。まもなく海辺に着いた。彼女はほっとして、ほっとして言った：「ああ！ 多分これで誰にも遇わないですむわ」。彼女は鍋を水につけた。彼女はひとつかみの砂をすくって、それで鍋を海の水で磨いた... 彼女が大きな音を聞いたのは何だったか、みんな言えないでしょう。ファトゥは言った：「ああ、神様、一体何を、あなたはまた何を私に遣わされたの？」。

彼女は聞いた：「クラックラックラックラッ... クラックラックラックラッ...」。ファトゥは振り向いた。それは大きなカニだった！



In bèl krab zérnyom dovan li. Bann gro krab rouz, a la la la, lo gro pins.  
Krab-la i tourn, i tourn, i rod po pins, pins a li. I di a li : « Kisa ou lé ?  
Ousa ou sava ? » Kosa Fatou la fé dapré zot ? Li la pléré ! Li la pléré ma  
fiy ! Lasasin ! Zot i rapèl koman li té i plèr ? Ma la di a zot o débi koman  
li té i plèr. Zot i rapèl ? : « In... in, in... in, in...in » Lo krab la di : « Plèr pa  
ti fiy. Mwin la pankor manz a ou. Pa bézwin ou plèr. » Fatou i plèr, i plèr.  
« Ma la domann a ou kisa ou lé ? Ousa ou sava ? »

Alor Fatou la santé, mé li la pléré an mèm tan. Zot i giny santé é pléré  
anmèm tan zot ? Ti fiy-la i giny ! La di :

♪ Mi apèl Fatou ou ou ou... Mwin na pi momon ni papa, la vi lé dir,  
Mwin na traka, paské mi abit ché la sorsyèr, É mi sava bordaz la mèr,  
avèk mon marmit si la tèt, Mon zamb i tramb, mwin la pèr. Fatou ou  
ou ou... ♪

Krab la di : « Lé bon tifiy ! Mé arèt pléré. Mé ou sant byin. Pa bézwin  
ou plèr. Mi manz'ra pa ou. » Fatou la di : « Sé pa pousa mi plèr. Mi  
anfou si ou manz a mwin. Mon marmit i vyin tonm dann lo. Si mi  
raminn pa marmit-la, Mémé Martha i sar manz a mwin ! »

ゼラニウムの花の色をした大きなカニが彼女の前にいた。その大きな赤いカニは、ああ、大きなハサミを持っていた。そのカニは回って、回って、ハサミを彼女に振り上げた。彼は言った：「お前は誰だ？ お前はどこに行く？」。そのあとファトゥは何をしたと思う？ 彼女は泣いた！ 彼女は泣いたんだよ！ 人殺し！ みんなは彼女がどうやって泣くか覚えているよね？ どんな風に泣くのか最初の方でみんなに言ったから。みんな覚えている？「アン... アン，アン... アン，アン... アン」。カニが言った：「泣くんじゃないよ，お嬢ちゃん。私はまだお前を食べないよ。怖がることはない」。ファトゥは泣いて泣いた。「私はお前に聞いているんだよ，誰なんだ？ どこに行くんだい？」。

そこでファトゥは歌ったが，同時に泣いていた。みんなは歌いながら泣くなんてできる？ その少女はできたんだ！ こうやって：

♪ 私はファトゥ， ウー， ウー， ウー... ママもパパもいない，暮らしはつらいし心配ばかり， 魔女のところに住んでいるから。私は海辺まで降りていく， 鍋を頭に載せて。私の脚は震えている， 怖いから。ファトゥ， ウー， ウー， ウー... ♪

カニが言った：「お嬢ちゃん！ 泣くのはおやめ。それにしてもお前は歌がうまい。泣くことはない。お前を食べないから」。ファトゥは言った：「それで泣いているんじゃないの。あなたが私を食べたってどうでもいい。私の鍋が水の中に落ちたの。もしその鍋を持って帰らないと， マルタ婆さんが私を食べてしまうわ！」。

Lo krab la di : « Plèr pa. Ma lé trap out marmit. Bouz pa. » Krab sot dann lo. Li arvyin èk in bèl marmit. Marmit-la lé prop. I briy konm si lé nèv, i vyin sort dann la boutik. I di : « Pran, pran lo marmit. Aminn pou Mémé Martha, i manz'ra pa ou li. »

Fatou i agard lo marmit, la di : « Bin, sa la pa mon marmit sa ? La pasa ma la améné po lavé ? » Lo krab i di a li : « Fatou, akout. La pa out marmit mèm. A mwin, a mwin, i donn a ou so marmit-la. Marmit-la sé in marmit mazik ! Aminn a li po out vyé Mémé Martha. Di a li mèt zist trwa gout dolo d'dan, é pi tap trwa fwa dési. Tousèk son kèr i vé manzé, li va giny. Li nora tèlman manzé, li nora pi anvi manz a ou. »

Fatou la di : « Lé vré ? Oté, vitman, toutswit mi sa va ! » Trapé lo marmit, mèt si son tèt, glis ansandan. E la konm inn nafèr lé bizar, li la ariv pli vit anba ké li lariv laba bordaz la mèr. Zistwar i di pa ou koman la fé.

« Martha, Martha, ogard. Mwin na in gayar zafèr po ou ! » Martha i agard lo zoli marmit lo ti fiy. Lé prop vréman. La di : « Hum, ou la pa lav mon marmit ou la ! Ou la parti asèt in marmit la boutik, sé pa bazar laba. Ousa i lé mon marmit a mwin ? »

カニは彼女に言った：「泣かないで。私がお前の鍋を持ってくるから。じっとしてなさい」。カニは水の中に飛び込んだ。彼は大きな鍋を持って戻ってきた。その鍋はきれいだった。新品のようにぴかぴかで、店で買ったばかりのようだった。彼は言った：「ほら、この鍋を取って。マルタ婆さんのところに持っていけば、お前を食べないだろう」。

ファトゥはその鍋を見て言った：「でも、それは私の鍋じゃないでしょ？ 私が洗うのに持ってきた鍋じゃないでしょ？」。カニは言った：「ファトゥ、いいかい。それはお前の鍋と同じではない。私から、私からお前にこの鍋をあげよう。この鍋は魔法の鍋だ！ これをお前のマルタ婆さんのところに持っていきなさい。水を鍋の中にちょうど三滴だけ入れるように言うんだ。それから鍋の上を三回叩くと、彼女が食べたいと思うものがすぐに出来上がる。彼女はたらふく食べて、お前を食べようとしないうだろう」。

ファトゥは言った：「それ本当？ それならすぐに行くわ！」。彼女は鍋を取って頭の上に載せ、滑るように立ち去った。そしておかしいことに、彼女は海岸に来た時よりもずっと早く家に着いた。物語は彼女が一体どうやったのかについては言っていない。

「マルタ、マルタ、見て。あんたにいいものを持ってきたわ！」。マルタはきれいな鍋と少女を見た。それは本当にぴかぴかだった。彼女は言った：「ふん、お前は私の鍋を洗ってないな！ お前はこの鍋を店か市場に買いに行ったんだろう。私の鍋はどこなんだい？」。

Fatou i di : « Non, gard lo marmit. Ou trap, mèt dé ti gout' dolo dédan. Tap trwa fwa dési, ou va vwar. E pi pans byin for dann out kèr in zafèr ou la anvi manzé, ou ponkor manzé dépi lontan. »

Martha i mèt dolo dédan. I tap trwa fwa, é pi la di : « Oté mi manz'ré byin inn nafèr étranz ! Mi manz'ré byin... Hum ! La tèt koson èk gro pwa ! » Pa manké ! Tir kouvèrtir dési, marmit rampli èk la tèt koson èk gro pwa.

« Ah ! I mars èk tout' zafèr out marmit la Fatou ?

- Wi ! »

I vèrs tèr-la ba, mèt dé gout dolo, la di : « Mi manz'ré byin. Kosa ou manz'ré ou ? Kosa ou èm'ré byin manzé ? Sivé kanar ! Alé, na domann in sivé kanar, nawar si i donn a nou. Mi manz'ré byin in sivé kanar. » ( Trwa kou si le marmit ) Découv lo marmit. Kosa li trouv dédan ? Sivé kanar ! Ah.... !

Tout la zourné, li la ésèy tout kalité kari. Tout la marsé ! Kan lariv la fin la zourné, la di :

« Hé, Fatou, Fatou, di a mwini in pé la, kisa la donn a ou so marmit-la ?

- Mwin na pwini lo drwa di a ou kisa la donn a mwini. Sé in sékré. Fo pa mi répèt !

- Kosa ou la di ?

- Ma la di a ou, sé in sékré, fo pa mi répèt !

ファトゥは言った：「違うの、この鍋を見て。これを取って中に水滴を少し入れるの。その上を三回叩いてみたら分かるわ。それに食べたいものやずっと食べていないもののことを心の中で強く思うのよ」。

マルタは鍋の中に水を入れた。彼女は三回叩き、そして言った：「ほれ、わたしや珍しいものを食べたいよ！ 食べたいのは... ふむ！ 大きなエンドマメを添えた豚の頭！」。その通りになった！ 蓋を取ると、鍋は大きなエンドウマメ添えの豚の頭で一杯だった。

「ああ！ お前の鍋は何でも作れるのかい、ファトゥ？

— そう！」。

彼女は鍋の中身を地面に空けてから、水滴を入れて言った：「たくさん食べたいな。お前は何が食べたい？ 何が好物だ？ カモの煮込み！ それじゃカモの煮込みを頼んでみよう、作れるかどうか見てみようじゃないか。わしはカモの煮込みが食べたい」。(鍋の上で三回叩く) 鍋の蓋を取ると。中に何が見つかる？ カモの煮込み！ ああ...！

一日中、彼女たちはあらゆる種類のカレーを試した。全部うまくいった！ 一日が終わった時、彼女が言った：

「なあ、ファトゥ、ファトゥ、誰がお前にこの鍋をくれたのかちょっと言ってくれないかい？

— 誰が私にそれをくれたかをあんたには言えないことになっているの。それは秘密。何度も言わせないで！

— お前は何を言ってるんだ？

— だから言ったでしょ、それは秘密だって、何度も言わせないで！

- Fo pa ou répèt ! Ou va di a mwin ma fiy, paské si ou di pa mwin-la, mi sar manz a ou ti fiy ! »

Fatou té oblizé di :

« Bin, sé lo krab, lo krab zèrnyom dann bor la mèr ke la donn a mwin sa.

- Ah, aspèr, aspèr in kou. Ma lé vwar a li osi mwin ! »

Martha travèrs la foré son tour. I tomb si lo sèrpan, zot i pans biyn. Sèrpan i domann a li : « Kisa ou lé ? Ousa ou sa va ? Ssssss... » Martha la di : « A koz, zafèr d'moun i rogard a ou ! Sort dovan mwin. Lès a mwin pasé don ! » Lo sèrpan la di : « Konmsa ou koz èk mwin ! Atann a ou ! » Sèrpan la sot dan son gosié. La séré, la séré, la séré, la touf lo pov Martha. Kan sèrpan fini alé, Martha la arlévé. Li la fé konm si lavé touf a li, mé la vé pa touf a li. Li taye la rout, li la parti, travèrs la foré.

Boum ! Désì ki li tomb ? Désì lo bèf moka. Alor lo bèf moka la di a li :

« Hé, a ou, ousa ou sa va la ? Ou kalkil ou sar travèrs mon kour konmsa san di a mwin ryin ou kwé ? Kisa ou lé ou ?

- Té ou kalkil ké zafèr domoun i gard a ou ! Sort dovan mwin. Lès a mwin pasé don ! »

Lo bèf la di : « Konmsa ou koz èk mwin alor. Ou koné pa ou lé si in térin privé isi, kwé ? »

— 『何度も言わせないで』だって！ わしに言うんだよ、この小娘、もしこのわしに言わないのならお前を食べてやる、この小娘！』。

ファトゥは言わざるを得なかった：

「あのね、それはカニ、海岸にいるゼラニウムの花の色をしたカニが私にそれをくれたの。

— ああ、待ってな、ちょっと待ってろ。わしが自分のを探しに行ってくる！』。

今度はマルタが森を通った。そしてみんなが思っている通りヘビに出くわした。ヘビは彼女に尋ねた：「お前は誰だ？ どこへ行く？ シューシュー...」。マルタは言った：「他人のことにかまうな！ わしの前からどけ。わしを通らせろ！」。ヘビは言った：「私にそういう口を利く訳だ！ 待ってろ！」。ヘビはマルタの喉元に巻きついた。彼女を締め上げ、締め上げ、締め上げて哀れなマルタを窒息させた。ヘビが去ってしまうと、マルタは息を吹き返した。窒息したように見せかけただけで、実は窒息していなかったのだ。彼女は走って進み、森を通った。

「どん！」。彼女は誰にぶつかった？ モカ牛だ。モカ牛は彼女に言った：

「おいお前、お前どこへ行くんだ？ わしの庭を何も言わずに通ろうと思っているのか？ お前は誰だ？

— 他人のことにかまおうなんて思うな！ わしの前からどきな。わしを通らせろ！』。

牛は彼女に言った：「お前はわしにそういう口を利く訳だな。お前は私有地にいることが分かんのか？」。



Bèf la aras déryèr li. Koudkony, koudkony, koud sabo, dan la tèt, dan lo do, la trap le Martha, la zèt dan la mèr, lot koté laba. Martha i ariv dan la mèr, i ésèy sobat po ropran son souf. La li antan : « klap, klap, klap, kla, kla, kla..., kla, kla, kla..., kla, kla, kla. » Gro krab zènyom i ariv èk son dé gro pins :

« Kisa ou lé ou ? Kisa ou lé ou ? Kosa ou fé la ?

- A ou mèm ma pou rodé, alor konmsa dann fon la mèr ou na marmit mazik ? Kosa ou nana ankor ? Paské mwin la bézwin in kiyèr mazik pou tourn kari pou pa fatig mon bra. E pi, si wi trouv in vèr, i aranz'ré a mwin osi. Paské mi ème byin bwar mon ti koudsèk. In vèr ki vid pa, séré gayar ! Alé, dégaz a ou, trap tousèk néna, donn a mwin paské si ou donn pa mwin, ah, mi sar fé kwir a ou, mi sa manz a ou ! »

Lo krab la di : « Kwé, a ou i sa manz a mwin ? Ou la vi a ou ? Hé ou la vi a mwin ? A mwin i sa manz a ou Martha ! »

E la lo krab la siflé. La mèr ké lété blé-la, inn instan la v'ni rouz, rouz, rouz, rouz konm lo san. Krab an poundiak marmay, an grap sosis la sort dann la mèr, inn déryèr lot, la sot dési lo Martha : « Klap, klap, klap... »

Dékoupé lo Martha an morso. Pi d'Martha.

牛は彼女に突進した。角と蹄の一撃を頭と背中に食らわせ、マルタを掴んで反対側の海の方に放り込んだ。マルタは海に落ちたが、やっとのことでひと息ついた。そこで彼女は聞いた：「クラップ、クラップ、クラップ、クラ、クラ、クラ... クラ、クラ、クラ... クラ、クラ、クラ」。ゼラニウムの花の色をした巨大なカニが、二つの大きなハサミを構えてやって来た：

「お前は誰だ？　そこで何をしている？

—　ちょうどお前を捜していたところだ。海の底にお前は魔法の鍋を持っているんだって？　何か他のものはないかい？　カレーを運んでくれる魔法の匙なんかあると腕が疲れないで済むし。それにグラスなんかあればそれも助かる。私は一杯ひっかけるのが好きなんだ。ずっと空にならないグラスならいいね！　さあ、急いでくれ、あるものなら何でもいいから持ってきな。くれないと、ああ、お前を料理して食べてしまうからな！」。

カニは言った：「何だって、お前が私を食べるって？　お前は自分のことを見たか？　おい、私を見たか？　私がお前を食べるんだよ、マルタ！」。

そしてカニがしゅっという音を出した。青かった海が一瞬のうちに赤く赤く赤く、血のように赤くなった。おびただしいカニが群れをなして海から出てきて次々とマルタに襲いかかった：「クラップ、クラップ、クラップ...」　彼らはマルタをバラバラに切り刻んだ。マルタはなくなってしまった。

Fatou té la, té pa tro lwin, po kasyèt déryèr son galé po louké. La vi, la vi lo bann krab-la dékoup lo Martha an morso. Rékin la manz lo rès !

Fatou la rant son kaz vitman, la di : « Mi sa trap lo marmit mazik, mi aminn po mwin. » Li ariv dan la kwizinn, pi d'marmit. Rod partou, lo marmit trouv pi. Fatou la arkomans pléré. Mi sar pa romont a zot koman li plèr, paské li fatig zorèy domoun kan li plèr ti fiy-la !

La arkomans pléré. Fano la arivé. Lo pèsèr la arivé, la di a li : « Ti fiy, pa bézwin ou plèr. Arèt pléré. Ma la trouv out momon ! » E pi Fatou i vwa son momon laba, dann inn ti kanot. Son momon la v'ni trap a li. Fatou kontan, rant dann lo kanot, arant dans son péi. Kan li la finn ariv lwin laba, li kri, li kri. I di :

« Isabèl, ma la oubli mon marmit. Si ou trouv souplé, ranvoy pou mwin dan mon péi Lafrik. Ranvoy dann péi Kountakinté, dann péi Yaoundé !

- Wi, Fatou, ma anvoyé. »

La lang i di, Zistwar i rakont. Apré si zistwar lé mantèr, la pa nou lotèr. Ké Lafrik danntan avan ké lariv tousala, Lafrik lété in péi té ris, navé tout zafèr po manzé. Dépi ké Fatou la pèrd son marmit mazik, li giny pi nourri son bann famiy, son bann kamarad dann péi Lafrik.

ファトゥは遠くないところにいて、石の裏に隠れて見ていた。彼女はたくさんのカニがマルタをばらばらに切り刻んだのを見た。サメたちがその残りを食べてしまった！

ファトゥは急いで家に戻って言った：「魔法の鍋を取り戻して、私のために持っていこう」。彼女は台所に着いたが鍋はなかった。あちこち探し回った鍋を見つけれなかった。ファトゥはまた泣き始めた。彼女がどういう風に泣くのかはもうみんなには見せないよ。だってその娘が泣くとゾレイユの人<sup>フランス本土から来た人を指す。語源はフランス語の「耳 oreille」であるが、由来には諸説ある（クレオール語を聞き取れないために耳を傾ける等）</sup>は飽きるからね！

彼女はまた泣き始めた。ファノがやって来た。あの漁師がやって来て彼女に言った：「お嬢ちゃん、泣かなくていい。泣くのをやめなさい。お前のママを見つけたよ！」。そしてファトゥはママがそこに、小さなカヌーに乗っているのを見た。彼女のママは彼女を見て抱きしめた。ファトゥは喜んでカヌーに乗り込み、自分の国に向かった。彼女は遠く離れていく時に叫んで叫んで、言った：

「イザベル、私鍋を忘れてきたの。もし見つけたら、アフリカの私の国の私のところまで送って。クンタ・キンテの国、ヤウンデの国まで送ってね。

— わかった、ファトゥ、送るわね」。

言葉がこう話し、物語が語っている。だから、物語が嘘でも私たちのせいじゃない。この話のすべてが起こる前、アフリカは豊かな国で、食べるものに困らなかった。ファトゥが魔法の鍋をなくしてからアフリカの多くの家族、多くの子供たちに食べさせることができなくなった。

E zistwar i di, la lézand, i di ké sé dépi so marmit-la la pèrd, ké bann  
Zafrikin i viv dann la mizèr, dann la fin. Alor po fini mon zistwar, si zot i  
antan in moun la trouv in marmit mazik marmay, anvoy a li Lafrik laba.  
Lo zour nou va artrouv marmit-la, nou va ranvoy a li an Afrik laba.  
Pèrsonn, pèrsonn i mora pi èk la fin.

Kriké !

Kraké !

それで、物語が言うには、その伝説によると、その魔法の鍋を失ってから、多くのアフリカ人が惨めに飢えて暮らしている。だから、私の話の最後に、もし誰かがその魔法の鍋を見つけたという噂を聞いたら、それをアフリカに送ってあげて。私たちがその鍋を再び見つけた日に私たちはそれをアフリカに送り返そう。もう誰も、誰も飢えて死ぬことがなくなるから。

クリケ！

クラケ！

## 17. Nasrédine, le tayèr

Patricia CHAMAND

Kriké !

Kraké !

Sé listwar de Nasrédine. Lu lé tayèr. Li lé dann son ti boutik, néna in kliyan i ariv, ki di a lu : « Mwin mi vé in kostim. Mé vwala, sé pou in supergran lokazyon. Alor, lo kostim-la i fo li lé espésyal. I fo li lé pa nwar, pa maron, sirtou pa gri, pa blé, pa... »

E Nasrédine i arèt a li toutswit, i di a lu : « Inkyèt pa, ma tay out kostim konm ou la anvi, inkyèt pa. »

Alor lo bonom lé kontan. O moman li pas la port, li di : « O fèt, kansa mi vyin sèrs lo kostim ? »

Nasrédine i di a li : « Bin, vyin kan ou vé. Mé pa lindi, pa mardi, pa mèkrédi, pa zédi, pa vandrédi, pa samdi, é, sirtou, vyin pa dimans. »

Kriké !

Kraké !

## 17. 仕立て屋のナスレディン

パトリシア・シャマン

クリケ！

クラケ！

これはナスレディンのお話。彼は仕立て屋だった。彼が自分の店にいたところ、ひとりの客がやって来て言った：「服を仕立ててほしい。それはとっても大事な行事のためだ。だからその服は特別でなくちゃいかん。黒はだめで、栗色もだめ、特に灰色はいかんし、青もだめで...」。

ナスレディンはすぐに客をさえぎって言った：「ご心配なく。あなたがお望みの服を仕立てるのでご心配なく」。

客は喜んだ。彼は店のドアを出る時言った：「ところで、いつ引き取りにすればいいのかな？」。

ナスレディンは彼に言った：「そうですね、いつでも来たい時にどうぞ。但し、月曜はだめ、火曜はだめ、水曜はだめ、木曜はだめ、金曜はだめ、土曜はだめで、特に日曜は来ないように」。

クリケ！

クラケ！

注：ナスレディン・ホジャ（Nasreddin Hoca）はトルコ民話に登場するトリックスター。



## 18. Le garçon de Nasrédine

Patricia CHAMAND

Le garçon d'Nsarédine i komansé de grandir, é i komansé poz a li dé kèstyon si son aparans. Li lavé ont' domoun. Li komansé son adolésans. Donk, li té ranfèrm a li in pé, li té vé pi sortir. A sak fwa té di a li alon fé inn nafèr, li té ogard a li dan la glas. Li té sanz linz trwa kat kou. Li té i di son papa konmsa : « Ah non, mi vyin pa ! » E toultan lé parèy, toultan li té i vé pi sortir.

Nasrédine té i di : « Oté, marmay, sort in pé. Alé rogard in pé domoun. Ou koné, ou pé pa rèss la kaz konmsa. Lé riskab domoun i trouv out pantalon lé pa zoli, talèr out sévé... I fo pa réflésir sèk domoun i sa di a ou, i sar pansé. »

Alor in zour Nasrédinn i désid mont' in plan pou son marmay. Li di : « Ekout a mwin. Ousa pa di a mwin non. Domin nou sava an vil é ou va kondwi. »

Le landmin, lé dé i sava an vil. É la, pou alé an vil, i falé mètt inn ou lot si in bourik, paské té in pé lwin. Kan lé fatigé, eh bin, na inn i mont si lo bourik.

Kriké !

Kraké !

## 18. ナスレディンの息子

パトリシア・シャマン

ナスレディンの息子は大きくなり始めて、自分の見てく  
れについて色々と気にし始めた。彼は恥ずかしがり屋だっ  
た。彼は思春期に入るところだった。それで、彼は少々引  
きこもり気味になり、外出しようとしなかった。何かをし  
に行くように言われるたびに、彼は鏡の中の自分を見た。  
彼は服を三回も四回も替えた。彼はパパに言った：「ああ、  
だめだ、僕は行けないよ！」。ずっとこの調子で、彼はまっ  
たく外出しようとしなかった。

ナスレディンが言った：「おい坊主、少しは外に出ろ。人  
に会いに行くんだ。わかってるだろう、そんな風に家に引  
きこもっていてはだめだ。人はお前のズボンがダサイとか、  
髪型がどうか言うかも知れない... 彼らがどう言おうが、  
どう思おうが気にするな」。

そこである日ナスレディンは息子のために計画を立てた。  
彼は言った：「よく聴け。嫌とは言うなよ。明日、町に出か  
けるのでお前も行くのだ」。

翌日、二人は町に出かけた。そして町まで行くのに、ひ  
とりがロバに乗ることにした。というのも町は遠かったか  
らである。疲れたら、その時はひとりがロバに乗ることに  
した。

クリケ！

クラケ！

Lo papa i mont si lo milyé, é lo garson i mars déryèr. Zot i d'sann an vil. Avan dariv an vil, i ariv dovan la rivyèr. Dan la rivyèr navé bann madam té antrinn lav linz. E la zot i pas, dan zot do, zot i antann : « Marmay, gard sa, gard sa ! Sa bann papa momon koméla. Gèt sa ! Lo papa lé si lo bourik, trankil, hin, i port a li, le marmay i mars déryèr pié ni, la pwin soulyé. Oté, ou pé krwar paran koméla lé konmsa ! » Nasrédinn i pans koté lo zorèy son garson, i di : « Ou la antandu la. Domin nou rovyin. » Zot i sava fé zot cours an vil. Zot i romont.

Landmin, zot i resava an vil. Nasrédine se kou si i di son marmay asiz si lo do le bourik. E zot i sava. I pas koté la rivyèr, na pwin pèrson. I ariv an vil, i pas dovan légliz. Dovan légliz lavé in pié d'bwa, lavé dé trwa bonom dosou té pou rogard domoun pasé. Zot i pas dovan légliz, é la, dan zot do, zot i antann : « Marmay, gard la zénès koméla. La, sé le zanfan lé anlèr si le do lo bourik, le papa lé déryèr. Ben, na pi d'réspé pou gramoun mèm, hin ! » Nasrédinn i di son garson : « Ou la antandu ou la ? Domin nou rovyin. »

Le landmin zot i resava an vil. Pas par la rivyèr, pas dovan légliz. Se kou-si le bourik té tousèl, é zot i dé i mars déryèr. I pas dovan la méri, bana i antann dan zot do : « Gard sa. Zot i koné pa i fo mont si in bourik, té. Zot na in bourik, é zot i mars a pié. Lé dé lé kouyon mèm sèlman, hin ! Ah, mi di a ou. » Nasrédinn i di son marmay : « Ou la antandu ou la ? Domin, nou rovyin. »

パパがロバの上に乗り、息子が後から歩いた。彼らは町に下りて行った。彼らは町に着く前に川に差し掛かった。川では女たちが洗濯をしているところだった。彼らが通りかかると背後から聞こえてきた：「ほら、あれを見なよ！ あれだよ！ きょうびの父ちゃんや母ちゃんはあれだから。見てみな！ 父ちゃんは呑気にロバの背に乗って運ばれて、子供の方が後から裸足でついてってるよ。靴もはかずに。今どきの親はこうだって信じられるかい！」。ナスレディンは息子の耳元に体を乗り出して言った：「お前あれを聞いたか。明日また戻ってくるぞ」。彼らはそのまま進んで町で買い物をした。彼らは家に上り戻った。

翌日彼らはまた町に向かった。ナスレディンは息子にロバの背に乗るように言った。そして彼らは進んだ。彼らが川の近くを通った時、誰もいなかった。彼らは町に着き、教会の前を通った。教会の前には樹が一本あり、その下で数人が通り行く人々を眺めていた。彼らが教会の前を通ると、背後で聞こえた：「おいおい見ろよ、あの若いのを。子供がロバの背に乗って、親父が後からついていってる。いやはや年寄りへの敬意なんかありゃしない」。ナスレディンは息子に言った：「お前あれを聞いたか？ 明日また戻ってくるぞ」。

翌日、彼らはまた町にやって来た。彼らは川の近くを通り、教会の前を過ぎた。今度はロバが単独で、彼らはロバの後を歩いていた。彼らが役場の前を通り過ぎる時、背後から聞こえた：「見ろよあれを。あいつらロバに乗らなきゃって分からないのか。ロバがいるのにあいつらは歩いてる。二人とも間抜けだな！ ああ、まったく」。ナスレディンは息子に言った：「お前あれを聞いたか？ 明日また戻る」。

Le landmin i rovyin, la di : « Atann a ou. » Lé dé i port le bourik èstèr. Sakèn dé pat, i d'sann an vil, ti pa, ti pa, i port le bourik. I pas dovan la rivyèr, dovan légliz, dovan la méri, ryin.

I ariv koté landrwa zot i sa fé zot cours, na dé trwa marmay i asiz. E la, kan lo bann marmay i vwa zot, tout la bann i pèt a rir : « Ha, ha, ha, gard sa. Oté, bana i port zot bourik. Zot lé fou. Zot lé parèy zot bourik mèm. Oté, bourik i mont dési sa. »

Nasrédiinn i di son marmay : « Ou la antandi ou la ? Donk, tan kou va ékout domoun, ou s'ra konmsa, ou ginyra pa avansé. Lé zan na movèz lang. Donk, fé sèk ou na pou fé. »

Kriké !

Kraké !

翌日彼らはまた戻り、ナスレディンが言った：「ちょっと待て」。彼らは二人でロバを運んだ。それぞれ二本ずつ脚を掴んで、町に向かって一步一步ロバを運んだ。彼らは川の前、教会の前、役場の前を過ぎたが何も起こらなかった。

彼らが買い物をするところに着くと、数人の子供たちが座っていた。子供たちは彼らを見て笑い出した：「ははは、あれを見ろよ。ほら、ロバを運んでるぜ。あいつら頭がおかしいよ。自分たちのロバにそっくりだ<sup>「ロバには馬鹿の意がある」</sup>」。いいかい、ロバというのは上に乗るもんだ」。

ナスレディンは息子に言った：「お前あれを聞いたか？だから人の言うことなんか聞こうとしているうちはこうなるのがオチで進歩はない。他人は悪口を言うだけだ。だから、お前はできることをやるのだ」。

クリケ！

クラケ！

注：コモロ民話にこの物語の類話がある。

## 19. Tonine

Suzelle CUVELIER

Sé in madam i travay trè dir. El i fé toultan dé pratik de linz po pouvwar fèr viv sa famiy, sétadir trwa fiy. Na la pli gran i apèl Toinine, la dézièm i apèl Antwanèt, é la tit' dèrnyèr, i apèl Tonine.

La pli grann lé vréman in ti fiy kourazèz, i travay byin. Impékab ! Kan lo momon lé pa la, sét èl ki ramplas lo momon. La dézièm, inn ti pé parésèz, inn ti pé gourman. Mé la trwazyèm, i pas son tan alé vangé. Lé touzour a drwat, a gos, port an port, fénèt an fénèt, mé zamé là. Dé ki konmans travay, èl, èl i fil, touzour dann son sak néna in bon pé bonbon lamal, sétadir bonbon kravat, bonbon gra, la kolodan pistas... Èl i sava, èl i manz, èl i pas son tan a manzé.

Mé kan lo momon i sava lavé son linz la rivyèr, èl i fé kwi manzé po marmay. Se zour-la, èl lavé fé in bon zambrok al pwa é dédan li la mèt la ké koson. Sa lé bon ! É sa le pla ke marmay i préfèr. El i di : « Marmay ékout a mwin byin. Si zot la fin, zot i atann mwin. Mé néna zavoca, pran zavoca, ékraz, mèt in pé la farinn manyok dédan ( sété in pé se ki apèl lo féroz ). Manz zavoca, néna plin dan la kour, mé tous pa lo manzé. A midi kan mwin marivé, nou va manz ansanm. »

## 19. トニヌ

シュゼル・キュヴリエ

ひとりの女の人がいて、とても苦勞して働いていた。彼女は家族を養うためにいつも洗濯をしていた。家族というのは三人の娘で、長姉がトワニヌ、次女がアントワネット、そして末娘がトニヌという名前だった。

長女はしっかり者の娘でとてもよく働いた。申し分なかった！ 彼女はママがいない時は彼女がママの代わりを務めた。次女は少し怠け者でちょっと食いしん坊だった。ところが、末娘は出かけてばかりいた。いつも右や左に、戸口から戸口に、窓から窓へと、同じところにいたためしかなかった。用事を言いつけられると彼女はすぐに姿を消し、いつも袋にたくさんの揚げ菓子を詰め込んでいた。例えば、ハチミツの揚げ菓子、ボンボン・グラ<sup>小麦粉に砂糖、卵、脂肪を混ぜ込んで作った焼き菓子</sup>やピスタチオのヌガーなどなど。彼女は外に出ては食べ、食べながら時間をつぶした。

ママは川に洗濯をしに行く時、子供のために食事を用意した。その日彼女は豚の尻尾を入れたエンドウマメのザンブロカル<sup>米（稀にトウモロコシ）をラードとウコンで炒め、野菜を加え入れた料理</sup>を作った。それはとてもおいしかった！ 子供たちの大好きな料理だった。彼女は言った：「子供たち、よく聞いて。お腹が空いても私を待ってなさい。アボカドがあるから、アボカドを採ってすりつぶしてマニョックの粉を少し入れなさい（それはフェロスと呼ばれている）。アボガドを食べなさい、庭にたくさん生っているから。でもみんなその料理は食べないこと。お昼になって私が戻ったら一緒に食べるからね」。



Paské lo momon la parti dépi granmatin, dépi sizèr. Dé ké lo momon la parti, bann marmay la repoz in ti pé. É pi sakèn la fé son travay. Sak la nétoy la kaz, sèk la parti okip zanimò, ki i nétoy la kour. Mé Tonine lété pa la. Tonine la parti. Mé se zour-la, Tonine la pa parti lwin. Tonine lété antrinn vizé marmit. Sa té i san bon. Lodèr té i ral a li. Mé, Antwanèt i rogard, i di : « Hum hum hum, néna inn nafèr i èspas. Dépi talèr mi wwa Tonine i rant, i sort dann zardin. Dabitud dé ké momon i sava, li sar kour lwin, é la, li rè la. »

Li ariv zist o moman ou Tonine té antrinn mè in kiyèr d'manzé dan la bous : « Tonine, kosa ou trin d'fé la ? Sa, manzé pou midi. Donn a mwin in kiyèr, sinon mi di momon ! » Mé se ké Tonine i di pa, sé ké li lavé komans manzé dépi in moman déza. Donk li soulèv a pèn lo kouvèrk, li di : « Eh, mi donn a ou a zist in ti kiyèr, ou pran inn ti pé, paské sa manzé pou midi sa ! »

E pwi, li pran son kiyèr, li sava. Tonine i rogard marmit-la, i di : « Hin, la, ma finn manz la mwatié... Ah vo myé mi kontinu tout ! » Li sé manzé tout lo manzé. Li apro lo marmit byin konm i fo, é li la parti. Ousa li la parti ? Pèrson i koné pa.

そうしてママは朝早く、六時に出かけた。ママが出かけると子供たちは少し休んだ。それからそれぞれの仕事をした。家の掃除をしたり、動物の世話をしたり、庭を掃いたりした。ところがトニヌはいなかった。彼女は出かけてしまっていた。でもその日トニヌはそんなに遠くまでは行かなかった。トニヌは鍋を眺めているところだった。それはいい匂いがした。その香りが彼女を惹き付けていた。しかしアントワネットが彼女を見て言った：「おやおやおや、これは何かあるわ。ついさっきからトニヌが庭に入ったり出たりしている。普通だとママが出かけたら彼女は遠くに行っちゃうのに、どういうことか彼女はそこにいるわ」。

アントワネットはトニヌが料理をスプーンで口に入れたちょうどその時にやって来た：「トニヌ、あんたそこで一体何をやってるの？ それってお昼のご飯でしょう。そのスプーンを私に渡しなさい。じゃないとママに言いつけるからね！」。ところがトニヌは、彼女が既にしばらく前から食べ始めていたことは言わなかった。そこで彼女はやっとのことで蓋をしてから言った：「はいはい、あんたに今スプーンを渡すから持って行って、だってこれはお昼のご飯だからね！」。

アントワネットはスプーンを取り上げて行ってしまった。トニヌは鍋を見つめて言った：「おや、私もう半分食べちゃった... こうなったら全部食べた方がいいわ！」。彼女は料理を全部食べてしまった。彼女は当然鍋をきれいにして、それから出かけた。彼女がどこに行ったか？ 誰も知らない。

A midi kan momon larivé, lé trwa marmay té asiz si le badport, é i atann momon : « Alé, sakèn alé pran zot kwik é nou va manzé. » Le kwik sé tou sinpleman lo mwatié kalbas. À lépok, i manzé dann inn mwatié d'kalbas.

Sakèn i arriv avèk zot mwatié d'kalbas. Mé Tonine li koné la pi manzé. Li ariv dovan lo dé sèr, li fé konm si li ariv avèk son résipyan, figir prop. Kan lo momon i rouv lo marmit... Son san la fé in tour ! « Kisa la manz tout lo manzé ? » Marmit lé vid.

« Kisa la manzé ? » La pli gran sèr i di : « La pa mwin momon. » La dézièm i di, i ésit inn ti pé : « Pa... mwin momon. » E Tonine i rogard son momon i di :

- La... la pa pwin momon !

- Ah bon, donk pèson la pa tous lo manzé. Lo marmit la vidé konmsa par lopérasyon du sintèspré ? Si sé konmsa, zot i swiv a mwin. »

Zot i konpran pa. Lé trwa i swiv lo momon, i pran la dirèksyon la rivyèr : « Bin, ousa i sava ? » La pli grann i di par ryin, i swiv lo momon. La dézièm, i ésit in pé, mé i swiv lo momon. Mé Tonine ? A in moman doné, Tonine la lèv inn ti pé la tèt, la di : « Momon... » Lo momon la tourné, la lanz a li in rogard siouplé. Lo syien té bwar pa d'lo a koté, a mwin i di a ou !

正午になってママが戻ってきた時、三人の子供たちはドアの下に座ってママを待っていた：「さあ、みんな自分のクイックを持ってきなさい。これから食べましょう」。クイックというのは単にヒョウタンを半分にしたものだ。その頃はヒョウタンの半分で食事をしていた。

みんながヒョウタンの半분을それぞれ持って集まった。しかしトニヌは食べるものがもうないことを知っていた。彼女は二人の姉の前に来て、平気な顔をして容れものを持ってやって来たふりをした。ママが鍋を開けて... 血の気が引いた！：「誰が食べたの、全部食べたの？」。鍋は空っぽだった。

「誰が食べたの？」。長女が言った：「私じゃないわ、ママ」。次女が言ったが、少しおずおずとだった：「私... じゃない、ママ」。そしてトニヌがママを見て言った：

「それは... それは私じゃないわ、ママ！

— あらそう、ということは誰も食べなかったのね。鍋が空っぽになったのは聖霊の御業かしら？　そういうことなら、みんな私についていらっしゃい」。

みんな訳が分からなかった。三人はママについて行き、川の方に向かった：「え、どこに行くのかしら？」。長女は何も言わずママの後について行った。次女は少しためらったがママの後について行った。ところでトニヌは？　急にトニヌは顔を少し上げて言った：「ママ... 」。ママは振り向いて彼女に警告めいた眼差しを向けた。犬でさえ脇の水を飲まないほどだった、本当だって！

I ariv la rivyèr, lo momon i di bon : « Toinine, rant a ou la. Rant dannla rivyèr, é ou sant sèk mi sa di a ou :

♪ Si sé mwin ka manzé pwa-la, la rivyèr-la, va ral a mwin ♪

La grann i rant. Li na pwin ryin a krinn. El i rant dan la rivyèr, lé dé pié byin pozé. E pwi, èl i konmans a santé :

♪ Si sé mwin ka manzé pwa-la, la rivyèr-la, va ral a mwin ♪

Dolo larivé konm si dé ryin nété. El i resort. Lo momon i rogard :  
« Antwanèt, out tour. Rant dann lo. » Antwanèt i ésit in ti pé. Li koné li la gouté. Pou li rant :

♪ Si sé mwin ka manzé pwa-la, la rivyèr-la, va ral a mwin ♪

Dolo la monté, mé lariv ziska son séviy, é pi dolo la reparti. Mintnan, i rès lo tour Tonine. Tonine i rogar la rivyèr :

« Mo... momon, i fo mi rant ?

- Ou Rant ! É pi ou sant ! »

♪ Si sé mwin ka manzé pwa-la, la rivyèr-la, va ral a mwin ♪

Apèn li la konmans santé, dolo la monté, fini ariv odési la séviy. Li arèt.  
« Kontinu d'santé, sant ! »

♪ Si... sé... mwin ka manzé... pwa-la, la rivyèr-la, va... ral a mwin ♪

彼らは川に着き、ママが「さて」と言った：「トニヌ、そこに入りなさい。川の中に入って、私がお前に言う通りに歌いなさい：

♪ エンドウマメを食べたのが私なら、川よ私を押し流せ ♪

長女は入った。彼女は恐れることなど何もなかった。彼女は川に入り、両足でしっかりと立った。それから彼女は歌い始めた：

♪ エンドウマメを食べたのが私なら、川よ私を押し流せ ♪

水は何もなかったように流れた。彼女はそこから出た。ママはアントワネットを見た：「アントワネット、お前の番よ。水の中に入りなさい」。アントワネットは少しためらった。彼女は自分が味見したことを分かっていた。そして彼女は入った：

♪ エンドウマメを食べたのが私なら、川よ私を押し流せ ♪

水が上がってきて彼女のくるぶしの高さまで達したが、それから水は引いていった。そしてトニヌの番が残っている。トニヌは川を見つめた：

「マ... マ、入らなくちゃだめ？

ー 入りなさい！ それから歌うのよ！」。

♪ エンドウマメを食べたのが私なら、川よ私を押し流せ ♪

彼女が歌い始めるや否や、水が上がってきて彼女のくるぶしの上まで達した。彼女はやめた。「歌を続けるのよ、歌いなさい！」。

♪ もし... エンドウマメを... 食べたのが... 私なら、川よ... 私を押し流せ ♪

Dolo ariv anlèr la kwis. Li arèt. « Mwin la di a ou sant, ou kontinu. » Lé dé sèr i di :

« Momon, momon, ogard li néna dolo ziskanlèr la kwis, momon, arèt !

- Non ! Tonine, sant ! »

♪ Si... sé... mwin ka manzé... pwala ♪

« Momon...

- Sant ! »

♪ La... rivyèr-la, va... ral a mwin. Si... sé... mwin ka manzé... ♪

Dolo la monté, la monté, la monté. É fir mézir li té i sant, té finn ariv isi. Lo momon larivé, la trap a li konmsa, la ral or de lo. Kan li la ariv déor, la di :

« Alor, ou wwa sa ki vyin s'pasé la, hin. I fo sa i sèrv a ou de leson. I fo ou aprann a ne pli mantir, a ne pli volé.

- Momon, momon, mi promé a ou ! A partir dojourdwi, mi sora inn grann fiy. Mi sora kourazèz, travayèz, mi mantira pli, mi vol'ra pi. »

水が彼女の尻の上まで上がってきた。彼女はやめた。「私はお前に歌えと言っているのよ、続けなさい」。二人の姉が言った：

「ママ、ママ、見て、水が彼女のお尻まで来ているわ、ママ、やめて！

ー だめ！ トニヌ、歌いなさい！」。

♪ もし... エンドウマメを... 食べたのが... 私なら ♪

「ママ...

ー 歌いなさい！」。

♪ 川よ... 私を押し流せ。もし... エンドウマメを... 食べたのが... 私なら ♪

水が上がって、上がって、上がってきた。彼女が歌うにつれてここまで達した。ママがやって来て、彼女を掴んで水から引き上げた。川の外に来ると彼女は言った：

「さあ、何が起こったのか分かったでしょう。これを教訓にきなさい。もう嘘をつかないこと、盗み食いをしないことを学ばなくちゃだめ！

ー ママ、ママ！ 私約束する！ 今日からちゃんとしたお姉さんになるわ。しっかり者で働き者になるわ。もう嘘をつかないし、盗み食いもしません」。



## 20. Lé pa konpliké

Jean-Pierre ACAPANDIÉ

Kriké !

Kraké !

♪ Viv la vi ! Lé pa konpliké ! La vi fo viv a li, pran a li konm li vyin. Lé pa konpliké viv la vi. La vie fo viv a li, pran a li konm li vyin. Pans pa out traka, pran pa out traka. Lès a li débrouyé, swiv out somin ♪

Kriké !

Kraké !

Lé vré, la vie lé pa konpliké, mézami. I fo viv ali, pran a li konm i lé. Bin, mi sa va rakont a zot zistwar Ti Zan. Bin Ti Zan, té in marmay, zot i koné koman li té ? La malis ! Mé té in marmay té i viv dan in famiy pov.

Alor, in zour, konm toultan li té i viv dann son it mizèr, li di : « Té, la pa posib ! Rogard koman na in pé i viv. Zot na larzan bon pé, zot i donn pa pèrson sak la pwin. Sak néna na tro, sak la pwin, na pwin di tou. » E di kou, li di : « Fo mi trouv in solisyon. Sof koman, i fo mi giny in pé larzan. Ne s'rès po mwin èd in pé mon vié momon, paské lontan kan mon papa té la, té kas son ba d'rin dann kann, li té bril son koko dann fon bord'mèr po anminn dé trwa pwason. Alor, zordi fo mi dwa giny èd mon momon. »

## 20. 人生込み入ってやしない<sup>【コモロ民話に 類話がある】</sup>

ジャン＝ピエール・アカパンディエ

クリケ！

クラケ！

♪ 人生万歳！ 込み入ってやしない！ 人生、生きなきゃいけない、ありのままに受け入れろ。込み入ってやしない、人生万歳。人生、生きなきゃいけない、ありのままに受け入れろ。心配なんかするな、心配なんかするな。放っておきゃ解決するから、自分の道を進むことだ ♪

クリケ！

クラケ！

本当に、人生は込み入ってはいないんだ、みんな。人生は生きなきゃいけないから、ありのままに受け入れることだ。これから話すのはチジャンの物語だ。チジャンというのは子供だけど、みんな彼のことは知ってるかい？ いたずら者だ！ 彼は貧しい家庭で暮らしていた。

ある日、自分がいつも惨めに暮らしているので思った：『おいおい、これはまともじゃない！ みんながどう暮らしているかちょっと見てみろよ。金をたくさん持っている連中がいるけど、そいつらは全然持っていない連中に与えはしない。あり余るほど持っている者がいれば、持っていないどころかすっからかんの者もいる』。そして突然こう言った：「何か解決方法を見つけないと。つまりだ、どうにかして少し金を儲けないといけない。僕には年取った母さんを助ける必要がある。父さんがいた頃、彼はサトウキビ畑でへとへとになってから、海岸でお日様に頭を焦がされて少しばかりの魚を持ち帰った。今では、僕が母さんを助けないと」。

Ti Zan, danntan mi parl a zot la, té finn byin gran. Li lavé o mwin kinz an par la. Mé Ti Zan té in marmay... Koko-la la, lé té konm... Gabié. Li la pa parti lékol, mé lalfabé ou té armont pa Ti Zan, hin ! Li kont a ou sa dépi A ziska Z. Mé sa lé ryin mézami, li pé résit sa, li pé sant sa, é mèm si li dans, ou konpran li la pou dans lalfabé. Alor Ti Zan té pa in marmay kouyon.

Mé in zour, li la parti asiz dann fon la rivyèr. Kosa li po kalkilé :

« Koman mi sa fé ? I fo mi trouv in solisyon. Travay... ? Sa pa mon nafèr sa. Asiz dann solèy èk pios ? Ah ! Sa pa mon nafèr. Dimans mi rant tar. Mi sar kabaré èk mon kamarad pou mwin dansé... Pou mwin lèw gran matin sizèr... Hin ! Ah non ! Mi sa pa rod sigidèr. Ma la pèr ! Alor Bon Dié, Bon Dié mon solisyon ! Mé Bon Dié mon solisyon, koman ? Kèl solisyon li pé èt pou mwin ? Ti Zan, Ti zan, ké la finn fé plin zafèr é pa tro krétyin. Ha ! Ma la trouv in zafèr ! Ma la trouv mon zidé ! »

Zot i vé savwar se ke Ti Zan la gynyé mézami ? Zot i vé vwar vréman ? Zot lé komèr, hin ! Zot i koné, mon kèr i di a mwin di a zot, mon tèt i di di pa ! Mon kèr i di a mwin di a zot. Mon tèt i di di pa !

Sèk li la fé, sa lé pa krétyin mézami. Sèk Ti Zan la fé, lé pa krétyin, woh ! Mézami, si mi di a zot sa, zot i krwa pa.

チジャンはその時には僕が話したように、もう立派な大人だった。彼は十五歳ぐらいだった。でも彼は... 頭が... よく回る子供だった。彼は学校に行かなかった。でもみんながチジャンにアルファベットを教えることはないよ！ 彼はAからZまで言える。それだけじゃなくてそれを暗唱できるし、その歌も歌えるし、その踊りだって踊れる。だから彼がアルファベットなんかお手の物だとわかるだろう。つまり、チジャンは愚かな子供じゃなかった。

ある日、彼は川の奥まったところに行って座った。彼はこう考えた：『どうだろうか？ 何か方法を見つけないと。働く...？ 余り趣味じゃない。炎天下でつるはしをふるう？ ああ！ それはごめんだ。日曜は僕は遅く帰る。友だちとカバレ<sup>「マダガスガルの宗教儀礼。人々が集まって歌い、踊る」</sup>に踊りに行くから... 朝の六時に起きるなんて... ああ！ だめだ！ 魔法使いを探しに行くとか。でもそれは怖い！ としたら神様だ、神様が解決方法だ！ でも神様が僕の解決方法だとしてもどうやって？ どんな方法が僕に可能だろうか？ チジャン、チジャン、どういうのが真っ当で、それほど抹香臭くないだろうか。そうだ！ ひとつあった！ いい考えを見つけたぞ！』。

みんなはチジャンが思いついたものを知りたいかい？ 本当に知りたい？ みんな代母<sup>「後見人役の意から『知りたがり屋』」</sup>にみたいだな、まったく！ でも知っての通り、僕の心はみんなに言えと言うんだけど、頭の方は言うなと言ってる！ 心は言えと言ってる。頭は言うなと言ってる！

彼がやったこと、それはキリスト教的じゃなかったんだ。チジャンがやったことはキリスト教にあるまじきことだった、ウォ！ みんな、僕がそれをみんなに話したら、まず信じないだろう。

Ti Zan li la parti dann inn vilaz koté d'Sin Pol lao. I di la o domoun lé in pou kouyon. Konm i di : « Si ou lé fol, alé Sin Pol ! » Sé pou sa ke mi di ke domoun lé in pé kouyon.

Kriké !

Kraké !

Mé danntan avan lézami, Ti Zan koméla finn vié, hin ! Mé Ti Zan danntan-la, laba Sin Pol. Krwa mwin si zot i vé, krwa pa mwin si zot i vé pa, pétèt zot la pa antandi. Si zot la pa antandi, zot la pa byin ékouté. E pétèt si zot i koné pa sa, pétèt zot i koné pa li osi, paské lé marké dann sèrtin liv. Sèlman i fo alé rodé. I paré ké lao Sin Pol navé in rwa. Lavé in rwa konm partou dann péi, mézami. Lo rwa té èkzist isi. Lé pa marké dann liv, mé lété la.

Kriké !

Kraké !

lé krik !

lé krak !

Kan mi di : « Ahi ! » Zot i fé : « Hoo ! »

Alor Ti Zan li la pran inn ti kaz lao, inn ti kaz an pay mézami. La kour lété entouré ansanm lèskinn. Lavé pwin baro po rantré. Lavé in brans do bwa konmsa té ant dé mat d'lèskinn konmsa. É sa té lo baro.

チジャンはサン＝ポール<sup>【島の西部にあるかつての島都】</sup>の高地の村に行った。その住人たちはちょっとお間抜けだと言われている。こう言われているから：『お前の頭がおかしかったらサン＝ポールに行け！<sup>【サン＝ポールには精神科の病院がある】</sup>』。そういう訳で、僕はそこの人たちがちょっと間抜けだと言っているんだ。

クリケ！

クラケ！

ずっと前の頃は、ということはチジャンは今はいくぶん年を取っているということだけだね！　じゃなくて、チジャンの話の頃のサン＝ポールだけど。信じたければ信じていいし、信じたくなければ信じなくていい。多分みんな聞いたことがないだろう。みんなが聞いたことがないというのは、それはみんながちゃんと聞いていないからだ。それに、みんながそれを知らないというのは、同じようにみんながそれを知らないからだ。だって物の本に書いてあるんだから。それを探せばいいだけだ。サン＝ポールの高地には王様がいたらしい。多くの国のように王様がいたんだよ、みんな。王様はここに存在した。本には記されていないが、ちゃんといたんだ。

クリケ！

クラケ！

イエクリ！

イエクラ！

僕が「アイ！」と言ったらみんなは「フー！」と言って。

そこでチジャンは高地に小さな家、レユニオン風の小さな家を借りた。庭はサボテンで囲まれていた。入るための門などなかった。一本の木の枝が二本のサボテンの間に渡ってあった。これが門という訳だ。

Ti Zan lariv la. Mé kan li lariv la, mézami, pèrson la vi a li. Pèrson té i koné pa li dann Sin Pol. Ti Zan lariv laba lo swar.

Hé ! Mé mon kèr i di a mwin di a zot, mon tèt... i di di pa. Mon kèr i di a mwin di a zot, mon tèt i di di pa. Mézami, Ti Zan la trap in gran kontroplaké. Li la trap son kré. Li té i sa pa lékol, li la trouv koté lékol !

Li la trap se gro kré blan-la, é pi la ékri. Mi di pa zot ! Li la ékri : « Ti Zan la atrap Bon Dié ! Ti Zan la anprizonn Bon Dié ! Bon Dié lé dan son kaz. E sak i vyin vwar a li, i fodré pèy in bon pé la moné. » Ti Zan-la, Ti Zan-la, mézami ! Néna dann son tèt la mézami ! Nana dann son koko-la, mézami !

Gran matin domoun i lèw mézami. Ankòr mézami, lété in dimans matin. Oté, lèr la mès, lo zour la mès. Domoun i lèw, zot i vwa si ti téréin-la ou sa lavé lèskinn, le ti kaz an pay, zot i gard konmsa, zot i vwa gran plak-la lé marké : « Oté ! Lé pa posib mézami ! Kisa la ni abit tèr-la la ? Li la di li la atrap Bon Dié ! Koman li kol Bon Dié ? La pa posib ! »

Ti Zan, la li la lèw inn ti pé tar paské i falé li té aranz in pé. I falé li té i manz tousa yèr swar. Di kou li sort déor, li d'bout koté son plak li lavé ékri-la, an fanfaron, fé l'intérésan tout.

チジャンはそこにやって来た。しかし、彼がやって来た時、誰も彼を見なかった。彼がサン＝ポールにいることは誰も知らなかった。チジャンは夜にやって来たのだ。

あのね！ 僕の心はみんなに言えと言ってるけど、頭の方は... 言うなと言ってる。僕の心はみんなに言えと言ってる、僕の頭は言うなと言ってる。チジャンは大きなベニヤ板を手に入れた。彼はチョークを手に入れた。それは学校ではなく、学校の脇でだ！

彼は大きな白いチョークを手に入れて、それから書いた。みんなには言わないぞ！ 彼はこう書いた：【チジャンは神様を捕まえた！ チジャンは神様を閉じ込めている！ 神様はチジャンの家にいる。会いたい者はしっかり金を払うこと】。さすがチジャンだ、さすがチジャンだよ、みんな！ 頭がいいんだよ、みんな！ おつむがいいんだよ、みんな！

朝早く人々が起きた。おまけにみんな、それは日曜の朝だった。ほら、ミサの時間だ、ミサのある日だ。人々は起きて、みんなはサボテンのある小さな土地にレユニオン風の小さな家があるのを見つけ、それを眺めていて、何か書いてある大きな板切れを見た：「おいおい、何だこりゃ、みんな！ 誰がそこに住んでいるんだ？ そいつは神様を捉えたって言ってるぞ！ どうやって神様を捕まえるんだ！ そんなことある訳ないだろ！」。

チジャンは少し遅く起きたが、それはちょっと塩梅する必要があったからだ。彼は昨日の夜に全部仕上げておく必要があった。そして彼は外に出て、自分が書いた板の横に自慢そうに立ち、みんなの興味を引いた。



E pi domoun i di : « Hé ou ! Kosa ou la marké dési la d'si ? Kisa ou lé déza inn ? Kisa ou lé la ? Ou di ou la trap Bon Dié, ou la anprizonn Bon Dié ! » Ti Zan i di :

« Bin wi ! Ma la anprizonn a li.

- A koz ou la fé sa ?

- A koz mwin la fé sa ? Lé normal. Li la pran la vi mon momon èk mon papa. Ma la trap a li, ma la anférèm a li dan la kaz tèr-la.

- Bin Ti Zan, ou lé fou don ? Koman... ? Larg Bon Dié !

- Kèl larg Bon Dié ? »

Ti Zan la trap son gran kouto la di : « Si ou vé larg a li, alé trapé. Rant a ou. » Mé domoun la pa rantré. Alor bana la d'sann anba, la parti vwar lo rwa. La pa ryink lo rwa la monté, mézami. Lavé le minis, lavé tout. Di kou, kan bana la antandi sa anba : « Ti Zan la atrap Bon Dié, la anférèm Bon Dié, la anprizonn Bon Dié, po vwar i fo donn larzan ». Tout domoun la monté. Sèk lavé larzan, tousa-la.

Alor zot i ariv dovan baro Ti Zan, lo rwa i di : « Hé ! Kosa mi antann. Ou la anprizonn Bon Dié-la ? Out tèt lé pa bon kwé ? E mi krwa pa ou di tou mwin. Koman ou la fé po trap Bon Dié po mèt anndan la ? Bon Dié lé pli for ke nou sa ! »

するとひとりが声をかけた：「ところであんた！　ここに書いたのはどういうことだ？　ここにもう住んでるようだけれどあんたは誰だ？　そこにいるあんたは誰なんだい？　あんたは神様を捕まえて、神様を閉じ込めてるって！」。チジャンは言った：

「そうとも！　僕は閉じ込めてある。

－　何でそんなことをしたんだ？

－　何で僕がやったって？　当たり前のことさ。神様は僕のママとパパの命を奪った。僕は捕まえてこの家の中に閉じ込めた。

－　あんなチジャン、お前おかしいんじゃないか？　どうやって...？　神様を解放しろ！

－　神様を解放しろだって？」。

チジャンは大きなナイフを取り出して言った：「神様を自由にしなければ身柄を確保しに行けばいい。入りなよ」。しかし誰も入らなかった。そこでみんなそこから降りて、王様に会いに行った。王様は山地にはいないのだ、みんな。大臣もいたし勢ぞろいだ。みんなはそこでのことを聞いた：「チジャンが神様を捕まえて、神様を閉じ込めて、神様を囚われの身にしており、会うには金が必要です」。みんなが登っていった。それは金を持っているもの全員だった。

みんながチジャン宅の門の前に着いて、王様が言った：「おい！　聞いたぞ。お前は神様を閉じ込めているとか？　お前は頭がおかしいのか？　それにわしはお前の言うことが信じられん。お前がどうやって神様を捉えて、この家に閉じ込められるのだ？　神様は我々の誰よりもお強いのだぞ！」。

Ti zan i di : « Ou krwa pa ? Si ou krwa pa, bin, tan pi po ou. Mi pèy pa ou po krwa, mé sèlman mi di a ou, i fo pèy a mwin po vwar.

Kriké !

Kraké !

Lo rwa i di : « Hin ! Po pèy a ou. Ou koné larzan i mank pa mwin. E pou mwin alé vwar Bon Dié, hin ! » Ti Zan i di :

« Mé sèlman la, ou pèy a mwin. Mé ou va vwar Bon Dié a in kondisyon !

- Lé kèl ? Kèl kondisyon ? »

Domoun té la, té antann :

« Kosa, kosa i lé ?

- Po vwar li, i fo ké ou lé in bon. Lé vré pa vré ? Inn. Dézièmman, si ou lé mantèr, la pa mwin lotèr ! »

Kriké !

Kraké !

« E si ou la pa vi a li osi, somanké ou na in gro problèm mon rwa !

- Kèl problèm ? Kèl problèm ! »

Domoun lé la, i ékout :

« Kèl problèm ?

チジャンは言った：「信じられない？ もし信じられないのなら仕方ありません。僕はあなたに信じてもらうために金は払いませんが、言っときますが、会いたければ僕に金を払わなければなりません」。

クリケ！

クラケ！

王様は言った：「そうか！ お前に払う訳だな。知っての通りわしは金に困ってはいない。わしにとって神様に会うためならな！」。チジャンは言った：

「但し、私に金を払うだけじゃありません。神様に会うには条件があります！

－ それは何だ？ どういう条件なのだ？」。

そこに居合わせたみんなも尋ねた：

「何だ、それは一体何だ？

－ 神様に会うには、あなたが善人でなければなりません。それは本当ですか、違いますか？ それが一つ目。二つ目に、もしあなたが嘘つきであっても、なおさら騙り者であってもいけません！」。

クリケ！

クラケ！

「さらに、それでも会えなかったら、多分あなたが重大な問題を抱えているということです、王様！

－ どんな問題だ？ どんな問題なのだ！」。

そこにいたみんなも訊いた：

「どんな問題なんだ？

- Bin, lo problèm sé ké out madam i tromp a ou.

- Kosa sa. Mwin mi koné ké mwin lé in bon rwa. Ma la zamé amas mantèr pèrson. Mon madam tou lé swar i dor déryèr mon dos. Konbyin po rant la d'dan ?

- Donn sèt ou vé ! Donn sèt out kontantman pou alé vwar Bon Dié. »

Lo rwa trap in kok larzan la di : « Ala ! » Le Ti zan trap sa, mèt sa dann kwin laba : « Rant a ou mon rwa. »

Lo rwa la rant promié, son gran rob, son nafèr, tout. E pi li rant dann lo ti kaz, li gèt dann la kwizinn, li gèt dann salon. Li rod partou. Li sar dann kabiné, ziska déryèr la ba. Li gard dann touf lèskinn partou. Pa d'Bon Dié !

Li komans kalkilé, li di : « La pa posib ! Donk na in problèm. Mwin lé in bon rwa mwin. Mé la lo problèm somanké mon madam i tromp a mwin. Ek qui la rènn i tromp a mwin si mi vwa Bon Dié ? Na in problèm ! E la, kan mi sort déor, mi pa di domoun ké mwin la pa vi a li. Si ma la di sa, mwin lé bézé ! Koman ? Bana va di lo rwa, in rwa konm mwin, ma la été touzour bon, swa mwin lé in mantèr, swa mwin lé in mové, swa... mon fanm i tromp a mwin ! E sa, sé in la ont pou in bonom. »

Kriké !

Kraké !

— そうですね、問題というのは、奥様があなたを裏切っているということです。

— それなら宜しい。わしは自分が善き王であることを分かっている。わしは誰にも嘘をついたことはない。妻の方は、毎晩わしの背中の後ろで寝ておる。中に入るのに幾らかかるのだ？

— お好きな額をどうぞ！ 神様に会うために相応しいと思われる値段です」。

王様は金が入った箱を掴んで言った：「ほら！」。チジャンはそれを受け取って隅に置いた：「お入り下さい、王様」。

王様が最初に入った、大きなガウンにその他もろもろを付けて。彼は小さな家に入り、台所の中を探し、客間の中を探した。彼はあちこち探した。タンスの中まで入り、その裏まで探した。彼はサボテンの茂みの中まで至る所を探した。神様はいなかった！

彼は考え始めた：『そんなまさか！』ということは何か問題があるのだ。わしは善き王なのだ。すると、問題というのは多分、わしの妻がわしを裏切ったということだ。では誰と王妃がわしを裏切って神様が見えないのだ？ こいつは厄介なことになった！ こうなったら、わしが外に出て皆に何も見なかったとは言えん。もしそんなことを言ったらわしは策謀家になってしまう！ どうしようか？ 皆は言うだろう。わしのように常に善良だった王が嘘つきとか、悪人だとか、それに... 妻がわしを裏切ったとか！ それは真っ当な男にとって恥だ」。

クリケ！

クラケ！

Lo rwa i di : « Ah non ! La, i fo kan mi sort, mi di mwin la vi Bon d'Dié.

Ma la vi a li ! Ma la vi a li vréman ! » Alor lo rwa i sort, gro sourir :

« Oté mézami !

- Kwa la fé ? Kwa la fé mon rwa ? Ou la vi vréman Bon Dié ?

- Ha, ha ! Mézami ! Bon Dié, ma la vi a li an fas. E konm mwin lé lo rwa, li la mèm pa oz ogard a mwin dann zié. Li la bès son tèt, mézami, po mont a zot ké mwin lé gran, mwin lé for. A zot i dwa rèspèkte a mwin, hin ! »

E pi li sa va son sato, son tèt i travay : « Son madam i tromp a li. La pa bon sa ! La pa bon sa ! »

Lo minis i arpwin in kou, i di :

« Ti Zan, si lé vré vréman out afèr-la, a mwin si mi pé péyé. Mi vé alé vwar Bon Dié !

- Donn sèt out kèr i vé. »

Astèr minis i atrap in valiz larzan, dépoz èk Ti Zan. Ti Zan i atrap lo valiz, i mèt la :

« Mé atansyon, si ou la pa vi Bon Dié mi di a ou, swa ou lé mové, ou byin swa ou lé mantèr, é osi out fanm i tromp a ou.

- Wi, mi koné, ou la finn dir a mwin. Lé bon. »

王様は言った：「いやだめだ！ 外に出たらわしは神様を見たと言わねばならん。わしは神様を見たのだ！ わしは本当に見たのだ！」。そして王様は外に出た、満面の笑みをたたえて：

「さあ、皆の衆！

— どうでしたか？ どうでしたか王様？ あなたは本当に神様に会われましたか？

— ああ！ 皆の衆！ 神様にわしはお会いした、それも面と向かって。わしを王として、敢えて目と目を見交わされた。お辞儀さえされたのだ、皆の衆、それは皆にわしが偉大かつ力ある者として示されるためだ。みなはわしを敬わなければならん！」。

そして王様は自分の城へと向かったが、彼の頭は働いていた：『お前の妻が裏切ったのだ。それはだめだ！ それはだめだ！』。

大臣が突然進み出て言った：

「チジャン、もしお前のやっтерことが本当なら私は払うぞ。私は神様にお会いしに行きたいのだ！

— お望みのままにお支払いをどうぞ」。

大臣はすぐに金の入ったかばんを掴んでチジャンに渡した。チジャンはかばんを取ってそこに置いた：

「但しご注意を。もしあなたに神様が見えないようなら、言っておきますが、それはあなたが悪人であるか、嘘つきであるか、あるいはあなたの奥様が裏切ったからです。

— よし、分かっている。私に言ったからにはな。それで宜しい」。



Alor, li rant. Li rant, li gèt partou parèy. Dan la kaz, dan la kwizinn, sou la tab, partou. Dann bak manzé koson ziska.

Kriké !

Kraké !

Hé ! Pa de Bon Dié mézami : « Koman mi sar fé ? A mwin inn boug konm mwin, ma la touzour donn domoun larzan sèt la pwin. Ma la finn donn a zot in ti plas travay dann sato tousa-la. Bon Dié, amont a mwin out figi ! Amont a mwin out vizaj ! Pa de Bon Dié ! Na in poblèm. Mé la, i fo pa mi di pèrson paské sinon bana va krwar swa mwin lé mové, swa mwin lé mantèr, swa mon fanm i tromp a mwin. »

Avan li sort, parèy, i gran sourir : « Ha ! Mézami ! » Ma la pa di a zot, minis la lavé bon pé la barb :

« Mézami ! Ma la vi Bon Dié vréman ! Lé vré, li la anprizonn Bon Dié.

- Koman i lé ? Koman Bon Dié i lé ?

- Mwin té kalkil ma lavé bon pé la barb, mé Bon Dié na plis ké mwin mézami ! Son barb i trèn a tèr.

- Kwé i lé ? Son barb i trèn a tèr ? »

Alor lo prêt' la antandi sa. Lo prêt' i di : « Hé ! Ti Zan ! Ou la pwin rèspé. Tousa la malis ou la finn fé, la zordi ou trap Bon Dié ou mèr dann out kaz, ou anprizonn a li ! Ki sé ou ? Ou la pwin rèspé don. »

そして彼は入った。彼は入って、至る所を同じように探した。家の中、台所の中、机の下などあちこち。豚の秣桶の中までも。

クリケ！

クラケ！

おやおや！ 神様はいなかった：『どうしよう？ 私は善人だし、持たざる者にいつも金を与えている。城でのちょっとした仕事まで彼らに与えてやっている。神様、私にお姿をお見せ下さい！ 私にお顔をお見せ下さい！ 神様がおられない！ これはまずい。でも誰にも言えないぞ、そうしないとみんな私のことを悪人か嘘つきか、私の妻が裏切っていると信じるだろう』。

彼は外に出る前に同じように満面の笑みをたたえた：「いやはや！ 諸君！」。みんなに言ってなかったけど大臣は長いあごひげをはやしていた：

「諸君！ 私は神様にまさにお会いした！ 本当に彼は神様を閉じ込めておったのだ。

－ どんな感じでしたか？ 神様はどのようなお方でしたか？

－ 私は自分でもあごひげは長い方だと思っておったが、神様はもっと長かった！ あごひげが地面まで垂れていた。

－ えっ？ あごひげが地面まで垂れていたって？」。

その時、神父がそれを聞いていた。神父が言った：「おい！ チジャン！ お前には崇敬の念というものがない。お前はさんざん悪事をやらかしたが、今日に至っては、神様を捕まえ、お前の家に置き、閉じ込めるとは！ お前は何様だ？ お前には崇敬の念がまったくない」。

Ti Zan i di :

« Ah ! mon père ! Ma la di a ou poukwa ma la fé sa. Li la pran la vi mon momon é mon papa.

- A mwin dopi s'tan mi pri la, mi fé tout' kèrmès, é pi ma la zamé vi Bon Dié mwin !

- Ou la zamé vi Bon Dié ou ? Bin, na in problèm la mon père.

- Non, ma la touzour pri a li, mé la, la, konm ou la giny kaptir a li la, bin mi pé rantré osi po gard a li ?

- Mon père, ousa ou sar tir larzan ?

- Larzan la kèrmès mon zanfan ! Sa mi donn èk mon kèr sa. »

Lo père larivé avèk lo ti nafèr la kèrmès-la, lo ti tron. Li ariv, li donn sa Ti Zan. Ti Zan i mèt sa dann kwin.

Kriké !

Kraké !

lé krik !

lé krak !

« Mé atansyon mon père, si ou la pa vi Bon Dié, swa ou lé mantèr, swa ou lé pa bon, ou swa... Ah non ! Mon père ! Mon père, pardon, mon père, èskiz a mwin mon père. » Mé atansyon mézami, nou koné pa vréman.

Kriké !

Kraké !

チジャンは言った：

「ああ！ 神父さま！ 僕がどうしてこんなことをしたか  
言いましょう。神様は僕のパパとママの命を奪ったのです。

－ 私はずっと前から祈り、バザーも開いてきたが、一度  
も神様を見たことがない！

－ あなたは神様を一度も見たことがない？ それじゃ何  
か問題があるのですよ、神父さま。

－ いいや、私はずっと祈ってきた。それなのにだ、お前  
が捕まえたからには私も入ってお目にかかれるだろうか？

－ 神父さま、金はどこから工面されるんですか？

－ バザーの金がある、わが子よ。私は喜んでそれを進呈  
しよう」。

神父はバザーで集めた金をいれた小さな慈善箱を持って  
きた。彼はやって来てそれをチジャンに渡した。チジャン  
はそれを隅に置いた。

クリケ！

クラケ！

イエクリ！

イエクラ！

「但しご注意を、神父さま、もしあなたが神様にお会い  
にならなかった場合、それはあなたが嘘つきであるか、善  
人ではないか、あるいはまた... ああ違った！ 神父さま！  
神父さま、ごめんなさい神父さま、失礼しました、神父さ  
ま」。ところが、実のところは誰にも知りようがない。

クリケ！

クラケ！

Sa in sékré bana i gard ant' zot.

Alor, mon pèr i rant, an pléran mézami, an pléran : « Ah ! Bon Dié, Bon Dié ! Koman marmay la fé ? Bon Dié, ou la vi tousa la priyèr ma finn fè po ou, zordi mi vyin d'van ou. Eskiz a mwin, pétèt somanké mi ginyra pa déliv a ou, mé sé zist vwar out figir, out figir paské mwin mi fé krwar tout domoun ké ou lé vivan. O mwin si mi di mi vwa, tout domoun va krwar a mwin ankor. »

Kriké !

Kraké !

Lo pèr i rant dan la kaz. Li gèt partou, li fouy partou... Pa d'Bon Dié mézami ! « Bon Dié, ousa ou lé Bon Dié ? Tousa la priyèr ma la finn fé pou ou la, hin, tousa losti nou la finn fabriké pou donn domoun-la... Toultan ma pou sonn la klos pou kas mon zorèy... Ousa ou lé ? A mont a mwin ! Ki lé ? » Pa d'Bon Dié !

Kriké !

Kraké !

Lo pèr i kalkil in kou : « La, si mwin la sort déor la é ma la di bana ma la pa vi Bon Dié... Ti Zan lé mantèr, bana va dir ké sé mwin lé mantèr. E sé mwin lé pa bon. Mwin lé in mové boug ! La pa posib. I fo mi di bana ké mwin la vi Bon Dié. »

それはみんながお互いに守っている秘密なんだ。

そして、神父は入った。涙を流しながらだよ、みんな、泣きながら：「ああ！ 神様、神様！ どのようにしてこの小さき者がそのようなことを為したのでしょうか？ 神様、あなたは私があなたに捧げたすべての祈りをご覧になっておられます。今日、私はあなたの御許に参ります。お許し下さい、私があなたを自由にしてさしあげることは恐らくできません。御顔を拝するだけです。私はすべての者に、あなたが生きておられることを信じさせています。少なくとも、私があなたにお会いしたと言え、みんなは私を一層信じることでしょう」。

クリケ！

クラケ！

神父は家の中に入った。彼はあちこち見回し、至るところを探した... 神様はいなかったよ、みんな！ 「神様、どこにあなたはおられるのですか、神様？ 私があなたに捧げたすべての祈り、みんなに与えるために我々が作ったすべてのホスチア<sup>聖体</sup>... 耳がおかしくなるまで私がいつも突いていた鐘... あなたはどこにおられるのですか？ 私に姿を現して下さい！ おられるのですか？」。神様はいなかった！

クリケ！

クラケ！

神父はそこで考えた：『もし外に出てから、みんなに神様を見なかったと言ったら... チジャンは嘘つきだと言ったら、みんなは私の方が嘘つきだと言うだろう。それでは私の方が善人ではなくなってしまう。私は悪人になる！ そんなことはだめだ。みんなには神様を見たと言うしかない』。

Li sort déor : « Mézami, i fo vyin la mès, Bon Dié la di, hin ! E tou lé dimans, lo samdi osi. Arèt alé kèstyon alé bal. Bon Dié lé an kolèr avèk zot. A ou sirtou Madam lé byin sanzé la... A ou ou ème byin alé dansé dann bal... A ou si Mésié... E la di os, i arèt bwar paské ou va tomb a tèr, ou s'ra sou. »

Lo pèr mèt son gran foular, é pi li d'sann. Mé dan son tèt i travay :  
« Oté, bin kosa mwini la fé d'mal don ? Koman i fé Bon Dié la pa mont a mwini son vizaj ? Na in problèm. »

Alor Ti Zan finn ankès tout larzan tout domoun. Mézami, mèm in fran in vié pov, li la pran. In fran ! Kan li la finn ris, ris konmsa-la, in zour, li pwint arwar pou alé vwar lo rwa : « Bon, mi sar vwar lo rwa. » Li ariv laba, li di :

« Mon rwa, koman i lé ?

- Lé byin mon zanfan, lé byin ! »

Lo rwa, dépi s'tan lo zour-la té trakasé. Dopli s'tan la, son kèr i arbat dann son do ankòr. Li di :

« Kosa la fé mon rwa ? Lé byin ?

- Wi, mon zanfan, lé byin, lé byin. Dousman, dousman.

- Madam lé byin ?

彼は外に出た：「みなさん、ミサに来なければならない、と神様はおっしゃられた！ 毎週日曜に、土曜日もだ。ダンスホールに行くなどもってのほか。神様はみんなに怒っておられる。特にそこのご婦人、改めなさい... あなたはダンスパーティーに踊りに行くのがお好きだ... そこご主人... あなたにも言おう、飲むのをやめなさい、あなたは酔いつぶれて地べたに倒れているから」。

神父は長いストラ〔カトリックの聖職者が  
祭式時に首にかける帯〕を直し、それから降りていった。しかし頭の中で考えを巡らせていた：『いやはや、私は何か悪いことをしたのだろうか？ どうして神様は私に御顔をお見せにならなかったのだろうか？ 何か問題があるのだ』。

チジャンはすべての人々から有り金をむしり取った。みんな、貧しい年寄りの最後の一銭までも絞り取ったんだ。最後の一銭までも！ そして金持ちになった時、ある日、王様に会うために姿を現した：「よし、王様に会いに行こう」。彼は着いて言った：

「王様、ご機嫌いかがですか？

－ 申し分ない、わが子よ、上々だ！」。

王様は、あの日以来心配だった。あの時以来、彼の心は未だに心配に駆られていた。チジャンは言った：

「いかがお過ごしですか、王様？ お元気でいらっしゃるか？

－ いかにも、わが子よ、上々だ、上々だ。ゆるりゆるりとな。

－ 奥方様はお元気で過ごしでしょうか？



- Wi, tout lé byin ! La byin manzé, lé byin.

- Ou koné, zordi mwin lé ris. Mwin lé kontan mon rwa. Ah ! Mwin lé kontan.

- Ti Zan, ah ! Lé byin si ou lé kontan. Mé ou lé pa pli ris ké mwin. Ou koné ké mwin lé le rwa, mwin na plis ké ou.

- Wi, mon rwa ! Mé mon rwa, ma lav'ni di a ou in nafèr paské bana i di mwin lé in marmay intélizan, mwin lé in marmay mal élévé. Mé mwin lé pa mal élévé mwin mon rwa ! Ma lav'ni di a ou in nafèr. Sèk ma lav'ni di a ou, sé la vérité.

- Ah bon. Kosa ou na pou di a mwin ? Kèl vérité ?

- Mon rwa, ou koné, kan ma la di a ou ma la trap Bon Dié-la, la pa vré !

- Kwé i lé ? La pa vré ? »

Lo rwa la mèt son min dési son lépé :

« Kosa ou lé antrinn di mwin ? La pa vré Ti zan ?

- Bin wi ! Ma la amas a ou in mantèr.

- Ah bon ! Bin, ou... Oz di a mwin sa zordi ou vyin dan mon sato ? Mi sar koup out kolé !

- Hep, hep, hep, Mésié ! Si ou la koup mon kolé, ou koné, domoun i sar pi bon èk ou. E konm ou la pa vi Bon Dié ! Mi koné ou la pa vi Bon Dié mon rwa, di pa mwin ou la vi ! »

－ 無論のこと！ あれはよく食べるのでな、変わらない。

－ あなたもご存じのように、今では僕も裕福になりました。喜んでおります、王様。ああ！ 嬉しい限りです。

－ チジャン、ああ！ お前が喜んでおるのは何よりだ。ただ、お前がわしよりも金持ちということはない。何しろわしは王であり、わしはお前より多くを持っているからな。

－ 勿論です、王様！　ところで王様、僕が参りましたのは、あなたにお話しすることがあるからです。みんなは僕のことを頭がいい子供だとか、悪たれ小僧だとかと言っています。でも僕は悪たれではありません、王様！　僕はあなたにあることを話しに参りました。僕がお話することは真実です。

－ そうか。お前がわしに話したいこととは何だ？　どういう真実だ？

－ 王様、あなたもご存じですが、僕は神様を捕まえたと言いましたが、あれは本当ではありませんでした！

－ 何と？　本当ではなかっただと？」。

王様は手を剣の上に置いた：

「わしに何を言うのだ？　本当ではなかったのか、チジャン？

－　そうです！　僕はあなたに嘘をつきました。

－　そうなのか！　それでお前は... 今日、わざわざそれを言いにおしの城まで来たのか？　お前の首をはねてやる！

－　ちょっと、ちょっと、ちょっと、王様！　もし僕の首をはねたら人々はあなたのことをよく思わないでしょう。それはあなたが神様を見なかったからです！　僕はあなたが神様を見なかったことを知っています、王様、『見た』なんて言わないで下さい！」。

Lo rwa la ranz son lépé la di :

« Wi, ma la pa vi mon zanfan.

- Bin, poukwé ou la di bana ou la vi ?

- Bin ma la di paské trwa kondisyon-la a la fé pèr a mwin.

- Bin la si ou koup mon tèt la mon rwa, é bin, domoun va konèt ké ou la pa vi Bon Dié. Donk ou lé in mantèr. E si ou la koup mon tèt, bana va vwar ké ou lé mové. Donk tou i rotomb si ou mon rwa. Mwin lé pou ryin la d'dan.

- Kwé pou di a mwin ou la ?

- Bin wi, mon rwa. Mwin, mwin lé pou ryin paské Bon Dié, li lé la li la. Li lé parmi nou, li lé invisib, é lo zour-la li té dan mon kaz. La, la, li lé dovan nou èk nou.

- Ha ! Lé vré vréman mon zanfan. Lé vré vréman sèk pou di a mwin.

- E bin, ma la pa amas a ou mantèr mwin. Kan ma la di a ou Bon Dié lété la, Bon Dié lété la. Li lé touzour la, touzour parmi nou. »

Alor lo rwa i gard Ti Zan konmsa. Li té an kolèr, mé li té i giny pa fé Ti Zan a ryin. Sak Ti Zan la di a li, lé vré.

王様は剣を戻して言った：

「その通りだ。わしは見なかった、わが子よ。」

－ では何故みんなに『見た』と言われたのですか？

－ わしがそう言ったのは、三つの条件に怖気づいたからだ。

－ そうなると、もし僕の首をはねたら人々はあなたが神様を見ていないといずれ分かるでしょう。するとあなたは嘘つきになります。それにもし僕の首をはねたら、みんなはあなたが悪人だと分かるでしょう。だからどっちにしてもあなたには同じことになります、王様。僕自身はどうってことはありませんが。

－ お前はわしに何を言いたいのだ？

－ はい、王様。僕としては、僕はどうってことはありません。何故なら神様はおられたのです、あそこに。神様は僕たちの中に<sup>「神は我らのうちに」はヘブライ語で「インマヌエル」。救世主キリストの呼び名のひとつ（『マタイによる福音書』第1章23節）</sup>、見えはしませんが、あの日僕の家におられたのです。ほら、ほら僕たちの前にも、僕たちと共におられます。

－ ああ！ それはまさしく真実だ、わが子よ。お前の言うことはまさに真実だ。

－ それで、僕はあなたに嘘をついていなかったのです。僕があなたに『神様がおられる』と言った時、神様はそこにおられたのです。神様はいつもそこに、いつも僕たちと共におられるからです」。

その時王様はチジャンをこんな風に睨んだ。彼は怒っていたがチジャンをどうすることもできなかった。チジャンが言ったことは真実だったのだ。

Alor, Ti Zan i agard anlèr konmsa : « Ah Bon Dié ! Mèrsi sèk ou la fé pou mwin ! » E lo rwa anlèr parèy. Ti Zan i di :

- Mon rwa, mèrsi. Mi sa va.

- Bin Ti Zan, ousa ou sa va konmsa, ou lé ris konmsa... Bin, ou pé pa alé konmsa. Ousa va tousèl konmsa ?

- Bin wi, mon rwa. Mi sar mon tousèl.

- Hin, alé pa konmsa mon zanfàn ! Alé pa konmsa ! Ou lé in bon marmay ou. Rèss a ou èk mwin la mèm. Ou la vi mon ti fiy laba-la, koman ou trouv a li ?

- Ma la pa oz mann a ou mon rwa ! Mé li lé gayar, li lé zoli !

- Bin, si ou vé Ti Zan, ou pé maryé avèk mon fiy. »

Alor Ti Zan lo zour-la, li té kontan mézami ! Lo samdi answit, bana la fé lo maryaz é Ti Zan la abité dann sato lo rwa-la. Tou sa po di a zot mézami :

Kriké !

Kraké !

Ké Bon Dié lé touzour parmi nou é mèm ké nou vwa pa li, bin li lé la, é li antan a nou, li vwa a nou. Tousa po di ké : « Lé pa konpliké viv la vi ! »

Kriké !

Kraké !

チジャンはこんな風に天を仰いで言った：「ああ、神様！  
あなたが僕になされたことに感謝します」。王様も同じように  
天を仰いだ。チジャンは言った：

「王様、有難うございます。僕はこれで失礼します。

－ おい、チジャン、どこへ行くのだ、お前はもう金持ち  
だ... お前がそんな風に立ち去るなどだめだ。そうやってひ  
とりで立ち去るのか？

－ はい、王様。ひとりで去ります。

－ ああ、そんな風に行ってはならん、わが子よ！ 行っ  
てはだめだ！ お前はよき子供だ。わしと共に留まれ。お  
前はそこにおるわしの娘を見たと思うがどう思う？

－ そんなことあなたにお願いできません、王様！ でも  
彼女は素敵で、お美しいです！

－ それでは、チジャン、お前が望むならお前に娘をめと  
らせよう」。

その時チジャンは喜んだよ、みんな！ 次の土曜にみんな  
が婚礼を行い、チジャンは王様の城で暮らした。結局の  
ところ、みんなに言いたいのは：

クリケ！

クラケ！

神様は常に僕たちの中におられ、僕たちは神様を見るこ  
とはできないが、神様は確かにそこにおられ、僕たちに耳  
を傾けておられ、僕たちをご覧になっている。つまりは「込  
み入ってやしない、人生万歳！」ということなんだ。

クリケ！

クラケ！

## 21. Zan Zak èk Mikri

Beurty DUBAR

Sé le zann de Gramoun Lélé la rakont a mwin se zistwar la, ké mwin té tèlman kontan davwar apri in nouvo zistwar kwa. An plis, de Gramoun Lélé. Mwin té en staj, mwin té fé zatelyè pou bann marmay lékol laba Sin Pol. Mi di : « Ah, mwin na in nouvo zistwar, mwin té i rakont. » E plis mi té i rakont, lavé bann marmay Maoré, bana la di a mwin : « Mésié, mésié, sa sé inn zistwar tradisionèl de Mayot. Sof ké, a la plas lo syin, normalman sé dé zwazo. » Dé trik konmsa, la sanzé ! Mi di : « Ah bon ! » Bin, mwin lé kontan, sé Gramoun Lélé té i rakont sa !

Kriké !

Kraké !

Té danntan la Rényon, na lontan, lontan, lontan mèm, dantan ousa mon gromèr té i mont vélo, ou mazinn... Danntan-la, lavé in boug té apèl Zan-Zak. Zan-Zak li té in pé in bèlom hin ! Li navé pwin ryin. Li lavé inn ti kaz, li lavé inn ti kour, li lavé son zardin. Tout' domoun té i ème a li, paské li té sèrvyab. E sirtou, tou se ké li té fé avèk sé min, lété zoli.

## 21. ジャン＝ジャックとミクリ

ブルティー・デュバル

この話を私に語ってくれたのは『レレ爺さん』<sup>〔本名ジュリアン・フィリアス Julien Philéas. 元糖工場労働者の歌手（1930-2004）〕</sup>の娘婿だ。私は新たな物語をひとつ知ったことでとても喜んだ。しかも『レレ爺さん』の話だ。私は見習い期間中で、サン＝ポールの学校の生徒たちのために民話アトリエをやっていた。私は思った：『ああ、新しい話を仕入れたからそれを語ろう』。そして、それを語り終わったら、マヨット<sup>〔コモロ諸島の一つの島でフランスの海外県。現地語ではマオレ Maore〕</sup>の子供がいて私に言ったんだ：「先生、先生、それってマヨットに昔からある話だよ。ただ、犬の代わりに普通は二羽の鳥だけだね」。ちょっとだけ変えたんだ！ 私は言った：「ああそうなのか！」。それで私は嬉しかったから、これは『レレ爺さん』のバージョンだ。

クリケ！

クラケ！

これはレユニオンで昔、それも昔々の大昔にあったことで、私のばあちゃんが自転車に乗っていた頃の話だ、想像してくれ... その頃、ジャン＝ジャックという男がいた。ジャン＝ジャックはなかなかの男前だったよ！ でも何も持っていなかった。彼には小さな小屋と小さな庭と小さな菜園があるだけだった。みんな彼のことを好いてたのは、彼がとても役に立ったからだった。取り分け、彼が自分の手で作るものは何でも美しかった。



In moun lavé bészwin fé in park volay, i di : « Zan-Zak ou giny fé park volay la pou mwin ? » Zan-Zak té i di wi. Li té rod dé bout la tol par la, in bout fil do fèr par la, dé trwa bwa dann la foré, li té fé a ou in park volay an nik. Té inkrwayab tèlman té zoli. La bészwin fé in port, Zan-Zak té vyin donn in kou d'min, té i giny fé. Tout' zafèr, Zan-Zak té i giny fé. Bana té i di, son bann min té an or. Donk, li té pas de kaz an kaz. Danntan lontan té i donn pa larzan sa. Ma fé in ti travay, mwin néna douz zèf, bin, pran lo bann zèf, mwin na in poul, pran lo poul. Donk li té i viv konmsa. Li té i viv trankil.

Pi, in zour, li pas komsa dann bor somin koma, li vwa inn ti syin dann bor kanal, inn ti syin i kri. Li di : « Lé bon, mwin va ramas lo ti syin. » Li pran le ti syin, li aminn son kaz. Kan li ariv son kaz, li asiz konmsa. Li lé tousèl, zot la romark inn nafèr ? Dépi tan p'ti konmsa, li koz èk son syin. Li di : « Ou koné le syin, patati patata. Ou koné le syin, patati patata. Hin, ou koné le syin. Hin, yèr, tèl manyèr tèl soz, ma la pas la kaz untèl, ma la vi sa, patati patata. »

Apré ou koné pa, koman la éspasé, li mèm domann a li, li koné pa. Bin, in zour, « Ou koné, lo syin. » Lo syin la réponsi :

鳥小屋が必要な人がいて彼にこう言う：「ジャン＝ジャック、鳥小屋を私のために作ってくれないかい？」。ジャン＝ジャックは「いいよ」と言う。彼はその辺りで板切れを探し、鉄線をその辺りで探し、森で数本の樹を探し、素敵な鳥小屋を仕上げる。それは信じられないほどきれいだった。門を作ってほしい人がいれば、ジャン＝ジャックがやって来て、ちょっとした手仕事で仕上げた。どんなものでもジャン＝ジャックは作れた。みんなは彼の手が黄金で出来ていると言っていた。こうやって彼は家から家へと渡り歩いた。その頃はそれにお金を払うということがなかった。その代わり、仕事の見返りが卵一ダースなら彼は卵をもらい、雌鳥一羽なら雌鶏をもらった。こうやって彼は生計を立てていた。彼は慎ましい生活を送っていた。

ある日彼は沿道を通っていて、水路の脇に子犬を見つけた。その子犬は鳴いていた。彼は言った：「これはいい、この子犬を連れて帰ろう」。彼は子犬を抱えて家に連れ帰った。彼は家に着くと腰を下ろした。彼はひとりだったので、みんなはあることに気づいているだろう？ 犬が小さい頃から、彼は犬に話しかけるようになったのだ。彼は言った：「なあ、ワン公、ぺちやくちゃ。なあ、ワン公、ぺちやくちゃ。そうだ、あのなワン公。そうだ、昨日はこんなことやあんなことがあって、誰その家に行って、あれやこれや人に会ったよ、ぺちやくちゃ」。

こうやって時は過ぎていき、彼は自分の知らないことを犬に尋ねさえた。そしてある日、「あのなあ、ワン公」。犬が答えたのだ：

« Bin, mi koné Zan-Zak !

- Ah, oté, kosasa ! Bin, ou koz ?

- Bin byin sir mi koz ! Dépi tan p'ti koma, ou koz èk mwin, bin mi koné pa mwin, lariv in lèr, mi koz èk ou osi.

- Ah bon ! »

Li lété kontan. Lo swar, li bat karé partou, li fé sési, li fé séla, li fé sési, li fé séla, li pas kaz an kaz. Kan li ariv, li di : « Hé, lo syin ! Vyin, vyin a ou la, mi kri, mi kri a ou ! Vyin a ou ! Lo syin té i vyin. » La li rakont : « Ma la pas la kaz madam intèl. Mwin té blizé rofé son port. Ma la pas tèl andrwa, la dar mwin in ti bout' volay. Mi sar fé kwi volay, mi sar manzé. Bin, a ou ? » Lo syin i di : « Bin a mwin. Waou waou waou. Ma la pas la kaz intèl, ma la trouv intèl. Ma la vi sési. La ravinn té i koul. » E la, bana té i koz, i koz, i papot, i papot, zot lé kontan.

Lo tan i pas in an, dézan, sé pa konbyin dané. E pi, in zour konmsa, Zan-Zak lé konmsa : « Ah, Mikri, vyin a ou la ! Vyin a ou la ! » Lo syin i vyin, i di :

« Hin, kosa la fé ?

- Té, mwin lé éré ! Mwin na mon ti kaz, mon manzé lé kwi, mwin na mon ti zardin, tout' domoun i ème a mwin, é pi, mwin na a ou lo syin, bin, mwin lé kontan ! »

「はいよ、ジャン＝ジャック！

－ 何だ、おい、どういうことだ！ お前話すのか？

－ 勿論だよ、話せるよ！ 僕がチビだった時から君は僕に話しかけていたけど、僕の方は分からなかった。今ではもう僕も君に話せる。

－ そりゃいい！」。

彼は喜んだ。夜になると、彼はあちこち回って、あれをやり、これをやり、あれをやり、これをやり、家から家へと渡り歩いた。彼は戻ると言った：「おい、ワン公！ 来いよ、こっちにおいでよお前、吠えてくれ、僕に吠えてくれよ！ こっちにおいで！ ワン公、来るんだ」。彼は語った：「きょうは誰それ夫人の家に行ったよ。その門をやり直すしかなかった。それからどこそこに行ったら鳥を少しもらった。鳥を料理して食べよう。で、お前は？」。犬が言った「僕の方はだね。ワウ・ワウ・ワウ。どこそこの家に行って、誰それに会った。それからあれこれを見た。谷はいかしてたよ」。そして彼らはしゃべって、しゃべって、無駄話をして、二人とも嬉しかった。

そうやって一年が過ぎ、二年が過ぎたが、何年過ぎたかは分からない。ある日、ジャン＝ジャックは言った：「ああ！ ミクリ「僕に吠えろ」という名前」，こっちに来いよ！ こっちに来い！」。犬がやって来て言った：

「うん、どうしたんだい？

－ いや、僕は幸せなんだ！ 小さな家があるし、作る食べ物はあるし、小さい庭もあるし、みんな僕のことを好いてくれるし、それに僕には犬のお前がいる。ほらね、僕は嬉しいよ！」。

Lo syin i apèl Mikri, zot la konpri, i di :

« Hin ! Ou lé sir ou lé kontan, ou lé éré Zan-Zak ?

- Bin, biyn sir mwin lé éré. Poukwé mwin séré pa éré ? Mwin lé éré.

- Wi, ou lé éré, ou lé éré, mé, i mank pa ou inn nafèr ? »

Zan-Zak i kalkil :

« Non, i mank pa mwin ar ryin. Kosa i mank'ré a mwin ?

- Dapré ou a mwin, dé fwa mi sava pandan sink zour in semèn ou vwa pa mwin. Ou koné ousa mi sava ?

- Mon dié, byin sir, mi koné ou sa ou sava ! Tou le vilaz i koné. Zot i fé désord dann la ravinn. Zot i fé zot bordèl lo paké d'syin !

- Bin, zisteman ! Ou s'ré pa kontan dann out kaz, kan ou ariv, out manzé lé kwi ? Ou s'ré pa kontan kan ou ariv dann out kaz, na inn ti rido si la fénèt ? Ou s'ré pa kontan in moun i akèy a ou ? In madam ! »

Zan-Zak i di : « Kèl madam ! Ma pa bézwin madam, mwin ! Kosa, ou la pou di ninportkwé, ou la. Haaaa ! » Sa la pèrturb a li sa. Promié fwa i mèt dann son tèt ké, in madam s'ré valab dann son kaz.

犬はミクリという名前で、それはみんな分かっていると思うが、こう言った：

「ふん！ 君が満足しているって確かかい。君は本当に幸せなのかい、ジャン＝ジャック？

－ うん、勿論僕は幸せさ。どうして幸せじゃないなんて言えるんだ？ 僕は幸せだ。

－ そうかい、君は幸せだ、君は幸せだ。ところで君には何か足りなくないかい？」。

ジャン＝ジャックは考えた：

「いいや、足りないものなんかないね。僕に何が足りないと言うんだ？

－ 少なくとも君の考えではね。ひょっとして僕は五日か一週間そこら出かけるから会えないよ。僕がどこに行くか知ってるかい？

－ ああ、勿論、お前がどこに行くのか知ってるよ！ 村中の人だって知っている。お前たちは谷で騒いでいるからな。たくさんの犬で乱痴気騒ぎだ！

－ そう、その通り！ 君は嬉しくないかい、家に帰った時に用意された食事を食べられたら？ 君は嬉しくないかい、家に帰った時に窓にカーテンがあれば？ 君は嬉しくないかい、家に帰った時に誰かに迎えられるのは？ 奥さんだよ！」。

ジャン＝ジャックは言った：「どんな奥さんだ！ 僕には奥さんなんか必要ないよ！ お前は何を言ってもいいけどね。ははは！」。それは彼を困惑させた。彼は頭の中で初めて、奥さんが自分の家の中で役に立つかも知れないということに思い至った。

Té, la nwit, boug-la la pa giny somèy. Traka, somèy, mi koné pa, boufé d'salèr, mi koné pa kwé, la mont an li. Toudinkou, li lé koma, li tourn li vir, li tourn li vir, li konpran pi ryin, li konpran pi ryin, li antann, a se moman-la, li antann konm in gro bryi de férai y : « Zan-Zak ! » Li ogard son syin, li di : « Té kosasa ? Té makro d'syin, té lo syin kosa ou vé la ? » Lo syin lé pi la, na pwin d'syin ! Na pwin ryin. Li la reginy somèy. I arbèz ankòr in désord, i di :

« Zan-Zak !

- Kwé, kosa la fé ?

- Zan-Zak, ou rapèl gro pwint d'san ou la ramas dann somin la ?

- Bin, sa lé vié sa.

- Wi, ou la ramasé sa ?

- Wi, ma la ramasé.

- Hin, ma di a ou in nafèr, ou giny fé bon pé zafèr ou ? Domin, pran out si, pran out as, alé dann la foré. Ou va ariv dann la foré koma, ou va vwar in pié d'bwa. Tout pié bwa otour i bouz konm si na lo van. Ali, li bouz pa di tou. Pran lo tron, dési skilt lo pli zoli fanm ké ou la zamé vi de out vi. »

E la, pouf, li arginy somèy. Li konpran pi. Li di : « Té, ma la dormi ! Ma la révé, mi konpran pa. »

その夜、若者は寝つかれなかった。心配や眠気なのか、私は知らないが、塩漬けの食べ物なのか、私には分からないもので彼はぼうっとしていた。彼があっちこちに寝がえりをうち、さっぱり訳が分からずにいたその時突然、彼はがちゃがちゃという大きな音を聞いた：「ジャン＝ジャック！」。彼は犬の方を見て言った：「おいおい、何だよ？ ワン公野郎，ワン公，何がほしいんだ？」。犬はそこにいなかった，犬の影も形もなかった！ 何もいなかった。彼はまたうとうととした。再び騒がしい音が聞こえ，声がした：「ジャン＝ジャック！」

— 何なんだ，どうしろというんだ？

— ジャン＝ジャック，お前はあの道で拾った太い釘のことを覚えているか？

— ああ，あれは古いやつだ。

— そうか，まだ持ってるか？

— ああ，持ってる。

— よし，よく聞け。お前はものを作るのが上手いのだろう？ 明日，鋸を持って，斧を持って森まで行け。森に行くと一本の樹が見つかる。周りの樹は風が吹いているようにすべて揺れている。その樹はまったく動いていない。その樹の幹を切り出して，それにお前が今まで見たことのないような美しい女を彫るのだ」。

そこで，すとん，ジャン＝ジャックはまた眠りに落ちた。彼には訳が分からなかった。彼は思った：『何だ，寝ていたんだ！ 夢を見たけど訳が分からないな』。



Li arlèw le landmin matin, li fé kafé, la lo syin, li di :

« Ha ! Ou lé la Mikri !

- Bin byin sir mwin lé la Zan-Zak, ou sa ou vé mi lé ?

- Yèr swar ou té pa la ?

- Bin non, mwin té pa la. Ma la parti bat karé.

- Bon. »

E la lo syin i ogard son mèt, li vwa é li di :

« Hin, Zan-Zak, mi vwa na in zafèr lé pa bon pou ou la. Kosa la ariv a ou ? Ou la fé kausmar yèr swar ?

- Non, ma la pa fé kausmar, ma la pa fé ryin.

- Bin alor, kosa la ariv a ou, rakont !

- Bin, lé bon, ma arkont a ou Mikri. »

La li arkont son rèv : « Ma la antandi in désord, la di ali konmsa, alé dan la foré, li va vwar dann la foré tout' brans do bwa i bouz konm la ké lo syin. Nora in gro pié d'bwa i bouz pa di tou. Skilt lo pli zoli fanm ké li nora zamé vi de son rèv. La di kosa fo fé. »

Lo syin i gard Zan-Zak, i di : « Zan-Zak, ma di a ou in nafèr, kosa i kout a ou fé ! Si lo rèv la di a ou fé, la pa di a ou tyé d'moun, la pa di a ou vol ? Bin, alé fé ! » Le Zan-Zak i di : « Bin, lé bon. »

彼は翌朝起きてからコーヒーを淹れ、そこにいる犬に彼は言った：

「ああ！ お前そこにいるのか、ミクリ！

－ 勿論、ここにいるよ、ジャン＝ジャック、僕にどこに行ってほしいと言うんだ？

－ 昨日の夜はいなかっただろう？

－ うん、いなかった。散歩に行ってた。

－ そうかい」。

犬は自分の主人を眺め、彼を見て言った：

「あのな、ジャン＝ジャック、君に何かまずいことがあるんだろう。どうしたんだ？ 昨日の晩に悪い夢でも見たのかい？

－ いいや、悪い夢なんか見ていないし、何でもない。

－ ほらほら、何があったんだ、白状しろよ！

－ そうか、ならミクリ、お前に話すよ」。

彼は自分の夢を話した：「騒がしい音がして、こう言ったんだ。『森に行けば、森の中で犬の尻尾のように動いている樹がある。その中に、一本だけ動いていない大きな樹がある。それに、夢でも見たことがないような美しい女性を彫れ』。そうしろって言った」。

犬はジャン＝ジャックを見て、言った：「ジャン＝ジャック、聞いてくれ。それはやってみるに値するよ！ 夢が君にそうしろと言ってるんだし、人を殺せとか、盗みをしろとかは言ってないだろう？ だから、やったらいい！」。そこでジャン＝ジャックは言った：「よし、わかった」。

Li pran tout son bann zoutiy, li mars dann la foré. Li mars, li mars, li mars. Kan lariv in lèr, dann inn karo d'bwa, tout' brans an lèr i bouz konmsa, é o milyé, na in pié d'bwa i bouz pa di tou, lo tron lé bèl konmsa : « Ah, mon tron d'bwa ! Alor, lé vré vréman mon rèv ! »

La, li pran son as, li pran son si, li pran tout. Li komans koupé, asé, skilté. Konm ma la di a zot, son min sé de lor, tout' sèk li fé èk la min, lé zoli ! Té, sa la fé in fanm ! Manman man ! Fanm-la té gran, fanm la té skilté, fanm la té kosto. Oulala ! Tèr-la, té partou, le pli zoli fanm ké la zamé ékzisté si la tèr ni dann sé rèv ! E li la fé sa, é li la pran lo tan. Li la aminn la kaz laba, lo syin i ogard Zan-Zak :

« Bin, sa ou la fé ?

- Bin, sa ma la fé. La, mi sava pons a li, paské lé in pé grosié. »

Tout' la nwit, la li pran payedefèr, li pran tout zafèr. La li skilt mèm-la ! La, li poli sa konmsa, li poli sa konmsa. Li fé gran sové. Hin, lo fanm lavé gran sové koma, dé gran zié nwar konmsa. In kor, mi di a ou, siblim. E la, li mèt sa a tèr. E la, li asiz li ogard lo fanm, lo fanm lé pandiyé si in sèz koma, lo syin osi lé parèy. Astèr, lo syin i agard a li, i di ali koma :

« Bin la, ou lé kontan la. Ou na in fanm !

彼は道具類を全部持って、森の中を歩いた。彼は歩いて、歩いて、歩いた。彼が森の高いところに着くと、上の方にあるすべての枝がこんな風に動いていた。その真ん中に一本の樹があり、まったく動いていなかった。その幹はとても大きかった：「ああ、これが僕の樹の幹だ！　すると僕の夢は本当だったんだ！」。

そこで彼は斧や鋸など全部の道具を取った。彼は切り始め、刻み、彫った。みんなに言ったように、彼の手は黄金の手であり、彼がその手で作るものすべては美しかった！　何と彼は女性を作った！　何てことだ！　彼が彫ったその女性は大きく、がっしりしていた。いやはや！　この世のあらゆる所で、この世でも夢であっても存在したことのないような美しい女性だった！　彼はそれを作るのに長い時間をかけた。彼がそれを家まで運んで行くと、犬はジャン＝ジャックを見た：

「おいおい、君がそれを作ったのかい？

— そうさ、僕がこれを作った。これから磨き上げるんだ、まだ少し粗いからね」。

一晩中彼は藁を使い、他のすべてのものを使った。彼は彫り続けさせた！　彼は磨いて磨いた。彼は長い髪を彫り上げた。そう、その女性はこんな感じの長い髪と、こんな感じの黒い目を持っていた。その身体は本当に感嘆すべきだった。そして彼はそれを床に寝かせた。次いで、彼は座って女性を眺め、女性を椅子に寄りかからせ、犬も同じように眺めていた。そこで犬は彼を見て言った：

「ほらこれで君も嬉しいだろう。奥さんがいるんだから！

- Kèl, mwin na in fanm ? Kouyon ! Mwin na in famn, lé vré, mé sé in fanm do bwa ! Bin, dan listwar mintnan, sé mwin i sar dor an bwa. »

Kriké !

Kraké !

Donk, li sar dormi, paské li la konpri kèl sé in stati, sé ryin dot. Bin, la di a li fé, li fé. La li giny somèy, li dor. Parèy, kan i ariv in lèr, minwi mwin l'kar, na in désord', in vapèr i mont an li, li antan in vwa i di :

« Wi, kosa la fé ?

- Alor, ou la fé sèt mwin la di a ou ?

- Wi, ma la fé.

- Bin èstèr, ou vwa lo gro pwint' san ou la ramasé, alé rod a li. Domin gran matin, anfans lo pwint' san dann lo fron out' fanm. »

E lo vwa i disparèt. Zan-Zak i di : « Kwé sék'sa èstèr, anfans in pwint dann lo fron out fanm ? »

Li lèv lo matin. Parèy, li gard son syin, li koz èk son syin, son méyèr ami. Le méyèr ami de lom, sé ? Le syin ! Mikri i di a li : « Té, ma di a ou in nafèr, sé out rèv ! Bin, fé, i kout a ou kwé ? »

La li fouy partou. Li antrinn ésèy kalkilé ousa li mèt lo pwinson. La li rod partou, dési pyès partou. Li trouv lo vié pwint' san rouyé konmsa.

— 何だって、僕に奥さんがいる？　くだらない！　僕に奥さんがいるのは確かだ。でもそれは木でできた奥さんだ！　さて、そういう話なら僕の方は木のベッドで寝ることにするよ」。

クリケ！

クラケ！

そういう訳で彼は寝ることにした。彼にはそれが像であって、他の何ものでもないことがわかっていて。そう、彼は作れと言われて作っただけなのだ。彼は眠くなり、眠りについた。同じように、真夜中の十五分前に騒がしい音がして、熱気が彼の身体を上っていき、あの声が聞こえたので彼は言った：

「はいはい、何をやるんだ？

—　ところでお前は、私がお前に言ったことをやったか？

—　うん、やったよ。

—　では今度は、お前が拾った太い釘を探しに行け。明日の朝早く、その釘をお前の女房の額に打ち込むのだ」。

そして声は消えた。ジャン＝ジャックは言った：「今度は何だって、お前の女房の額に釘を打ち込めだって？」。

彼は朝になって起きた。いつもと同じように、彼は自分の犬を見て、最良の友である自分の犬と話をした。人間の最良の友は何かというと？　犬だ！　ミクリは彼に言った：「いいかい、よく聞けよ、それは君の夢だ！　だったらやってみる価値はあるだろう？」。

ジャン＝ジャックはあちらこちらを探した。彼は釘をどこに置いたのかを考えようとした。彼は色々なものの上をあちこち探した。彼は古い錆びた釘を見つけた。

Li ariv koté lo fanm konmsa, li viz koté lo front koma. La, li bèz in kou d'marto ! Vwa kan sa la anfonse koma, lo fanm la lèvé, té ! La fé konmsa, gran sovè konmsa. Oté, Zan-Zak la agard sa konmsa, la di :

« Bin bien bin, la pwin d'linz si ou ? Ah, mèt in linz vitman ! » La trap inn ti linz la mèt si èl, si lo madam. La, la kozé, la papoté, walali, walala.

Lo fanm la di koma :

« Bin, sé ou la fé a mwin, ou sé mon mèt, ou sé mon mari, ou sé tout' !

- Ah, bin si lé konmsa, alon nétoy in pé la kaz. »

Bana la komans par la sanm. La nétoy la sanm, zot la nétoy la sanm. La pran lo tan nétoyé, nétoyé. Bin le syin Mikri, té kontan osi : « Anfin, Zan-Zak la finn trouv in madam po okip dé li ! Mwin lé kontan ! »

Le landmin, Zan-Zak sar travay, li di lo madam : « Madam, ou rèz la, paské ou lé tro zoli. An plis, domoun va di ou sa ou sort. Ou rèz dan la kaz. E pi konm ou sé in pyè d'bwa, ou té pa abitié tro marsé, ou rèz dan la kour, pa bèzwin alé tro lwin. » E pi li agard son syin, li di : « Mikri, par kont, ou sort pa, ou rèz la. Si na in moun la pasé, Pyèr, Pol, Zak, kan mi ariv, mi vé konèt tout' mwin. Si na in moun la rant' dan la kaz la. Mé sèlman, i fo pa lo fanm i koné ou koz. » Dayèr, pèsonn té i koné pa li koz, sété in sékré, sé normal sa. Ou na in syin i koz, ou sa di domoun ? Ou di pa !

彼は妻の脇にやって来て額に狙いを合せた。そして彼はハンマーの一撃を与えた！　それが打ち込まれると、妻は何と起き上がった。彼女はすらりとしていて長い髪だった。ジャン＝ジャックは彼女を見て言った：「おやおやおや、君は何も着ていないのか？　ああ、早く何か着せなくては！」。彼は服をひとつ掴んでその女性、つまり妻の上に置いた。彼は彼女に話しかけ、おしゃべりをした、べちゃくちゃべちゃくちゃと。妻が彼に言った：

「では、あなたが私を作ったのですから、あなたが私のご主人で、あなたが私の夫です。あなたが私のすべてです！  
— ああ、そういうことなら、家を少し掃除しようか」。

彼女は部屋から始めた。彼女は部屋を掃除し、みんなで部屋の掃除をした。彼女は時間をかけて掃除をした。犬のミクリも喜んだ：「やっどジャン＝ジャックも面倒を見てくれる奥さんを見つけたな！　僕も嬉しいぞ！」。

翌日、ジャン＝ジャックは仕事に行くので妻に言った：「奥さん、君は残っていなさい。君は美し過ぎるからね。第一、みんなは君がどこから来たのか聞くだらう。君は家の中にいるんだ。それに君は木でできているから歩くのに余り慣れていない。だから君はここに残って、遠くに行かない方がいい」。それから彼は犬を見て言った：「ミクリ、お前も外に出ないでここにいろ。もし誰かが通りかかったら、ピエールとかポールとかジャックとかが、僕が帰った時に全部知りたい。もし誰かが家に入ってきたらね。特に、妻にはお前が話せることを知られるなよ」。もっとも、誰も犬がしゃべれることを知らなかったし、それは秘密だったから当たり前だ。しゃべる犬を飼っていても、そんなこと人に言わないだろう？　言わないって！



Donk, Zan-Zak i sava travay konmsa. Li arvyin. Kan li ariv, li di : « Sé in plézir ! » Le ti fanm la finn mèt rido si le bann fénèt. Linz lé prop la kaz la finn repasé, astiké. Manzé té antrinn kwi. Ah la la, li la asiz, li la di :

« Té, la, mi konpran la vi ! »

La, lé kontan ! Bin, ou koné, in nafèr lé zoli, lé tèlman lé zoli, kan i ariv in lèr, sé pa ou lèstoma i gonf, sé pa kwé, ou di : « Té, ou pé pa lès dann la kaz. » La di : « Hin, dimans, dimans, nou valé an vil. Nou va rod lo pli zoli rob, nou va mèt si ou. E a mwin Zan-Zak, ma mars èk ou koma, braté koskoté koma. » La ariv lo dimans, li la byin abiy lo fanm.

Kriké !

Kraké !

Lo dimans, la byin aranz la tit fanm, la byin makiyé. Ankor lo klou, la fé parèy bann poutou malbar, la mèt in pé le nwar dési lo klou, té rosanb in poutou èk son gran sové nwar konmsa. Té fanm-la té konmsa, té zoli ! La, Zan-Zak la pra tout' la ri prinsipal, la pran la ri Marésal Leklèr, la monté, la d'sand, la, tout' domoun té i agard a li èk son madam. Bana la kozé : « Té gard sa ? Ousa Zan-Zak la trouv sa ? »

こうしてジャン＝ジャックは仕事に出掛けた。彼が帰って家に着くと言った：「こいつは大喜びだ！」。愛しい妻は全部の窓にカーテンをかけていた。衣類はきれいになって家は磨かれていた。料理はちょうど煮えているところだった。いやはや、彼は座って言った：「ああ、生活とはこういうものなんだ！」。

彼は満足だった！ ところが知っての通り、あるものが美しいと、しかも余りにも美しいと、しばらくしたら君の胃でなくて、何か膨れてきて君にこう言う：『ほらほら、家の中に置いてはだめだ』。彼は言った：「なあ、日曜、日曜に僕たちは町に行こう。もっときれいな服を探して君に着せよう。そして僕ジャン＝ジャックは君と一緒に腕を組んで並んで歩くんだ」。日曜になり、彼は妻にきれいな服を着せた。

クリケ！

クラケ！

日曜日、彼は妻の身なりを整え、入念に化粧を施した。まだ釘があったが、彼はマルバール<sup>[南インドから  
の移民の子孫]</sup>のビンディー<sup>[既婚のヒンドゥー教徒女性が額  
につける赤い染料による装飾]</sup>に似せるために、黒い染料を釘の上に塗って、ビンディーを彼女の黒い髪に合わせた。これで妻は美しくなった！ それからジャン＝ジャックは全部の目抜き通りを歩き、マレシャル・ルクレール<sup>[Philippe Leclerc de Hauteclocque 1902-1947。  
最終階級は大将であるがバリア解放の功績で元  
帥に叙された。1945 年の日本の降伏文  
書調印式にフランス軍代表として署名]</sup>通りを上ったり下ったりしていると、みんなが彼とその妻に目を留めた。みんなが話題にした：「おい、彼女見たかい？ どこでジャン＝ジャックは彼女を見つけたんだろう？」。

Dé trwa la di la fé ni sa dann katalog Kwèl. Dé trwa la di, sa la asté, dé trwa la di sa internèt. Dé trwa la di, sa son kwizinn. Bin, tout' domoun i vwa. Lo fanm lé zoli !

Kriké !

Kraké !

Ou koné, a fors kozé, a fors kosé, kosa i s'pas. Lariv dann zorèy lo rwa. Lo rwa la di : « Kwé, inn èspès moun na pwin ryin, na inn èspès ti kaz an tol, li na in fanm a se ki paré lé pli zoli ke lé myinn ! Non, i pé pa sa ! I fo mi vyin vwar. Bann solda, alé vwar Zan-Zak, di Zan-Zak koma, mwin na in travay pou li. Domin swar i fo li vyin. Mi invit a li po manzé po le travay, mé aminn son madam. I paré li na in zoli madam ? Mé apré ma ésplik a li lo travay. »

Zan-Zak lé son kaz. Lo bann solda i ariv, i di :

« Mésié Zan-Zak, lo rwa i apèl a ou, paské la bészwin dou pou fé in travay.

- Té, le rwa la zamé domann a mwin travay.

- Non, non, li koné ou giny byin fé in nafèr. Li la bészwin dou, mé sèlman, aswar ou vyin manzé. Mé aminn ou madam.

- Byin sir, na pwin d'problèm. »

何人かは、彼女が『カタログ・ケル』〔Le Catalogue Quelle（米国 eBay）に  
社傘下のネット販売サイト〕にあったんだと言った。何人かは、彼がインターネットで彼女を買ったと言った。何人かは彼の従姉妹だと言った。そう、みんな彼女を見た。彼の妻は美しかった！

クリケ！

クラケ！

みんな知っての通り、噂をすればするほど広まっていく。それは王様の耳にまで届いた。王様は言った：「何だと、トタン造りの家に住むような貧しい奴がわしの妻よりも美しい妻を持っているだと！ ならん、あり得ないことだ！ 自分の目で確かめなければならん。衛兵たち、ジャン＝ジャックに会ってこう伝えよ。わしは仕事で彼が入り用だ。明晩来るように。わしが仕事の件で彼を食事に招く。妻を連れて来るようにとな。彼は美しい妻を持っているのだろう？ 仕事の話はあとに回そう」。

ジャン＝ジャックは家にいた。衛兵たちがやって来て言った：

「ジャン＝ジャック殿、王様が貴殿をお呼びです。仕事をして頂くことになります。

ー はあ、王様は今まで僕に仕事を頼まれたことはないのですが。

ー いえいえ、王様は貴殿が良い仕事をされることを知っておられます。王様は貴殿を必要とされており、明晩食事に招かれておられます。奥方もお連れ下さい。

ー 勿論です、問題ありません」。

Le swar li ariv laba, li sar vwar lo rwa èk son madam. Son madam lé la, a li lé la, lo rwa lé la. Tout' la swaré, lo rwa la rèss koma. Té i bav ryink rogard lo fanm, té i di : « Té, fanm-la lé zoli ! » Zan-Zak i oz pa, i di :

« Té, mon rwa, mon bon rwa, nou la byin manzé, nou la byin bwar, é sé kwé lo travay ?

- Byin, le travay, wi, wi, le travay. Ah, sa in zoli travay sa Zan-Zak ! Le travay mi sar donn a ou pou fé, hum. Anfin d'kont, mi voudré fé inn ti kaz an tol, an bwa, dan mon kour, paské mi vwa tout' mon bann sizé bana i abit dann inn ti kaz an tol. Bin, fé a mwin in zoli ti kaz an bwa sou tol. Mé pa ninport kèl kalité d'bwa, pa bann bwa an sapin i pik la, non ! Mi vé an bwa d'fèr. »

Zan-Zak i gard a li, i di :

« Mé mon rwa, bwa d'fèr la pi sa la Rényon. Tout' bann kolonizatèr, tout' bann domoun lavé bészwin bato la pri tout' bann bwa d'fèr. I pouré trouvé ankor in pé bwa d'fèr, mé mounwar. I fodré mi sava dann la foré o mwin, sé pa kinz zour.

- Bin, zisteman. Alé a ou, pèrd pa lo tan. Alé a ou, alé rod lo bwa ! E le pri la, rod pa lo pri, ou, mi pèy.

夜になって彼は着き、妻と一緒に王様に会いに行った。彼の妻がいて、彼がいて、王様がいた。その晩中、王様はそこに留まっていた。王様は何も言わず妻を眺め、言った：「いやはや、奥方は美しい！」。ジャン＝ジャックは遠慮がちに言った：

「あの、王様、親愛なる王様、僕たちは十分に食べ、十分に飲みました。ところでどのような仕事なのでしょうか？

— そうだ、仕事、そうそう仕事だ。ああ、素敵な仕事だ、ジャン＝ジャック！ お前にしてほしい仕事というのはだな、ふむ。つまりはだ、わしの庭に木でできたトタン張りの小さな家を作ってほしいのだ。わしは臣下のすべてがトタン張りの小さな家に住めばいいと思っておる。そこでまず、わし用に木造りでトタン張りの素敵な小さな家を作ってくれ。ただ、どんな木でもいいという訳ではない。その辺のモミの木なんかではだめだ！ わしは《鉄の樹》で作ってほしい」。

ジャン＝ジャックは彼を見て言った：

「しかしながら王様、《鉄の樹》はレユニオンにはもうありません。植民者やら、船が必要な者たちすべてが《鉄の樹》を伐採し尽くしてしまいました。ひょっとしたらまだ《鉄の樹》を見つけられるかも知れません、多分。僕が森に行くまで少なくとも半月はかかるでしょう。

— そうか、そうだろう。すぐに行って時間を無駄にするな。さあ、行け、時間を無駄にするな。さあ行け、樹を探しに行け！ それから代金については案じなくてよい。私が支払う。

- Bin lé bon, si ou pèy. Nou parl zafèr, nou parl zafèr. Domin, mi sava.

- Bin, alé domin, alé a ou domin. »

E la lo rwa, koud'foud. Li té finn tomb amouré lo fanm ! I konpran pi ryin.

Trwa zèr d'matin, Zan-Zak li lèy, li di son madam do bwa, li di la mèm soz : « Hin, madam do bwa, mi ardi lo mèm soz, hin. Ou arèt atèr la. Ou bouz pa. Mi arvyin. Manzé na tout' atèr la. Mi sar fé travay lo rwa la donn a mwin, riskab ma giny inn ti moné. Bin, nou va giny aranz la kaz, on ne sé zamé, hin. »

Apré, li kri : « Mikri, Mikri, vyin a ou la. » Li di :

« Hin, ou sort pa, ou rèz la, ou vèy. Si na in zafèr pandan mon absans, ou rakont a mwin.

- Inkyèt pa Zan-Zak, konm si mi sar mantir a ou !

- Bin, lé bon ! »

La Zan-Zak i ramas tout son bann zoutiy, li sava la foré. Li la pankor ariv kwé, li la mèm pankor ariv Sin Bénwa, ou di pa lo rwa la anvoy o mwin vin solda. Sa la rant' an bourant dan la kaz, lo Mikri la pa giny fé ryin. La kapé lo fanm, parti avèk. La kap a li ! Lo syin larèt koma. Abwayé la pa giny, kouyon ! Solda lo rwa la kapay lo fanm do bwa. Kosa li sar fé ?

— それで構いません、あなたが支払われるなら。仕事についてかしこまりました。明日出立します。

— そうか、明日行け、明日お前は行くのだ」。

王様は一目ぼれした。彼はその妻に恋してしまったのだ！ 彼はもう我を忘れていた。

朝の三時にジャン＝ジャックは起きて、彼の木の妻に言った、彼は同じことを言った：「いいかい、木の奥さん、同じことを言うからね。君はここにいるんだ。動かないように。僕は帰ってくるから。食べ物はここにある。僕は王様に命じられた仕事をしに行ってくる。幾らか稼げるだろう。それで家を直せるだろうけど、どうなるかは分からない」。

それから彼は呼んだ：「ミクリ、ミクリ、こっちへ来い」。彼は言った：

「いいかい、お前も外に出ないでここにいて見張っているんだ。僕がいない時に何かあったら、僕に話すんだ。

— 心配無用だ、ジャン＝ジャック。僕が君に嘘なんかつく訳ないだろう！

— そう、その通りだ！」。

ジャン＝ジャックは道具類を集めて森に向かった。彼がそこに着かないうちに、まだサン＝ブノワにも着かないうちに、王様は少なくとも二十人の兵隊を送った。彼らは乱暴に家に押し入り、ミクリはどうすることもできなかった。彼らは妻をさらって出て行った。彼女をさらったのだ！ 犬は立ちすくんだ。吠えることさえできなかった、間抜け！ 王様の兵士は木の妻をさらった。犬はどうするのだろうか？



Li giny pa kour déryèr laba, la fini ariv laba. Kosa li sar fé ? Li réflési in kou : « Hin, ma lé vwar Zan-Zak. » E la, lo syin i sava. I kour, i kour. An mèm tan li kour la, lo syin, normalman kan li sar vwar son mèt, li abway. Bin ali la, li giny kozé, li abway pa li. Ali, wala koman li fé :

♪ Zan-Zak, Zan-Zak, Vyin a ou vitman Zan-Zak, Lo rwa la kapay out' fanm, Lo rwa la kapay out' fanm do bwa ! ♪

E la, an mèm tan li kour, li sant, an mèm tan li kour, li sant, li donn paké. Laba, le Zan-Zak li antan konm in ronfléman o lwin laba, li di :

« Kosasa, domoun, antrinn zoué roulèr ? » Mé apré, dé pliz an plis, li komans antann : « Zan... Zak... fanm... »

« Hé, la na inn nafèr lé pa bon ! » Li la fé démi tour. Li arkour. Li wa lo syin démi krévé a fors kouri. Lo syin i di : « Zan-Zak, Zan-Zak, Vyin a ou vitman Zan-Zak. Lo rwa la kapay out fanm. Lo rwa la kapay out fanm do bwa ! » Zan-Zak trapé lo syin, mèt si son kou koma, li kour, li kour, li kour, li kour. Li ariv koté sato. Li ariv koté sato, li ariv koté sato, ponlévi lévé, fénèt fèrmé partou, solda tout otour sato koma, li kri, li kri. Lo Mikri i kri osi, li kri : « Lo rwa rand' a mwinn mon fanm ! Té mon rwa, rand' a mwinn mon fanm ! » E la, i kri mèm, i kri mèm. Pandan dézèr d'tan la kriyé, le Zan-Zak konm lo syin.

犬は追いかけることもできず、ようやくそこまでやって来た。どうするのだろう？ 彼はちょっと考えた：『そうだ、ジャン＝ジャックに会わなきゃ』。そこで犬は出発した。彼は走りに走った。走ると同時に、犬は普通、飼い主に会いに行く時は吠える。しかし彼は話すことができるので吠えない。そこで彼がやったことは：

♪ ジャン＝ジャック，ジャン＝ジャック，早く来いジャン＝ジャック，王様，君の嫁さん連れてった，王様，君の木造り嫁さん連れてった！ ♪

そして彼は走りながら歌った。走りながらたくさん歌った。ジャン＝ジャックはうなりのような音を遠くに聞いて思った：「何だありゃ，誰かがルーレ<sup>馬乗りになって</sup>でも叩いているのかな？」。しかし徐々に聞こえてきた：「ジャン... ジャック... 嫁さん...」。

「え，これは何かまずいことが起こったんだ！」。彼はUターンした。彼は走り出した。彼は走り過ぎて半死状態の犬に出逢った。犬は彼に言った：「ジャン＝ジャック，ジャン＝ジャック，早く来いジャン＝ジャック。王様が君の奥さんをさらった。王様が君の木造りの奥さんをさらっていった！」。ジャン＝ジャックは犬を掴んで首に担いで，走って走って走って走った。彼は城に着いた。彼は城までたどり着いた。彼は城にようやく着いたが，跳ね橋は吊り上げられ，窓はすべて閉められ，衛兵たちが城の四方を固めており，彼は叫んだ，彼は叫んだ。ミクリも一緒に叫んだ，叫んだ：「王様，僕の妻を返して下さい！ 王様，僕の妻を返して下さい！」。彼はずっと叫んだ，彼は叫び続けた。二時間の間，ジャン＝ジャックは犬のように叫んだ。

Kan la ariv in lèr, Zan-Zak la agard Mikri, Mikri la agard Zan-Zak, la di :  
« Té, ma la oubli in nafèr-la. A mwin lé in moun konm dé ninport kisa,  
ziska domin mi pé krié tèr la. Lo rwa si li vé pa fé ryin, li f'ra pa ! »

Alor, li rant son kaz, li lé dépitè. La di : « Bon, lé pa tou sa. Mé domin  
matin, ma lé vwar lo rwa kan mèm, paské ma la fé in komèrs èk li.  
Travay sé travay, biznès sé biznès. Portfèy la pa fé lo kèr, mé na inn gran  
diférans ant' portfèy é lo kèr. » Li sar vwar lo rwa, li di :

« Mon rwa, mon bon rwa, ma lav'ni vwar a ou pou mon travay-la.

- Kèl travay ?

- Ou la pa komand travay èk mwin ? Ou la pa di a mwin fé in kaz.

- Bin, wi ! »

E la, li kasyèt lo fanm, li la pèr la :

« Bin, lé bon !

- Ma lav'ni fé lo kaz, lo bwa, tout' lé la. Kan lo kaz s'ra finn fé, ou pèy a  
mwin. »

Zan-Zak, pandan in somèn la travay dan sato la. La fé in kaz an bwa  
sou tol. Lé pli zoli kaz ké té pé ékzisté si la tèr. Lo rwa kan la vi sa, la di :

« Té Zan-Zak, ou lé for vrèman ! Té, sa in zoli kaz ! »

彼らが息を切らした時、ジャン＝ジャックがミクリを見ると、ミクリもジャン＝ジャックを見たので彼は言った：「なあ、僕はあることを忘れていた。他ならぬ僕自身は明日までここで叫んでいられる。ところが王様の方で何もしたくなければ、何もしないだろう！」。

そこで彼は家に戻ったが、彼は落胆した。ジャン＝ジャックは思った：『よし、このままにはさせないぞ。いずれにしても僕は明日王様に会いに行く。彼と取引をしたのだから。仕事は仕事、商売は商売だ。財布で心は動かないし、財布と心はまったくの別物だ』。彼は王様に会いに行き、言った：

「王様、親愛なる王様、例の仕事のことでお目にかかりに参りました。

－ 何の仕事のことだ？

－ あなたは僕に仕事を命じられましたね？ 僕に家を建てるようにと言われました。

－ ああ、そうだった！」。

そこで王様は妻を隠した、怖かったのだ：

「そうか、それは宜しい！

－ 僕は家を造りに来ました。樹など必要なものはすべてあります。家が出来上がればお支払いをお願いします」。

ジャン＝ジャックは一週間の間、城で働いた。彼は木造りでトタン張りの家を作った。それはかつてこの世に存在し得た最も美しい家だった。王様はその家を見て言った：「おお、ジャン＝ジャック。お前は本当にすごい！ これは何と美しい家だろう！」。

Zan-Zak la rogard a li, la di :

« Parkont' mon rwa, la kaz la, fo béni. A mwin dann mon koutim danntan lontan, i pran inn ti pé lo rom i vèrs, é pi i fé inn ti manzé. Aswar, fé in manzé, aminn out' fanm osi. Ma vwar sé ki la rèn. A se ki paré, la rèn lé zoli ?

- Bin... wi, ma aminn la rèn alor. Bin lé bon. »

I ariv lo swar, i mèt a manzé tèr la, i fé tout. La finn bénir lo ti kaz. Le ti kaz lé zoli, zoli. Lo fanm lé la, lo fanm do bwa, lo rwa lé la, é Zan-Zak lé la. E la i koz, i koz. Apré i di : « Bon, déza, pèy a mwin déza sèk ou dwa mwin. Dézolé, ma finn fé mon travay. » Zan-Zak i pran son larzan. Apré i di : « Paské mwin in nafèr lé pa mwin, mi lès pa tréné, la pwin zoutiy la pwin ryin. » Apré li ogard lo fanm, li di : « Bin, madam, ma rèn, ou lé zoli vréman ma rèn ! Ah, ou sé inn bèl fanm ou, hin ! Mé mi trouv, néna inn nafèr mi konpran pa. Bin, sé kwé sa ? » E la li ariv koma, li atrap lo poutou koma, é li aras lo poutou ! Kan li aras lo poutou, lo pwinson i sort'. Kan le pwinson i sort', li di koma : « Bin, sa mon pwint sa ! » E la lo fanm i arvyin an bwa toutswit ! E la li sava.

Kriké !

Kraké !

ジャン＝ジャックは王様を見て言った：

「ところで王様、この家を祝別しなくてはなりません。僕たちの昔からの習わしでは、ラム酒を少し振り注ぎ、その後で食事をします。今晚食事をしますので、奥方もお連れ下さい。僕も王妃様に拝謁が叶います。大層お美しいとのことですが。

－ それは... よかろう、王妃も連れてこよう。そうしよう」。

夜になって彼らはそこで食事を始め、すべてが執り行われた。小さな家は祝別された。その小さな家はとてもとても美しかった。妻はそこにいた、それは木製の妻で、王様がいて、ジャン＝ジャックもいた。彼らはおしゃべりをした。その後でジャン＝ジャックが言った：「それでは、これにて、僕に払うべきものをお支払い下さい。おそれながら僕の仕事を終えましたので」。ジャン＝ジャックは金を受け取った。そして彼は言った：「僕には、連れていかれて僕のもでなくなったものがありますが、道具はそうではありません」。それから彼は妻を見て言った：「あの奥様、王妃様、あなたは本当にお美しい、王妃様！ ああ、あなたはとてもお美しい女性ですね！　ところで見つけたのですが、僕には分からないものがあります。それは何ですか？」。そして彼は彼女に近づいてビンディーを掴み、ビンディーを剥がした！　彼がビンディーを取った時、釘が飛び出てきた。釘が出てきた時、彼はこう言った：「おや、それは僕の釘ですね！」。そして妻はたちまち木像に戻った！　そして彼は立ち去った。

クリケ！

クラケ！

Té, lo zistwar la, la di a ou, dann in péi, lwin laba, nana in rwa dann in sato. Dann in sato na inn ti kaz an bwa sou tol. Dann lo ti kaz an bwa sou tol, na in fanm do bwa, le pli zoli fanm do bwa ké i pé ékisté. Tou lé matin, lo rwa-la i lèw, i bros pa lo dan, i fé pa ryin. Li pran inn ti ban, li asiz, li rogard sa konmsa, li bav. E le swar, li arsa dormi, li fé sa toultan. Lo pov rwa lav'ni fou.

Kriké !

Kraké !

そう、この話は、言っておくと、ここから遠いある国のことで、そこには城にいる王様が登場する。城の中には木造りでトタン張りの小さな家がある。木造りでトタン張りのその小さな家の中には木造りの女性があり、彼女はかつて存在した中で最も美しい木像の女性だ。毎朝、その王様は起きると、歯も磨かず何もしない。彼は小さな腰かけを引き寄せ、そこに坐り、その像を眺めて、話しかける。そして夜になると床に入るということをずっと続けている。哀れな王様は気がふれていた。

クリケ！

クラケ！



## 22. Ti Frèd èk ti lapin

Bruno BANO

Kan mi di : Kraké !

Kriké !

Kan mi di : Kriké !

Kraké !

Kan mi di : Zambos ! , zot i di : Zambalak !

Mi di : Zambos !

Zambalak !

Zambos !

Zambalak !

Mé eské dé trwa i koné Zambos tèr-la ? Zambos... Inn ti kour distwar kilinèr, mèm pa kilinèr mé fritié. Zambos i rosanm in zambalak, mé lo gou lé ankor di fwa méyèr kin zambalak. Sa i fo i alé mars dan lès, Sin Bénwa, Sintandré, dan tou se kwin ousa na la pli i tomb bon pé. La ou trouv zambos bon pé koté la rivyèr. Oté kosa bann gramoun-la la plant sa. Anfin d'kont i sort an Sinn. La byin di, sa i sort an Sinn sa. Mé zambalak ou sa i sort ? I sort' laba mèm, ou konpran ?

## 22. チフレッドと子ウサギ

ブリュノ・バノ

僕がクラケ！と言ったら

クリケ！

僕がクリケ！と言ったら

クラケ！

僕がジャンボス！〔東南アジア原産のフトモモ科常緑高木の果実。和名ローズアップル。Syzgium jambos〕と言ったら、みんな

はジャンマラック！〔マレー半島原産のジャワフトモモの果実。Syzgium samarangense〕と言って。

ジャンボス！と言うよ。

ジャンマラック！

ジャンボス！

ジャンマラック！

ところで、このジャンボスを知っている人は何人ぐらいいるかな？ ジャンボス... ここでちょっと料理史、料理じゃなくて果実のお勉強だ。ジャンボスというのはジャンマラックの仲間だけど、その味はジャンマラックより十倍もいい。見つけるには東の方、サン＝ブノワやサン＝タン Dre など、雨が多く降るところまで歩かなきゃだめだ。そこで川の近くでジャンボスがたくさん見つかる。そこに昔の人たちが植えたんだ。結局は中国から来ている〔中国名：蒲桃 (pútáo)〕。そこから来たと言われている、中国からね。ところでジャンマラックの方はどこから来たか？ 同じところから来た、わかるかい？

Sinwa kan la sort laba, Lind kan la sort laba..., Malgas, pétèt pa tro, mé malgas laminn ti pé zafèr osi. Malgas la anminn plito tizann. Mé Sinwa, Lind la aminn légim, la aminn zépis, la aminn lètsi, la aminn frwi, la aminn tousa.

Mé inn ti zistwar mi di a zot konmsa. Dann tan avan, kan nout bann paran té fé marmay, té difisil. Té difisil pou zot pou donn manzé, té difisil po tousa. Lavé manzé, lavé soso maiy. Mé lé pa asé pou ti marmay. Fo na'd lé, fo na ti zafèr.

Lo bann ma tant, lo bann granmèr, lo bann famiy otour té di : « Lès ma prann out marmay. Li va kri a mwin momon. Mé ou s'ra momon osi paské sé ou la donn la vie, mé sé mwin la fé grandir. »

Ti zistwar-la i port si in marmay i apèl Ti Frèd. Mi koné pa si zot i koné Ti Frèd. Partou na Ti Frèd. Mé Ti Frèd-la kan li lé né, son momon èk son papa lavé pwin pou donn manzé. Lavé pwin pou donn dé lé paské son momon i kalkil lavé d'lé pou donn tété. Alé vwar, alé vwar, dann tété la té sèk. Lavé pwin ryin. Sak fwé kan Ti Frèd té i tir la d'si, lo momon té i kri : « Aïe ! » Té fé mal. Mèm pa in pé do sik, dolo d'sik po li bwar, pou li giny in pé la grosèr.

中国人はそこを出る時に、インド人はそこを出る時に... マダガスカル人は、そうは多くはないけれどマダガスカル人も同じくものを持ち込んだ。マダガスカル人は特に薬草を持ち込んだ。中国人やインド人は国を離れる時に、野菜や香辛料やライチ、果実などあらゆるものを持ってきた。

これから話す物語はこんな話だ。昔、僕たちの親が子どもを育てていた頃、みんな苦しかった。食べ物を与えるということがみんなにとって難しかった。食べるものはあったがそれはトウモロコシ粉のおかゆだった。でもそれは子供たちには食べにくいし、ミルクとかそういうものが必要だった。

そこで、伯母や祖母など周囲の家族がこう言ったものだ：「あんたの子供を面倒みるよ。その子は私のことをママと呼ぶだろうね。でもお前もママだ。何と言ってもお前がその子を産んだのだから。育てるのは私だけだね」。

この物語はチフレッド<sup>【小さなフレッドの意】</sup>という子供の話だ。みんながチフレッドのことを知ってるかどうか僕は知らない。あちこちにチフレッドはいた。チフレッドが生まれた時、彼のママとパパには与える食べ物がなかった。ミルクさえなかった。というのも彼のママはお乳が出ると思っていたからだ。そのうちにおっぱいもしなびてきた。何も出なかった。チフレッドがおっぱいを引っ張るたびにママは叫んだ：「痛い！」。それは痛かった。砂糖もないので、彼に砂糖水を飲ませることもできず、彼を大きくさせることができなかった。

E la, toudinkou, in madam larivé, sé son ma tant, la di : « Bin, mi vwa ké zot i giny pa prann Ti Frèd. Lès ma trap a li. Ma bèrs a li, ma pran a li konm in momon. Mé li oblira pa son momon èk son papa. » E la Ti Frèd i travèrs, i sa va. I sort Sin Pyèr pou alé Sin Bénwa. Lé lwin. Danntan, té i pran lo bis Balaya. Té di koma : « Kar mèm kouran dèr ! »

Bana la mars a pié, dépi Sin Pyèr ziska Sin Bénwa. Somin lé long, té long, té long, té long, té tèlman long... Mé érèzman zot lavé inn ti moné dann zot pos. Té arèt touzour inn ti plas Tanpon kattorzièm, disétièm, Plèn dé Kaf, po rod inn nafèr po manzé. Inn ti mok guigoz dé lé pou donn Ti Frèd.

I ariv Sin Bénwa, Ti Frèd i grandi avèk Momon Lwiz. Ti madam la té apèl Lwiz é son mari té i apèl Milyin. Donk Lwiz, Ti Frèd té i apèl a li momon. Mé Milyin té apèl pa papa, té apèl a li tonton. Mé érèzman Ti Frèd la giny son ma tant' Momon Lwiz èk Tonton Milyin. Ti Frèd i grandi.

Inn an, i komans marsé. Danntan, lavé pwin d'lo. Té i ariv pa dann robiné, dolo falé trap kanal. Tonton Milyin, mèm si li lavé in an, té mèt a li si son zépol, té di : « Alon mon Ti Kok ! Ti Frèd, alon, mi aminn a ou ! »

そのうちにひとりの女性がやって来る。それは彼女の伯母で彼女に言った：「あのね、お前たちにはチフレッドの世話ができないことは分かっているの。私があの子を引き取るわ。私が世話をして母親代わりに面倒を見るわ。でもあの子はパパとママを忘れないから」。こうしてチフレッドは旅に出ることになる。彼はサン＝ピエール<sup>〔南部の町〕</sup>を出てサン＝ブノワ<sup>〔東部の町〕</sup>に向かう。それは遠かった<sup>〔距離は約75キロ〕</sup>。昔はバラヤ社<sup>〔サン＝ピエールに拠点を置く交通会社〕</sup>のバスに乗ったものだ。こう言われていた：「バスは空を飛んでいるようだ！」。

彼らは歩いた、サン＝ピエールからサン＝ブノワまで。道のりは長く、長く、長く、長く、途方もなく長かった...ところが幸いにも彼らのポケットには幾ばくかの金があった。それで、タンポン、十四区、十七区、プレンス・デ・カフルなどでひと休みしては、何か食べるものを探した。チフレッドに与える缶ミルクがあった。

彼らはサン＝ブノワに着き、チフレッドはルイズかあさんのもとで大きくなった。その婦人はルイズという名前であつた。夫はミリアンだった。だからルイズのことをチフレッドはママと呼んだ。しかしミリアンの方はパパとは呼ばずおじさんと呼んだ。とにかくチフレッドは幸運にも伯母であるルイズかあさんとミリアンおじさんを得たのだ。チフレッドは大きくなった。

一歳で彼は歩き始めた。その頃は水がなかった。蛇口まで届いておらず、用水路まで水を汲みに行く必要があった。ミリアンおじさんはチフレッドがまだ一歳だったが、彼を肩に載せて言った：「さあ行こう、ひょっ子！ チフレッド、行こう、お前を連れて行くぞ！」。

Kanal té pa tro lwin. Kanal dolo té prop. Doumoun té pis pa d'dan, té kaka pa d'dan. Té prop mèm. Lavé limon wi, mé sa lé normal, paské lo ros i roul i pran pa d'limon. Mé sèd'la lo ros lé bloké, limon i mont dési. Té i giny bwar. Lavé pwin tout zafèr bann plantèr i mèt dan la tèr i gliss dann lo.

Ti Frèd i grandi, dé zan, trwa zan, katran sinkan. Mé la Ti Frèd, komans vol, vol inn ti pé. Momon Lwiz èk Milyin té abit koté in ravinn, koté in gro basin blé. Ou koné tout basin i sar la mèr. Mé basin blé-la té zist koté la mèr. Donk dolo la mèr té i rant té sort, té i rant, té i sort.

Ti Frèd i grandi mèm. Ti Frèd onzan, douzan. Konm Milyin té i ème byin zanimò, kok, kanar, poul, kabri... Tousa lavé dan son park. Lavé gran kour danntan. La kour té i mank pa ! Kwé ? Pié d'bwa té mank pa ! Kan mi di : Konbava ! , zot i di : Sitron galé !

Konbava !

Sitron galé !

Kriké !

Kraké !

用水路はそれほど遠くなかった。用水路の水はきれいだった。みんなはそこに小便をしなかったし、大便もしなかった。とてもきれいだった。そこには水藻が生えていたが当然だった。石がころがって水藻を削ることがなかったからだ。それどころか石がせき止められて、水藻がその上に生えていたのだ。それは飲むことさえできた。水に浸っている場所に何かを植える農民はまったくいなかった。

チフレッドは大きくなって、二、三、四、五歳と歳を重ねていった。チフレッドはちょっとだけだが、飛び跳ねるようになった。ルイズかあさんとミリアンは峡谷の近くの大きな青い池の脇に住んでいた。みんな知っての通り、すべての池の水は海に流れ込んでいるよね。でもこの青い池は海のすぐ横にあった。だから海水が出入りしていた。

チフレッドはさらに大きくなった。チフレッドは十一、十二歳になった。ミリアンは動物が大好きだった。雄鶏、カモ、雌鶏、子ヤギなどなど。彼の庭にはそれらがいた。その頃は大きな庭があった。庭には何でもあった！ 何が？ 樹もたくさん生えていた。

僕がコンババ！<sup>【東南アジア原産の柑橘類。和名こぶみかん。Citrus hystrix】</sup>と言ったら、みんなはシトロン・ガレ！<sup>【熱帯原産の低木果樹。キーライム。Citrus aurantifolia】</sup>と言って。

コンババ！

シトロン・ガレ！

クリケ！

クラケ！



Douzan Ti Frèd lavé. Milyin la fé plézir a li. La bouz vwar son dalon :

« Mi rod inn nafèr po ou po out lanivèrsèr ! » La, Ti Frèd té kontan, wi !

« Tonton Milyin i sa rod' in kado pou mwin ! » Hum ! La pa pli kontan ké li. Li vol anlèr. Mé Ti Frèd sa té in moun té malin sa ! Tout pié d'bwa té mont dési. Té i mont dési pou dir a ou, pa pou ogard domoun. Té i mont dési po vwar kisa té i mont pli o po li gard pli lwin. Po li vwar kisa i ariv. Kisa i sava dann santié-la.

Ti Frèd té i mont' anlèr-la li, té mont' an pli o. La li té kontan, ou koné poukwé. Li vèy Tonton Milyin èk kwé i ariv. Mé Tonton Milyin i ariv èk inn nafèr dann la min, konm inn ti park. Ti Frèd i di : « Té, kosa Tonton la aminn po mwin ? In martin pétèt ? Inn ti bèk roz ? In kardinal ? Kwé ? La pa aminn in koulèv. Momon kok a li. Koman ? Momon la pèr koulèv. Kwé i sar aminn pou mwin ? »

Ti Frèd désann vit dann pié d'bwa-la. A li promié po asiz dovan la port. Li atann Tonton Milyin arivé. Mé Tonton Milyin lé malin ! Sé poussa Ti Frèd lé malin. Kan ou na in moun lé malin, ou lé oblizé dév'ni malin. Ou koné, sa out mirwar sa. Ou gard' a ou dann lo, ou vwa ou. Parèy !

チフレッドは十二歳になった。ミリアンは彼を喜ばそうとした。彼は親友であるチフレッドに会った：「私はお前の誕生日に何か探してあげるからね」。それでチフレッドは勿論喜んだ：「ミリアンおじさんが僕のためにプレゼントを見つけてくれるんだ！」。そう！ 彼にはそれ以上に嬉しいことはなかった。彼は飛び上がった。ただ、チフレッドは抜け目がなかった！ 彼は庭のあらゆる樹に登っていた。彼が何故上に登ったかと言うと、それは人々を眺めるためではなかった。彼が上の方に登ったのは、誰が彼よりも高く登っているかを、遠くから見るためだった。また、誰がやって来るのかを見るためだった。誰がその小道に来るかを。

チフレッドは上に登り、一番高いところまで登った。彼は嬉しかったが、その理由はみんな知っての通りだ。彼はミリアンおじさんが何を持ってやって来るかを見張っていたのだ。ミリアンおじさんは手に何か、籠のようなものを持ってやって来た。チフレッドは思った：『おじさんが僕に持ってきたのは何だろう？ 多分ムクドリ<sup>[スズメ目ムクドリ科。Sturnus cineraceus]</sup>かな？ 小さなコウヨウチョウ？<sup>[スズメ目ハタオリドリ科。Quelea quelea]</sup> コウカンチョウ？<sup>[スズメ目ホオジロ科。Paroaria coronata]</sup> 何だろ？ ヘビは持ってこないだろうな。ママが叩くから。どうしてかって？ ママはヘビが怖いんだ。僕に何を連れてきたのだろう？』。

チフレッドは樹から大急ぎで降りた。彼は最初、門の前で座った。彼はミリアンおじさんが来るのを待った。しかしミリアンおじさんは抜け目がなかった！ だからチフレッドも抜け目がなかった。みんなが抜け目のない人と一緒にいたら、みんなも当然抜け目がなくなる。知っての通り、それは鏡のようなものだ。水の中を覗き込むと自分が見える。これと同じだ！

Tonton Milyin i kalkil. Li koné ké Ti Frèd i atann a li. Tonton Milyin la bèz : « Klik dann santié ! » Pass dann ti rwise d'lo, mont lot koté. Mèm si té i gliss in pé, pa grav. Larivé, la pass par déryèr la kaz, larivé. Mi di a zot kwé i lé toutswit. Sinon nora pi d'sirpri.

La, Ti Frèd i atann mèm. E la, Tonton Milyin i kri :

« Ti Frèd !

- Bin, mi vèy a li dovan laba, li la fini ariv tèr-la ! »

Li asar déryèr, li vwa Tonton :

« Tonton, kwa la fé ?

- Vyin ma donn a ou out kado. »

Dan le ti park, la donn a li inn ti lièv mé coupé an dé. Lé pa coupé an dé, hin. Pa le kor coupé an dé. Anfin d'kont, lé krwasé. Mi apèl sa koupé an dé, fo di a zot toutswit paské zot i kalkil lé mor. Non ! Lé coupé an dé po mwin. Anfin d'kont' lé krwasé. In batar lièv, vwala. Anfin d'kont li la parti vwar son vié frèr. La fé krwaz lièv sovaz avèk lapin normal. Donk la donn a li in lapin-lièv. Li na in gro kor, mé li na in ti tèt. Ou wa bann ti pat lièv konm i lé la ? Li na in tèt lièv, mé lo kor, sé in lapin.

ミリアンおじさんは考えた。彼はチフレッドが自分を待っていることを知っていた。ミリアンおじさんは思案した：「小道だと音がする！」。彼は小川を渡り、反対側に登った。ちょっと滑ったが問題なかった。彼は着いた、家の裏を通してやって来た。それを先にみんなに言うておく。そうしないと驚いてしまうからね。

チフレッドは相変わらず待っていた。すると、ミリアンおじさんが呼んだ：

「チフレッド！

ー えっ、あっちの前で待っていたのに、こっちに来たん  
だ！」。

彼は裏に回っておじさんを見つけた：

「おじさん、何をしてるの？

ー こっちへおいで。お前にプレゼントをあげよう」。

小さな籠の中に入れて、彼があげたのは二つに分かれた子ウサギだった。二つに斬られたという訳じゃないんだ。身体が二つに斬られているのじゃない。つまり、雑種ということだ。二つに斬られたと言ったけど、そう言ったらみんなは死んでいると思うからね。違う！ 二つになんか斬られていない。要するにそれは雑種のことだ。雑種の子ウサギだった。つまり、おじさんは歳取った兄に会いに行ってきたんだ。その兄は野生の野ウサギを普通の飼いウサギと掛け合わせていた。それでおじさんに飼いウサギと野ウサギの合いの子をあげたということだ。それは身体は小さくなく、小さな頭を持っていた。みんなはこういう脚の小さな野ウサギを見たことがあるだろう？ そいつらは頭は野ウサギなんだけど、身体は飼いウサギなんだ。

Konm Ti Frèd, li lavé la min po zanimò. Ou koné kan ou na la min pou zanimò, fé sèt ou vé ou. Zwazo a ou, pizon a ou, kok, poul, tout zafèr li giny fé manz dann son min. Le tonton li mèm, li té i koné mèm pi kosa fo fé avèk marmay la. I di : « Bin marmay-la, lé tro danzéré po mwin ! Ti Frèd fé atansyon, sa, lé frazil. Fo pa donn ninport kwé po manzé. Fo pa aminn ninport ou. Fo pa aminn sa la rivyèr paské anfin d'kont'na le syin éran isi. » Pa ké le syin éran ! Na osi lo syin dé pat.

Ti Frèd té aminn ti lapin-lièv-la partou, partou, partou... E la, di zour o landmin, lapin-lièv la i bouz pi ! I rèss konmsa. Ti Frèd pléré ! Pléré :

« Oin oin..... ! Oin oin..... !

- Poukwé ou ou plèr mon zanfan ?

- Tonton, mon lapin i bouz pi. »

Lo ti kèr i balot konmsa.

« Kosa ou la donn a li po manzé ?

- Ma la aminn a li zist anlèr-la. Lavé in zèrb lavé pikan dési. Lavé bon pé zépinn, bon pé d'pwal. Li la manz sa.

- Aïe, aïe, aïe ! Zèrb pikan. Ou la donn a li sa ! Sa lé pa bon. Aïe, aïe, aïe ! An mèm tan, li la armanz fèy pwavrié. Lé pa bon osi, ou konpran, lé pa bon. Kan lé dé lé avèk la, sa i vyin inn èspès pwason. »

チフレッドは動物を手なずけていた。みんな知ってるように、動物を手なずけているとやりたいことができる。鳥なら、ハトでも雄鶏でも雌鶏でもみんな手ずから餌を食べる。おじさん自身も、子供に対してどうさせるかをよく知っていた。彼は言った：「いいかい、坊主、ちょっとでも危ない目に遭わすんじゃないぞ！ チフレッド、気をつけるんだ、そいつはか弱い。何でも食べさせていい訳じゃない。どこに連れていっていい訳でもない。川に連れていってはだめだ。野良犬がいるからな」。野良犬だけじゃない！ 二本足の犬[人間のこ]もいるしね。

チフレッドはその合いの子の子ウサギをあちらこちらに連れていった... そして、十日後に合いの子のウサギは動かなくなった！ こんな風にぐったりしていた。チフレッドは泣いた！ 泣いた：

「ウアン、ウアン...！ ウアン、ウアン...！

－ 何を泣いているんだ、坊主？

－ おじさん、僕のウサギが動かなくなった」。

彼の小さな心は張り裂けんばかりだった。

「何を食べさせたんだ？

－ 僕はただ、あその高地に連れていったんだ。そこにトゲのある草があった。トゲと毛がたくさんあった。それを食べたんだ。

－ やれやれ、トゲのある草か。お前はそれをやったのか！ それはだめだ。やれやれ！ それにコショウの葉も食べたろう。それもよくない、分かるか、よくなかったんだ。その二つを一緒に食べると、それは毒の一種になる」。

Ou koné, ma èsplik a ou, na inn zistwar... Mi artir mon zistwar. Danntan avan, kan nou sar rod zangiy, kabo, la rivyèr, nou té i pran fèy pwavrié, té i pran soka. Nou té i kraz sa, nou té i mèt dann ti rigol. Tousa té i vyin vèr le ti rigol-la. Nou té mèt le ti lamba. Tout, zangiy, tout zafèr tout i sort, i rant anndan-la. Mi arovyin èk mon zistwar.

Kriké !

Kraké !

Zanbos !

Zanmalak !

E la Ti Frèd, pléré mèm, pléré mèm. Momon Lwiz i di : « Afol pa mon kok. Na rod in solisyon. Na rod in solisyon. I fo nou sar vwar Gramoun Ango, a li va di a ou tout'. Mé ali alé vwar tousèl paské nout' dé la batay dèrnyèrman a mwin èk Tonton. A ou i sar vwar li tousèl. » Ti Frèd lavé pèr : « I fo mi sar vwar Gramoun Ango mwin kan mèm, pou sov mon ti lapin-lièv. Mi ème a li tro. Li té dor avèk, té dor avèk, té i kajol, té fé tout ansanm. Li pé pa larg a mwin ! »

Zanimò èk marmay la ! Aïe, aïe, aïe ! Domoun èk domoun, aïe, aïe, aïe ! Mé zanimò avèk zanfan, aïe aïe aïe ! Lé danzéré osi. Donk li la pran son dé min konmsa, mèt son lèstoma anlèr koma, li la di : « Ma la pa pèr mi sar vwar Gramoun Ango. Ma la pa pèr mi sar vwar Gramoun Ango. Ma la pa pèr mi sar vwar Gramoun Ango. Ma la pa pèr. »

さて、ここでちょっとした話をしよう... 物語から離れるけれどね。昔、丸口のウナギや魚を釣りに行った時、コショウの葉とリュウゼツランを採る。それを一緒にすりつぶして川の狭いところに垂らす。すると、その狭いところに沢山やって来る。そこに薄い布を置く。するとウナギやら魚全部が飛び出てそこに入るんだ。物語に戻ろうか。

クリケ！

クラケ！

ジャンボス！

ジャン馬拉ック！

チフレッドは相変わらず泣きじゃくっていた。ルイズかあさんが言った：「心配しないで坊や。何とかなるから。何とかなるから。アングじいさんに会いに行かないと、彼のところに行って全部話しなさい。でもひとりで行きなさい。私とおじさんは最近もめ事があったから。ひとりで会いに行きなさい」。チフレッドは怖かった：「それでもアングじいさんに会いに行かなきゃ、僕の合いの子の子ウサギを救うには。僕はあいつをととても愛している。あいつと一緒に寝ているし、一緒に遊んでいるし、何をするにも一緒だ。あいつと別れるなんてできない！」。

動物たちと子供！ いやはや！ 人と人、いやはや！ それにしても動物と子供、いやはや！ それもまた恐るべきものだ。そこで彼は両手をこんな風にお腹の上に置いて言った：「僕は怖くないからアングじいさんに会いに行くぞ。僕は怖くないからアングじいさんに会いに行くぞ。僕は怖くないからアングじいさんに会いに行くぞ。怖くなんかないぞ」。



Gramoun Ango i vèy li :

« Kwé ou la pèr la ?

- Ah non ! Tonton Milyin la di a mwin vyin vwar a ou.

- Kit' son momon Milyin-la, li la vol a mwin mon mayi !

- Non, Tonton Milyin la di èskiz a li.

- Ah bon ! Ma krwaz a li pli d'van. Vyin a ou, rant a ou. Esplik a mwin kosa la ariv a ou.

- Wi. Ma la parti anminn mon ti lapin, lapin-lièv, manz dé trwa ti zèrb. Mé anfin d'kont li la manz dé zèrb té pa bon.

- Ah, dakor ! »

La li asiz. Gramoun Ango i pran dé trwa zo i larg a tèr : « Galang galang galang galang ! Galang galang galang galang ! Si parl pa la lang, nou va trouv la lang. Kisa lé mor ? Kisa va mor ? Mé i fo mi fé viv a li ! Galang galang ! »

Ti Frèd i di :

« Ah ! Té, ousa ma la parti mwin la ? Ousa mi lé ?

- Inkyèt pa mon zanfan. Ma la trouv out rémèd. Ma rakont a ou inn nafèr. Ekout byin sèt mi sar di a ou. Pou sov out ti lapin-lièv, fo ousa va dann in basin dolo le sèl zour li lé blé. Ousa va le sèl zour li lé blé ! Pourtan néna in bon pé basin blé. Mé se basin-la, in sèl zour li lé blé, ou sar vwar a li la. La ou atann. E ou atann paski fo ou na trwa rèspé, trwa rèspé dann basin blé-la. Si ou la pa giny fé trwa rèspé la, ou lé oblizé rantré la nwit pou rov'ni landmin. »

アンゴじいさんは彼を待っていた：

「どうしてお前は怖いんだ？

－ ああ、違います！ ミリアンおじさんが僕にあなたに会いに行けと言いました。

－ 放っておいてくれ、あのくそミリアンなんか、あいつはわしのトウモロコシを盗みやがったんだ！

－ でも、ミリアンおじさんは謝ってました。

－ そうかい！ あとであいつに会うことにしよう。お前はこっちに来て入れ。何があったのかわしに説明してみろ。

－ はい。僕は小さな合いの子のウサギと一緒に出かけたんですが草を幾つか食べたんです。でもその子はよくない草を食べました。

－ ああ、分かった！」。

彼は座った。アンゴじいさんは骨を数本取って地面に放り投げた：「ガラン、ガラン、ガラン、ガラン。ガラン、ガラン、ガラン、ガラン！ 言葉を話さないなら言葉を見つめよう。誰が死んだのか？ 誰が死のうとしているのか？ そいつを生かさねばならん！ ガラン、ガラン！」。

チフレッドは言った：

「ああ！ 一体僕はどこに来たのだろうか？ 僕はどこにいるんだろう？

－ 心配するな、坊主。わしはお前に薬を見つけてやる。これからあることを言う。今からお前に言うことをよく聞け。お前の合いの子の子ウサギを救うには、一日だけ水が青になる池まで行かねばならん。たった一日だけ青になるんだ！ 青い池はたくさんある。しかしその池は一日だけ青になり、お前はそこに行くのだ。そこでお前は待て。待たねばならないのは、お前が三つの守り事を解き明かす必要があるからだ、その池にまつわる三つの守り事だ。もしお前が三つの守り事を解き明かせなければ夜に帰り、翌日にまた戻るのだ」。

Ti Frèd kontan, i di :

« Mésié Ango, mèrsi. Mwin la pa ryin pou donn a ou.

- La kaz Ti Milyin na zanbos, zanmalak. Mi vé zanbos, zanmalak. Hin, mi ème sa osi. Kan ou la finn giny sov out lapin-lièv, la, ou vyin vwar a mwin. »

Ti Frèd kontan. Ou koné kan ti marmay lé kontan, kwé. I tourn konmsa. Li arvyin déryèr konmsa. Marmay lé kontan. Li rakont sa Tonton Milyin. Tonton Milyin i di : « Bin vwala ! Mi lès a ou rod out basin. »

Li koné ousa na in basin. Mé sèlman promié zour li sa va, li gard dolo-la, dolo-la vèr. Li konpran pa. Dann fé nwar koman i vwa dolo lé blé ? Li la rant son kaz, li èsplik sa son tonton :

« Tonton ma la parti basin. Basin pa blé in mèrd. Basin lé vèr, basin lé nwar, lé nwar konm le syèl kan i fé nwar.

- Ah bon. »

Tonton Milyin na inn ti zafèr ankò :

« Atann, atann la nouvèl linn monté apré ou va lé vwar.

- Bin, ma atann la linn-la monté, monté ! »

チフレッドは喜んで言った：

「アンゴさん有難うございます。でも僕にはあなたに差し上げるものがありません。

－ ミリアンの家にはジャンボスとジャンマラックがある。わしはジャンボスとジャンマラックがほしい。あのな、それはわしの好物なんじゃ。お前が合いの子の子ウサギを救えたら、わしに会いに来い」。

チフレッドは嬉しかった。子供が嬉しい時にどうするかみんな知っているだろう？ 彼はこんな風にひと回りした。彼はこんな風に後ろに後ずさった。子供は嬉しかった。彼はそのことをミリアンおじさんに話した。ミリアンおじさんは言った：「そうだったのか！ その池を探しに行ってい」。

彼は池がどこにあるのかを知っていた。しかし、最初の日に彼が行ってそこの水を眺めてみると水は緑色だった。彼は訳が分からなかった。夜になったら彼はどうやって水が青いことを見分けるのだろうか？ 彼は家に帰っておじさんに説明した：

「おじさん、僕は池まで行った。池は青じゃなかった、くそっ。池は緑だったり黒だったりした。夜になった時の空みたいな黒だった。

－ ああ、そうか」。

ミリアンおじさんにはもうひとつ言うことがあった：

「待て待て、新月が昇ってから見に行くんだ。

－ 分かった、その月が昇るのを待つよ」。

Promié kou, li vwa an krwasan. Apré toudinkou, i grosi, i grosi, i grosi.  
E la Tonton Milyin la di : « Alé, vwar si lé pa blé ! » La, an romontan, li sa va, li sa va, li sa va. Kan li sa va, dann koko-la, li ékout Gramoun Ango.  
Li di : « Té, i fo mwin na trwa rèspé. Sé kwa lo trwa rèspé ? »

E la Ti Frèd i ariv koté basin blé. Li atann mèm. Toudinkou, son vant i tourn, byin mèm. Toudinkou, li la bèz sa : « Plash. » Mounwar, dolo la bèz : « Phrrrt. » La grouyé kouyon! Ti Frèd la kouri, kouri, kouri. Ti Frèd la kouri, la parti vwar son Tonton Milyin :

« Tonton dolo lariv an grin. Erèzman ma la sorti sinon té ral a mwin dann lo d'mèr laba.

- Kosa ou la fé don ?

- Té, apré ma la bèz inn kou d'pèt, dolo la grouyé, la grouyé.

- Bin la, sa sé le promié rèspé ki fo avwar. Pa pèt dovan d'moun ! »

Kriké !

Kraké !

Zanbos !

Zanmalak !

Bin, Ti Frèd té oblizé atann lot plèn linn. Kan té ron, té bèl, té arsava. Li arsava. E la li atann mèm paské té komans ni inn ti pé blé. Li atann mèm li la.

最初、彼は三日月を見た。その後、月は大きく大きく大きくなった。そしてミリアンおじさんが彼に言った：「チフレッド、行って池が青いかどうか見てこい！」。彼は再び登り、どんどん進んだ。進んで行く途中でアングじいさんが言ったことを頭の中で思い出した。彼は言った：「そうだ、僕は三つの守り事を解き明かさなければならない。でも三つの守り事って何のことだろう？」。

チフレッドは青い池に着いた。彼はずっと待った。突然、彼のお腹がぐるぐるして止まらなかった。そして彼はおならを放った：「プー」。すると、水が動いた：「プルルル」。湧き立ってきた、畜生！ チフレッドは走って走って走った。チフレッドは走ってミリアンおじさんに会いに行った：「おじさん、水がざわざわと上がって来たんだ。幸いにもそこから出たけど、そうじゃなかったら海まで持っていかれていたよ。」

— お前は何をしたんだ？

— あ、おならをした後に水が湧き立って、湧き立ってきたんだ。

— そうか、それが最初を守るべきことだ。人前でおならをするな！」。

クリケ！

クラケ！

ジャンボス！

ジャンマラック！

そこでチフレッドは次の満月を待つしかなかった。月が丸く、大きくなった時、彼は再び行った。そしてずっと待った。というのも水が少し青色になり始めていたからだ。彼はずっと待った。

E toudinkou la, ou koné li lavé pa anvi d'krasé, mé li la krasé. La tomb dann lo. Dolo la asort an grin laba, la donn a li dann fon. Té oblizé kouri.

La aparti vwar son tonton, la di :

« Tonton, ma la dékoné ankor. Ma la trouv lé dézyèm rèspé.

- Kwé i lé ?

- I fo pa krasé. »

Lé oblizé atann trwa somèn. Li la antann dann son trwa somèn. La linn lé bèl, lé ron konmsa : « Ah ! Mi arsava. Mi arsava. » Li ariv dovan basin blé-la. Plis i sava, plis li atann pli lontan, plis dolo i vyin pli blé. Mé la, i trot dan son tèt ké li la anvi d'pisé li la èstèr. La, li di : « Bon ! Mon promié té sa. Mon dézyèm té sa. Donk ma la anvi d'pisé, mi pis pa a tèr-la. Ma pis pli o. » Mé kan li pis pli o, li pis dann ti kanal dolo té artomb dann le gran basin, dolo an grin èstèr. Kouri. Bin la, li la giny kour inn ti pé, galé déryèr li tout : « Tonton ma la trouv sé kwé lo trwazyèm ! » Li lé oblizé atann lo trwazyèm somèn po giny la linn.

Kriké !

Kraké !

Zanbos !

Zanmalak !

すると突然、みんなもお分かりのように彼は唾を吐きたい訳ではなかったのだが、唾を吐いた。それが水の中に落ちた。水がざわざわと湧き上がって底に落ち込んだ。彼は逃げるしかなかった。彼はおじさんに会いに行き言った：

「おじさん、僕はまた馬鹿なことをしました。でもこれで二つ目の守り事を見つけました。

－ それは何だった？

－ 唾を吐いてはいけないということです」。

彼は三週間待たなければならなかった。彼は三週間待った。月は大きくなり、丸くなった：「よし！ 行くぞ。行くぞ」。彼は青い池の前に着いた。行けば行くほど、長く待てば長く待つほど、水はさらに青くなっていた。ところがそこで、彼は急におしっこがしたくなったので頭を働かせた。彼は言った：「そうだ！ 最初もこうだった。二回目もこうだった。だから、おしっこがしたいけど、ここでしちゃだめだ。もっと上の方でしょう」。ところが、彼が上の方でおしっこをした時、つまり下流で大きな池に流れ落ちる用水路におしっこをした時、水がすぐに湧き立った。彼は逃げた。彼は何とか逃げおおせたが、石が彼の後ろに迫っていた：「おじさん、三つ目が何か分かったよ！」。彼は次の月まで三週間待つしかなかった。

クリケ！

クラケ！

ジャンボス！

ジャンマラック！



Bilinbi !

Lé èg !

Bilinbi !

Lé èg !

Donk, la, fyèr konm li lé, li la di : « Ma la trouv mon trwazyèm. La, mi sava ! » La, li la parti lo kèr byin. La, Ti Frèd, la giny in, dizon lé konm in mwann, la giny in rèspé danzéré. Li lariv dovan lo lak, li la asiz trankil si in kap, li la atann. La linn-la i éklèr byin an fas. Le basin-la, plis li atann, plis le basin i vyin blé, plis li atann, plis le basin i vyin blé. Plis li atann, basin blé mèm ! Na in vwa i di a li koma : « Mi koné ki i anvoy a ou. »

Li la pèr. Li ogard an o, li ogard anba : « Kisa i koz èk li ? » Zist dan le milyé basin d'lo-la, néna inn nafèr i gonf konm in zézèr, mé i mont pa anlèr zist pou fé mont a li. I di a li koma : « Naz ziska milyé basin-la. Mi koné poukwé ou lav'ni Ti Frèd. » La pèr si li mèm : « Té, mon ti lapin pa lwin mor, mobilizé alé ! »

Li naz dousman solman, li sa pa vit. Li la pèr osi, si i ral a li dann fon. Li ariv tousèl. La, i di a li koma : « Ti Frèd, ou la trouv mon trwa rèspé. Ou koné le rèspé lé fé avan la mor sa. Donk ou va giny sov out lapin. Mèt out min dan le zézèr. »

ビランビ！〔カタバミ科の常緑高木で強い酸  
味の実をつける。Averrhoa bilimbi〕

酸っぱい！

ビランビ！

酸っぱい！

こうして彼は満足して言った：「三つ目を見つけたぞ。よし、行くぞ！」。彼は晴れやかな心で出発した。チフレッドは、まるで修道士のようだったが、厄介な守り事を解き明かしたのだ。彼は湖に着いて、その端に静かに座って待った。月は目の前に明るく輝いていた。池は待つほどに青くなり、待てば待つほど青くなってきた。さらに待つと池は真っ青になった！　すると声が彼に言った：「誰がお前を超越したか知っているぞ」。

彼は怖くなった。彼は上を見て、下を見た：「誰が話しているんだろう？」。その池のちょうど真ん中に何かがあり、梯子のように大きくなったが、それほど高くならず、彼が登れるぐらいの高さまで達した。声が言った：「池の真ん中まで泳げ。お前が何故ここに来たのか知っている、チフレッド」。彼は相変わらず怖かった：『ああ、僕の子ウサギは死にかかっている。行こう！』。

彼はゆっくりと泳ぎ始め、急がなかった。彼はまだ怖かったが、それは池の底に引き込まれそうだったからだ。彼は何とか着いた。すると声が聞こえた：「チフレッド、お前は私の三つの守り事を解き明かした。お前はあれが死ぬ前に守り事を知った。これでお前はウサギを救った。お前の手を梯子の中に入れるのだ」。

Li la mèt la min dann le zézèr. La donn a li inn ti galé nwar konmsa avèk inn ti kord. Té i briy. Anfin kont té i rosanm inn ti ros volkan, avèk ti vèr boutèy dédan. Té i briy, ou vwa ! Lé byin ron. « Kan ou ariv out kaz, ékout byin sèt mi di a ou, ogard out ti lapin byin dan lé zié. Ogard a li èk lo kèr. E la, ou mèt sa dann son kou. Dousman ou atann landmin matin. Pa bézwin travèrs alé innot somin po rant. Kan ou rant, rant out kaz drwat. An rèspé, fo pa ou pèt, fo pa ou kras é fo pa ou pis. »

Mé an rantran-la, an rantran, li té oblizé mars lo ki séré, ténir son zwazo é son vant avèk koma li té vwa. E son bous té fèrmé. E La li ariv son kaz. La di : « Atann sizèr d'matin po mèt lo zafèr dan son kou. » Li di li va atann. Li la gard son ti lapin, la di : « Mi ème a ou èk lo kèr. Ou sé in zanimo, mé mèm ké sa mi ème a ou paské ou donn a mwin plin zafèr. Ou prokir a mwin bon pé zafèr. Frison i mont si mwin kan ou mèt out ti pat dési mwin. Kan ou karès mon ti figir koma, ou té zoli zoli. » Ti Frèd la arsant inn ti morso :

♪ La pli la tonbé, wi, li la tonbé. Mé koté valé, koté valé, koté mi sava.  
La pli la tonbé, lès a li tonbé. Koté valé, koté valé, koté mi sava ♪

E lété pli for ankor kan li la mèt sa dan son kou. Ti Frèd pou vèy son ti lapin, mé li dor osi an mèm tan.

彼は手を梯子の中に入れた。彼は紐がついた黒い小石を受け取った。それは輝いていた。結局のところ、それは火山岩に似ていて小さなガラスの瓶に入っていた。それは輝いていた！ しかも真ん丸だった。「家に着いたら、いいか、お前に言うことをよく聞け、お前の子ウサギの眼を見つめろ。心を込めて見つめるのだ。それから首の周りにそれをかけろ。明日の朝までゆっくり待て。戻るのに別の道に行く必要はない。帰る時はお前の家までまっすぐ行け。守り事だ、放屁するな、唾を吐くな、小便をするな」。

帰りながら彼は仕方なく、その声が言ったように尻を締め、おちんちんとお腹を締めて歩いた。それに口も閉じていた。そして彼は家に着いた。彼は言った：「あれを首にかけるのに朝の六時まで待とう」。彼は待つように自分に言い聞かせた。彼は子ウサギを見ながら言った：「お前のことを心から愛しているよ。お前は動物だけど僕はお前を愛している。お前は僕にたくさんのものをくれたから。お前は僕に多くのものを与えてくれた。お前が小さな脚を僕に置くとぞくぞくしたよ。お前が僕の顔をなでる時、お前は本当に可愛いよ」。チフレッドは歌を口ずさみ始めた：

♪ 雨が降ってる、そう雨が降ってる。でもあそこに行くんだ、あそこに行くんだ、あそこに僕は行く。雨が降ってる、降らせておけ。あそこに行くんだ、あそこに行くんだ、あそこに僕は行く ♪

彼がウサギの首にそれをかけた時、雨はまだ一層強く降っていた。チフレッドは子ウサギを見守っていたが、彼もまた同じように眠った。

Solèy finn lèvé, kan li rouv son zié, son ti lapin pi la. Alé vwar, son ti lapin lé dann zardin ousa na in bon pé kas tousèl. Tonton Milyin parti rodé èspré kas tousèl. Kas tousèl, mi koné pa si zot i koné ousa sa i lé. Sa i pous dann ti rigol. Son ti tiz i kas tousèl. Ou vwa, li kas tousèl. La rod inn ti paké. Li gard son ti lapin pou manzé. Ti Frèd i sant :

♪ A mwin lé kontan, a mwin lé kontan, a mwin lé kontan, a mwin lé kontan. La pli la tonbé, lès a li tonbé. Koté valé, Koté valé, koté mi sava. La pli la tonbé, lès a li tonbé. Koté valé, koté valé, koté mi sava ♪

Mé sa sé in zistwar. Mi koné pa si lé mantèr. Si zot i krwa, si zot i krwa pa. Si zot i vwa lé mantèr, nou va di :

Kraké !

Kriké !

Zanbos !

Zanmalak !

太陽が昇り、彼が目を開けた時、彼の子ウサギはそこにいなかった。彼が見に行くと、子ウサギは庭にいて、そこには《独り折れ草》〔別名ウサギ草。ヒマワリ科の草で種子から油がとれる。Vernonia galamensis〕がたくさんあった。ミリアンおじさんがわざわざ《独り折れ草》を探しに行ってくれていた。この《独り折れ草》がどこに生えているかをみんなが知ってるかどうかは分からない。それは小さな水路に生えているんだ。茎がひとりでに折れてしまう。だから《独り折れ草》という訳だ。おじさんはたくさん探してきた。彼は子ウサギが食べるさまを眺めていた。チフレッドは歌った：

♪ 僕は嬉しい、僕は嬉しい、僕は嬉しい、僕は嬉しい。  
雨が降ってる、降らせておけ。あそこに行くんだ、あそこに行くんだ、あそこに僕は行く。雨が降ってる、降らせておけ。あそこに行くんだ、あそこに行くんだ、あそこに僕は行く ♪

でもこれはお話だ。それが嘘かどうか僕は知らない。みんなが信じるにせよ、信じないにせよ。もしみんなが嘘だと思うのなら、言ってみようか：

クラケ！

クリケ！

ジャンボス！

ジャンマラック！

## 23. Ti mwano

Céline BARRET

In dimans gran matin, lavé inn ti mwano té bèk, bèk dé trwa ti grin sur bor d'chemin. E vwala ke, « dinn, dinn », son bèk i kony si inn ti zafèr, inn ti zafèr lé ron. Inn ti zafèr kan i jèt a li anlèr, li rotomb à tèr, é i fé pil ou fas. Sé kosa ? Inn pyès larjan ! Bin la, le ti mwano, lu lé kontan. Li di : « Avèk se ti pyès larjan-la la, si mi achèt inn mang ? Bin, mi manj le mang, mi plant le grin, é mi giny inn pyé d'mang ! Mé, dan konbyin d'tan, mi giny inn mang po mangé ? Si mi achèt in kilo letchi, mi giny inn chan letchi. Mé, dan konbyin d'tan, mi giny vann mon letchi ? » Lu réfléchi.

E pi, landmin matin gran matin, lu lèv, lu prépar a lu, é lu sava ché le kotonyé. Lu ariv laba, li di : « Mésié le kotonyé, avèk se pyès larjan-la, vi giny vann a mwin inn ti boul d'koton ? » Le kotonyé i di : « Bin wi, mi giny vann a ou inn ti boul d'koton. » Ti mwano lé kontan ! Lu pran son ti boul koton, li mèt sou son zèl, é lu sava ché le fileur. Lu ariv laba, li di : « Mésié le fileur, avèk se ti boul koton, ou giny fèr a mwin inn ti bobinn fil po ou, é inn ti bobinn fil po mwin ? » Le fileur i di : « Bin wi mwano, ma fé konm vi di ! Alé, arvyin dan dé jour, mwin nora out bobinn fil. » Dé jour apré, mwano i sava ché le fileur, lu giny sa bobinn fil. E ché ki li sava ?

### 23. 小さなスズメ

セリーヌ・バレ

日曜の朝早く、一羽の小さなスズメがいて、道端に落ちている種をついばんでいた。すると「コンコン」、彼のくちばしが何か小さくて丸いものに当たった。上に放り投げて落ちてきたら表か裏かというやつ。それ何だ？ コインだ！ それで小さなスズメは喜んだ。彼は言った：「このお金でマンゴをひとつ買ったら？ そう、マンゴを食べて種を植えたらマンゴの樹が生える！ でもどれぐらい待てばそのマンゴを食べられるだろう？ ライチを一キロ買ったならライチ園ができるだろう。でもライチを売れるようになるまでどれぐらいかかるだろう？」。彼はよく考えた。

そして翌日の朝、彼はとても早く起きて身支度を整え、綿屋のところに向かった。そこに着くと彼は言った：「綿屋さん、このお金で小さな綿の毛玉を売ってくれますか？」。綿屋は言った：「勿論、綿の毛玉をお売りできますよ」。小さなスズメは喜んだ！ 彼はその綿の毛玉をもらって羽の下にしまい、それから糸屋に行った。そこに着いて彼は言った：「糸屋さん、この綿の毛玉で糸巻きを作ってくれますか、あなたにひとつ、僕にひとつ」。糸屋は言った：「勿論だよ、スズメさん。お前さんの言うようにしよう！ それじゃ二日後に来てくれ、私とお前さんに糸巻きだ」。二日後にスズメは糸屋のところに行って糸巻きを受け取った。さて、今度はどこへ行く？



Li sava ché le tis'ran. Ché le tis'ran, li di : « Avèk bobinn fil-la, ou giny fèr inn ti kupon po ou, é inn ti kupon pou mwin. » Le tis'ran i di a li : « Bin wi, lé bon ! Dan de jour, ou vyin, ma donn a ou out ti kupon. » Lu ariv, lu pran son ti kupon, lu mèt sou son bra. Apré sa, ché ki lu par ?

Lu par ché le tayèr. Li lé ché le tayèr, lu di : « Mésié le tayèr, avèk se ti morso la twal-la, ou pe fèr inn ti konplé blan po ou, é inn ti konplé blan po mwin. » Le tayèr i di : « Lé bon alor, ma fé out ti konplé blan. » De jour apré, li sa cherché son ti konplé blan. E la, ché ki lu sava ?

Lu sava ché le gouvèrnèr. Le gouvèrnèr lu lé antrinn pran son ti déjéné. Manyok, patat pétèt, mi koné pa... Mi koné pa. Mé anfin, lu lé antrinn pran son ti déjéné. E là, mwano, lé su le robor d'la fénèt. E mwano i chant :

♪ Le gouvèrnèr na in konplé blan, la myèn osi lé blanc. E si lu mor dan inn kou d'san, mwin mèm son ranplasan ! ♪

Gouvèrnèr i ogard inn ti kou le mwano, i di : « Mé, servant, sas a mwin in pé se ti zwazo d'malèr-la ! » La servant i vyin, i sas le ti mwano. Ti mwano i sa su le mur. E la su le mur, li chant ankò plu for :

♪ Le gouvèrnèr na in konplé blan, la myèn osi lé blanc. E si lu mor dan inn kou d'san, mwin mèm son ranplasan ! ♪

Gouvèrnèr i di :

« Mé lé pa posib ! E zardinié, tyé mwin se ti zwazo d'malèr-la, hin !

- Bon. »

彼は織物屋に行った。織物屋でスズメは言った：「この糸巻きで小さな端切れを作ってくれますか。あなたにひとつ、僕にひとつ」。織物屋は彼に言った：「勿論いいよ！ 二日経ったら来てくれ。お前さんに小さな端切れを渡すよ」。彼は着いて、小さな端切れをもらって腕の下にしまった。その後、彼はどこに行く？

彼は仕立屋に向かった。仕立屋で彼は言った：「仕立屋さん、この端切れであなたに小さな白の三つ揃いをひとつ、それから僕に小さな白の三つ揃いをひとつ作ってくれますか」。仕立て屋は言った：「いいですよ、あなたに白の三つ揃いを作りましょう」。二日後にスズメは白の三つ揃いをもらいに行った。さて、彼はどこに行く？

彼は知事のところに行った。知事は朝食を取っている最中だった。マニョックや多分ポテト、そんなところか... 私は知らないけれど。とにかく朝食中だった。そこでスズメは窓の下枠に止まった。そしてスズメは歌った：

♪ 知事さん、白の三つ揃いを持っている、僕のも同じ白。  
知事さん中風にやられたら、僕が彼の後釜だ！ ♪

知事はスズメを睨んで言った：「おい、女中、この縁起の悪い鳥を追っ払ってくれ！」。女中がやって来て小さなスズメを追ひ払った。小さなスズメは塀の上に行った。そして塀の上で、もっと大きな声で歌った：

♪ 知事さん、白の三つ揃いを持っている、僕のも同じ白。  
知事さん中風にやられたら、僕が彼の後釜だ！ ♪

知事は言った：  
「我慢ならん！ おい庭師、あの不吉な鳥を殺してくれ！  
— かしこまりました」。

Le zardinié i sa va avèk son balé, ninport kwa, po tyé le ti mwano. Té giny pa. Ti mwano i fé ti trin. Ti mwano i mont su la tour du sato du gouvèrnèr. E la, dann o laba, li chant' ankor, plu for :

♪ Le gouvèrnèr na in konplé blan, la myèn osi lé blanc. E si lu mor dan inn kou d'san, mwin mèm son ranplasan ! ♪

Le gouvèrnèr, alor la, li an pe plu. Li di : « Lé pa posib ! Gard, gard, alé, mont' su le mur, atrap se ti zwazo-la, é fé kèk choz avèk ! » Bann gard i sava. Kan i ariv su le mur... Ti mwano finn fé ti trin. Le ti mwano lé su la tour de légliz laba, en fas laba, le kloché. E la, li chant' ankor plu for :

♪ Le gouvèrnèr na in konplé blan, la myèn osi lé blanc. E si lu mor dan inn kou d'san, mwin mèm son ranplasan ! ♪

Gouvèrnèr i di : « Solda, pran le kanon, fé pété le ti mwano laba ! » Bann solda, i pran le kanon, i fé pété le ti mwano ke la fé ti trin. Fini volé. Mé le gouvèrnèr lu, lu la pa giny suport le kou d'kanon. Lu la fé inn kou d'san, lu la fé in kou d'san ! E la, kisa la ranplas a li ? E bin, le ti mwano ! Sé byin pou dir a zot : « Ke labi i fé pa le mwan ! » Mé, le mwa... Non, i fé le gouvèrnèr !

庭師は箒を持ってどうにかして小さなスズメを殺そうとした。だめだった。小さなスズメは素早く逃げた。小さなスズメは知事の館の塔まで飛び上がった。そしてその高みでさらに大きな声で歌った：

♪ 知事さん、白の三つ揃いを持っている、僕のも同じ白。  
知事さん中風にやられたら、僕が彼の後釜だ！ ♪

知事はもう耐えられなかった。彼は言った：「もうたくさんだ！ 衛兵、衛兵、行け、塀に上がってあの鳥を捕まえて何とかしてくれ！」。衛兵たちは大挙して向かった。彼らが塀に着くと... 小さなスズメは素早く逃げ去った。小さなスズメは向かいにある教会の塔の上にいる、鐘の上にいる。そして彼はさらに大きく歌った：

♪ 知事さん、白の三つ揃いを持っている、僕のも同じ白。  
知事さん中風にやられたら、僕が彼の後釜だ！ ♪

知事は言った：「兵士諸君、大砲を持ってきてあの小さなスズメにぶっ放せ！」。大勢の兵士たちが大砲を曳いてきて、一発ぶっぱなしたが小さなスズメは素早く逃げた。飛び去った。ところが知事の方は、砲声に耐えられなかった。彼は中風を起こした、中風を起こしてしまった！ それで誰が彼の代わりになったって？ それは勿論、小さなスズメ！ よく言われるように「僧衣が修道士を作るのではない！」<sup>【譯：人は見かけによらずぬもの】</sup>。修道士... じゃなくてスズメが知事になったということ！ <sup>【修道士 moine とスズメ mwano をかけている】</sup>

## 24. Mèl èk tang

Luco SAUTRON

Llavé in fwa, lavé in fwa na lontan, na lontan, lontan lontan mèm,  
lontan avan mon zanfan, an Lafrik, la fé sonn kalbas, la fé sonn lark  
mizikal, na lontan, lo Bon Dié la fé tout' zafèr. Zot i koné lo Bon Dié ?  
Koman lo Bon Dié i lé ? Le Bon Dié li lé bon ! Sé pou sa i apèl a li le Bon  
Dié. Bin, le Bon Dié li la fé tout sort kalité d'zafèr. Li la fé lo mond, li la fé  
la tèr, é dan sak landrwa si la tèr, li la mèt inn zafèr, paské le Bon Dié li  
ème la diférans. Li ème tout sakèn son varyété. Sé po sa le Bon Dié la  
invant in zoli mo. « Biodiversité. » E bin, an Afrik, lo Bon Dié la mèt  
zéléfan, gazèl, lyon. An Amérik, li la mèt grizli, li la mèt bizon. An Ind, li  
la mèt léléfan, li la mèt tig, mé li la mèt osi sinz, li la mèt osi lapin, gazèl.  
Vwala pa ke kan le Bon Dié, dann lèr son paradi konmsa li gard anba,  
li vwa in lyon sot si in buf, kasé lo kou lo buf, manzé lo buf. Lot koté laba,  
in léopar soté si gazèl, lo tig..., mèm lo grizli la sot si in pli ti ke li, é la  
manzé. Ah ! Lo Bon Dié la di konmsa : « Sé pa tro mwin noré préfééré,  
mé fo byin zot i manz so bann zanimo-la. E byin, ma fé inn nafèr  
diféran. Ma fé in ti lil é dan se lil-la, ma mèt ryink zwazo. »

## 24. ツグミとタング

リュコ・ソートロン

昔々、昔々、昔々、ずっと、ずっと、ずっと、僕が子供の頃よりずっと前だ、アフリカではヒョウタンを鳴らし、弓の楽器を鳴らしていたずっと昔、神様が万物を創られた。みんな神様を知っているかい？ 神様ってどういうもの？ 神様は善良[bon]だ！ だから神様[Bon Dieu]と呼ぶんだ。そう、神様は万物を創られた。この世界を創られ、大地を創られ、そして地上のそれぞれの場所に万物を置かれた。何故なら神様は違いを愛されるから。神様は万物が多様であることを愛される。それで神様は素晴らしい言葉を創られた。「生物多様性」だ。そう、神様はアフリカにはゾウやガゼルやライオンを置かれた。アメリカにはグリズリーやバイソンを置かれた。インドにはゾウやトラ、それにサルを置かれ、ウサギやガゼルを置かれた。

そしてある時、神様は楽園の高みから地上を眺めておられると、ライオンがウシを襲い、首を折ってからウシを食べるのを見られた。別のところではヒョウがガゼルに飛びかかるのを、トラが... さらにはグリズリーが自分より小さいグリズリーを襲って食べるのを。ああ！ 神様は言われた：「これは私には余り愉快ではないが、あの動物たちは食べなければならない。そうだ、他に違うものを創ることにしよう。小さな島を創り、その島には鳥しかないようにしよう」。

E konm lo Bon Dié té fini son travay, anfin, li ème osi la diversité, li va mèt kan mèm in ti zanimò kat pat'. Li la mèt in tang. E la, dan se lil-la, li la mèt zwazo blé, zwazo roz, zwazo blan, vèr. Lavé sèt la zèl té kourt, sèt la ké té long, sèt son tèt lavé inn ti sapo blé, kan li té amouré, sa té i rodrès. Navé sèt té i dovyin rouz dann sézon lamour. Tout sa bann zwazo-la, é bin, lo Bon Dié li té vyin an pèrson donn a zot manzé. Tou lé zour, tou lé zour konmsa, lo Bon Dié, kan li té fini fé son gran travay, li té i désann, li té donn manzé son bann ti zwazo-la. Bana, zot té byin fyèr de zot.

Kan nou lé fyèr nou la pi travay po fé, kosa nou ème fé ? Asiz ! Mé asiz in tan, in moman doné, lo kor i grat. Sat nou ème, nou ème èt an parmi, é èt an parmi, le pli gayar fason èt an parmi, sé la fèt ! La fèt ! E gayar fason fé la fèt, prétext fé la fèt néna, la kominyon, batèm... Mé lo pli gayar, le pli gayar lokasyon, sé maryaz ! Ah, maryaz, lé gayar sa ! Mé maryaz la pa badinaz, é i maryé byin an trwa fwa. Ah, koman i maryé an trwa fwa-la ? E bin, kisa la maryé dapré zot ? Chakouat. Chakouat, sa in zwazo i apèl zwazo la vyèr. Sinon sa, i apèl a li zwazo Bon Dié. Sinon sa, i apèl a li gob mous de bourbon. Lo Chakouat sa lé in zwazo, son zèl, son palto lé maron. Son tèt lé blé. Néna mèm inn up'i rodrès si la tèt lo male, é kan Chakouat maryé, la nouvèl i pas dann tout' la foré.

そして神様はその仕事を終えられた後も「生物多様性」を好まれたので、四つ足の小動物を置かれた。タング<sup>【マダガスカル原産の食虫小型哺乳類で肉が佳味。Ericaneus setosus】</sup>を置かれたのだ。そういう訳で、この島に神様は青い鳥、赤い鳥、白い鳥、緑の鳥を置かれた。短い羽を持つもの、長い尾を持つものがおり、頭に青い冠があるものは恋の季節にはそれが立つ。またある鳥たちは発情期にはそれが赤くなる。それらのすべての鳥たちに、神様は手ずから餌をお与えになった。毎日毎日、神様はその大いなる御業を終えられてから降りてこられ、それらの鳥たちに餌を与えられた。すべての鳥たちが満足していた。

我々は満足していてやる仕事がない時は何をしたい？ 座る！ でも長く座っていると身体がもぞもぞしてくる。我々がやりたいのは、中でも特に、楽しいことをやることだが、その中でもやりたいのは、お祝いだ！ お祝い！ そしてお祝いをする際に、何のお祝いをするかという、初聖体、洗礼... でも一番楽しいもの、一番楽しいイベントは結婚だ！ ああ、結婚、こいつは楽しい！ でも結婚は遊びじゃないし、三回に分けて結婚する。え？ どうやって三回に分けて結婚するって？ そこでだ、誰が結婚すると思う？ それはシャクアだ<sup>【モーリシャスとレユニオンに固有のオオカバマダラ科の鳥 Terpsiphone bourbonnensis】</sup>。シャクアは《処女鳥》とも呼ばれている。もしくは《神様の鳥》とか《ブルボンヒタキ》とも呼ばれる。シャクアは羽と身体が栗色だ。頭は青い。雄はピンと立った羽冠を頭の上に持っており、シャクアが結婚する時、その報せは森全体に広まる。



Kèl zwazo i mèt pa linz ? Zwazo i mèt in livré. Kèl livré lé a la mod ? Konm kardinal, li ème sanz son livré, maron vèr-la, li mèt sa in zoli livré rouz po alé maryaz. E kèl lèr, kèl kou d'siflèt lé a la mod ? Tout domoun dan la foré lé kontan, lé kontan, na maryaz. Zot la fini giny zot linvitasyon.

Néna dann in pié d'bwa, dann in ni, dann son kaz, néna in zwazo, tout bana i agas a li paské li ème pa sorti, li ème pa tou sa lamayaz-la. A wi, lo mèrl ke i abit dan se kaz-la, li té andikapé. Té i mank a li in koté d'zié. Konm i di an kréol, « té kok-in-èy », mé nou va di, li té borgn. Dann son kok-in-èy-la, lo mèrl lété pa kontan, li té agasé.

A in moman doné, li la kwins a li dan son ni, é la, in mazinasyon la pass par son tèt. Bin wi, dan lot koté la foré, sou in gro pié tan rouz, néna in zwazo, non, néna in tang ki abit-la, é lo tang on diré ké li nana lo mèm andikapé ké li, lé kok-in-èy osi. La, dan son tèt la pasé..., Bon Dié té pa lwin, lé soz té fasil dan le tan-la. Si li sava vwar lo tang, lo tang i prêt a li son koté d'zié, é li giny alé o bal avèk dé zyé. Sèt li la maziné, sèk li la désid fé.

Li la kour vitman dovan la kaz lo tang : « Pa pèrson, pa pèrsonn ? » Pèrson la pa répond. Li la krié, li la krié : « Siouplé, na inn moun ? » A in moman doné, li la antandi :

服を着ない鳥なんかいるかい？ 鳥も衣装を着けるんだ。  
今だとどんな服が流行りだろうか。カルディナル<sup>スズメ目ハタオリドリ亜科</sup>の鳥。*Foudia madagascariensis*のように、結婚式に行くために、緑がかった栗色の服を燃えるような赤に変える鳥がいる。歌についても同じで、流行りのさえずりはどんなものだろうか。森のみんなは喜んで大喜びだ、結婚式があるんだから。みんな結婚式に招かれているからね。

とある木の、とある巣の自分の家に一羽の鳥がいて、それらのすべてが彼をいらいらさせる。彼は外に出たくないし、そういうお楽しみのすべてが気に食わないからだ。そう、その家に住んでいるのはツグミで、彼には障害がある。片目しかないのだ。クレオール語では「片目睨み」というが、我々は「片目鳥」と呼ぶことにしている。「片目睨み」であることがツグミには面白くなく、いらついていた。

ある時、彼は巣の奥にいる時にあることを思いついた。そう、森の反対側の大きな赤い樹の下に鳥、じゃなくてタングが住んでいて、そのタングも聞くところによればツグミと同じ障害を持っていて、同様に「片目睨み」と言われている。そして彼の頭に浮かんだことは... 神様も近くにおられるし、昔は物事は簡単だった。つまり、彼がタングに会いに行けば、タングがその片目を貸してくれて、彼は両目でダンスパーティーに行けるということだった。彼はそう思ったらやることを決めた。

彼はすぐにタングの家の前に行った：「誰かいらないかい、誰かいらないかい？」。誰も応えなかった。彼は呼び続けた：「お願いだ、誰かいらないかい？」。少し経ってから声がした：

« Ou vwa pa la pa pèrsonn !

- A, na in moun la kozé. »

Li la fini par tèlman fé tapaz, par fé digaz dovan la port lo tang, ké lo tang la fé rant a li :

« Wi, ou koné mon dalon.

- Hin, ma la pa out' dalon ! Mi koné pa ou.

- Wi, ou koné, in min i lav lot. »

In min i lav lot, zot i koné sa zot ? Sa sé in provèrb kréol ou di a ou konmsa si ou èd a mwin zordi, domin, sé mwin lé kapab èd a ou. Sa i apèl la solidarité. Li la tèlman angant lo tang, li la tèlman tourné viré, lo tang la di : « Lé bon. » E kan la di lé bon, le tang la prêt a li son koté d'zié :

« Mé atansyon, mi prêt a ou, mé ma la pa doné. Tèl out' bal la fini, mi vé reginy mon koté d'zié.

- Lé bon, kas pa la tèt, é anplis ké sa mwin lé kapab prêt a ou mon lot koté osi innot kou. »

Li lété fyèr paské lo zour lo maryaz larivé.

Kriké !

Kraké !

La maryaz, konm nou la di, i maryé an trwa fwa. Promyé kou, i sava dovan mésié lo mèt, i lir lartik 512. Apré sa, dézièm fwa, i maryé dovan mésié lo kiré, ou byin mésié lo pastèr, é là, i lir lo text ke ban zamouré dann la rélizion i ème.

「誰もいないのは分かるだろう！

ー あ、誰かしゃべったぞ」。

彼はタングの家のドアを前にしてさんざん騒いだのでタングは彼を家に入れた：

「あのね、友よ。

ー おいおい、僕はあんたの友だちじゃない！ あんたを知らないし。

ー あのね、これ知ってるだろう、『手はもう片方を洗う』」。

「手はもう片方を洗う」、みんなこれ知っているかい？ これはクレオルの諺で、その意味は「君が今日僕を助けたら、明日は僕が君を助けられる」。これは「連帯」と呼ばれるものだ。彼はさんざんタングの機嫌を取り、さんざん勿体ぶったのでタングは言った：「いいだろう」。タングはこう言って片方しかない目をツグミに貸した：

「でも注意してくれ、あんたに貸すだけであげるんじゃない。ダンスパーティーが終わったら僕の片目を返してくれ。

ー 勿論だ！ 心配ご無用。それに、君が入り用の時は僕のもうひとつの方を貸してあげるよ」。

ツグミは嬉しかった。何しろ結婚式の日だったから。

クリケ！

クラケ！

結婚式は前に話したように三回執り行われる。彼らはまず市長の前に出向き、そこで市長が民法第五一二条項<sup>「二一五条の間違い。」</sup>

「夫婦は互いに共同生活を送ることを義務付けられる。家族の居住地は双方の合意による場所とする。夫婦の一方のみが家族の住居並びにそこに備えられた家財の諸権利を譲渡できない」]

を読み上げる。次いで二回目は、神父または牧師の面前で執り行われ、愛する二人が自分たちの宗教で好きな章句を読んでもらう。

Mé lo pli gayar, sé kan dan la salvèt, si la tab lo nouvo, avèk la nouvèl, i fé désann la gran kouronn kan lo nouvo i ambras la nouvèl, i sinboliz lo dé famiy ki réini. Mé sa lé byin gayar, mé kosa lé pli gayar dann maryaz ? Sé lo festin, sé la fèt apré. E la, zwazo i bwar punch ? Non, zwazo i bwar nektar. La, lavé tout sort kalité nektar, lavé la mizik, toulmoun la dansé, é le tan i pas vit.

Kriké !

Kraké !

La swaré la fini, lo mèl li lavé randévous avèk sèt mamzèl dan lé sèt zour ke té i vyin. Mé sa i rogard pa nou. Aswar-la li la vi in ta zoli zafè avèk son dé zié : « Si mi sava fé lèw tang po rand a li son koté d'zié... Kapab li la pran lo tan po giny somèy. Kapab... li giny pi somèy apré ? Tout' fason, mi profit ankor in ti pé mon koté d'zié, é domin matin, ma aminn sa po li. Dayèr, na in nafèr ma la zamé vi avèk dé zié. In lèvé d'solèy si la foré. »

Landmin matin-la kan solèy larivé, lo bann promyé réyon la karès la foré. Sa lé gayar, sa té doré. Apré, in zourné avèk dé zié, li té zamé viv. E apré in kousé d'solèy... E kan kousé d'solèy se swar-la tèlman té zoli, li la giny in bon lidé. Le zié finalman, i va a li plis : « Mi sar rann lo tang son koté d'zié, lot i sava èt kok-in-èy, alor ké li ni na tèlman zoli soz a vwar èk son dé zié. » Li la oubli lo tang.

しかし最も陽気なのは《緑の間》〔レユニオンでお祝いの催事が開かれる際に使われる、緑の葉を持つ樹で設えた室内または屋外の会場〕で、新郎新婦揃って彼らが口づけを交わす際に大きな花の冠をかぶせる時だ。それは二つの家族が結びつくことを象徴している。しかし、結婚式でさらに素晴らしいのは何だろう？ それは披露宴とその後のパーティーだ。そこで鳥たちもパンチを飲むかって？ いや、鳥たちが飲むのはネクターだ。そこではあらゆる種類のネクターがあり、音楽があり、みんなが踊り、あっという間に時が過ぎていく。クリケ！

クラケ！

夜会が終わり、ツグミは七人のお嬢さんたちと、続く七日間にデートの約束を取りつける。でもそれは我々には関係ないことだ。その夜、彼は二つの眼できれいなものをたくさん見た：『もし眼を返すのにタングを起こしに行ったら... 奴はもう寝る時間だろう。多分、その後で寝られないんじゃないかな？ こうなったら、この二つの眼をもう少し使わせてもらうことにして、明日の朝、彼のところに持っていこう。それに、今まで両目で見たことがないものがあるし。森の上に現れる日の出とか』。

翌日の朝、太陽が昇って最初の光が森を撫でた。それは素晴らしく、黄金色だった。その後、彼は一日の間を両目で楽しく過ごした。そして日没の時... その夕刻の日没はとても美しく、彼にいい考えが浮かんだ。その目は結局は自分の方が合っているのだと：『僕がタングに目を返したところで、あいつは「片目睨み」のままだし、二つの目があるところなのにきれいなものを見られるんだ』。彼はタングのことを忘れることにした。

Dé zour apré, li antann in moun i kri dovan son baro. Lo tang, la min si zépol son kamarad, i kri : « Pa pèrsonn, pa pèrsonn ? » Innot kou ankor, li san konm si néna in moun i vyin. Li antan domoun i bouz laba. Li la afolé, é la :

« Min, min...aou, min...aou !

- La pwin zwazo tèr-la, néna lo sat ! Tang i fé pa miaou. »

Innot kou ankor, li lé dési in gro brans do bwa konmsa, li profit de lèr, la briz, la limyèr. Toudinkou, li san konm dé gran pat i sa poz si li, é li na zist lo tan glis dan brans anba. Dé pat lo papang i pas odési lo pié d'bwa. Danntan-la, tang lété ankor kamarad avèk papang. La di a li :

« Hin, souk a li. Aminn a li, ma pèy in kou pou ou apré. »

Tang lavé fé tout' pou ké li té i giny pou ésèy retrap lo mèrl po reginy son koté d'zié. Li la parti vwar lo Bon Dié, li la èsplik son ka lo Bon Dié. Le Bon Dié, zot i koné koman li lé, li lé bon. Sé pou sa ki apèl a li le Bon Dié. E bin, kan lo Bon Dié la ékout sa, li té in pé in tris. Li la rasamb tout' le pé zwazo avèk le tang, la di : « Mé zanfan, mwin la fé isi pa konm ma la fé ayèr. Mwin té la, fyèr vwar a zot antzot fé la fèt, viv. E kosa mi apran, ke dé sèrtin i ésèy arnak son kamarad ! E bin, si lé konmsa, la fèt i fo byin qui fini in zour. A partir dozourdwi, zot valé rod sakèn zot manzé. »

二日後、ツグミは誰かが戸口で呼んでいるのを聞いた。それはタングで、仲間の肩に片手を置いて呼んでいた：「誰かいなか？ 誰かいなか？」。他に誰かがいて、彼はその誰かが近づいてくるのを感じた。誰かがそこで動いている音が聞こえた。彼は気が動転して叫んだ：

「二、ニャ... オ、ニャ... オ。」

— そこに鳥はいないな。猫だ！ タングは『ニャオ』とは鳴かないからな」。

それからツグミは樹の太い枝の上に止まって、大気と風と光でひと息ついた。突然、二本の太い脚が自分の上に止まろうとしているのを感じて、やっとのことで低い枝に滑り降りた。パパング<sup>[タカ科の鳥で和名マダガスカルチュウヒ。Circus maillardi]</sup>の二本の脚が木の上をかすめて飛んだ。その昔、タングはまだパパングの仲間だったんだ。タングはパパングに言っておいた：「なあ、あいつを捕まえてくれないか。連れてきたら後で小遣いを少しやるよ」。

タングはツグミを捕まえて自分の片目を取り戻すためにあらゆることをやった。彼は神様に会いに行き、その件を神様に説明した。神様は、みんな知っているように、善良<sup>[bon]</sup>だ。だから神様<sup>[Bon Dieu]</sup>と呼ぶんだ。さて、神様はそれを聞いて悲しくなった。そこで神様はすべての鳥とタングを呼び集めて言われた：「我が子たちよ、私がこの島で為したことは、他のところで為したことは違う。私はお前たちが一緒に祝い事をして暮らすのを見て満足していた。ところが聞いたところでは、ある者が仲間を騙そうとしたというではないか！ こうなった以上、いつか終わるものはそうあるべきなのだ。今日からお前たちはそれぞれが自分で糧を得るように」。



Sé dépi so tan-la ké bann zwazo dann la foré, i sava sakèn manz lo grin bann pié d'bwa, é apré kan zot i sava fé zot bészwin pli lwìn, zot i sèm é i fé roviv la foré.

Mèrl li la vol lo zié lo tang, lé bon, li va gardé. Mé dépi se zour-la, li sera tousèl. Sé konmsa ziska zordi, mèrl li na dé santé. Li na in santé i fé..., in santé po kri in kamarad. Bann brakonyé, sèt i vé souk zwazo, i mèt in mèrl dann in kaj, i mèt la kol si tout' le bann brans. Kan na inn i antan son kamarad i sant, li ariv, é li fini par pozé si la kol. Mé mèrl na osi innot santé « Pin, min. » konm in sat dann la foré.

Tang li lavé pi d'zié. La kréasyon té fini dépi in bout' de tan, lo Bon Dié la trouv dé koté d'zié pou li. Dé zié, mé lété pa lo bon kalité. Lété lo zié promyé débi, paské lo zié-la i vwa ryink lo swar. Sé pousa ke lo bann rodèr d'tang, i sava la nwit pou souk tang.

La pa manké, konm li lé tèlman zoli, lo gro vwal lo Bon Dié lavé mèt pou pa ke pèrsonn té i vwa so lil-la, la ékart in pé, é na in zour, na in bato la vi lo zoli ti péi laba. Mé sa sé innot zistwar !

Kriké !

Kraké !

その時以来、森のすべての鳥たちは、それぞれが木々の種を食べ、その後さらに必要になった時には種をまいて森を新たに生き返らせた。

ツグミはタングから目を奪い、それはまあいい、彼は持ち続けるだろう。しかしその日以来、彼は仲間はずれになる。そのために今ではツグミにはふたつの鳴き声がある。ひとつは... 仲間を呼ぶ時の鳴き声である。密猟者たちは鳥を捕まえたい時、一羽のツグミを籠に入れ、すべての枝に鳥もちを塗っておく。そして仲間を呼ぶ声を聞いて鳥がやってくると鳥もちにくっついてしまう。しかしツグミにはもうひとつ鳴き声があって、それは「ペーン、ミエーン」という森の猫のような鳴き声である。

タングにはもう眼がなかった。創造はだいぶ前に終わっていたが、神様は彼に両の目を見つけてやった。しかし、その二つの眼は出来がよくなかった。視力が弱かったのである。というのも夜になると何も見えなかったからだ。それで、タングの狩猟者は夜にタングを狩りに出かける。

島は申し分なくとても美しく、神様は広大なヴェールで覆って、誰にもその小島が見えないようにしたが、少し隙間が開いていて、ある日一隻の船がこの美しい小さな島を発見した。でもそれは他の物語だ！

クリケ！

クラケ！

## 25. Ti Gouya

Teddy IAFFARE

Navé in zour dann l'fon la kour, dann in landrwa karo d'bwa, navé inn fwa pou inn bonn fwa anlèr laba dann karo Mafate, inn ti margouya, inn ti margouya. Inn ti margouya tèlman ti, tèlman kaniki, ké toulmoun té apèl a li Ti Gouya. Ti margouya-la, li té abit dann in zit dann Mafate, inn ti vilaz lao dann la montany. E sak fwa li té antann domoun té vyin koté li, té i di : « Ah, la mèr la Rényon sa lé zoli ! Volkan sa lé zoli ! Bann basin, bann kaskad, bann zafèr konmsa... » É Ti Gouya li, li té zamé vi tousa-la.

Lariv in zour, li di ali osi li désid sap lo mai, y aköz pa dékouv la Rényon, se ti péi toulmoun i di lé si tèlman zoli. Aköz pa li osi sap dann Mafate é alé dékouv tousala. Sétalor, in matin, kan in randonèr i trap son sak pou mèt si son do paré pou alé, Ti Gouya li kosa li fé, « Glip ». É li glis anndan, é li mont' dann le sakado an klandèstin. Le tan ke le randonèr i mars, i travèrs, i fofil dann lo bann montany, Ti Gouya i louk in zié anlèr, sak koté, é dann son tèt li di : « Té, la Rényon lé zoli vréman ! Si té pa mon dé ti pat kourt-la, i fé lontan mwin té finn désann de la montany-la pou alé vwar la mèr osi. Erèzman, mwin la trouv in lidé. »

## 25. チグヤ

テディ・イアフール

マファト<sup>[レユニオン西部にある島の三大園谷のひとつ。海拔の高低差は 3000m 近くある]</sup>の高地にある森の奥に、小さな小さなマルグイヤ<sup>[アフリカ原産のトカゲ。レッ  
ドヘッドアガマ Agama agama]</sup>がいた。その小さなマルグイヤは本当に小さく、余りにも小さいのでみんなはチグヤと呼んでいた。その小さなマルグイヤはマファトの山中にある高地の村に住んでいた。そして、彼を訪ねに来た連中はいつも言うのだった：「ああ、レユニオンの海は美しい！ 火山は美しい！ あちこちの浜辺や滝や、そのすべてが...」。そしてチグヤはそれらのすべてを一度も見たことがなかった。

ある日、彼は自分も出かけようと言い聞かせた。彼はみんながそれほど美しいと言っているレユニオンを見たことがなかったからだ。マファトを出てそれらのすべてを見たことがなかったからだ。そして、ある朝、ひとりのハイカーが出かけるために背中にリュックを背負った時、チグヤは「するり」と入った。彼は滑り込んでリュックの中を上り、密航者となった。ハイカーが山々を歩き、渡り、抜けている間、チグヤは上の方や左右を見て頭の中で思った：『いやはや、レユニオンは本当に美しい！ 僕の脚がこんなに短くなければ、もっと前にあの山から下りて海を見に行ったのになあ。幸運にもいいことを思いついたもんだ』。

E alala, le randonèr i ariv dann lo bout lo santyé. Si lo parkin, li pran son loto, li mont dann lo loto é Ti Gouya, anndan : « Oté, néna in drol lodèr, lé in pé bizar se zafer-la... Mé si mwin lavé in loto, pi bészwin mars a pat. » Anfin, zot i imazin in ti margouya antrinn mars a pat, antrinn kondwi in loto ! Non, mé... Sétalor, lo randonèr, li roul, li roul konmsa, li désann si la kot, é dépi anlèr la montany, Ti Gouya kosa li wa, promié fwa dan son vi, li zanfàn léo, li vwa la mèr. Le randonèr i désann si la kot, é li ariv dann inn kartié par laba dan lès, i apèl Sin Bénwa.

Li ariv dovan in gran kaz béton. Ti Gouya promié fwa dann son vi i vwa in gran kaz béton konmsa. Mazinn a ou Mafate, la pwin la kaz an dir, la kaz béton, gran kaz èk in gran zardin. Ti Gouya i komans fofil dan la kour. Li vwa in pié d'bwa : « Bann zasyèt momon i lav pa zamé. » Par laba in pié d'bwa : « Tann o milyé, la vyann otour. »

Li kontinyé avansé. Pi toudinkou, sou in pié d'bwa, li antan in gro vwa i sort anlèr i koz èk li, i fé : « Oté, kosa ou fé tèr-la ? Kisa oulé ? Sa mon kaz sa, i rant' pa isi konmsa ! » Li gard anlèr lo pié d'bwa, li vwa pa ryin. E lo brans i kontinyé koz èk li : « Si ou di pa mwin kisa oulé, ou sort tèr la ! » Alor, Ti Gouya li lé anvi d'vizité. Li koné pa tro kosa i fo fé. Li répon :

ところがそのハイカーは山道の行き止まりに着いた。その駐車場で彼は車のところに行って車の中に乗り込んだ。チグヤは中に入って：「おや、おかしい匂いがするな、こいつは何だか変だな... でも車の中にいれば脚で歩かなくてもすむ」。ちょっと想像してみてほしい。小さなマルグイヤが脚で歩いているのと、車を運転しているところを！ いや、違うか... その間もハイカーは運転を続けて岸に向かって下りて行き、高地の子供であるチグヤは生まれて初めて山の上から海を見た。ハイカーは岸に下りてそこから東にある町に着いた。そこはサン＝ブノワと呼ばれるところだった。

彼はコンクリート造りの大きな家の前に着いた。チグヤは生まれて初めてこんなに大きなコンクリート造りの家を見た。想像してほしいのだが、マファトには頑丈な家も石造りの家も、広い庭がある家もなかった。チグヤは庭を進んでいった。彼は一本の樹を見て：「ママはお皿を洗ったことがないな」<sup>バナナの葉を皿代わりに使うことから</sup>。あっちの樹を見て：「真ん中に柔らかいのがあって周りにはお肉だ」<sup>これもバナナの樹。柔らかい部分が「苞」で、果実が「肉」を指すと思われる。</sup>。

彼は進み続けた。すると突然、一本の樹の下にいた彼は上の方から大きな声が話しかけるのを聞いた：「こら、お前はそこで何をしてる？ お前は誰だ？ ここはわしの家だ、ここに入ってはだめだ！」。彼は樹の上を見上げたが、何も見えなかった。その枝は彼に話し続けた：「お前が誰なのかわしに言わないならここから出ていけ！」。しかしチグヤはそこを見て回りたいかった。彼はどうしたらいいか余り分らなかった。彼は答えた：

« A mwin, mi apèl Ti Gouya. Mi sort Mafate. Mi rod zis in landrwa pou vizité, pou arété...

- Hé, isi, i rant pa konmsa ! Mi poz a ou in sirandann, in kosa in soz, in dévinèt. Si zamé ou la trouv lo répons, alor, lé riskab ou giny vizit mon kaz. »

Ti Gouya i konpran pi, mé li vé rant dan lo kaz. Alor, li di : « Anvoy, anvoyé. » Lo vwa i di a li konmsa : « Mon linz lé rouz kan mon kaz lé rouz. Mon linz lé vèr, kan mon kaz lé vèr. Mon lang mon fors. » Ti Gouya i réflési, i rod, i rod, i trouv pa. Lo vwa i di a li : « Alé ! Dépès a ou in pé la. Mwin la pa ryink sa mèm pou fé. » Ti Gouya i rod, i rod. Té li trouv pa. Sétalor lo gro vwa i di a li : « Lé bon, tro tar kanar. Astèr sort dan mon kour. Sas, sort a ou tèr la. » Lo gro vwa lé plizanpli for, é Ti Gouya i komans giny kap kap.

Kosa li fé ? Li trap son bann linz in koté, son lanvi d'voyazé dosou lot bra, é la li sava dann bor somin. Le tan ké li avans, li louk touzour in zié déryèr li. Li gard anlèr lo pié d'bwa, é la li vwa lo brans i komans bouz dousman, dousman. É pi na dé gro zié, dé bèl zié, sakèn i dévir in koté. La Ti Gouya i di : « Ah bon, ma la konpri astèr kisa oulé. Lé bon, ou la trap a mwin in fwa, ou trap'ra pa dé. » Mé zot, eské zot la konpri kisa i lé anlèr la ? Ti Gouya la pa konpri li. Li la konpri apré.

「僕はチグヤといいます。マファトから出て来ました。僕はただ見学するために、ちょっと足を止めるためにどこかを探しているだけです...

ー ふん、ここは入ってはだめだ！ お前にシランダン《これ何だ？》という謎々を出してやる。万が一お前が答えられたら、その時はお前がわしの家を見てもいい」。

チグヤは訳が分からなかったが彼はその家に入りたかった。そこで彼は言った：「出して、出して下さい」。その声はこう言った：「私の家が赤い時、私の服は赤い。私の家が青い時、私の服は青い。舌が私の戦力だ」。チグヤは考えて、答えを探して探して、見つからなかった。声が言った：「さあ！ ちょっとは急げ。わたしにはやることがないから」。チグヤは探して探した。彼には見つからなかった。すると大きな声が彼に言った：「よし、時間切れだ、ちび助。すぐにわしの庭から出ていけ！ 行け、ここから出るんだ」。大きな声はますます大きくなってチグヤは恐くなり始めた。

さて彼はどうする？ 彼は服を腕につかみ、旅への思いをもう一方の腕の下に抱えて道の端を歩いた。彼は進んでいる間もずっと、片方の目で後ろを見ていた。彼が樹の上を見ると、その枝がゆっくりゆっくり動き始めた。そこには二つの大きな眼、それぞれ反対側を向いている巨大な二つの眼があった。チグヤは言った：「そうか、あれが誰か今度は分かった。よし、一度はやられたけど、二度目はやられないぞ」。それで、みんなは上にいたのが誰か分かったかな？<sup>[カメレ]</sup> チグヤは分からなかった。彼は後で分かった。



Li ariv dann bor somin laba, é pi li vwa domoun antrinn atann lo kar. Kosa li fé ? Bin, Ti Gouya i atann kar zonn. E la, lo kar i ariv, li mont dédan, parèy tout domoun. Hin, zot imazinn a zot in ti pé. Inn Ti Gouya dann in kar zonn. Mé pa tou lé zour na inn Ti Gouya dann in kar zonn !

Lo kar zonn i démar, i roule, é pi li sava. Li désann Sin Bénwa. Li mont par koté Sintandré, Sint Sizann, é pi li ariv Sin D'ni. Toultan le kar i roul la, Ti Gouya kosa li fé ? Son dé zié lé konmsa. Li gard koté li é par laba, li wa la mèr. La mèr ! Li té zamé vi la mèr, li lé kontan li la. Kan lo kar i sava arèt in kou, li sava la mèr li osi. Li va ésèy tous dolo. Li va ésèy konprann kosa i lé.

Lo kar i roul. Li ariv Sin D'ni. Sin D'ni la i rant pa konmsa sa. Sin D'ni na lamboutéyaz partou. Tout bann loto tass tasé inn déryèr lot. Li ariv dann in landrwa ousa na bann limèb, bann kaz anlèr anbwaté inn si lot, tout lé antasé. Li konpran pa tousa-la. Li sort dann la montany lao Mafate. Mafate, sé la natir, la montany. Ah, li réspir lèr. La, li ariv an vil. Hummm, in lodèr i satouy son trou d'né. Lodèr lo pot désapman, lodèr la polisyon, lodèr tousa-la... Ti Gouya i komans sanz koulèr. Mé pa grav, li la désid in nafèr, é li konm sé in koko dir, i fo li avans.

彼が道の脇に着くと、バスを待っている人々を見つけた。  
彼はどうしたか？ そう、チグヤはカール・ジョース〔レユニオンの  
都市間バス路  
線。車体が黄色（ジョース）である  
ことからこの名で呼ばれている〕を待った。そしてバスが着くと、彼はみんなと同じように中に乗った。ちょっと想像してみしてほしい。  
カール・ジョースに乗ったチグヤだ。カール・ジョースに乗っているチグヤは毎日見られる訳じゃない！

バスは出発し、ぐるっと回って進んだ。バスはサン＝ブノワから下った。サン＝タンドレ、サント＝シュザンヌと上り、そしてサン＝ドゥニに至る。バスが走っている間ずっとチグヤは何をしていたか？ 彼は両方の目をこうやっていた。彼がそこから横を眺めると海が見えた。海だ！ 彼は海を見たことがなかったので嬉しかった。彼はバスが止まったら海まで行くことにした。彼は水に触りたかった。それがどういうものか知りたかった。

バスは走った。バスはサン＝ドゥニに到着した。サン＝ドゥニには簡単には入れない。サン＝ドゥニは至るところ渋滞だった。多くの車が後から後から数珠繋ぎになっていた。彼は建物がたくさんあるところに着いたが、多くの家は上の方に木材がたくさん積み上げられていた。彼はそれが何だか分からなかった。彼はマファートの高い山からやって来たのだ。マファートは自然のままの山だった。ああ、彼は空気を吸った。彼は町に来了のだ。うーん、臭いが彼の鼻の穴をくすぐった。排気ガスの臭い、公害の臭い、そういうものすべての臭い... チグヤは色を変え始めた。でも、大したことはない、彼はひとつのことをやろうと決めたのだから、頭の中で『前に進まなければ』と思った。

Lo kar i ariv Sin D'ni. La, i fo li désot Sin D'ni. I fo li arpran innot kar pou li ariv lot kot. Ariv la gar, li sans dé kar. Kan lo kar i désot Baraswa, li ariv si la Rout Ankornis. Ti Gouya anlèr dési plafon, a li tèt anba pou vèy domoun dosou, tansyon domoun i vwa li. Té paské in ti gouya dann in kar konm ma la di talèr-la, lé vré, nou vwa pa sa tou lé zour, hin. Sèt i pran lo kar, zot lé abityé vwar inn ti gouya dann kar ?

Bin, a li, anlèr, li vèy. Mé an mèm tan li vèy domoun dosou, oté, li vèy in pé gro kap si i grin pa dési zot. Paské la Rout Ankornis, li la finn antann dé trwa zafèr la d'si. Promié fwa dan son vi, li vwa la Rout Ankornis. Alor li, na in zyé par isi i vèy la Rout Ankornis, lot zyé i vèy la mèr lot koté. Parèy in zyé i vèy do pin, lot i vèy sokola.

Ah, lo kar i roul. Ti Gouya pa trankil li la, li atann mèm. Douz kilomèt-la, dé fwa lé long. Mèm si dé fwa koméla bana i di la Rout Ankornis i fé sèz kilomèt dépi la Posésyon ziska Sin D'ni. Mi koné pa koman la ogmanté, mé ma la giny kat kilomèt anplis si la rout'. Lé bizar. Ti Gouya lé pa la èk sa li.

バスはサン＝ドゥニに着いた。彼はサン＝ドゥニで降りなければならなかった。反対側に行くには他のバスに乗る必要があったからだ。停留所に着いて彼はバスを乗り換えた。バスはバラショワ<sup>サン＝ドゥニの海岸にある、元々は小さな係船池で今では公園となっており、英軍の襲撃に備えた大砲が残っている</sup>を通して《海岸道路》に着いた。チグヤは天井の上において、頭を下に向けて下の人々を見張り、誰にも見られないように注意した。何しろさっき言ったように、バスの中にいる小さなマルグイヤなんて毎日見られる訳じゃないからね。バスに乗っている人がみんな、バスの中の小さなマルグイヤを見慣れているかい？

そう、彼は上の方から見張っていた。しかし彼は下の人たちを見張っていると同時に、大きな断崖がみんなの上落ちてこないかを見張っていた。というのも、この《海岸道路》ではかつて何回か上からの事故があった。彼は生まれて初めて《海岸道路》を見た。それで彼は一方の目で《海岸道路》を見張り、もう片方の目で岸辺の海を見ていたのだ。ちょうど、片方の眼でパンを見ながら、もう片方の眼でチョコレートのかけらを見るような具合だ。

ああ、バスは走っている。チグヤは落ち着いていられず、ずっと待っていた。その十二キロが二倍の長さに思えた。二倍はないにしても、ある人たちは《海岸道路》のラ・ボセションからサン＝ドゥニまで十六キロあると言っている。私はどうして長くなったのか知らないけれど、道は四キロ長いことにしよう。何だかおかしいが。チグヤにしてみればそんなことは関係なかった。

Li sava, li travèrs mèm. Le kar i avans la Posésyon, lo Por, Sin Pol. Ariv an plin milyé Sin Zil, li wa domoun i d'sann an mayo d'bin tousala. Li di : « Té, bin, li lé fatigé rès dann kar. Li va désann, li va swiv in kou. » Li swiv domoun. É li mars si le mir Sin Zil, li travèrs ziskatan li ariv la plaz Ros Nwar : « Oté, kosasa ? Sésa alor bana i di. Ma la zamé vi sa, la mèr. » Ah, Ti Gouya lé éksité li la. Li vé rant dann la mèr-la. Li koné néna zistwar i ariv ziska lao dan la montany. La mèr lé pa tro tro trankil. Alor, li vwa domoun alonzé si la sab otour d'li, li di : « Pétèt i vo myé pran lo tan gard byin la mèr-la koman la i lé. Si lé for, si lé pa tro for. Li va alonz in pé si la sab, li va atann. Si na in moun i rant dann lo, li va rantré. » Ou krwa Ti Gouya lé kouyon don. Ah, li lé pa kouyon.

Li rès la si lo sab. É pi li komans alonzé, son dé pat karté, son dé pat anlèr déryèr son tèt konmsa. E li komans bronzé, gard domoun. Tout domoun i bronz. Bin, li osi i bronz. Ariv in lèr, ou di pa li santi in gro lodèr brilé dann son trou d'né. Mé kosasa-la pou brilé la ? Li konpran pa. Li gard otour d'li, dovan, déryèr, partou. Mé, anfin d'kont, sé son ké té antrinn d'brilé ! Son ké té antrinn d'brilé ansanm solèy léba.

バスは進み、走り抜けていった。バスはラ・ポセション、ル・ポール、サン＝ポールと進んだ。そしてサン＝ジルの真ん中に着き、彼はみんながみんな水着を着て降りるのを見た。彼は言った：「よし、ずっとバスの中にいるのは疲れた。降りて、ちょっとついていってみよう」。彼はみんなの後をついていった。彼はサン＝ジルの壁の上を歩いて通り抜け、ロシュ・ノワール<sup>【黒い岩の意】</sup>の浜辺に着いた：「わお、何だ？これがみんなが話していたものだ。こんなの見たことない、海だ」。ああ、チグヤは興奮した。彼はこの海の中に入りたかった。彼は山の高地にまで届いたある話を知っていた。それは、海というのはそんなに穏やかではないということだった。その時彼は自分の周りの砂浜の上に寝そべっている人たちを見てこう思った：『多分、この海がどういうものなのか時間をかけてよく見た方がいいだろう。荒れるにしても、それほどでもないにしろ。砂浜に寝そべって待つことにしよう。もし水に入る人がいたら僕も入ろう』。みんなはチグヤが間抜けだと思うだろう。ああ、彼は間抜けではない。

彼は砂浜に留まった。それから砂の上に寝そべり始めた、二本の脚を広げて、二本の脚を頭の後ろにこんな風に上げて。そして彼は陽に焼け始めたが、人々を眺めていた。みんな日焼けしていた。そう、彼も日焼けした。そのうちに彼は、何かが燃えるひどい臭いを鼻の穴に感じた。でも、そこで一体何が燃えているのだろうか？彼は分からなかった。彼は自分の周囲、前、後ろ、至るところを見回した。ところが実は彼の尻尾が燃えていたのだ！彼の尻尾が太陽と一緒に燃えているところだった。

Li lé pa abityé, li la pa mèt la krèm. Mafate lao, Solèy i sof pa konmsa. Lodèr brilé fatig son trou d'né. Le fé i komans pran dann son ké. Kosa li fé ? Li kour vitman pou rod in landrwa pou ésèy ètèn do fé la.

La, li ariv dann in kaz, li wa na in gayar pisinn. Li di : « Té, mi sar sot in kou la d'dan ! » Mé avan mèm li komans pran lélan pou soté, nana in moun déryèr li, i fé : « Kosa ou fé tèr la ou ? Hé, sa mon kaz sa ! Kisa oulé ou ? » Ti Gouya i dévir, i gard déryèr li. Néna in mésié i port dé violon, inn sak koté, mé solman li koné pa zoué. Son zié i vèy sak koté é li mars si koté. Kisasa, zot i koné zot ? La, lo moun èk son dé violon i komans takinn a li, ravaz a li dann bor la mèr. Hummm ! E li di ansanm Ti Gouya : « Si ou vé rant dann mon kaz, mi poz a ou in dévinèt sirandann kosa in soz. Si ou la trouv lo répons, somanké ou va giny arèt in pé. Si ou la pa trouvé, tansyon ! Gard byin mon dé violon koman i drès pou ou la. » Alor, Ti Gouya i di : « Bin, anvoyé ! Mon ké pou brilé, i fo trouv in solisyon. Anvoyé ou, ma ésèy déviné. » Sétalor, lo moun i di a li :

« Kosa in soz ?

- Kèl soz ?

彼は慣れていなかったのクリームを塗らなかったのだ。高地のマファトでは太陽はそんなに暑くない。燃える臭いが彼の鼻の穴をうんざりさせた。彼の尻尾に火が回り始めた。どうすればいいだろう？ 彼は急いで走って、その火を消すための場所を見つけようとした。

そこで彼は一軒の家に着き、そこにきれいなプールがあるのを見つけた。彼は言った：「よし、ちょっとあの中に飛び込もう！」。しかし、彼が飛び込もうとする寸前に、彼の後ろに誰かがいて、こう言った：「お前はそこで何をしている？ おい、ここはわしの家だ！ お前は誰だ？」。チグヤは振り向いて自分の後ろを見た。そこには二挺のヴァイオリンをそれぞれの側にひとつずつ下げてはいるが、実際には弾けない男の人がいた。二つの眼で両側から睨んで、歩いて近づいてきた。それが何だかみんなわかるかな<sup>【カマキリ】</sup>？ その御仁は二挺のヴァイオリンでチグヤをじらし始め、海辺まで追い立ててきた。ふーむ！ そして彼はチグヤに言った：「お前がわしの家に中に入りたいのなら、わしが謎々のシランダン《これ何だ？》を出してやる。お前が答えを見つけたら、ちょっとひと休みしてもいいぞ。見つけれなかったら気をつけろ！ わしの二挺のヴァイオリンをお前におっ立てるから注意しろ」。そこでチグヤは言った：「では、出して下さい！ 僕の尻尾が燃えているので何とかしなくちゃならないんです。出して下さい。何とか解いてみます」。するとその御仁が言った：

「これ何だ？

— どんなもの？



- Bann ti travayèr, zot tout i arèt dann le mèm kaz. Mé sèlman, sak fwa zot i krwaz, sak fwa zot i ambras, kisasa ? »

Ti Gouya li, ankòr ti baba tann, li koné pa so bann zistwar sirandann-la. Li trouv pa lo répons. Alor, le mésié èk son dé violon i komans kour déryèr li. Ti Gouya i rod mèm lo répons, i rod mèm lo répons. É pi, toudinkou, li trouv paské li pas dovan in ni, li wa bana a tèr, li di :

« Hé, ma la trouvé, ma la trouvé, fourmi !

- Ah, lé bon, fourmi. Mé atann a ou, ma donn a ou innot astèr, ma war si ou la trouvé. »

Paské li pé pa lès Ti Gouya rant dann son kaz konmsa. Té prèsk ginyé li la.

« Kosa in soz ?

- Kèl soz ?

- Mwin lé né vinn dé zour apré mon nésans ? »

Ti Gouya i rod, i trouv pa. La, la, la pa fé inn ni dé, lot la komans mèt son dé violon konmsa. Ti Gouya la sapé, la ropran la rout lot koté laba. Li ariv si bor somin, li galop, li galop, li galop.

Li ariv si bor somin laba, li wa in moun lé antrinn fé lèstop. Bin, Ti Gouya kosa li fé. A li osi si bord somin, li lèv lo pous, dirèksyon lo sid. Ti Gouya lé anvi d'voyazé. Ah, li fé lo tour dé lil.

— 小さな働き者たちがいて、みんな同じ家にいる。ところが、彼らは行き逢う度に口づけを交わす。これは何だ?」。

チグヤはまだ子供だったので、このような謎々の話は知らなかった。彼は答えを見つけられなかった。すると、その御仁は二挺のヴァイオリンを持って彼を追いかけてきた。チグヤはずっと答えを探し続けた。突然、彼は分かった。というのも、彼は巣の前を通して地面に彼らを見たからだ。彼は言った：

「あ、分かった、分かった、アリだ！

— ああ、正解、アリだ。だが待て、今もうひとつ出してやるから、お前がそれを分かるかどうか」。

そいつはチグヤをそんな簡単には自分の家に入れようとしなかったのだ。もう少しだったのに。

「これ何だ？

— どんなもの？

— 私は生まれた二十二日後に生まれる」。

チグヤは探したが答えられなかった<sup>「答えは鶴のヒナ。卵で産まれ、  
てから二十二日後に孵化する」。</sup>

おやおや、有無を言わせずその御仁は二挺のヴァイオリンの音を立て始めた。チグヤは逃げて、そこから反対側の道に向かった。彼は道の端に着いて、走って走って走った。

彼が道の脇に着くと、ひとりの男の人がヒッチハイクをしているのを見た。そこでチグヤも彼がやっているようにした。彼は道の脇で親指を立てて、南の方向に向けた。チグヤは旅をしたかったのだ。ああ、彼は島をひと回りするのだ。

In loto i arèt. In loto i arèt, kan domoun i rant dédan, a li osi, i mont. Li sot si lo soulyé, li sava, li rant anndan lo loto. E li, an klandèstin d'dan, li voyaz gratwit, pa de kovwatiraz, pa de sési, pa d'sela-la, pa de tiké lo kar, li voyaz.

Li ariv konmsa ziska Sin Pyèr. Apré Sin Pyèr, li sava Sin Zozèf, é pi sa, Sin Filip. Kan li ariv Sin Filip, domoun i d'sann dann loto. Bin Ti Gouya osi, li d'sann. E kosa li fé ? Bin, li lé fatigé, dépi gran matin li sort Mafate kan mèm. Li fé in journé li voyaz. Li la finn ariv Sin Filip, mé pèrson la pa donn a li ni inn ti ginn dolo, ni in morso do pin pou manzé, la pa donn a li ryin. Li la fin li la. Té, bin, li sava dann bor la mèr, é la kosa li wa ? Li wa in pié la si i koup trwa koté. Kosasa la si i koup trwa koté la ? Anfin, li rod pa tousala.

Li mont anlèr, li vwa bann pinpin i pandiy, li di : « Té, mi sa manz in morso, paské la ma la fin. Ma la tro fin. I fo mi ropoz. » Mé kan li ariv anlèr, dovan li, néna bann mamzèl, le rin séré, lévantay sak koté, bayonèt par déryèr. Lo gèp ! Na inn i ariv koté li, i fé : « Hummm, kosa ou fé tèr la ? E ou, ousa ou sava ? E vou moun ou vou ? » Bin vwj, li lé Sin Filip ! Bann gèp Sin Filip i koz konmsa, non ?

一台の車が止まった。一台の車が止まって男の人が中に入ると、彼も乗った。彼は靴の上に飛び乗って進み、車の中に入った。こうして彼は密航者となって旅行をした。無料で、相乗りでもなく、あれもこれもなく、バスのチケットもなく旅行をしたのだ。

彼はサン＝ピエールに着いた。サン＝ピエールの後、彼はサン＝ジョゼフ、そしてサン＝フィリップに行った。彼がサン＝フィリップに着いた時、みんな車から降りた。そこでチグヤも降りた。彼は何をしたか？ そう、彼は疲れていた。朝早くにマファトを出たのだ。彼は一日中旅行をしていた。彼はようやくサン＝フィリップに着いたが、誰も彼に水の一滴も、食べるためのパンのかけらも、何もくれなかった。彼はお腹が空いていた。そこで彼は海岸に行ったが、そこで彼は何を見たか？ 彼は一本の樹を見たがそれは三面に切ってあった。何で三面に切ってあるのだろう<sup>〔消波ブロックのこと〕</sup>？ とうとう彼は何も見ないことにした。

彼が上の方に登っていくと、たくさんのパンパン<sup>〔マダガスカル原産の単子葉高木。和名ビョウタコノキ Pandanus utilis〕</sup>が生っているのを見つけたので思った：『よし、あれをひとつ食べよう。お腹が空いているから。本当にぺこぺこだ。少し休まないと』。ところが、彼が上に着くと、彼の前にたくさんのお嬢さんたちがいた。締まった体つきで両側に羽根があって、お尻に剣があった。スズメバチだ！ そのうちの一匹がチグヤに近寄ってきて言った：「おやおや、あんたそこで何をしているの？ それに、あんたどこに行くの？ それに、あんた誰？」。そう、そこはサン＝フィリップだ！ サン＝フィリップのスズメバチはこんな感じで話すだろう、違うかい？

Ti Gouya i konpran pa non pli : « Mwin mi apèl Ti Gouya, mi sort Mafate. Mwin lé fatigé, mi rod in landrwa pou repozé. Ma la fin. Ma la vi in pinpin anlèr laba, mi vé zis manz inn ti morso, apré mi sava, mi lès a zot trankil. Donn a mwin inn ti plas zis pou pasé, siouplé. » La lo mamzèl i di èk li : « Ah non, non, non, isi anndan i rant' pa konmsa. Gard mon zargiyon koman i drès pou ou la. Mi poz a ou inn dévinèt kosa in soz, in sirandann. Si zamé ou trouv lo répons, alors, ou na lo drwa alé. Sinon sa, maiy pa, ou sa rèt atèr la. »

Ti Gouya kap kap dési li. Gro, gro gout transpirasyon i koul partou. I konpri pi li la. Li giny pi monté, li giny pi désann, bann gèp-la lé pli rapid ké li. Alor, li di bana : « Bin anvoy, anvoyé, ma ésèy trouvè. » Lo mamzèl lo gèp kosa i di a li :

« Kosa in soz ?

- Kèl soz ?

- Mwin néna sèt zanfan. Dé lé sèk, kat lé vèr, inn lé fol. Lé dé sèk, i dor. Le kat vèr, bin, i kraz. Lo dèrnyé, li kour partou toutan. »

La, Ti Gouya i asiz in kou. La li kalkil pi si li la fin, si li la swaf, li di : « Té, i fo trouv in solisyon paské... » Otour d'li, i komans grouiy, grouiyé-la. Hum, li wa bana i komans aprosé, zargiyon plis an avan.

チグヤは全然分からなかった：「僕はチグヤ、マファトから来たんだ。僕は疲れていて、ちょっと休める場所を探しているところだ。お腹も空いている。上の方にパンパンがあるのを見つけたので小さいのをひとつ食べただけだ。そうしたら出ていくから。みんなの邪魔はしないよ。少しだけ居させてくれる場所を貸して、お願いだ」。そのお嬢さんは彼に言った：「ああ、だめだめだめ、ここに入って来てはだめ。私の針があんたを狙って立っているのが分かるでしょ。あんたに謎々のシランダン《これ何だ？》を出すからね。もし答えが見つかったらその時は通ってもいいわ。そうでなかったら、ことを起こさないでそのままそこにいるのよ」。

チグヤは恐くなった。大汗が身体中を流れた。彼はもうどうしようもなかった。上に登ることも下に降りることもできなかった。スズメバチは彼よりも素早いからだ。そこで彼は言った：「じゃ出して、出してくれ、見つけてやるから」。スズメバチのお嬢さんは彼に言った：

「これ何だ？

— どんなもの？

— 私には子供が七人いる。二人は乾いていて、四人は緑で、一人は狂っている。乾いた二人は眠っている。緑の四人は押しつぶす。最後の一人はずっとあちらこちら走り回っている」<sup>【答えは牛（二本の角、四本の脚、一本の尻尾）】</sup>。

そこでチグヤはしばらく座り込んだ。彼は考え込み、飢えも渴きもなくなると彼は思った：『おいおい、答えを見つけないと、何故なら... 』。彼の周りにスズメバチたちが群がってき始めた。ふう、彼は彼女たちが針をさらに立てて近寄ってくるのを見た。

Ti Gouya la pa fé inn, la pa fé dé. La sot dann fon, la kour sou zèrb, la kouri, la kouri. La pa trouv lo répons. La pa rod pou trouvé, la kour dosou zèrb. Dési son tèt, li antan i fé : « Zon zon, zon. »

I travèrs mèm... I fouiy, i farfouiy, i rod. A li, ann d'sou, li rant sou la tèr, li rant' sou zèrb. Li kour, li kour dann la foré Sin Filip, li kour, li kour, li travèrs, li mont, li mont, li mont... Ariv in lèr, li ariv dan inn andrwa, ousa na pi d'vèzétasyon, ousa na pwin zèrb, na pwin in pié d'bwa, la tèr lé brilé partou : « Ousa li la finn arivé ? »

Ti Gouya, la finn ariv fénwar, li antan la tèr-la i komans grony, gronyé, i komans bouz bouzé. Li lé pa tro rasiré, mé li di : « Bon, déryèr laba na lo gèp. Atèr laba mi koné pa kosa néna. Mé i vo myé pétèt mi trouv in landrwa. Ma rod in trou, ma rod inn nafèr, mi rèss ladan tout la nwit, mi bouz pa. »

Li avans dousman. Tèl li avans, dovan li, li wa bann ti bébèt la lav i komans sort déor. La lav par koté, a drwat, a gos, tout otour dé li. La lav té komans sorti. Volkan té antrinn d'pété. Eh la, dann volkan, lo ros i vol anlèr : « Boum badaboum, boummm... » I travèrs dovan li, i kour.

Ti Gouya i konpran pa, i koné pa kosa i fo fè. E din kou, la lav i antour a li konmsa, i blok a li. La pi pasaz pou li. Li tourn déryèr, li vwa Gran Diab i sort dann volkan.

チグヤはどうにもこうにもできなくなった。彼は地面に飛び降りて、草の下を走って走った。彼には答えが見つからなかったので草の下を走った。彼の頭の上では羽音が聞こえていた：「ゾーン、ゾーン、ゾーン」。

彼は駆け続けた... 彼はあちこち探し回った。彼は下に向かって、地面の下にもぐり、草の下にもぐりこんだ。彼は走りに走り、サン＝フィリップの森の中を走りに走り、通り抜け、登って登って登って... 高地に着いて、ある場所に着いたところ、そこには植物がまったく生えていなかった。草木一本生えておらず、地面があちこちで燃えていた：「どこに来てしまったんだろう？」。

もう夜になっていたが、チグヤはそこの地面がうなり始めるのを聞き、地面は動き始めた。彼はまだそれほど安心していなかったが思った：『よし、さっきの場所にはスズメバチがいた。ここに何がいるのか分からない。でもどこか見つけた方がよさそうだ。穴を見つけよう、何かを見つけてその中に一晩中いて動かないようにしよう』。

彼はゆっくり進んだ。彼が進むと、目の前にたくさんの虫が見えたが、それは外に流れ出した溶岩だった。右に左に、彼の周りは溶岩だらけだった。溶岩が流れ出したのだ。火山が噴火しているところだった。そして、火山の中から岩石が空中に噴出していた：「ブーン、バダブーン、ブーン...」。それが彼の前に飛んで来たので彼は逃げた。

彼は訳が分からず、どうしたらいいのか分からなかった。いつの間にか、溶岩が彼の周りに来て、彼を閉じ込めた。彼は前に進めなくなった。彼が振り向くと、《大悪魔》が火山から出てくるのが見えた。



Gran Diab i koz èk li, i di : « Ti Gouya, kosa ou la ni fé tèr-la ? La pankor lèr pou ou. Vyin pa rod a mwin. Alé out kaz, la pa ou ma la ni trapé. » Inn ti kou d'sans pou li non ? La, la, li té dé dwa fé inn ti margouya griyé. La lav la ékart lo somin konmsa. Ti Gouya la pa giny le tan di mèrsi ni orovwar, ni adié ryin. La travèrsé, la kouri, la kouri, la kouri. Li la désann la pant-la ziska dann bor la mèr laba.

Kan li lariv dann bor la mèr, té, li lavé pi pasaz. Li té giny pi alé ni devan ni déryèr paské déryèr nana la lav, par laba, néna bann gèp, lot koté li koné pa tro kosa néna. La, li té vé ryink inn nafèr. Sé rant son kaz. Èt trankil koté son momon paské li sé ryink inn ti margouya.

Bin la, kan li la ariv dann bor la mèr konmsa-la, li antan in vwa déryèr li, i fé : « Mé vou, sé ki vou ? Eh, vou moun dou ? Kosa ou fé tèr-la ? » La, li tourn, li lé paré pou souké li la. Koudkony i ravaz son kèr. Li rod pou batay tout. Kan li tourn konmsa, li wa inn ti mamzèl margouya asiz si lo bor la mèr, èk in golèt la pès konmsa, trankil pou atann a li pou koz èk li. Ah bin la, Ti Gouya la pa fé ni inn ni dé. La ni asiz koté lo ti mamzèl margouya, la di a li : « A mwin, mi apèl Ti Gouya, mi sort Mafate. Mi rod zis in landrwa pou mwin ropozé. » E tèl li di sa la, li poz son tèt si lo zépol lo mamzèl.

《大悪魔》は彼に言った：「チグヤ、お前はここに何をしに来た？ まだお前の番ではない。わしを探しに来るんじゃない。家に帰れ、わしはお前を捕まえに来たのではない」。彼に少し運があったって？ いやはや、彼はすんでのところで小さなマルグイヤの丸焼けになるところだった。溶岩が道からそれた。チグヤはお礼もさよならも何も言わなかった。彼は駆け抜けて、走って走って走った。彼はその坂道を海岸まで駆け下りた。

彼が海岸に着いた時、彼はもう動けなかった。彼は前にも後ろにも進む訳にはいかなかった。後ろには溶岩があるし、あっちにはスズメバチがたくさんいる。別のところに何がいるかも知らない。その時、彼がただひとつ望んでいたことがあった。それは家に帰ることだった。そしてママの横でくつろぐことだった。何しろ彼は小さなマルグイヤに過ぎないのだ。

そして、彼がこうやって海岸に着いた時、後ろから声が聞こえた：「あの、あなた誰？ どこから来たの？ そこで何してるの？」。彼は振り向いて、そいつを捕まえようと身構えた。彼の心は痛みを覚えた。彼は何とでも戦おうとしたのだ。彼が振り向いた時、彼が見たのは小さなマルグイヤのお嬢さんで、彼女は桃の茎を持って岸辺に静かに座り、彼に話そうと静かに待っていた。その時、チグヤはためらうことはなかった。彼はその小さなマルグイヤのお嬢さんの横に座って彼女に言った：「僕はチグヤ。マファトからやって来た。休むところを探しているだけなんだ」。彼はこう言うと、お嬢さんの肩に頭をあずけた。



---

## レユニオンの民話

編訳者 小田 淳一

発行日 2020（令和 2 年）3 月 31 日

発 行 東京外国語大学  
アジア・アフリカ言語文化研究所  
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1  
TEL：+81-42-330-5600

制 作 日本ルート印刷出版株式会社

---

©2020 Jun'ichi ODA

ISBN 978-4-86337-325-9

本作品はクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。



<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>





ILCAA

Research Institute for  
Languages and Cultures of  
Asia and Africa

ISBN 978-4-86337-325-9